

秋田県文化財調査報告書第424集

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡

—日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXXV—

2007・8

秋田県教育委員会

秋田県文化財調査報告書第424集

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡

2007・8

秋田県教育委員会



シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡出土の「岩偶」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7 cm、凝灰岩。

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡

—日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXV—

2007・8

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備や国道の建設は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会ではこれらの地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に先立って、平成15～17年度に由利本荘市において実施した樋ノ口遺跡の発掘調査成果と、平成15年度に同市において実施した芋種坂Ⅲ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。樋ノ口遺跡の調査では地形造成の痕跡とともに鍛冶炉などの鉄生産関連遺構群が、芋種坂Ⅲ遺跡の調査では鉄製錬に関わる遺構と遺物が発見され、本地域における平安時代の鉄製の様相を知る貴重な資料を得ることができました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、協力をいただきました国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所、東日本高速道路株式会社、由利本荘市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成19年8月

秋田県教育委員会
教育長 根 岸 均

例 言

- 1 本書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書の25冊目である。
- 2 本書は、平成15年度（2003年度）、平成16年度（2004年度）、平成17年度（2005年度）に発掘調査した、秋田県由利本荘市福山字樋ノ口に所在する樋ノ口遺跡と、平成15年度（2003年度）に発掘調査した、秋田県由利本荘市福山字芋種坂に所在する芋種坂Ⅲ遺跡の調査成果を収めたものである。樋ノ口遺跡の年度ごとの調査範囲は、「第1図 調査区とグリッド位置図」に示した。
- 3 本書に使用した図は、旧日本道路公団東北支社秋田工事事務所提供の工事路線計画図1,000分の1「日本海東北自動車道本荘～岩城間道路実施設計」、国土交通省国土地理院発行の50,000分の1地形図「本荘」と25,000分の1地形図「本荘」・「岩谷」である。
- 4 樋ノ口遺跡の放射性炭素年代測定は株式会社バレオ・ラボ、株式会社加速器分析研究所に、出土炭化材樹種同定は株式会社加速器分析研究所に、出土木製品樹種同定は株式会社吉田生物研究所に、木製品の保存処理は株式会社吉田生物研究所、鉄製品の保存処理は株式会社ニッツ・フェイン・プロダクツ、吉田生物研究所に委託した。なお、各分析委託の成果報告は「第3章 自然科学的分析」に掲載した。
- 5 航空測量図化を株式会社ハイマーテック、空中撮影は株式会社シン技術コンサル、株式会社ハイマーテックに委託した。
- 6 本書の執筆にあたって、次の方々から御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げます。
赤羽一郎・穴澤義功・井上喜久男・千田嘉博・土田房貴・長谷川潤一・八重樫忠郎
(敬称略・五十音順)
- 7 本書の執筆は「はじめに」・「遺跡の環境」・樋ノ口遺跡「第1章 発掘調査の概要」を進藤紀、樋ノ口遺跡「第2章 調査の記録」・「第4章 まとめ」を加藤竜、芋種坂Ⅲ遺跡を山村剛が行い、全体の編集は加藤が行った。
- 8 調査の内容については、一部が年報等で公表されているが、本書の内容を正式のものとする。

凡 例

- 1 遺構番号は、その種類ごとに略記号を付し、種別を問わず検出順に連番としたが、精査と整理作業の過程で欠番としたものもある。また、遺構の種類に用いた略記号は下記のとおりである。

SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SF：土塁 SI：竪穴住居跡 SK：土坑
SKT：陥し穴 SKP：柱穴様ビット SN：焼土遺構 SS：鍛冶炉
ST：捨て場 SW：炭窯跡

- 2 遺跡基本層序と遺構土層図中の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』2003年版に拠った。

- 3 土層番号は、ローマ数字を遺跡基本土層に、アラビア数字を遺構土層に使用して区別した。

- 4 樋ノ口遺跡の遺物番号は、挿図毎に1から付し、観察表・図版と対応させた。宇種坂Ⅲ遺跡の遺物番号は、種別を通して1から付した。

- 5 遺物観察表の計測値の単位は「mm」と「g」で記入し、推定値は〔 〕内に記入した。

- 6 樋ノ口遺跡の遺構・遺物実測図で使用したスクリーンパターンは下記の通りである。

遺 構



遺 物



目 次

序	
例言	ii
凡例	iii
目次	iv
挿図目次	v
表目次	viii
図版目次	ix
はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	2
遺跡の環境	4
第1節 遺跡の位置と立地	4
第2節 歴史的環境	6
樋ノ口遺跡	
第1章 発掘調査の概要	13
第1節 遺跡の概観	13
第2節 調査の方法	13
第3節 調査の経過	13
第4節 整理作業の方法	16
第2章 調査の記録	18
第1節 基本層序	18
第2節 検出遺構	18
第3節 出土遺物	112
第3章 自然科学的分析	150
第1節 放射性炭素年代測定	150
第2節 出土炭化材樹種同定	156
第3節 出土木製品樹種同定	159
第4章 まとめ	161
芋種坂Ⅲ遺跡	
第1章 発掘調査の概要	231
第1節 遺跡の概観	231
第2節 調査の方法	231

第3節 調査の経過	230
第4節 整理作業の方法	232
第2章 調査の記録	233
第1節 基本順序	232
第2節 検出遺構	235
第3節 出土遺物	239
第3章 まとめ	256
報告書抄録	260

挿 図 目 次

第1図 日本海沿岸東北自動車と関連遺跡	1
第2図 遺跡の位置	4
第3図 遺跡周辺の地形分類図	5
第4図 周辺遺跡位置図	8

樋ノ口遺跡

第1図 調査区とグリッド配置図	14
第2図 遺構配置図	20
第3図 竪穴住居跡 SI1076	68
第4図 掘立柱建物跡(1) SB337、SD261・262・277溝跡	69
第5図 掘立柱建物跡(2) SB450・550	70
第6図 掘立柱建物跡(3) SB1150、SD800・848・851溝跡、SK828土坑	71
第7図 鍛冶炉(1) SS354・1283・1284、SD221溝跡	72
第8図 鍛冶炉(2) SS943、SN944焼土遺構、SD942溝跡、SK1098土坑	73
第9図 鍛冶炉(3) SS1100、SD1099溝跡、SK1130土坑	74
第10図 焼土遺構(1) SN603・792・798・1071	75
第11図 焼土遺構(2) SN797・994	76
第12図 焼土遺構(3) SN872・873・876・894・949・950・953・954・955、SK947・990土坑	77
第13図 炭窩跡(1) SW01・62・742・743	79
第14図 炭窩跡(2) SW358・655	80
第15図 炭窩跡(3) SW850・1080	81
第16図 炭窩跡(4) SW940・941	82
第17図 溝跡(1) SD234・235・253・278・290・322	83
第18図 溝跡(2) SD359・620	84
第19図 溝跡(3) SD300	85
第20図 溝跡(4) SD306・345・346・348・403、SK1170土坑	87

第21图	溝跡 (5)	SD478・479・901	88
第22图	溝跡 (6)	SD510・514・559・619・759・915	89
第23图	溝跡 (7)	SD547・548	90
第24图	溝跡 (8)	SD1161・1188・1189・1190・1192・1208	91
第25图	溝跡 (9)	SD1185	92
第26图	溝跡 (10)	SD1181	93
第27图	溝跡 (11)	SD1191・1215・1216・1217・1246	95
第28图	溝跡 (12)	SD1202・1210・1301、SN1206・1291焼土遺構、SK1306土坑	96
第29图	溝跡 (13)	SD1209	97
第30图	溝跡 (14)	SD1235・1275、SN1234焼土遺構	98
第31图	溝跡 (15)	SD1250、SN1240焼土遺構	99
第32图	溝跡 (16)	SD1256	100
第33图	溝跡 (17)	SD1255・1292・1293、SK1230土坑	101
第34图	溝跡 (18)	SD1279・1309・1310	103
第35图	溝跡 (19)	SD1300、SN1344焼土遺構、SK1311土坑	104
第36图	溝跡 (20)	SD1280・1338・1353	105
第37图	土塁	SF945	106
第38图	土坑 (1)	SK48・49・226・232、SD227溝跡	107
第39图	土坑 (2)	SK276・303・347・527・633・715・760	108
第40图	土坑 (3)	SK790・791・799・828・913・933・1000・1078・1081・1094・1175	109
第41图	土坑 (4)	SK1197・1198・1352、陥し穴 SKT1111・1238	110
第42图	捨て場	ST1140・1141	111
第43图	縄文土器・石器		114
第44图	土師器 (1) 坏		115
第45图	土師器 (2) 坏		116
第46图	土師器 (3) 坏		117
第47图	土師器 (4) 坏・高台坏		118
第48图	土師器 (5) 甕		119
第49图	土師器 (6) 甕		120
第50图	土師器 (7) 鍋・鉢・壺		121
第51图	須恵器 (1) 坏・甕		122
第52图	須恵器 (2) 甕		123
第53图	須恵器 (3) 壺		124
第54图	灰釉陶器・硯・砥石・鉄製品		125
第55图	木製品 (1) 椀・下駄		126
第56图	木製品 (2) 下駄		127
第57图	木製品 (3) 机天板・机脚		128

第58図	木製品(4) 机天板・机脚	129
第59図	木製品(5) 形代・板状木製品	130
第60図	木製品(6) 斎串・棒状木製品	131
第61図	木製品(7) 棒状木製品	132
第62図	木製品(8) 棒状木製品	133
第63図	木製品(9) 棒状木製品	134
第64図	木製品(10) 部材	135
第65図	遺物分布図(1) 縄文土器	141
第66図	遺物分布図(2) 石器	142
第67図	遺物分布図(3) 土師器坏	143
第68図	遺物分布図(4) 土師器甕・羽釜・鍋・鉢・壺	144
第69図	遺物分布図(5) 須恵器坏	145
第70図	遺物分布図(6) 須恵器甕	146
第71図	遺物分布図(7) 須恵器壺	147
第72図	遺物分布図(8) 鉄製品	148
第73図	遺物分布図(9) 鉄関連遺物	149
第74図	主要遺構の位置	163

付図1	樋ノ口遺跡遺構配置図(1)
付図2	樋ノ口遺跡遺構配置図(2)
付図3	樋ノ口遺跡遺構配置図(3)
付図4	樋ノ口遺跡遺構配置図(調査区全体)
付図5	樋ノ口遺跡調査区周辺の地形
付図6	樋ノ口遺跡基本土層図(1) 基本土層1～22
付図7	樋ノ口遺跡基本土層図(2) 基本土層23～43

芋種坂Ⅲ遺跡

第1図	遺跡位置図	232
第2図	基本土層図	233
第3図	グリッド配置及び遺構配置図	234
第4図	S N05(ファイゴ座)	236
第5図	S B02(掘立柱建物跡)	237
第6図	柱穴様ビット	238
第7図	鉄関連遺物構成図(1)	241
第8図	鉄関連遺物構成図(2)	242
第9図	鉄関連遺物構成図(3)	243
第10図	鉄関連遺物実測図(1)	244

第11図	鉄関連遺物実測図 (2)	245
第12図	鉄関連遺物実測図 (3)	246
第13図	鉄関連遺物実測図 (4)	247
第14図	鉄関連遺物実測図 (5)	248
第15図	鉄関連遺物実測図 (6)	249
第16図	鉄関連遺物実測図 (7)	250
第17図	鉄関連遺物実測図 (8)	251
第18図	鉄関連遺物実測図 (9)	252
第19図	鉄関連遺物実測図 (10)	253
第20図	鉄関連遺物実測図 (11)	254
第21図	鉄関連遺物実測図 (12)	255

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	9
-----	--------	---

樋ノ口遺跡

第1表	検出遺構一覧	19
第2表	柱穴様ビット一覧 (1)	54
第3表	柱穴様ビット一覧 (2)	55
第4表	柱穴様ビット一覧 (3)	56
第5表	柱穴様ビット一覧 (4)	57
第6表	柱穴様ビット一覧 (5)	58
第7表	柱穴様ビット一覧 (6)	59
第8表	柱穴様ビット一覧 (7)	60
第9表	柱穴様ビット一覧 (8)	61
第10表	柱穴様ビット一覧 (9)	62
第11表	柱穴様ビット一覧 (10)	63
第12表	柱穴様ビット一覧 (11)	64
第13表	柱穴様ビット一覧 (12)	65
第14表	柱穴様ビット一覧 (13)	66
第15表	柱穴様ビット一覧 (14)	67
第16表	遺物観察表 (1)	136
第17表	遺物観察表 (2)	137
第18表	遺物観察表 (3)	138
第19表	遺物観察表 (4)	139
第20表	遺物観察表 (5)	140

第21表	放射性炭素年代測定および暦年代校正の結果	151
第22表	H16年度放射性炭素測定結果表	153
第23表	H17年度放射性炭素測定結果表	154
第24表	炭化材樹種同定表	158
第25表	遺構別樹種構成表	158
第26表	木製品樹種同定表	160

芋種坂Ⅲ遺跡

第1表	S B02柱穴様ビット一覧	235
第2表	柱穴様ビット一覧表	238
第3表	出土遺物一覧表	239
第4表	鉄関連遺物観察表	239

図版目次

樋ノ口遺跡

図版1	遺跡遠景(1)	165
図版2	遺跡遠景(2)	166
図版3	遺跡遠景(3)	167
図版4	遺跡遠景(4)	168
図版5	遺跡遠景(5)	169
図版6	遺跡遠景(6)	170
図版7	遺跡近景	171
図版8	検出遺構(1) 竪穴住居跡 SI1076	172
図版9	検出遺構(2) 堀立柱建物跡① SB337・450、SD261	173
図版10	検出遺構(3) 堀立柱建物跡② SB1150、SD800	174
図版11	検出遺構(4) 鍛冶炉① SS354・1283・1284	175
図版12	検出遺構(5) 鍛冶炉② SS1100、SD1099	176
図版13	検出遺構(6) 鍛冶炉③ SS943・944、SD942	177
図版14	検出遺構(7) 焼土遺構① SN792・797・798・872・994	178
図版15	検出遺構(8) 焼土遺構② SN873・947・949・950・953・954	179
図版16	検出遺構(9) 焼土遺構③ SN894・955・1071・1234・1240・1291・1344	180
図版17	検出遺構(10) 炭窯跡① SW01・62・742・743、SKP10・11・33	181
図版18	検出遺構(11) 炭窯跡② SW850・1080	182
図版19	検出遺構(12) 炭窯跡③ SW940・941	183
図版20	検出遺構(13) 炭窯跡④ SW358・655	184
図版21	検出遺構(14) 溝跡① SD234・235・253・261・262	185

図版22	検出遺構 (15) 溝跡②	SD278・290・322・403	186
図版23	検出遺構 (16) 溝跡③	SD300	187
図版24	検出遺構 (17) 溝跡④	SD306・345・346・348・478・479・510・514・559	188
図版25	検出遺構 (18) 溝跡⑤	SD359	189
図版26	検出遺構 (19) 溝跡⑥	SD547・548・619・759	190
図版27	検出遺構 (20) 溝跡⑦	SD901・1181・1185	191
図版28	検出遺構 (21) 溝跡⑧	SD1189	192
図版29	検出遺構 (22) 溝跡⑨	SD1190・1192・1208・1215・1216・1217・1301・1310	193
図版30	検出遺構 (23) 溝跡⑩	SD1209・1256	194
図版31	検出遺構 (24) 溝跡⑪	SD1235・1250	195
図版32	検出遺構 (25) 溝跡⑫	SD1255・1292・1293・1300	196
図版33	検出遺構 (26) 土坑①	SK48・49・226・232・276・347・527・633	197
図版34	検出遺構 (27) 土坑②	SK715・760・790・791・799・828・933・1081	198
図版35	検出遺構 (28) 土坑③	SK1094・1170・1175・1197・1198・1230・1306・1311・1352	199
図版36	検出遺構 (29) 陥し穴	SKT1111・1238	200
図版37	検出遺構 (30) 土塁	SF945	201
図版38	盛土	SF1151・1166・1183・1213・1282・1320・1351	202
図版39	遺物出土状況		203
図版40	出土遺物 (1) 縄文土器・石器		204
図版41	出土遺物 (2) 土師器坏①		205
図版42	出土遺物 (3) 土師器坏②		206
図版43	出土遺物 (4) 土師器甕		207
図版44	出土遺物 (5) 土師器鍋・鉢		208
図版45	出土遺物 (6) 須恵器坏・甕		209
図版46	出土遺物 (7) 須恵器壺・灰釉陶器		210
図版47	出土遺物 (8) 硯・砥石・鉄製品		211
図版48	出土遺物 (9) 木製品①碗・形代・板状木製品		212
図版49	出土遺物 (10) 木製品②下駄		213
図版50	出土遺物 (11) 木製品③机天板		214
図版51	出土遺物 (12) 木製品④机脚・棒状木製品		215
図版52	出土遺物 (13) 木製品⑤斎串・棒状木製品		216
図版53	出土炭化材顕微鏡写真 (1)		217
図版54	出土炭化材顕微鏡写真 (2)		218
図版55	出土木製品顕微鏡写真 (1)		219
図版56	出土木製品顕微鏡写真 (2)		220
図版57	出土木製品顕微鏡写真 (3)		221
図版58	出土木製品顕微鏡写真 (4)		222

図版59	出土木製品顕微鏡写真(5)	223
図版60	出土木製品顕微鏡写真(6)	224
図版61	出土木製品顕微鏡写真(7)	225
図版62	出土木製品顕微鏡写真(8)	226
図版63	出土木製品顕微鏡写真(9)	227
図版64	出土木製品顕微鏡写真(10)	228

芋種坂Ⅲ遺跡

図版1	遺跡遠景・近景	257
図版2	遺構と出土遺物	258

はじめに

第1節 調査に至る経過

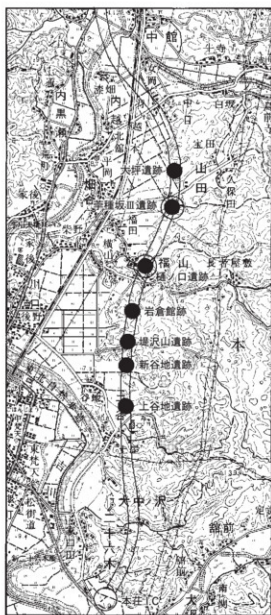
日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から青森市にかけての日本海沿岸や県内の高速交通体系の改善など、地域の生産活動と県民生活に必要な情報や資源の交流を促進することを目的として計画された総延長340kmの高速道路である。このうち、秋田県内では、国土交通省によって一部事業化されている象潟仁賀保道路及び仁賀保本荘道路、秋田外環状道路、琴丘能代道路、大館西道路と連結して、小坂JCTで東北自動車道に接続する。1997（平成9年）2月に新潟市～青森市までが日本海沿岸東北自動車道として路線指定され、このうちの秋田南I・C～能代東I・C間までは2006（平成18）年7月まで、岩城I・C～秋田空港I・C間は2002（平成14）年10月に開通している。

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡に係る本荘～岩城間の21.3kmについては、1997（平成9）年2月15日付けの第13次施行命令を経て、路線が発表された。これに伴い、日本道路公団東北支社仙台建設局長から、秋田県教育委員会教育長あてに、計画路線内の埋蔵文化財の分布調査の実施依頼があった。

これを受けて秋田県教育委員会は、路線上の埋蔵文化財確認のため、2001（平成13）年7月に分布調査を実施し、その結果、路線内に新たに発見した大坪遺跡・樋ノ口遺跡が存在することが明らかとなった。

樋ノ口遺跡については、工事区域内の18,600㎡を対象範囲として、2002（平成14）年11・12月に確認調査を行い、その結果、遺跡の北側は平安時代の集落跡、南側は中世の城館跡で、工事区域内の17,600㎡について発掘調査が必要であることがわかった。そこで、2003（平成15）年7～11月に西側の7,800㎡を対象に第一次調査、2004（平成16）年7～10月に北東側の4,950㎡を対象に第二次調査、2005（平成17）年5～7月に南東側の3,110㎡を対象に第三次調査を行った。

芋種坂Ⅲ遺跡については、地元の方からの情報に基づき秋田県教育委員会が分布調査を行ったところ、平安時代の遺跡であることが明確となり、発掘調査



第1図 日本海沿岸東北自動車道と関連遺跡

はじめに

が必要であることが判明した。発掘調査は2003（平成15）年4月に60㎡を対象として行った。

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡の発掘調査が行われた平成15～17年には、由利本荘市内において平成15年に上谷地遺跡・岩倉館跡・堤沢山遺跡、平成16年に岩倉館跡・堤沢山遺跡・湯水沢遺跡、平成17年に寺ヶ沢Ⅲ遺跡・家ノ前遺跡の発掘調査も実施している。

第2節 調査要項

樋ノ口遺跡

遺跡名	樋ノ口遺跡（ひのぐちいせき）	遺跡略記号：6HNG
遺跡所在地	秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外	
調査期間	平成15年度 平成15年7月1日～11月28日	
	平成16年度 平成16年7月30日～10月28日	
	平成17年度 平成17年5月9日～7月29日	
調査目的	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査	
調査面積	15,860㎡	
	平成15年度 7,800㎡	平成16年度 4,950㎡ 平成17年度 3,110㎡
調査主体者	秋田県教育委員会	
調査担当者	平成15年度 進藤 紀（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事） 村上 義直（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事） 小澤 昌広（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 丸山 涼子（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 平成16年度 進藤 紀（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事） 山村 剛（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事） 五十嵐和世（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 鈴木 健一（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 長谷川幹子（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 平成17年度 加藤 竜（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事） 村上 義直（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事） 海道 澄子（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 片岡 稔彦（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 菊地 亮（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員）	
総務担当者	平成15～17年度 藤原 康悦（秋田県埋蔵文化財センター総務課副主幹） 平成18年度	

	時田 慎一（秋田県埋蔵文化財センター総務課副主幹）
調査協力機関	東日本高速道路株式会社 由利本荘市教育委員会
芋種坂Ⅲ遺跡	
遺 跡 名	芋種坂Ⅲ遺跡（うたねざかさんいせき） 遺跡略記号：6 U T Z Ⅲ
遺 跡 所 在 地	秋田県由利本荘市福山字芋種坂
調 査 期 間	平成15年4月15日～4月18日
調 査 目 的	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査
調 査 面 積	60㎡
調 査 主 体 者	秋田県教育委員会
調 査 担 当 者	藤田 賢哉（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事） 渡辺 淳一（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事） 山村 剛（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事） 大瀨 和峰（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 小澤 昌広（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 猿田 良昭（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 佐藤 広志（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員） 高橋 浩樹（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員）
総務担当者	藤原 康悦（秋田県埋蔵文化財センター総務課副主幹）
調査協力機関	東日本高速道路株式会社 由利本荘市教育委員会

遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

樋ノ口遺跡と芋種坂Ⅲ遺跡の所在する秋田県由利本荘市は、日本海に面する秋田県沿岸地方の南端寄りに位置し、市域は東西方向に約32.3km、南北方向に約64.7km、総面積は約120.90haである。海岸線に沿って国道7号線が延び、これから国道105号線、107号線、108号線が放射線状に延びており、秋田県内陸都市を結ぶ拠点、また、日本海側と太平洋側とを結ぶ交通の要となっている。市の中心部は、鳥海山を水源とする子吉川河口の本荘平野にあり、元禄年間から記録に残る穀倉地帯であるとともに、日本海に面した港をもつ交易都市でもある。

樋ノ口遺跡と芋種坂Ⅲ遺跡は隣接しており、JR羽越本線羽後本荘駅の北約2.3km、日本海から約5.5kmに位置する。樋ノ口遺跡が北緯39°24′05″、東経140°05′01″に、芋種坂Ⅲ遺跡が北緯39°24′43″、東経140°05′01″に位置する。樋ノ口遺跡は福山地区に所在し、遺跡の西に流れる子吉川の河口から、川沿いに広がる本荘平野の北東部に位置し、鬼倉山地から延びた標高15～28mの丘陵地に立地している。

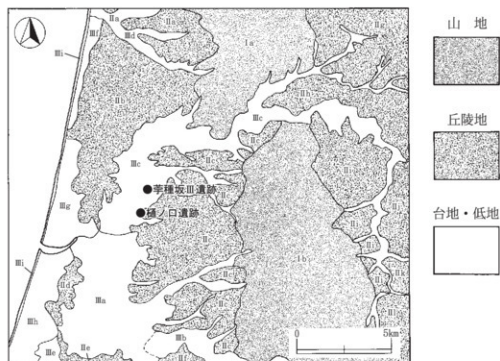
遺跡から南西に約1.8kmに流れる子吉川は、南へ約5kmの地点で石沢川と合流し、さらに北東約2km下流で芋川に合流して日本海に注いでいる。

遺跡の所在する福山地区は、北西方向には北由利丘陵を望み、南北には鬼倉山からの丘陵、西には標高約30mの和田山に周囲を囲まれている。「土地分類基本調査本荘」によると、東から権現山山地（Ⅰa）鬼倉山山地（Ⅰb）、出羽丘陵に連なる中央丘陵（Ⅱc）、子吉川・芋川低地（Ⅲa・Ⅲc）、北由利・子吉川丘陵地（Ⅱb・Ⅱd）があり、その西に本荘・西目砂丘地（Ⅲg・Ⅲh）があって海岸線に至っている。鬼倉山（601m）を中心とする山地は、南東—西北方向に稍々屈曲して発達しており、等値線は西麓で約200m、東麓で約300mで囲まれた周縁は丘陵地形面に囲まれ、主分水嶺の鬼倉山、その北の笹森山、黒森山は山頂傾斜部が発達している。権現山（317m）を中心とする山地は、鬼倉山地の北に位置し、200mの等値係線で紡錘状に囲ま



第2図 遺跡の位置

れ発達している。主尾根の権現山、駒泣峠の北の独立三角点(317m)は全般に150~200mの中小起伏山地であるが、中張断層面が発達し最高位侵食面を形成しているため、中ノ俣丘陵地との変換部や不動ノ滝背斜は急傾斜となっている。この山地・丘陵部に源を発する中小河川が芋川、小友川、石沢川に注ぎ、子吉川に合流して日本海に達している。子吉川・芋川低地に広がる本荘平野は、中新世から鮮新世にかけての第3系からなる低山地に包囲されており、南北に細長い形は周辺の第3系の背斜軸の方向に重なっている。子吉川低地は白幡、鎌倉向斜軸の本平野下底への沈入収斂しつつ東西方向へのシーソー運動を随伴し、後水期の海進との三因子に対応する地形変動を来している。平野は、子吉川の旧流路によって低地の広い範囲に沖積地が構成されている。市街地周辺の標高約10mの平坦な地形面は、芋川と子吉川水系を通じて搬入された泥炭、泥炭質シルト、粘土、および砂の河成や湖沼堆積物が累積し、上流に向かって傾斜約1/1000で緩やかに高くなる堆積地形となっている。子吉川流域の南部では、氾濫原成の砂やシルトが卓越している。樋ノ口遺跡は、中央丘陵地の西端に立地し、遺跡中央には市道福田1号線、北側には市道大場台線が通り、南側は急傾斜な崖、西側は丘陵から流れ出す沢によって形成された扇状地形を呈しており、水田が広がっている。



第3図 遺跡周辺の地形分類図

- I 山地
 (I a) 権現山山地 (I b) 鬼倉山山地
- II 丘陵地
 (II a) 岩城丘陵地 (II b) 北由利丘陵地 (II c) 中央丘陵地 (II d) 子吉丘陵地
 (II e) 葛法丘陵地 (II f) 石橋丘陵地 (II g) 中ノ俣丘陵地 (II h) 扇守丘陵地
 (II i) 上川大内丘陵地 (II j) 岩野目沢丘陵地 (II k) 小羽広丘陵地 (II l) 松山丘陵地
- III 台地・低地
 (III a) 子吉低地 (III b) 石沢川低地 (III c) 芋川低地 (III d) 衣川低地
 (III e) 西目低地 (III f) 由利砂丘地 (III g) 本荘砂丘地 (III h) 西目砂丘地
 (III i) 海浜砂丘地

第2節 歴史的環境

由利本荘地区は、文献上「由理柵」「由理駅」「蛸方駅」があった地域として郷土史・考古学上大きな関心が寄せられているほか、縄文時代からの各時代にわたる遺跡が立地している。樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡のある旧本荘市域の主な遺跡について、秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図（由利地区版）』『秋田県の中世城館』『遺跡詳細分布調査報告書』に基づいて概観する。

現在までのところ、本荘地域においては旧石器時代の遺跡は確認されていないが、市内大内町オノ神や鳥海町小川の国見等では旧石器時代の遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡としては、早期の菖蒲崎貝塚（19）・子吉川底遺跡（20）・神沢遺跡、前期の船岡台遺跡・土谷白山遺跡（46）・土花遺跡・オシダテ遺跡・親川冷水遺跡（2）・深沢遺跡（4）・菖蒲崎貝塚・子吉川底遺跡、中期の田尻遺跡（22）・葉師堂遺跡（27）・鳴瀬遺跡・船岡台遺跡・梵天野遺跡、後期の大浦遺跡（16）・田尻野遺跡（23）・親川フタノ沢遺跡（3）・熊野神社遺跡（33）・上谷地遺跡（40）、晩期の長老沼遺跡（24）、東町遺跡（25）・成沢台遺跡・小友金山遺跡（34）・大浦遺跡・田尻野遺跡等が確認されている。菖蒲崎貝塚は、子吉川支流の芋川河口左岸に所在し、貝層の直上と直下で縄文時代早期末葉の土器片が出土し、貝層の99パーセントを汽水性のヤマトシジミが占めていた。他に、ウグイなどの魚類、ガン・カモ類に属する鳥類遺体も確認された。船岡台遺跡は、丘陵地に所在し、縄文中期の竅穴住居跡1棟、前期末の土坑8基が確認され、大木式土器、縄文前期円筒下層式土器、北陸系前期末頃の土器や魚形文刻石などが出土している。上谷地遺跡は、従来平安時代の遺跡とされてきたが、平成13・14年の調査で縄文時代後期のトチのアク抜きをした水さらし場遺構が確認された。

弥生時代の遺跡としては親川遺跡（1）・土花遺跡で遺物が確認されているのみで、当時の様子を解明するには至っていない。

古代の遺跡としては、土谷遺跡（21）・葛法窯跡・新ウレイノ遺跡（37）・横山遺跡（38）・大覚遺跡（39）・新谷地遺跡（41）・岩瀬堤遺跡（42）・宮崎遺跡・湯水沢遺跡・新漆畑遺跡・中ノ目遺跡・樋ノ口遺跡（53）・雪車町遺跡・上谷地遺跡・立花遺跡等が確認されている。葛法窯跡は、丘陵地の麓に所在し、8世紀末～9世紀初頭に操業の中心を置く半地下式の登り窯が3基検出された。遺物は全て須恵器で、坏・有台坏・台付碗・壺・甕が出土した。坏はロクロ水挽きによって形成され、切り離しは回転ヘラ切り、切り離し後の再調整のないものであった。横山遺跡は、沖積地に所在し、10世紀の水田跡が住居跡とともに発見されている。この水田跡は、十和田a火山灰の堆積状態から915年以前に営まれたと思われる。古代の水田は県内では初の発見例である。上谷地遺跡の所在する土谷地区は、古くから多数の遺物が出土しており、特に昭和6年6月13日の「本荘時報」では大正年間の耕地整理中の角材発見が伝われ、古雪地区と共に由理柵の推定地のひとつとされている。由利本荘市教育委員会では、4次にわたって上谷地遺跡の分布調査を行い、その結果、北宋銭・土師器・須恵器・箸片・加工痕の残る板材等が出土した。また、平成13年度から3年にわたって秋田県教育委員会による調査も行われ、掘立柱建物跡・井戸跡等から、北宋銭・土師器・須恵器・木製品等が出土した。大覚遺跡からは祭祀用木製品、新漆畑遺跡からはフイゴの羽口や大量の鉄滓、土谷遺跡からはフイゴの羽口・大量の鉄滓や須恵器系中世陶器、新谷地遺跡からは、土師器・須恵器や鉄滓が出土している。

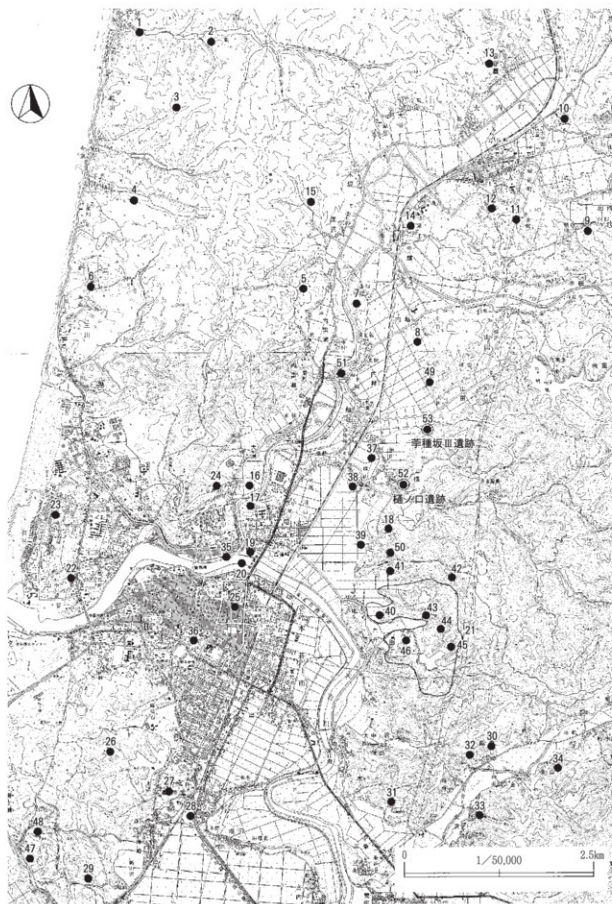
中世の遺跡には、集落跡として大坪遺跡（49）・大浦遺跡・土花遺跡、生産遺跡として堤沢山遺跡がある。大浦遺跡は芋川河口から900m上流の右岸に位置する。13世紀から15世紀の陶磁器や銭貨と共に、掘立柱建物跡、鍛冶炉跡、堅穴状遺構、堅穴状遺構、道路跡が検出された。立花遺跡は、万願自寺地区の南部に所在し、珠洲系陶器や中国製の磁器とともに、建物跡・井戸跡や火葬墓が検出されている。大坪遺跡は、子吉低地の東端に位置し、溝跡から中国産の青磁・白磁、常滑焼・渥美焼、須恵系中世陶器等が出土している。平岡館（51）・川口館（17）・岩倉館（18）・子吉館（26）・埋田小館（28）・蝦夷館（29）・花館・葛法山館・鳴瀬館・荒城館・万願寺館・株切館（32）・本荘城（36）・蝦夷館（29）・黒瀬館（5）・元館（10）・岩谷古館（12）・岩谷麓古館（13）・中館（14）・館前館（30）・樋ノ口遺跡等多くの館跡が発見されている。

通説では、由利氏が平安時代末期から鎌倉時代の初期までこの地域を支配したとされ、『吾妻鏡』には文治5（1189）年の奥州合戦の際に、鎌倉方に捕えられたがその立居が認められ、本願安堵された由利惟平の記事が見られる。建保元（1213）年の和田合戦の後は、幕府女房の大武局が由利郡地頭職となり、一族の小笠原氏に受け継がれ、分割譲渡を繰り返すなかで地縁的結合をもった庶子が覚悟の性格の独立勢力になったものと推測される。北条得宗家の専制・鎌倉幕府滅亡・南北朝の争乱を経て、小豪族が割拠する「由利十二頭」の時代となる。

「由利十二頭」の時代は、天正18（1590）年の奥州仕置・太閤検地で終わりを迎え、中央政権の地域支配として由利五人衆が設定されたが、慶長7（1602）年には、関ヶ原の戦の功から最上義光の支配となり、重臣の橋岡満茂が入部した。この時に、満茂が統治の拠点として尾崎山に築いた本荘城を中心に、江戸期を通じて近代城下町として本荘は発展を遂げてきた。

参考文献

- 秋田県 『土地分類基本調査 本荘』 1980（昭和53）年
 秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図（由利地区版）』2001（平成13）年
 秋田県教育委員会 『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 1981（昭和56）年
 秋田県教育委員会 『大浦遺跡―芋川災害復旧等関連緊急事業に係る埋蔵文化財調査報告書―』 秋田県文化財調査報告書第336集 2002（平成14）年
 秋田県教育委員会 『大坪遺跡―日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書XVII―』 秋田県文化財調査報告書第375集 2004（平成16）年
 秋田県教育委員会 『上谷地遺跡・新谷地遺跡―日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書―』 秋田県文化財調査報告書第395集 2005（平成17）年
 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第342集 2002（平成14）年
 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第365集 2003（平成15）年
 本荘市教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 1985（昭和60）年
 本荘市教育委員会 『上谷地遺跡 新谷地遺跡 一内越地区担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』 本荘市文化財調査報告書19集 2003（平成15）年
 本荘市 『本荘市史通史編・I』 1984（昭和59）年
 本荘市 『本荘市史史料編・I上』 1984（昭和59）年
 本荘市 『本荘市史史料編・I下』 1985（昭和60）年
 奈良修介・豊島 昂 『秋田県の考古学』 吉川弘文館 1967（昭和42）年
 大和久義平・奈良修介 『秋田県史 考古編』 1977（昭和52）年



第4図 周辺遺跡位置図

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡地図 登録番号	所在地	種別	現状	主な遺構・遺物
1	観川	5-3	由利本荘市観川字ツツ山	遺物包含地	宅地	弥生土器片
2	観川冷水	5-4	由利本荘市観川字観木林	遺物包含地	畑地	縄文土器片(前期)
3	観川ツナノ沢	5-5	由利本荘市観川字金ヶ沢	遺物包含地	畑地	縄文土器片(後期)
4	深沢	5-6	由利本荘市深沢字深沢	遺物包含地	畑地	縄文土器片・中世銭貨
5	黒瀬館	5-7	由利本荘市内黒瀬字坂ノ下	館跡	草地	腰郭
6	西大台	5-60	由利本荘市三川字西大台	遺物包含地	山林	鉄滓
7	新津畑	5-61	由利本荘市内越字新津畑	遺物包含地	水田	土師器片
8	中ノ目	5-62	由利本荘市内越字中ノ目	遺物包含地	水田	須恵器片
9	飛川	44-33	由利本荘市内大町北福田字沢入	遺物包含地	山林	縄文土器片・石匙
10	元館	44-35	由利本荘市内大町岩谷町字ハケノ下	館跡	山林	空堀
11	古館	44-37	由利本荘市内大町岩谷町字古館	遺物包含地	宅地・畑地	石斧・石鏝・石匙
12	岩谷古館	44-38	由利本荘市内大町岩谷町字古館	館跡	山林	空堀・腰郭
13	岩谷麓古館	44-39	由利本荘市内大町岩谷麓字古館	館跡	山林	
14	中館	44-40	由利本荘市内大町中館字台場	館跡	山林	
15	藤長根	44-41	由利本荘市内大町藤沢字横沢	遺物包含地	山林	石鏝・石鏝・石匙
16	大浦	5-13	由利本荘市大浦字八走	集落跡	畑地・水田	縄文土器(後期・晩期)・石器 古代(土師器・須恵器・木器)
17	川口館	5-14	由利本荘市川口字愛宕山	館跡	学校地	空堀・須恵器片
18	岩倉館	5-15	由利本荘市川口字岩倉	館跡	山林・採石地	郭・かわらけ・中国産(青磁・白磁・染付) 朝鮮青磁・陶磁器陶器・小丸・足金物・ 赤白 卒塔婆・五輪塔・埴埴 縄文土器(早期・前期)・シジメ貝・ 魚骨
19	高瀬崎貝塚	5-16	由利本荘市川口字高瀬崎	貝塚	河川敷	縄文土器片
20	子吉川底	5-17	由利本荘市川口字高瀬崎付近川底	遺物包含地	川底	縄文土器片
21	土谷	5-18	由利本荘市土谷字田ノ沢	遺物包含地	山林・畑地	野矢が跡・珠洲系陶器・唐津焼・羽口・ 鉄滓
22	田尻	5-19	由利本荘市石輪字田尻	遺物包含地	畑地	縄文土器片(中期末・大木9・10式)
23	田尻野	5-20	由利本荘市石輪字田尻野	遺物包含地	宅地・畑地	縄文土器片(後期・晩期)
24	長老沼	5-21	由利本荘市石輪字上長老沼	遺物包含地	宅地・畑地	縄文土器片(晩期)・石匙・石斧・石鏝
25	東町	5-22	由利本荘市東町	遺物包含地	宅地・畑地	縄文土器片(晩期)
26	子吉館	5-23	由利本荘市出戸町字水林	館跡	山林	空堀・土塁・馬場跡
27	薬師堂	5-24	由利本荘市薬師堂字堂ノ下	遺物包含地	原野・宅地・畑地	縄文土器片
28	埋田小館	5-25	由利本荘市埋田字小館	館跡	畑地・草地・雑木林	山林
29	観光館	5-26	由利本荘市藤崎字香竹沢	館跡	山林	
30	館前館	5-32	由利本荘市館前字館前	館跡	山林	腰郭・須恵器四耳壺
31	三条山	5-35	由利本荘市三条字定ヶ沢	遺物包含地	山林	縄文土器片
32	株切館	5-50	由利本荘市館前字株切館	館跡	山林	
33	熊野神社	5-51	由利本荘市大沢字南園	遺物包含地	草地・神社	縄文土器片(後期)
34	小友金山	5-52	由利本荘市金山	遺物包含地	山林	縄文土器片(晩期)・石斧・石鏝
35	石輪中町	5-63	由利本荘市石輪字石輪	遺物包含地	宅地・畑地	縄文土器片
36	本荘城	5-64	由利本荘市出戸町字尾崎	城跡	公園	縄文土器片・石器・陶器片・磁器片
37	新ウレイノ	5-65	由利本荘市畑谷字新ウレイノ	遺物包含地	水田	土師器片
38	横山	5-66	由利本荘市福山字横山	集落跡	水田	水田跡・堅穴住居跡・土師器片・須恵 器片
39	大寛	5-67	由利本荘市川口字大寛	遺物包含地	水田	土師器片
40	上谷地	5-68	由利本荘市土谷字上谷地	集落跡	水田・山林	縄文(水さらし場・土器・石器) 平安(井戸跡・獨立柱建物跡・溝跡・ 土師器・須恵器・木製品)
41	新谷地	5-69	由利本荘市土谷字新谷地	遺物包含地	水田	土師器・須恵器・鉄滓
42	岩瀬堤	5-70	由利本荘市土谷字岩瀬	遺物包含地	水田	須恵器片
43	土谷田ノ沢	5-71	由利本荘市土谷字田ノ沢	遺物包含地	山林	鉄滓
44	土谷地下	5-72	由利本荘市土谷字地下	遺物包含地	山林	
45	土谷堂ヶ沢	5-73	由利本荘市土谷字堂ヶ沢	遺物包含地	山林	
46	土谷白山	5-74	由利本荘市土谷字小深田	遺物包含地	山林	縄文土器(前期)
47	鉢沢	41-22	由利本荘市西日町富士新字鉢沢	遺物包含地	畑地	縄文土器片
48	北沢	41-32	由利本荘市西日町海士新字北沢	遺物包含地	水田	縄文土器片・石鏝
49	大坪		由利本荘市畑谷字大坪	集落跡 殿治生産	水田	溝跡・殿治炉・土師器・須恵器・珠洲 焼・常滑焼 奈良焼・青磁・白磁・朱鉄・硯・鉄滓・ 石鏝・羽口 埴埴造遺構・消解が・壱塚・殿治炉・ 産産埴 跡等(梵鐘等の仏具)・鉄滓・如摩・ 羽口・木製品
50	堤沢山		由利本荘市川口字大学堤沢山	跡造	山林	
51	平岡館		由利本荘市内越字平岡	館跡	神社地	空堀・土塁
52	樋ノ口		由利本荘市福山字樋ノ口	集落跡 殿治生産	山林	土塁・獨立柱建物跡・堅穴住居跡・空 堀・殿治炉・瓦窯・縄文土器・石器・ 土師器・須恵器・灰陶陶器・木製品 鉄製品
53	字種坂Ⅱ		由利本荘市福山字字種坂	殿治生産	山林	縄文土器(後期)・古代～中世(鉄滓・ 如摩・羽口)

樋ノ口遺跡

(6 H N G)

第1章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

樋ノ口遺跡は由利本荘市福山地区にあり、JR羽後本荘駅の北約2.3kmに位置する。遺跡から日本海までは約5.5kmで、遺跡から真西に位置する子吉川河口から川沿いに広がる本荘平野の北東部に立地する。遺跡は標高約15～28mの丘陵地で、遺跡の真南には丘陵越しに烏海山を望むことができる。

第2節 調査の方法

1 調査区の設定

調査の方法は、日本海沿岸東北自動車道建設工事のセンター杭STA.312 (X=-66,163.951、Y=-64,570.538)を基点として真北方向をとり、4m×4mの方眼杭を打設して遺構・遺物の検出地点を把握するグリッド法を採用した。基点には、MA50の呼称を付し、西に行くに従いMB、MC、MD……というアルファベットを、北に行くに従い51、52、53……という二桁の算用数字を用い、これを組み合わせた記号で位置を示した。その際、4m方眼の南東隅に位置する杭を当該グリッドの名称とした。

2 発掘方法と記録作成

調査は確認調査に基づき、表土除去は重機によって行い、その後にグリッド杭を打設した。遺構の確認は、Ⅲ・Ⅴ層の上面を中心とした。

検出した遺構は、発見順に略記号及び番号を付して区別し、図面と写真により記録した。図面の縮尺は1/20を基本とし、遺物の微細図は1/10とした。

遺物は、遺跡名・出土グリッドまたは遺構名・遺物番号・層位・出土年月日を記入し、取り上げた。遺構内で出土した遺物については、一括もしくは遺物番号付を区別し、微細図・写真などの記録を行い取り上げをした。

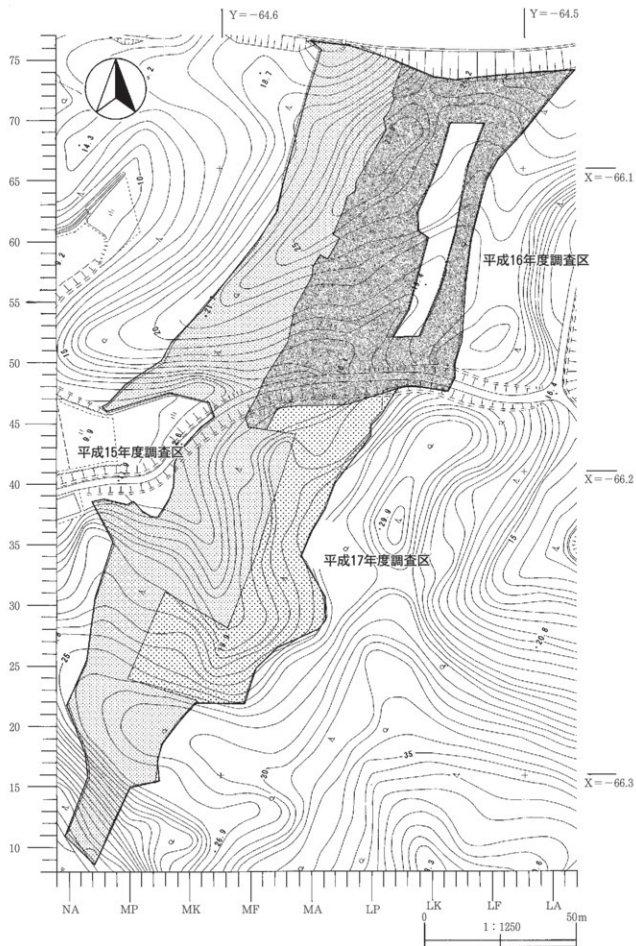
写真の撮影は、35mm判モノクロ・リバーサルを合わせて使用した。

第3節 調査の経過

樋ノ口遺跡の発掘調査は、平成15年7月1日から11月28日、平成16年7月30日から10月28日、平成17年5月9日から7月29日の期間行われた。発掘調査の経過は、以下のとおりである。

平成15年度

- 6月18日 本荘市広域交流センターにおいて作業員選考会を実施。
航空測量図化を開始。
- 7月1日 平成15年度調査を開始。
- 7月2日 機材搬入、環境整備を実施。表土除去開始。



第1図 調査区とグリッド配置図

- 7月9日 北側調査区でベルトコンベヤー稼働開始。
- 7月16日 S W01検出。
- 7月23日 S W62検出。
- 7月30日 南側調査区の環境整備を実施。
- 8月8日 67ラインまで掘り終了。
- 8月22日 北端のS K P精査ほぼ終了。
- 8月29日 本遺跡を会場に発掘技術研修を実施。
- 9月2日 南側調査区にベルトコンベヤー配置。トレンチの掘り下げを行う。
- 9月4日 南側調査区の沢で下駄出土。
- 9月9日 斜面裾に沿ったS D221を主する数条の溝跡を検出。
- 9月17日 S D300の精査を開始、同遺構以北の盛土による造成を確認。
- 9月29日 S D300から鉄製品が出土。
- 9月30日 S B337検出。
- 10月6日 S T1140から漆器・天板等の木製品が出土。
- 10月9日 S T1140から刀形・天板等の木製品が出土。
- 10月14日 S W358検出。
- 10月20日 斜面肩部分の盛土造成上でS B450・S D403等を検出。
- 10月30日 沢の北岸まで遺構検出作業終了。
- 11月12日 S B550を検出。
- 11月15日 堤沢山遺跡見学会に併せて一般公開を行い、68名が来跡した。
- 11月26日 S W358の灰原下でS W655検出。
- 11月27日 空中写真撮影を実施。
- 11月28日 平成15年度分の調査を終了。

平成16年度

- 4月8日 本荘市広域交流センターにおいて作業員選考会を実施。
- 7月30日 平成16年度調査を開始。機材搬入。
- 8月10日 S W742・S N743等を検出。
- 8月16日 先行調査区の終了写真撮影。
- 8月20日 台風のため、事務所、現場テント等に被害。
- 8月24日 S D800を検出。
- 8月26日 S T1141から土師器・須恵器・鍛冶関連遺物が多量に出土。
- 9月1日 S D800で区画された内側で、S B818を検出。
- 9月3日 S W850を検出。
- 9月13日 S N953等の焼土範囲を複数検出。S D901を検出。
- 9月30日 国立歴史民俗博物館千田嘉博助教が来跡。S F945を検出。
- 10月1日 S W940・941を検出。

- 10月7日 S I 1076を検出。
- 10月13日 S D 942・S S 943を検出。
- 10月18日 S D 1099・S S 1100を検出。
- 10月20日 空中写真撮影を実施。
- 10月22日 S K T 1111を検出。
- 10月28日 平成16年度分の調査を終了。

平成17年度

- 5月9日 平成17年度調査を開始。
- 5月11日 環境整備を実施。
- 5月16日 北側調査区の盛土トレンチ写真撮影。沢部の土層断面実測、終了。
- 5月18日 中央部平坦面から表土掘り下げ開始。遺構プラン検出。
- 5月20日 南側斜面で、東側から表土除去開始。遺構プラン検出。
- 5月24日 中央部平坦面の東端部壁面において溝のプランを確認。平坦部の縁辺に沿って延びている模様。
- 5月27日 中央部平坦面の盛土上面まで掘り下げ。遺構精査を継続。
- 6月1日 中央部平坦面で確認していた溝 S D 1189の延長部を検出。
- 6月6日 北側調査区において、地山面でのレベリングを実施。沢部の礫及び炭化物の検出状況撮影。
- 6月10日 北側調査区 S D 1209精査終了。S D 1189は板敷の可能性が強くなった。
- 6月14日 北側調査区で縄文土器片が出土。
- 6月15日 北側調査区調査終了。
- 6月23日 中央部平坦面 S D 1235精査。
- 6月29日 南側斜面 S D 1300掘り下げ。鉄製品出土。
- 7月6日 中央部平坦面周辺の調査ほぼ終了。
- 7月7日 S D 1300周辺の精査を実施。北東方向に延びる沢筋で盛土を確認。
- 7月14日 S D 1300精査終了。
- 7月20日 空中写真撮影を実施。
- 7月29日 調査を終了。

第4節 整理作業の方法

遺構は、現場で作成した平面図・断面図を点検・修正し、第2原図を作成し、これをトレースした。遺物は、調査終了後に秋田県埋蔵文化財センター中央調査課において洗浄し、後に注記、土器の接合復元作業を行った。報告書掲載遺物を選択し、図化・採拓を行った。実測図は、残存状況を理解できるような作図を心がけ、残存状況の少ない遺物は180°回転で復元実測を行った。遺物分類・選択の際、土器は赤羽一郎氏・井上喜久男氏・八重樫忠郎氏、鍛冶関連遺物は穴澤義功氏の指導・助言を受

けて進め、あわせて木製品・金属製品・炭化物の科学的分析及び保存処理を委託した。報告書の作成に当たっては、遺構・遺物の出土状況を明確にする構成に努めた。以上の経過を経て、原稿を作成し編集作業を行った。

第2章 調査の記録

第1節 遺跡の層序 (付図6・7)

調査範囲の地形は、大きく見て丘陵地とこれを開析する大小の沢状地から構成される。調査区全体の層序を把握するため、任意の場所にトレンチを設定し土層を観察したところ、自然地形と連続する自然堆積土のほか、丘陵地の人工的な削平に伴うと考えられる削土によって沢状地形が埋め立てられた状況も複数箇所を確認された。遺跡の層序は、3ヵ年分のトレンチ観察記録を照合し、人為堆積土も含めて以下のⅠ～Ⅴ層に大別した。

Ⅰ層：黒～黒褐色を基調とする現表土。スギ・マツ林を供給源とした腐葉土から構成され、調査区のはほぼ全域を覆っている。近世・近代の陶磁器を包含する。

Ⅱ層：黒褐色～灰黄褐色を基調とするシルト質土。現表土形成以前の旧表土で、平安時代の遺物や近世陶磁器を包含する。部分的に色調により褐色土と黒褐色土とで上下に分層可能な場合があり、この場合前者をⅡa層、後者をⅡb層に細分した。

Ⅲ層：褐色～明黄褐色を基調とするシルト質土。本層は特に沢状地や平坦面に続く斜面地で部分的に堆積する場合が多く、調査区全体で連続してはいない。ここでは地山(Ⅴ層)由来の褐色土を主体とした人為堆積土を総合して扱うこととする。堆積土中には人工遺物をほとんど含んでいない。堆積土は地山土と黒～黒褐色土との混合割合により複数層に分層が可能であるが、層中に安定した遺構構築面は形成されておらず、観察された層界は平坦面造成に伴う削土の廃棄単位に相当する可能性が高い。なお、本層と下層との境界面において炭化物や焼土の濃密な分布が確認されることがある。このような現象は、平坦面造成に先立って地表面の草木を焼却処理した結果を示すのかもしれない。

Ⅳ層：黒褐色～灰黄褐色を基調とするシルト質土。Ⅲ層堆積以前の自然堆積土で、土壌の色調や基質はⅡ層に類似する。本層上面からは土師器など平安時代の遺物が出土している。黒色土を基調とする旧表土はⅣa層、沢状地に累積するグライ化した堆積土についてはⅣb層に細分した。

Ⅴ層：暗褐色～ふい黄褐色を基調とするシルト質土。いわゆる地山層で、漸移的に変化している箇所では上部をⅤa層、下部をⅤb層に細分した。本層から人工遺物は出土していない。

第2節 検出遺構

検出した遺構は、竪穴住居跡1軒・掘立柱建物跡4棟・鍛冶炉5基・焼土遺構21基・炭窯10基・溝跡66条・土塁1条・土坑33基・陥し穴2基・柱穴様ピット1,003基、捨て場2か所である(第1表)。

1 竪穴住居跡

S I 1076 (第3図、図版8)

LQ・LR62グリッドに位置し、Ⅴ層地山面精査中に褐色の方形プランと、カマドに相当する焼土を含む暗褐色の細長いプランを確認した。SKP1113に切られる。確認の段階で南東側は失われてい

第1表 検出遺構一覧

S 1 : 聖穴住跡跡 (1軒)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
1076	LQ・LR62	18F	第3区	図版8

S B : 掘立柱建物跡 (4棟)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
337	MN16・17, MO15-17, MP16・17	21F	第4区	図版9
450	MG41・42, MH41	21F	第5区	図版9
543	MI19・36, MQ30・37	21F	第6区	図版9
1150	LG66・67, LL65・66, LM65・66	22F	第6区	図版10

S S : 竪穴 (5基)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
354	MN15	22F	第7区	図版11
943	LM58	22F	第8区	図版13
1140	LM55	23F	第9区	図版12
1283	MK26	23F	第7区	図版11
1284	MK26	23F	第7区	図版11

S N : 礎石遺構 (21基)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
603	ME34	23F	第10区	図版14
792	LH81	23F	第10区	図版14
797	LL・LM61	24F	第11区	図版14
798	LP59	24F	第10区	図版14
872	LG65	24F	第12区	図版14
873	LG65	25F	第12区	図版15
876	LP65	25F	第12区	図版15
894	MG65	25F	第12区	図版16
944	LM58	25F	第8区	図版13
949	LG66	26F	第12区	図版15
950	LG66	26F	第12区	図版15
953	LG65	26F	第12区	図版15
954	LP65・66, LG65	26F	第12区	図版15
955	LP・LG65	27F	第12区	図版16
994	MI	27F	第11区	図版14
1071	LP83	27F	第10区	図版16
1206	MC39	27F	第28区	—
1234	MD33	27F	第30区	図版16
1240	MP30	28F	第30区	図版16
1291	MB38	28F	第28区	図版16
1344	MI28	28F	第35区	図版16

S W : 炭甕 (10基)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
01	MK52	28F	第13区	図版17
62	MH・MI52	28F	第13区	図版17
358	MI29・30, MJ29・30	29F	第14区	図版20
655	MI30	29F	第14区	図版20
742	LH72	29F	第13区	図版17
743	LD73, LE73	30F	第13区	図版17
850	LL52・53, LK52・53	30F	第15区	図版18
940	LL58・59	30F	第16区	図版19
941	LL57, LM57・58	31F	第16区	図版19
1080	LS57	31F	第15区	図版18

S D : 溝跡 (66条)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
221	MM・MN16	31F	第7区	—
227	MO15	31F	第38区	—
234	MN18・19, MN18・19	31F	第17区	図版21
235	MN17, MN17・18	32F	第17区	図版21
243	MI19	32F	第17区	図版21
261	MN・MO・MP17	32F	第4区	図版21
262	MO17・18	32F	第4区	図版21
277	MO17・18	33F	第4区	図版21
278	MO・MP18, MQ18・19	33F	第17区	図版22
290	MP18, MQ・MR19	33F	第17区	図版22
300	MK24・MR24, MQ・MR25	33F	第19区	図版23
306	MI・MI4・MI22	33F	第20区	図版24
322	MN20・21, MN21	34F	第17区	図版22
345	MN・MP22, MP・MQ23	34F	第20区	図版24
346	MP・MQ23	34F	第20区	図版24
348	MP・MQ23	34F	第20区	図版24
359	MP34・35, MG35・39, MI30・40	34F	第18区	図版25
403	MA・MD33, ME42・43, MF42	35F	第20区	図版24
478	MD37・38, ME38・37, MF35	35F	第21区	図版24
479	MD・MF38	35F	第21区	図版24
510	MO・MP25	35F	第22区	図版24
514	MC98, MP27・28	35F	第22区	図版24
547	MC32, MP32・35	36F	第23区	図版26
548	MC32・33, MP32・34	36F	第23区	図版26
559	MC31・32, MP31・32	36F	第22区	図版24
619	MG31・32, MH33	36F	第22区	図版26
630	MG32・33	36F	第18区	—
759	L109・70, L170	37F	第22区	図版26
800	LL・L57, L106・5, L104・6, L104・6	37F	第6区	—
848	LL65, LM65・66	37F	第6区	—

S D : 溝跡

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
851	LL67・68, LK67・68	37F	第6区	—
901	LO40・47, LP44・47, LQ44・45	38F	第21区	図版27
915	LM・LN50	38F	第22区	—
942	LL・LN58	38F	第8区	—
1099	LL54・55, LM55・56, LN55・56	38F	第9区	—
1161	LT42	39F	第24区	—
1181	LI14・18, MA7・38, MI17, MI38・37	40F	第30区	図版27
1185	MD26・27	40F	第25区	図版27
1188	LT41	40F	第24区	—
1189	LR・LT41, MA41・42	40F	第24区	図版28
1190	LT・MA41	40F	第24区	—
1191	MB40・41, MC39・40	40F	第27区	—
1192	LL54・42, LT41・42	41F	第24区	図版29
1202	MA・MB38, MB・MC39	41F	第28区	—
1208	MA42	41F	第24区	図版29
1209	LR42・43, LR42・43, LT43・44	41F	第29区	図版30
1210	MC39	41F	第28区	—
1215	MA34	42F	第27区	図版29
1216	MA32	42F	第27区	図版29
1217	MC39	42F	第27区	図版29
1225	MD33・34	42F	第30区	図版31
1246	MD・ME29	42F	第27区	—
1250	ME・MF31	43F	第30区	図版31
1255	MD27・29	43F	第33区	図版32
1256	MB36・37, MC35・36, MD35	43F	第32区	図版30
1275	MI・ME34	43F	第30区	—
1279	MA・ML28, MM27・28	44F	第34区	—
1280	MK29, ML28・29	44F	第30区	—
1292	MD28・29	44F	第33区	図版32
1293	MD28	44F	第33区	図版32
1300	MH27, MI27・29, MJ27・29	44F	第35区	図版32
1301	MB・MC38	45F	第28区	図版29
1309	MI・ME32	45F	第34区	—
1310	MP・MI22	45F	第34区	図版29
1338	MK29	45F	第36区	—
1353	ME25・26	45F	第36区	—

S F : 土器 (1集)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
945	LH・L109・52, LR・LO49・51	46F	第37区	図版37

S K : 土坑 (33基)

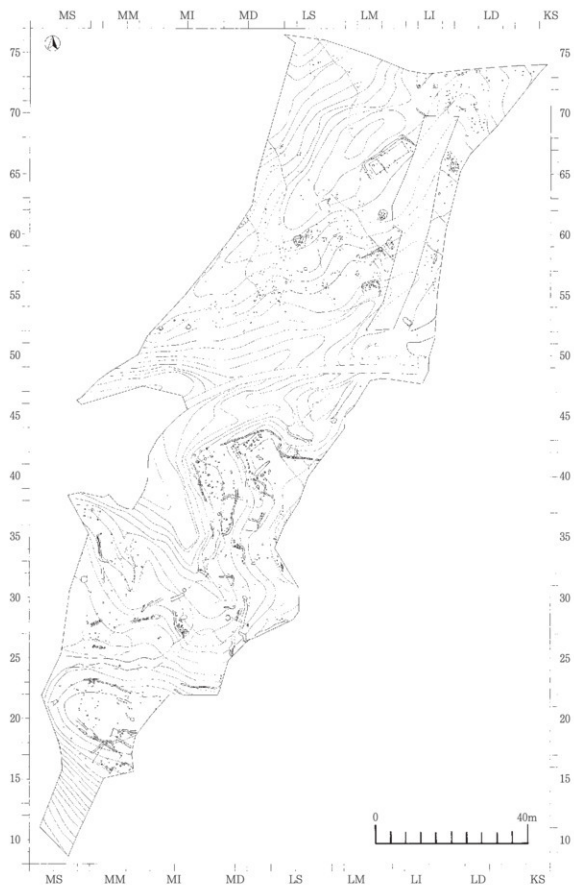
番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
48	LS・LT59	46F	第38区	図版33
49	LS59	46F	第38区	図版33
226	MO15	47F	第38区	図版33
233	MN14・19, MO18・19	47F	第38区	図版33
276	MQ16	47F	第39区	図版33
303	MM19・20, MN19・20	47F	第39区	—
347	MS21	47F	第39区	図版33
527	MQ30・31	48F	第39区	図版33
633	MP36・37	48F	第39区	図版33
715	LG73	48F	第39区	図版34
760	LI・L72	48F	第39区	図版34
790	LP73	48F	第40区	図版34
791	LP73	49F	第40区	図版34
799	LQ59	49F	第40区	図版34
828	LM65	49F	第40区	図版34
913	LM50	49F	第40区	—
933	LM57	49F	第40区	図版34
947	LI19	50F	第9区	—
990	LG56	50F	第12区	—
1000	LP59	50F	第40区	—
1078	LN・LC56	50F	第40区	—
1081	MA54	50F	第40区	図版34
1094	LN・LC58	50F	第40区	図版35
1098	LL・LM58	51F	第5区	—
1130	LI・LN55	51F	第9区	—
1170	MA・MB43	51F	第20区	図版35
1175	MB40	51F	第40区	図版35
1197	MC41	51F	第41区	図版35
1198	MI・MC41	51F	第41区	図版35
1200	MD29・30	52F	第38区	図版35
1206	MC39	52F	第38区	図版35
1311	MI28	52F	第35区	図版35
1352	ME28	52F	第41区	図版35

S K T : 陥し穴 (2基)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
1111	LH57・58	52F	第41区	図版36
1238	MC32	52F	第41区	図版36

S T : 捨て場 (2か所)

番号	グリーフ	事実記載	検出番号	図版番号
1140	MH34・35, MI34・35	53F	第42区	図版39
1141	LM54・55, LN54・55	53F	第42区	—



第2図 遺構配置図

る。長軸（南西－北東）3.0m×短軸（南東－北西）1.94mで、確認面からの深さは0.24mである。一辺が3.0mの隅丸方形を呈していたと考えられるが、欠失のため短軸は残存値を示している。また、壁溝や柱穴、貼り床は検出されなかった。竈は、焚口から煙道までの長軸（南西－北東）2.14m×短軸（南東－北西）0.46mで、確認面からの深さは煙道部分で0.24mである。堆積土はカマドを含めて6層に分層した。1層は小径の地山粒子を比較的多く含み、床面から上部まで堆積しているため、一括の埋め戻しによるものと考えられる。2～5層は焼土を多く含み、カマド煙道部の崩落に起因する堆積と判断した。6層は粘土を多く含み、カマド袖部に対応する。カマド焚口部分はわずかに窪んでいるが、被熱は微弱で、顕著な燃焼面は形成されていない。遺物は床面直上でほぼ完形の2点（第44図1・2）を含む土器器坏が21点出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1.076±40yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。

2 掘立柱建物跡

S B337（第4図、図版9）

MN16・17、MD15～17、MP16・17グリッドに位置する。V層地山面で確認した。付近にS D221・261溝跡があるが、直接の切り合いはない。8基の柱穴で構成され、桁行（北西－南東）約6.8m×梁行（北東－南西）約6.6mの桁行2間×梁行2間の規模である。柱穴間の距離は、桁行が3.32～3.42m、梁間は3.13～3.48mを測る。柱穴の平面形は円形を基調とし、断面形は底面からほぼ垂直に立ち上がる形状をなす。堆積土はP4・7が2層に分層され、その他は全て単一層である。明瞭な柱痕跡や抜き取りの痕跡は確認されていない。遺物はP8から石器剥片が1点、P5・8から炉壁がそれぞれ1点ずつ出土した。なお隣接するS D261は、本掘立柱建物跡の立地する平坦面の造成に係わる可能性が高く、北東辺と北西辺を囲むように位置することから、建物跡と同時に存在したと考えられる。

S B450（第5図）

MG41・42、MH41グリッドに位置する。6基の柱穴で構成され、桁行（南西－北東）約4.91m×梁行（北西－南東）約2.96mの桁行2間×梁行1間の規模である。柱穴間の距離は、桁行が2.19～2.72m、梁間は2.53～2.96mで、柱穴の平面形は円形を基調とし、断面形はほぼ垂直に立ち上がり、部分的に上方が広がる形状をなす。堆積土はP4～6が複数層に分層され、その他はすべて単一層である。明確な柱痕跡は確認されておらず、上方が広がる柱穴の断面形や堆積状況から建物廃絶時にはすべて抜き取られたものと考えられる。柱穴から遺物は出土しなかった。

S B550（第5図）

MP36・37、MQ36・37グリッドに位置する。6基の柱穴で構成され、桁行（東－西）5.03m×梁行（南－北）2.46mの桁行2間×梁行1間の規模である。柱穴間の距離は、桁行が2.16～2.78m、梁行は2.22～2.55mで、柱穴の平面形は円形を基調とし、断面形は底面からほぼ垂直に立ち上がる形状をなす。堆積土は、P2～6はすべて単一層であったが、P1は6層に分層され明確な柱痕跡が確認された。1層は柱抜き後の自然堆積土、2層は抜き痕、3～6層は柱設置時の裏込め土と考えられる。柱穴から遺物は出土しなかった。

S B1150（第6図、図版10）

L K66・67、L L65・66、L M65・66グリッドに位置する。S D800の構築と一連の造成と考えら

れる平坦面（V層地山面）上で確認された。ここでは平坦面で溝と平行して認識された2条の柱列ラインに乗る柱穴11基について、掘立柱建物1棟に属する柱穴とする。また南東辺柱列の延長線上には、平坦な礫のまとまりが2箇所確認されており、掘り形は伴わないが建物礎石である可能性が高く、これも建物の構成要素に含めておく。桁行（南西-北東）13.5m×梁行（南東-北西）3.92~4.29mの桁行3間×梁行2間の規模である。柱穴間の距離は、桁行はP3-P4とP8-P9を除き1.36~2.44m、梁間は1.78~2.16mである。柱穴の平面形は円形を基調とする。堆積土はすべて単一層で、明確な柱痕跡や柱抜き取り痕跡は確認されておらず、建物廃絶の様相は不明である。なお、本建物跡に属すると判断した柱穴が他の柱穴様ビットと組み合わせたり、別の掘立柱建物跡を構成する可能性は十分に考えられるが、柱配置や柱間寸法に整合性を見いだすことはできなかった。遺物はP6から土師器坏破片が9点出土している。

3 鍛冶炉

S S354（第7図、図版11）

MN15グリッドに位置し、IV a層精査中に焼土を含む暗褐色土プランを確認した。確認面のIV a層は地山土由来のⅢ層下に堆積している。この地山由来土の供給源は本遺構北側に隣接するS D221とこれに付随する平坦面造成の際の削土である可能性が高い。よってS D221より古い可能性がある。本鍛冶炉は調査区の南端に位置し、遺構本体は調査区域外へと続く。調査可能な部分では、平面形は円形を呈し、断面形は緩やかに立ち上がる皿状を呈する。規模は長軸（南西-北東）0.70m、確認面からの深さは0.19mを測る。掘り形底面は被熱により還元化している。堆積土は3層に分層した。1層はⅡ層に類似する暗褐色土を主体に小径の地山塊・炭化物・焼土塊を少量含み、廃絶後の自然堆積土と考えられる。2層は赤褐色の焼土層で、3層は黒褐色の還元化した焼土層である。遺物は鍛造剥片3点、被熱粘土塊11.2g、炉壁1.4gが出土した。

S S943（第8図、図版13）

L M58グリッドに位置し、V層精査中に炭化物と焼土を含む暗褐色土プランを確認した。S D942によって区画された平坦面上に位置する。掘り形平面は楕円形、断面は緩やかな皿状を呈する。長軸（東-西）0.33m×短軸（南-北）0.29mで、確認面からの深さは0.03mを測る。被熱範囲は直径約0.5m、確認面から0.12mの深さに及ぶ。堆積土は4層に分層した。1層はⅡ層に類似する暗褐色土を主体とし、炭化物と焼土塊を含む。廃絶後掘り形に自然堆積したものと考えられる。掘り形底面には鉄滓が多量に残存する。2~4層は被熱した地山土で、2・3層は被熱の度合いが強く還元化しており、4層は被熱が微弱である。遺物は鉄滓390.7g、椀形鍛冶滓・流出孔滓を含む流動滓が103.4g、鍛造剥片1.7g、粒状滓2.3g、その他の滓6000.0g、炉壁316.6g、粘土塊1156.2g、砂鉄166.9gが出土した。本鍛冶炉が検出された平坦面はS D942の構築と一連の造成である可能性が高く、同じ平坦面上に位置するS N944や周辺の柱穴様ビットも含めて、鍛冶炉と一体となった排水路や上屋柱穴などの機能が想定される。

S S1100（第9図、図版12）

L M55グリッドに位置し、S D1099に囲まれた平坦面上（V層）で暗褐色土プランを確認した。掘り形の断面形は東側が浅く、西側が深い段状を呈し、平面形は円形を基調とする。規模は長軸（東-

西) 0.88m×短軸(南-北) 0.4mで、確認面から底面までの深さは0.18mを測る。炉として主に機能したのは西側の深い部分である。炉の南側には厚さ約10cmの排滓層が沢地まで延びていた。堆積土は13層に分層した。1・3・5・6・7・8・10層はⅡ層類似の暗褐色土を主体に炭化物や焼土層を含み、2・4・9層は焼土層、11~13層は炭化物や焼土の他に鉄滓を含む。3枚の焼土層は不連続であるため、これを底面とした最低3回の鍛冶操作が想定される。焼土層と互層をなす暗褐色土層は、鍛冶炉本体撤去の都度炉床として貼り付けられた土であろう。11~13層は掻き出された排滓層に相当すると考えられる。遺物は土師器破片(第44図5)が37点、土師器甕・鍋破片が14点、須恵器壺破片(第53図2)が1点、石器剥片が1点、鉄滓73.1g、鍛造剥片0.3g、粒状滓1.5g、炉内滓および炉底塊119.2g、炉壁377.0g、砂鉄145.6g、粘土塊893.8gが出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,060±40yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。

S S 1283 (第7図、図版11)

MK26グリッドに位置し、V層地山面上で炭化物と焼土を含む黒褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係はない。掘り形は円形平面を基調とし、断面形は皿状を呈する。規模は長軸(北東-南西) 0.54m、短軸(南東-北西) 0.36m、確認面から掘り込み底面までの深さは0.1mを測る。堆積土は5層に分層した。1・2層は黒褐色土を主体に炭化物や焼土を少量含み、炉廃絶後の自然堆積であろう。3層は鉄滓を多量に含む還元化した焼土層、4層も焼土層で間隙に鉄滓が貫入しており、炉床部を構成すると考えられる。5層は軽度で被熱した焼土で、炉床下の地山が被熱した範囲である。遺物は鉄滓32.9g、粒状滓1.1gが出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から930±30yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。

S S 1284 (第7図、図版11)

MK26グリッドに位置し、V層地山面上で炭化物と焼土を含む黒褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係はない。掘り形は円形平面を基調とし、断面形は皿状を呈する。長軸(北東-南西) 0.55m、短軸(南東-北西) 0.44m、確認面から掘り込み底面までの深さは0.13mを測る。堆積土は4層に分層した。1~3層は暗褐色土を主体として炭化物や焼土を含み、4層は地山土が被熱した層である。ここでは隣接するS S 1283に観察された還元化した炉床部は認められず、鍛冶操作時に炉体と共に撤去された可能性が高い。遺物は流動滓43.9gが出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,080±30yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。

4 焼土遺構

S N 603 (第10図)

ME36グリッドに位置し、V層地山面で確認した。他遺構との重複関係はない。掘り込みは無く、長軸(東-西) 0.57m×短軸(南-北) 0.42mの楕円形平面を呈し、焼土の厚さは0.06mを測る。1層は地山土が被熱した焼土層である。遺物は鍛造剥片1点が出土した。本焼土遺構はS D 478に囲まれた比較的平坦な場所に立地しており、これらと一連の遺構である可能性を指摘しておく。

S N 792 (第10図、図版14)

L H 63グリッドに位置する。地山由来土を主体としたⅢ層除去後、ⅣA層上面で土師器破片と炭化物を伴う焼土の広がりとして確認した。平面形は楕円形なし、掘り込みは無い。規模は長軸(南-北)

0.94m×短軸（東－西）0.6mを測る。遺物は焼土周辺から土師器環が6点、土師器甕（第48図1～3）が98点、炭化材が出土した。

SN797（第11図、図版14）

L L・LM61グリッドに位置し、V層地山面上で褐色土とそれを半環状に取り巻く炭化物の範囲として確認した。SN994と重複し、これより新しい。方形平面の掘り込みを有し、壁の立ち上がりは明瞭で、緩やかに外傾する。底面は平坦で中央部が浅く窪み、この窪みを取り囲む3基の柱穴が確認された。規模は長軸（南東－北西）2.69m×短軸（南西－北東）2.68m、確認面からの底面最深部までの深さ0.25mを測る。堆積土は6層に分層した。1層はⅡ層に類似する褐色土で地山土塊や炭化物を含み、地山由来土を主体とする2層と共に人為堆積土と考えられる。3層は炭化物層で、遺構外となる北東側への広がりが確認された。4層は地山由来土を主体としており、中央部の浅い窪みを充填したものと考えられる。5・6層は南西側壁面が被熱により焼土化した範囲を示している。遺物は土師器環破片が77点、土師器甕破片1点、粘土塊が1.244g出土した。土師器環のうち1点には油煙が付着していた。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,590±40yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構はその形状から当初堅穴住居跡等の可能性を想定したが、ここでは何らかの燃焼作業を意図した堅穴状の掘り込みを伴う焼土遺構として扱う。燃焼作業の内容は不明であるが、明確な鉄関連遺物が出土していないことから、鍛冶炉である可能性は低い。現状では比較的小規模であることと壁面が被熱した様相から、炭窯の可能性を指摘しておく。

SN798（第10図、図版14）

L P59グリッドに位置し、地山由来土主体のⅢ層上で外周に焼土が環状に巡る暗褐色土プランとして確認した。掘り形は不整平面形をなし、壁の立ち上がりは不明瞭で断面形は碗状を呈する。規模は長軸（南西－北東）0.96m×短軸（南東－北西）0.56mで、確認面から底面までの深さは0.16mを測る。堆積土は5層に分層した。1・2層はⅡ層に類似する暗褐色土を主体として、地山土塊・炭化物・焼土塊を含み、遺構廃絶時の人為堆積と考えられる。3～5層は壁・底面が被熱し焼土化したもので、上部ほど被熱程度が強い。遺物は出土しなかった。本遺構は著しく不整な形状を呈し、出土遺物も無く、時期・性格については不明な点が多い。ただし、本遺構と同様比較的小形で不整平面形の掘り込みを有し底面が被熱焼土化した例は、L G66グリッド周辺に集中して認めることができ、これらと同様の性格をもつと言える。また、隣接するS K799は堆積土中に多量の炭化物を伴っており、本焼土遺構で行われた燃焼作業に関連した可能性もあろう。

SN872（第12図、図版14）

L G65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、Ⅳa層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。平面形は東側が張り出す不整な楕円形を呈し、断面形を見ると東側の張り出し部が一段低くなっている。規模は長軸（南西－北東）0.86×短軸（南東－北西）0.41m、確認面からの中央底面までの深さは0.06m、東側では0.10mを測る。堆積土は7層に分層した。1～3層は地山土塊や炭化物を少量含み、遺構廃絶時の人為堆積土と考えられる。4層は炭化物層で、その下に位置する5層は地山土塊や炭化物を含み人為堆積の可能性が高い。6・7層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。東側の張り出しが焼土化した底面中央を一部切って溝状に掘り込まれていることから、楕円形の掘り形中央底面を燃焼部とし、東側から燃焼物を掻き出したと考え

られる。燃焼作業の対象は明らかでないが、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性もあろう。

SN873 (第12図、図版15)

L G65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、Ⅳa層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。平面形は不整な楕円形をなし、断面形は中央部がやや窪んだ皿状を呈する。規模は長軸(南東-北西)1.07m×短軸(南西-北東)0.48m、確認面からの底面までの深さ0.08m測る。堆積土は7層に分層した。1・2層は地山土塊・炭化物・焼土塊をそれぞれ少量含み、遺構廃絶時の人為堆積土と考えられる。3層は炭化物層、その下に位置する4層は地山土塊・炭化物・焼土塊を含み、これも人為堆積の可能性が高い。5～7層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。掘り形中央底面は燃焼部に相当し、南北の張り出しは燃焼物取り出しに伴って拡張された可能性もあろう。本焼土遺構は周辺の焼土遺構に比べて被熱の程度が強く、使用頻度の高さが伺われる。性格は判然としませんが、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性もあろう。

SN876 (第12図)

L F65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、Ⅳa層上面で炭化物を含む黒褐色土プランを確認した。SKP874・875に切られている。平面形は不整円形をなし、底面は平坦で断面形は逆台形を呈する。規模は長軸(南-北)0.38m×短軸(東-西)0.26m、確認面から底面までの深さ0.08mを測る。堆積土は3層に分層した。1・2層は黒褐色土を基調として地山塊や炭化物を少量含み、遺構廃絶時の人為堆積土と考えられる。3層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。本焼土遺構は周辺に分布する焼土遺構より規模が一回り小さいものの、掘り込み底面が被熱した状況から、同様の性格を持つものと考えられる。

SN894 (第12図、図版16)

L G65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、Ⅳa層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。全体の平面形は歪であるが、不整楕円形の掘り形と南側の張り出し部に区別した。張り出し部はトレンチのため南端が消失している。底面には凹凸が見られ、西側壁は一部オーバーハングする。掘り形は長軸(南西-北東)0.96m×短軸(南東-北西)0.54m、確認面から底面までの深さは0.12mを測る。張り出し部は残存値で長軸(南-北)1.01m×短軸(東-西)0.23~0.35m、確認面からの底面までの深さは0.14mを測る。堆積土は6層に分層した。暗褐色土を主体に地山土塊・炭化物・焼土塊を含み、人為堆積の様相を示している。

遺物は土師器破片が3点出土した。南側の張り出し部は、溝状の形態を呈することから燃焼物の掻き出しに伴うものと考えられる。一方明確な燃焼部は残存していないが、燃焼物の頻繁な掻き出しにより大部分が消失したものと想定される。性格は判然としませんが、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性もあろう。

SN944 (第8図、図版13)

L M58グリッドに位置し、V層精査中にS S943と隣接する焼土プランを確認した。S D942により区画された平坦面上に位置する。掘り込みは無く、平面形は円形を呈する。規模は長軸(南-北)0.74m×短軸(東-西)0.69m、焼土の厚さは0.11mを測る。地山が被熱焼土化しており、被熱の程度から2層に分層した。遺物は鍛造剥片が1点、砂鉄が0.2g出土した。S S943に付属する燃焼作業の痕跡と考えられるが、詳細は不明である。

S N949 (第12図、図版15)

L G66グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、IV a層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。S K P948に切られ、S K947・S N950を切る。平面形は不整楕円形をなし、底面は比較的平坦で断面形は皿状を呈する。規模は長軸(南西-北東)1.5m×短軸(南東-北西)0.78m、確認面からの底面までの深さは0.12mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は地山塊と炭化物を少量含む遺構廃絶時の人為堆積土、2層は燃焼物由来と考えられる炭化物主体の層である。遺物は土師器破片が7点出土した。明確な燃焼部は形成されていないが、底面に炭化物の広がり粘土の貼り付けが確認できたことから、周辺の焼土遺構と同様の性格をもつものと判断した。詳細な性格は不明である。

S N950 (第12図、図版15)

L G66グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、IV a層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。S N949に切られ、S K947を切る。平面形は楕円形をなし、底面は比較的平坦で断面形は皿状を呈する。規模は長軸(東-西)0.92m×短軸(南-北)0.37m、確認面から底面までの深さ0.09mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は地山塊と炭化物を少量含む遺構廃絶時の人為堆積土、2層は燃焼物由来と考えられる炭化物主体の層である。遺物は出土しなかった。明確な燃焼部は形成されていないが、底面に炭化物の広がり粘土の貼り付けが確認できたことから、周辺の焼土遺構と同様の性格をもつものと判断した。詳細な性格は不明である。

S N953 (第12図、図版15)

L G65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、IV a層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。S N954・S K P986を切る。掘り形は上部が浅く不整平面形をなし、下部が深く楕円形平面をなす二段構造となっている。規模は、上部が長軸(南東-北西)1.14m×短軸(南西-北東)1.04m、確認面からの底面までの深さ0.12m、下部が長軸(南東-北西)0.88m×短軸(南西-北東)0.49m、確認面からの底面までの深さ0.2mを測る。堆積土は7層に分層した。1・2層は地山塊・炭化物・焼土塊を少量含む遺構廃絶時の人為堆積土、3～5層は焼土塊を比較的多く含み、燃焼物の掻き出しに伴う燃焼部の掘り上げ土を由来とするものと考えられる。6・7層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は石鍛が1点(第43図5)土師器破片が21点、鉄滓2.7g、鍛造剥片が0.1g、砂鉄17.2g、粘土塊5.3gが出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,010±40yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。本焼土遺構は形状が歪であり、燃焼物の取り出しに伴い掘り込まれて変形しているものと考えられる。性格は判然としないが、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性もあろう。

S N954 (第12図、図版15)

L F65・66、L G65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、IV a層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。S N953に切られる。掘り形は不整平面形をなし、断面形は皿状で南側が深く掘り込まれている。規模は、長軸(南西-北東)1.63m×短軸(南東-北西)0.66m、確認面から底面までの深さ0.22mを測る。堆積土は10層に分層した。1～6層は地山塊・炭化物・焼土塊を含む遺構廃絶時の人為堆積土、7層は燃焼物由来と考えられる炭化物主体の層、8～10層は底面に貼られた地山由来粘土で、8・9層は被熱し焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。本

焼土遺構は形状が歪であり、燃焼物の取り出しに伴い複数回掘り込まれて変形しているものと考えられる。性格は判然としないが、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性もあろう。

SN955 (第12図、図版16)

LF・LG65グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層の除去後、Ⅳa層上面で炭化物を含む暗褐色土プランを確認した。SN894に切られる。掘り形は不整平面形をなし、底面は凹凸が著しく、断面形は皿状を呈する。規模は長軸(南西-北東)0.98m×短軸(南東-北西)0.53~0.97mで、確認面からの底面までの深さ0.09~0.11mを測る。堆積土は5層に分層した。1・2層は地山塊と炭化物を含む遺構廃絶時の人為堆積土、3層は燃焼物由来と考えられる炭化物主体の層、4・5層は底面に貼られた粘質土で、4層は被熱し焼土化した範囲である。遺物は土師器坏破片が8点出土した。本焼土遺構は平面形が歪で底面も凹凸が著しく、燃焼物の取り出しに伴い複数回掘り込まれて変形したものと考えられる。性格は判然としないが、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性もあろう。

SN994 (第11図、図版14)

L61グリッドに位置し、SN797の南側壁底面を精査中に黄褐色土プランを確認した。掘り形は南側の浅い部分と北側の深い部分が重複した不整形を呈する。SN797に切られ、また部分的に植物根による攪乱を受けている。規模は長軸(南西-北東)1.4m×短軸(南東-北西)1.1m、確認面からの底面までの深さ0.26mを測る。堆積土は5層に分層した。1層は地山塊・炭化物・焼土塊を含む遺構廃絶時の人為堆積土、2~4層は底面上に形成された焼土層、5層は底面が被熱して焼土化した範囲である。遺物は土師器坏破片が5点出土した。本焼土遺構は、重複するSN797同様何らかの燃焼作業を意図したものと考えられ、小規模な伏せ焼き炭窯の可能性を指摘しておく。

SN1071 (第10図、図版16)

L63グリッドに位置し、V層地山上面で焼土範囲を確認した。南東側がトレンチにより消失しているが、残存部では掘り込みは伴わず、地山面が楕円形の範囲で焼土化している。他遺構との重複関係は無い。規模は長軸(東-西)0.96m、短軸残存部(南-北)0.44m、焼土の厚さ0.15mを測る。焼土は被熱の程度から2層に分層した。遺物は鉄滓が0.1g、鍛造剥片が1点、砂鉄が0.6g、粘土塊229.5gが出土した。詳細な性格は不明である。

SN1206 (第28図)

MC39グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層上面で確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込みは伴わず、略円形の範囲でⅢ層土が焼土化している。規模は長軸0.24m(北西-南東)、短軸0.22m(北西-南東)、焼土の厚さ0.06mを測る。焼土は被熱の程度から2層に分層した。遺物は出土しなかった。本焼土遺構はSD1210など周辺の溝跡と一体をなす盛土造成された平坦面上に構築されており、燃焼作業の内容は不明であるものの、これらと関連する遺構の可能性が高い。

SN1234 (第30図、図版16)

MD33グリッドに位置し、V層地山上面で焼土範囲を確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込みは伴わず、地山面が楕円形の範囲で焼土化している。規模は長軸0.42m(北西-南東)、短軸0.28m(北東-南西)、焼土の厚さ0.05mを測る。焼土は地山が微弱に被熱した程度である。遺物は出土しなかった。本焼土遺構はSD1235・1275に囲まれた平坦面上に構築されており、燃焼作業の内容は不明であるものの、これらと関連する遺構の可能性が高い。

S N1240 (第31図、図版16)

MF30グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層上面で確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込みは伴わず、不整形の範囲でⅢ層土が焼土化している。規模は長軸（北西-南東0.28m）、短軸（北東-南西0.14m）、焼土の厚さ深さは0.03mを測る。焼土はⅢ層土が微弱に被熱した程度である。遺物は出土しなかった。本焼土遺構はS D1250に囲まれた平坦面上に構築されており、燃焼作業の内容は不明であるものの、これと関連する遺構である可能性が高い。

S N1291 (第28図、図版16)

MB38グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層上面で確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込みは伴わず、略円形の範囲でⅢ層土が焼土化している。規模は長軸0.36m（北-南）、短軸0.33m（東-西）、焼土の厚さ0.07mを測る。焼土は2層に分層した。1層は焼土塊・地山塊・炭化物の混合土で、焼土化した後に燃焼物の取り出しに伴い攪拌されたものと考えられる。遺物は出土しなかった。本焼土遺構はS D1202・1301など周辺の溝跡と一体をなす盛土造成された平坦面上に構築されており、燃焼作業の内容は不明であるものの、これらと関連する遺構の可能性が高い。

S N1344 (第35図、図版16)

M I28グリッドに位置し、平坦面造成に伴い削平されたV層地山上面で確認した。S K1311と重複するが、新旧関係は不明である。中央下部に焼土と炭化物を混入する直径0.20m、深さ0.15mの柱穴様ピットがあり、その上面において略円形の範囲で焼土が広がっている。規模は長軸0.52m（東-西）、短軸0.40m（南-北）、焼土の厚さ0.05mを測る。焼土は地山が微弱に被熱したもので、周辺部に炭化物の分布が認められた。遺物は鉄滓が80.4g出土した。本焼土遺構はS D1300に囲まれる造成された平坦面上に構築されており、燃焼作業の内容は不明であるものの、これらと関連する遺構の可能性が高い。

5 炭窯跡

S W01 (第13図、図版17)

M K52グリッドに位置し、V層地山上面で炭化物を含んだ黒褐色土プランを確認した。S K P10・11・33を切る。掘り込み平面は方形基調で、底面は中央部が不整形に窪み、壁の立ち上がりは明瞭で比較的急に外傾する。規模は長軸（東-西）1.26m×短軸（南-北）1.24mで、確認面からの底面までの深さは0.28mを測る。堆積土は8層に分層した。全体に黒色・黒褐色基調で、地山土・炭化物・焼土を混入し、特に下部では炭化物の混入が顕著である。遺構廃絶後の埋め戻しによる人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,165±35yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構は、その規模・形態や底面の微弱な被熱、炭化物が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。

S W62 (第13図、図版17)

M H・M I52グリッドに位置し、V層地山上面で炭化物を含んだ黒褐色土プランを確認した。S K P80を切る。掘り込み平面は円形をなし、平坦な底面からの壁の立ち上がりは明瞭で、比較的急に外傾する。規模は長軸（東-西）1.34m×短軸（南-北）1.27m、確認面から底面までの深さ0.35mを測る。また北側上部には長さ・幅ともに0.28mの溝状の掘り込みを伴う。堆積土は10層に分層した。

1～3層は炭化物を、4・5層は地山土を含み、遺構廃絶時の一連の人為堆積土と考えられる。6・8層は焼土塊を多く含み、焼土化した壁面の崩落に由来するものであろう。7層は炭化物を主体とする。9層・10層は壁面が被熱焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,250 \pm 35 \text{yrBP}$ の年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構は、規模・形態や底面の被熱、炭化物が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。北側の突出部は煙出し穴の可能性もあろう。壁面の強い被熱状況からは、複数回使用もしくは高温焼成が想定される。

SW358（第14図、図版20）

M I 29・30、M J 29・30グリッドに位置し、V層地山面上で炭化物を含んだ暗褐色土から成る溝状プランを確認した。直接の重複関係は無いが、本炭窯跡から排出された炭化物の層がSW655に被っており、これより新しいものと判断した。規模は長さ（南西-北東）4.92m、幅（南東-北西）0.78～1.10m、確認面から底面までの深さは焚口で0.72m、煙道で0.59mである。焚口と煙道の底面標高差は2.34mである。焚口の南西には、作業場と目される範囲の不明瞭な平坦面があり、長軸（南東-北西）2.66m×短軸（南西-北東）1.32mの範囲で炭化物が広がる。堆積土は長軸方向（A断面）で14層、炭化物分布範囲（B断面）で5層に分層した。A断面の1～6層は地山塊や焼土塊を多く含み、天井部の崩落に起因する堆積と考えられる。7～10層は焼土とともに炭化物を多く含み、作業時に形成された堆積土であろう。11・12層は炭の掻き出しに起因する炭化物層である。13・14層は作業時に崩落した煙道の天井と壁に相当すると思われる。B断面の1～5層は焚口周辺の平坦面上に堆積しており、A断面の11層より下位の堆積状況を示す。炭の掻き出しに伴う人為堆積であろう。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,180 \pm 30 \text{yrBP}$ の年代値が得られた（第3章第1節参照）。本炭窯跡は形状と堆積状況から半地下式の炭窯であると考えられる。SW655との新旧関係から、小規模な土坑状の伏せ焼き炭窯から斜面に形成する溝状の半地下式炭窯へと形態変遷した可能性を示す例として注目される。

SW655（第14図、図版20）

M I 30グリッドに位置し、SW358精査中にV層地山面上で焼土と炭化物を含む褐色土プランを確認した。SW358より古い。掘り込み平面は円形を呈し、平坦な底面からの壁の立ち上がりは不明瞭で、緩やかに外傾する。規模は長軸（東-西）1.14m×短軸（南-北）1.08mで、確認面からの底面までの深さ0.28mを測る。堆積土は5層に分層した。全体に炭化物と焼土塊を多量に含んでおり、廃絶時の埋め戻しによる人為堆積と考えられる。遺物は礫1点が出土した。本遺構は、規模・形態や炭化物・焼土が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。壁・底面が被熱した状況は確認されておらず、炭の掻き出しに伴い攪乱された可能性がある。

SW742（第13図、図版17）

L H 72グリッドに位置し、V層地山面上で焼土と炭化物を含む褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込み平面は円形を呈し、平坦な底面からの壁の立ち上がりは不明瞭で、南東側では緩やかにその他の部分では急角度で外傾する。北西側上部に0.19mの張り出しを伴う。規模は長軸（南東-北西）1.23m×短軸（南西-北東）1.22m、確認面からの底面までの深さ0.34mを測る。堆積土は7層に分層した。1・3～5層は暗褐色土に炭化物・焼土塊を少量含み、廃絶時の埋め戻し

による人為堆積土と考えられる。2層は焼成された炭由来の炭化物層である。6・7層は壁・底面が被熱し焼土化した範囲で、被熱の程度により分層した。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,280 \pm 40$ yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構は、規模・形態や壁・底面の被熱した状況、炭化物・焼土が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。北西側の張り出しは煙出し穴の可能性が高く、この点はSW62に類似する。

SW743（第13図、図版17）

LD・LE73グリッドに位置し、V層地山面上で炭化物を含む褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込み平面は不整形を呈し、平坦な底面からの壁の立ち上がりは明瞭で、急角度で外傾する。規模は長軸（南西―北東） $1.12\text{m} \times$ 短軸（南東―北西） 0.9m で、確認面からの底面までの深さは 0.2m を測る。堆積土は10層に分層した。1～5層は黄褐色基調で炭化物を含み、廃絶時の埋め戻しによる人為堆積土と考えられる。6・7層は焼成された炭由来の炭化物層である。8・9層は黒色土に地山土を混入し、一連の埋め戻しによる堆積と考えられる。10層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は粘土塊 29.1g が出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,400 \pm 40$ yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構は、規模・形態や底面の被熱した状況、炭化物・焼土が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。

SW850（第15図、図版18）

LJ52・53、LK52・53グリッドに位置し、V層地山面上で明黄褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込み平面は方形を呈し、平坦な底面からの壁の立ち上がりは明瞭で、南東側では緩やかに、他の部分では急角度で外傾する。南側に一段高い掘り込みがあるが、トレンチによって大部分が失われている。本来は二段構造を呈したと考えられる。規模は残存部で長軸（南東―北西） $3.42\text{m} \times$ 短軸（南西―北東） 1.4m で、確認面からの底面までの深さ 0.26m を測る。堆積土は5層に分層した。1層は地山由来の土で、遺構掘削等により排出された削土による人為的な埋め戻し土と考えられる。2・3層も炭化物を含む一連の人為堆積であろう。4層は炭化物層、5層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,220 \pm 40$ yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構は、規模・形態や底面の被熱した状況、炭化物・焼土が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。

SW940（第16図、図版19）

LL58・59グリッドに位置し、V層地山面上で明黄褐色土プランを確認した。SKP1018・1037・1072～1074を切る。掘り込み平面は不整形円形を呈し、底面は凹凸著しく、壁の立ち上がりは不明瞭で緩やかに外傾する。規模は長軸（南西―北東） $3.62\text{m} \times$ 短軸（南東―北西） 1.88m で、確認面からの底面までの深さ 0.14m を測る。南北両端でそれぞれ掘り込みを伴い、炭の掻き出しに伴うものと考えられる。焼土化した底面を切る柱状の掘り込みも、炭の掻き出しに伴う遺構形状変形の可能性がある。堆積土は6層に分層した。1～3層は暗褐色土基調で炭化物・地山塊・焼土塊を含み、遺構廃絶時の人為的な埋め戻し土と考えられる。4・5層は炭化物層である。6層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は土師器破片が9点、土師器壺破片が2点出土し、環のうち2点には油煙が付着していた。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,190 \pm 40$ yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本遺構は、規模・形態や底面の被熱した状況、炭化物・焼土が多量に混

入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。

SW941 (第16図、図版19)

L L57、L M57・58グリッドに位置し、地山由来土を主体としたⅢ層上面の緩斜面地で炭化物を含む黒褐色土プランを確認した。掘り込み平面は三角形を呈し、底面は平坦で、壁の立ち上がりは不明瞭で緩やかに外傾する。南東側は上面が削平を受けており、本来は長方形平面をなしていたものと考えられる。規模は長軸(南東-北西)3.3m×短軸(南西-北東)1.54~2.3mで、確認面からの底面までの深さ0.2mを測る。堆積土は3層に分層した。1層は黒褐色土に炭化物を多量に混入しており、遺構廃絶時の人為的な埋め戻し土と考えられる。2層は炭化物層で、特に北側では底面との境界部に炭化材が良好に残存していた。3層は底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は土師器破片が8点出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,140±40yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。本遺構は、規模・形態や底面の被熱した状況、炭化材が多量に出土した状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。

SW1080 (第15図、図版18)

L S57グリッドに位置し、V層地山面上で炭化物を含む黄褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。掘り込み平面は不整形を呈し、底面は平坦で、壁の立ち上がりは明瞭で急角度で外傾する。規模は長軸(南西-北東)1.25m×短軸(南東-北西)1.04m、確認面から底面までの深さ0.25mを測る。堆積土は5層に分層した。1~5層は炭化物・焼土を混入しており、遺構廃絶時の人為的な一連の埋め戻し土と考えられる。6層は壁・底面が被熱し焼土化した範囲である。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,330±40yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。本遺構は、規模・形態や壁・底面の被熱した状況、炭化物・焼土が多量に混入した堆積状況から、伏せ焼き炭窯と考えられる。

6 溝跡

SD221 (第7図)

MM・MN16グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南西-北東、東-西)4.0m、幅(南西-北東)0.2~0.27m、確認面からの底面までの深さ約0.12mを測り、南西から約1.4mでほぼ直角に屈曲する。堆積土は2層に分層した。ともに地山粒を少量含み、人為堆積の可能性がある。遺物は炉壁が17.6g、鉄製刀子(第54図13)が1点出土した。本溝跡は削平により造成された平坦面を区画しており、これと一体のものである可能性が高い。なお、直接の切り合い関係はないが、南側にあるSS354はこの平坦面を構成する地山削土の下位にあり、本溝跡より古いと考えられる。

SD227 (第38図)

MO15グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。SK226に切られる。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。規模は長さ(南-北)0.76m、幅(東-西)0.25m、確認面から底面までの深さ0.17mを測る。堆積土は地山塊を含む暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡はSB337と位置的に重複するが直接の関係は不明である。

S D234 (第17図、図版21)

MM18・19、MN18・19グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色の溝状プランを確認した。SK P264に切られる。底面は平坦で、壁は北側で急角度に、南側で緩やかに立ち上がる。規模は長さ(東-西)約5.47m、幅(南-北)0.28~0.51m、確認面から底面までの深さ0.22mを測り、東から3.9mで緩やかに屈曲する。堆積土は地山土由来と考えられる褐色基調の単一層で炭化物を少量混入し、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。遺物は直径30cm程の礫6点が出土し、このうち2点が被熱している。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,110 \pm 30$ yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。本溝跡は削平により造成された平坦面を区画しており、これと一体のものである可能性が高い。被熱礫や炭化物の出土から、区画された平坦面は何らかの加熱作業場として機能したことも想定される。

S D235 (第17図、図版21)

MM17、MN17・18グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色の溝状プランを確認した。3基の柱穴と重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。西側で攪乱を受けており全体規模は不明であるが、残存部で長さ(南東-北西)5.64m、幅(南西-北東)0.59~0.64m、確認面からの底面までの深さ約0.28mを測る。堆積土は地山由来と考えられるにぶい黄褐色の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は石器剥片が2.4g出土した。本溝跡西端の攪乱の南にはS D277が位置しており、この溝跡が屈曲した延長部である可能性が高い。

S D253 (第17図、図版21)

MM18グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(東-西)2.4m、幅(南-北)0.5m、確認面からの底面までの深さ0.12mを測る。堆積土は地山由来と考えられるにぶい黄褐色の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

S D261 (第4図、図版21)

MN・MO・MP17グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D277を切り、S D262と隣接するが攪乱のため新旧関係は不明である。底面は平坦で、壁は北側で急角度に、南側で緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南西-北東、北西-南東)13.48m、幅(北西-南東、南-北)0.37~0.65m、確認面からの底面までの深さは0.46mで、南西から約5.0mで屈曲する。堆積土は3層に分層した。1層はII層に類似する暗褐色土、2層は地山土由来のにぶい黄褐色土で壁面崩落土と考えられ、いずれも遺構廃絶後の自然堆積であろう。3層は地山粒と炭化物を混入し、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物は炉壁が11.1g出土した。本溝跡は削平により造成された平坦面を区画し、かつS B337を取り囲むように巡ることから、これらと一体のものである可能性が高い。

S D262 (第4図、図版21)

MO17・18グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D277を切り、S D261と隣接するが攪乱のため新旧関係は不明である。底面は緩く窪み、壁も連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南東-北西)3.38m、幅(南西-北東)0.22m、確認面から底面までの深さ約0.24mを測り、東西両端で共に南へ屈曲する。堆積土は地山由来と考えられる褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は炉壁が35.5g出土した。本溝跡は重複や攪乱のため全体形状が不明

であるが、周辺の溝跡同様、造成された平坦面と一体のものと想定される。

SD277 (第4図)

MO17・18グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。SD261・262に切られる。底面は緩く窪み、壁も連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南西-北東)2.0m、幅(南東-北西)0.53m、確認面からの底面までの深さ0.12mを測る。堆積土は地山由来と考えられる褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は、堆積土が類似することからSD235の延長部である可能性が高い。

SD278 (第17図、図版22)

MO・MP18、MQ18・19グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。中央部を攪乱されているほか、柱穴2基と重複するが、新旧関係は不明である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南東-北東)9.49m、幅(南西-北東)0.45m、確認面から底面までの深さ0.34mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は遺構廃絶後の自然堆積、2層は地山由来土遺構廃絶時の人為堆積と考えられる。遺物は板状鉄製品1点が出土した。本溝跡は北側の平坦面から南側の急斜面に移り変わる地形変換点において、等高線に沿って掘り込まれており、広い平坦面を区画する防衛的な性格をもつものと想定される。

SD290 (第17図、図版22)

MP18、MQ・MR19グリッドに位置し、V層地山面上で黒褐色の溝状プランを確認した。底面は平坦で、壁は北東側で急角度に、南西側で緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南東-北西)14.37m、幅(南西-北東)0.4~0.86m、確認面からの底面までの深さ0.36mを測る。堆積土は3層に分層した。1層は遺構廃絶後の自然堆積と考えられ、2・3層はともに比較的粒径の大きい地山粒子を多く含み、人為堆積の可能性が高い。遺物は鍛滓が33.4g、礫9点が出土した。本溝跡は明確な平坦面を伴っていないが、溝の断面形状や礫や炭化物・焼土の検出状況から、本来何らかの加熱作業場を区画していた可能性が想定される。

SD300 (第19図、図版23)

MK24~MR24、MQ・MR25グリッドに位置し、V層地山面上で黒褐色の溝状プランを確認した。3基の柱穴と重複しているが、本溝跡に伴うものと考えられる。溝は西側の調査区境界から東へ直線的に伸び、小規模な沢状地形の起点部で消失している。底面は西側中央で部分的に溝状に窪むが全体として平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(東-西)32.0m、最大幅(南-北)4.0m、確認面から底面までの深さは最大で1.6mを測る。堆積土は全体として底面から中位にかけて地山塊や礫を含む傾向があり、遺構廃絶後に埋め戻しを行った可能性が高い。細分された各層は土の廃棄単位を反映していると考えられる。上部の黒褐色土は埋め戻し後に生じた窪みに溜まった自然堆積土であろう。遺物は石器剥片が1点、土師器破片が4点、土師器鉢(第50図11)が1点、鉄鎌(第50図9~12)が4点、鉄鍋(第54図15)が1点、紡錘車(第54図16)が1点、品種不明の鉄製品が9点、鉄滓318.7g、羽口477.4gが出土した。本溝跡は斜面地の中腹に位置しており、一定期間は空堀として防衛的な機能を果たし、最終的に埋め戻しを行って廃絶したものと考えられる。

SD306 (第20図、図版24)

ML・MM・MN22グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。SKP343

を切り、SKP339・SD345と隣接するが直接の新旧関係はない。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ（東-北西）10.15m、幅（南-北）0.33~0.45m、確認面から底面までの深さは0.25mである。堆積土は地山由来と考えられる暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,325±30yr BPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本溝跡は南側の平坦面から北側の急斜面に移り変わる地形変換点において、等高線に沿って掘り込まれており、SD345とともに広い平坦面を区画する防衛的な性格をもつものと想定される。

SD322（第17図、図版22）

MM20・21、MN21グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ（北西-南東）4.86m、幅（北東-南西）0.8m、確認面から底面までの深さ0.15mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は遺構廃絶後の自然堆積、2層は地山由来と考えられる暗褐色土で、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。

SD345（第20図、図版24）

MN~MP22、MP・MQ23グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。SD346を切り、SD306と隣接するが直接の新旧関係はない。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ（東-西）10.55m、幅（南-北）0.22~0.4m、確認面から底面までの深さ0.26mを測る。堆積土は地山由来と考えられるにぶい黄褐色土の単一層で、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。本溝跡は南側の平坦面から北側の急斜面に移り変わる地形変換点において、等高線に沿って掘り込まれており、SD306とともに広い平坦面を区画する防衛的な性格をもつものと想定される。

SD346（第20図、図版24）

MP・MQ23グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。SD345に切られる。底面は部分的に柱穴を伴うが、全体的に緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ（東-西）3.16m、幅（南-北）0.18~0.26m、確認面から底面までの深さ0.2mを測る。堆積土は地山由来と考えられるにぶい黄褐色土の単一層で、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。本溝跡は南側の平坦面から北側の急斜面に移り変わる地形変換点において、等高線に沿って掘り込まれており、周辺の溝跡同様に広い平坦面を区画する防衛的な性格をもつものと想定される。底面には柱穴を伴っており、柵列の設置に伴う布掘の可能性もあろう。

SD348（第20図、図版24）

MP・MQ23グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。他遺構との重複関係は無いが、南東側を攪乱されている。規模は長さ（東-西）1.71m、幅（南-北）0.24m、確認面からの底面までの深さ0.16mを測る。堆積土は大径地山土塊を混入する暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。

SD359（第18図、図版25）

MF34・35、MG35~39、MH39・40グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。柱穴4基と重複するが、これらは本溝跡に伴うものと考えられる。また重複関係はないが、溝跡に沿うように10基の柱穴が分布している。MG36・37グリッドで、4.5mにわたり崩落のため途

切れており、北端部が攪乱されている。底面は緩く窪み、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は、全長（南―北）26.0m（北側12.75、南側6.23）、幅（東―西）0.14～0.34m、確認面から底面までの深さは0.2～0.3mを測る。堆積土は地山粒と炭化物を含む暗褐色の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は沢状地形に沿う平坦面の縁辺を巡っており、同様の位置関係にあるS D403・620・1190とともにS B450に付随する板敷や柵等の区画施設と考えられる。

S D403（第20図、図版22）

MA～MD43、ME42・43、MF42グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S K1170・S K P392に切られる。底面は平坦であるが部分的に段状に落ち込み全体的に西に向かって緩やかに傾斜する。壁は急傾斜で立ち上がっている。規模は長さ（東―西）25.90m、幅（北―南）0.25～0.35m、確認面から底面までの深さは0.08～0.48mを測る。堆積土は最も深い箇所まで3層に分層した。地山土の混入量が多く、人為堆積の可能性が高い。遺物は石器剥片が1点出土した。本溝跡は沢状地形に沿う平坦面の縁辺を巡っており、S D359と同様S B450に付随する板敷や柵等の区画施設と考えられる。

S D478（第21図、図版24）

MD37・38、ME35～37、MF35グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D479を切り、7基の柱穴と重複するがこれらとの新旧関係は不明である。北側を攪乱されているため全体形状は不明であるが、南端は緩やかに湾曲している。底面は平坦で、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ（南―北）16.67m、幅（東―西）0.28～0.7m、確認面から底面までの深さ0.12～0.32mを測る。堆積土は地山粒と炭化物を含む暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は品種不明鉄製品が5点出土した。本溝跡は西側の平坦面を弧状に区画しており、炭化物の混入が認められることから、何らかの作業場としての平坦面を区画する性格をもつものと想定される。

S D479（第21図、図版24）

MD～MF38グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D478に切られ、S K P612を切る。東側が攪乱されているため全体形状は不明である。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長さ（東―西）6.14m、幅（南―北）0.56～0.69m、確認面から底面までの深さは0.26mを測る。堆積土は5層に分層した。全体的に地山塊を多量に含んでおり、人為堆積と考えられる。S D478西側の平坦面造成に伴い、埋められた可能性もあろう。遺物は出土しなかった。

S D510（第22図、図版24）

MO・MP25グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、中央部が攪乱されている。底面は平坦で、壁は南側で急傾斜に、北側で緩やかに立ち上がる。規模は長さ（東―西）4.47m、幅（南―北）0.3～0.5m、確認面から底面までの深さは0.08mを測る。堆積土は地山粒と炭化物を含む褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は鉄滓が21.1g出土した。

S D514（第22図、図版24）

MO28、MP27・28グリッドに位置し、V層地山面上で黒褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無く、西側がトレンチにより攪乱されている。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに

立ち上がる。底面にはほぼ等間隔に柱穴が並ぶ。規模は長さ（南西-北東）4.26m、幅（南東-北西）1.11m、確認面からの底面までの深さ0.22mを測る。堆積土は黒褐色土の単一層で混入物は少なく、自然堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

S D547 (第23図、図版26)

MO32、MP32~35グリッドに位置し、V層地山面上でふい黄褐色の溝状プランを確認した。S D548と重複し、堆積状況からこれより古いものと考えられる。またSKP565に切られる。南端・北端ではほぼ直角に屈曲しており、平面プランはコの字形を呈する。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は全長13.69m、幅（東-西）0.2~0.8m、確認面から底面までの深さ0.23~0.61mを測る。堆積土はS D548と重複しない箇所でも3層に分層した。全体として地山由来の黄褐色基調土が堆積しており、人為的に埋め戻されている可能性が高い。遺物は品種不明鉄製品が5点出土した。本溝跡は削平により造成された平坦面を区画し、取り囲むように巡ることから、平坦面と一体のものと考えられる。S D548とは南側で重複しており、溝ラインを一部踏襲し部分的に掘り直すことで平坦面を二時期にわたり継続使用したと想定できる。

S D548 (第23図、図版26)

MO32・33、MP32~34グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D547と重複し、堆積状況からこれより古いものと考えられる。北側はプランが不明瞭となるが、南端ではほぼ直角に屈曲し、平面プランはL字形を呈する。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は全長（南-北）10.3m、幅（東-西）0.26~0.45m、確認面から底面までの深さは0.46~0.56mを測る。堆積土は最も深い部分で4層に分層した。壁面崩落土と地山塊混入土が互層をなしており、自然堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡はS D547と同様、平坦面と一体のものと考えられる。S D547とは南側で重複しており、一部の溝ラインを踏襲しつつ部分的に掘り直すことで平坦面を新たに区画し、継続的に使用したものと想定できる。

S D559 (第22図、図版24)

MO31・32、MP31・32グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、北端部と中央部がトレンチのため消失し、南では掘り込みが浅くなり端部が不明瞭となっている。底面は平坦で、壁は西側で急角度に、東側で緩やかに立ち上がる。規模は長さ（南-北）3.98m、幅（東-西）0.54~0.73m、確認面から底面までの深さは0.26mを測る。堆積土は地山塊と炭化物を含む暗褐色の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は斜面中腹で等高線に沿っており、東側に小規模な平坦面が広がることから、隣接するS D547・548と同様、平坦面を区画する性格をもつものと推測される。

S D619 (第22図、図版26)

MG31・32、MH32グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。3基の柱穴と重複するが、新旧関係は不明である。また南側を覆乱されているため、全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。規模は長さ（南東-北西）4.7m、幅（南西-北東）0.69~0.75m、確認面からの底面までの深さ0.32mを測る。堆積土は2層に分層した。共に地山土を多量に含む暗褐色土で人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

S D620 (第18図)

MG32・33グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、南側を攪乱されているため全体規模は不明である。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南-北)1.37m、幅(東-西)0.28m、確認面から底面までの深さ0.12mを測る。堆積土は地山粒と炭化物を少量含む暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は沢状地形に沿う平坦面の縁辺を巡っており、S D359と同様、S B450に付随する板塀や柵等の区画施設と考えられる。本来S D359と連続していた可能性が高い。

S D759 (第22図、図版26)

L I69・70、L J70グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。南側は調査区外へと続くため全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南東-北西)4.56m、幅(南西-北東)0.22~0.54m、確認面から底面までの深さ0.08mを測る。堆積土にはぶい黄褐色を基調とした単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

S D800 (第6図)

L J・L K67、L L66・67、L M64・66、L N64~66グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D851・S K P839に切られるほか、4基の柱穴と重複するが新旧関係は不明である。北東側と南西側で強く屈曲しており、平面はコの字形を呈する。底面は平坦で、壁は北西側で急角度に、南東側で緩やかに立ち上がる。規模は全長25.9m、幅0.2~0.8m、確認面から底面までの深さ0.1~0.14mを測る。堆積土は暗褐色を基調とした単一層で、部分的に炭化物を多く含み人為堆積の可能性がある。遺物はほぼ完形のものを含む土師器杯(第44図2・3)が215点、土師器甕破片が4点、炉内滓および炉底塊28.3gが出土した。杯のうち79点には油煙が付着していた。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,250 \pm 40$ yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。本溝跡は削平により造成された平坦面とS B1150を区画し取り囲むように巡ることから、これらと一体のものと考えられる。S D851とは北側で重複しており、溝を部分的に掘り直すことで平坦面を二時期にわたり継続使用したと想定される。

S D848 (第6図)

L L65、L M65・66グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S K P846・847に切られる。北西端部と南東端部は不明瞭となっており全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南東-北西)4.1m、幅(南西-北東)0.15~0.2m、確認面から底面までの深さは0.03mを測る。堆積土は地山塊と炭化物を含むぶい黄褐色の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は隣接するS D800と同様、平坦面と建物跡の区画に関連するものと推測される。S D851に連続するコの字形区画施設の可能性もあろう。

S D851 (第6図)

L J67・68、L K67・68グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。S D800を切り、S K P839に切られる。西側で強く屈曲し、平面形はL字形を呈する。規模は全長6.7m、幅0.2~0.4m、確認面から底面までの深さは0.12mを測る。堆積土は地山塊と大径炭化物を含む褐色土の単一層で人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は隣接するS D800と同様、

平坦面と建物跡の区画に関連するものと推測される。仮にSD848に連続するコの字形区画施設とすれば、SD800区画溝を掘り直し、平坦面規模を縮小して継続的に使用した可能性もあろう。

SD901 (第21図、図版27)

LO46・47、LP44～47、LQ44・45グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無く、北側は攪乱により、南側はトレンチにより消失している。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南西-北東)14.6m、幅(南東-北西)1.35～2.20m、確認面から底面までの深さ0.38mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は混入物の少ない黒褐色土で溝底絶後の自然堆積、2層は壁面崩落土と考えられる地山塊を混入しており、これも廃絶直後の自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。本溝跡の南東側調査区外は急斜面となっており、この上に広い平坦面が形成されている。一方、北西側には平坦面形成時に排出されたと考えられる厚い地山由来土の堆積が確認されている。本溝跡は幅の対して掘り込みが浅く整形も施されていないことから空堀などの防御施設であるとは考えにくい。急斜面下に形成された道跡の可能性もあろう。

SD915 (第22図)

LM・LN50グリッドに位置し、V層地山面上で褐色の溝状プランを確認した。直接の重複関係は無いが、本来SF945の下位に存在したものと推測される。なお、北東・南西側は掘り込み端部が不明瞭であり、全体規模は不明である。残存部の規模は長さ(南西-北東)1.46m、幅(南東-北西)0.48～0.58m、確認面からの底面までの深さ0.14mを測る。堆積土は地山塊と炭化物を含む褐色土の単一層で人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

SD942 (第8図)

LL～LN58グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上でいはい黄褐色の溝状プランを確認した。SK1098とSKP1138に切られる。当遺構はSK1098と切り合う部分で分岐しており、東側をSD942a、西側をSD942bとする。SD942aはSK1098との境界部でL字形に屈曲する。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は全長2.8m、幅0.21～0.25m、確認面から底面までの深さは0.05～0.1mを測る。堆積土はいはい黄褐色土の単層で、地山塊・炭化物・焼土塊を含み、人為的な埋め戻しの可能性がある。SD942bはSK1098との境界部分から直線的に延びる。底面は平坦で、壁は北側で急傾斜に、南側で緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南西-北東)6.55m、幅0.15～0.44m、確認面からの底面までの深さ0.06～0.18mを測る。堆積土は3層に分層した。全体としていはい黄褐色土を基調としており、人為的な埋め戻しの可能性がある。2・3層は本溝跡に先行する溝跡の埋土とも考えることができ、数回にわたる溝の掘り直しが想定される。遺物は土師器坏破片が7点、鉄滓1.6g、鍛造剥片が1点、砂鉄4.7g、粘土塊87.2gが出土した。本溝跡は沢状地形を埋め立てた盛土上の整地された平坦面を区画しており、SS943・SN944などの鍛冶生産に関連する遺構と考えられる。溝は数回にわたって掘り替えが行われており、これに区画された平坦面は作業場として継続的に使用されていたと推測される。周辺に分布する柱穴は、鍛冶作業に関わる簡易的な上屋支柱の可能性もあろう。

SD1099 (第9図)

LL54・55、LM・LN55、LM・LN56グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上でいはい黄褐

色の方形プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、本溝跡に区画される平坦面上にはS S 1100とS K 1130の他、17基の柱穴が分布する。溝跡は緩斜面と沢状地形の地形変換転移位置し、沢に向かって開口するコの字形平面を呈する。底面は緩く窪み、壁は急傾斜に立ち上がり上方が緩やかに開く。全体規模は長軸（東-西）6.0m×短軸（南-北）3.8m、確認面からの平坦面までの深さ0.2~0.38mを測る。溝跡は幅0.24~0.52m、平坦面から底面までの深さは0.28~0.34mを測る。堆積土は7層に分層した。1・2層は地山土に似る黄褐色基調の土でレンズ状の堆積を示しており、遺構廃絶後周囲から流入した自然堆積土と考えられる。3~7層は溝中の堆積土で、炭化物層と灰黄褐色土が互層をなしている。S S 1100の操業時の堆積と考えられ、複数回の操業を示す可能性が高い。遺物は溝跡を中心に土師器坏破片が43点、土師器甕破片が25点、須恵器壺破片が3点、石器剥片が1点、流動滓が104.5g、炉内滓・炉底塊が165.5g、粒状滓が1点、砂鉄が5.8g、粘土塊が23.3gが出土した。土師器坏破片のうち2点には油煙が付着していた。鉄床石は2点出土し、使用痕が明確な物は溝跡から、使用痕が希薄な物はS S 1100から東1.2mの掘り込みに設置された状態で出土した。使用痕が明確な物を廃棄し、使用痕が希薄な物を再設置した可能性が考えられる。なお、放射性炭素年代測定の結果、付近のS K P 1101から出土した炭化物から1,130±40yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本溝跡は鍛冶生産を行うために緩斜面を掘り込んで造成した平坦面を区画しており、作業場に伴う排水の機能を果たしたと考えられる。平坦面上には多数の柱穴を伴っており、簡易的な土屋が設定されていた可能性もあろう。

S D 1161（第24図）

L T 42グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で斜面に直行する黒褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係はない。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長さ2.56m（北東-南西）、幅0.39~0.63m（北西-南東）、確認面から底面までの深さ0.11mを測る。堆積土は2層に分層した。ともに大径地山塊を混入し、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。本溝跡はS D 1190の延長部の可能性が高い。

S D 1181（第26図、図版27）

L T 27・28、M A 27・28、M B 27、M C 26・27グリッドに位置し、V層地山面で斜面に平行する黒褐色の溝状プランを確認した。南側は調査区外にあるため全体形状は不明である。底面は確認できた部分では平坦で西に向かって傾斜しており、壁は急傾斜で立ち上がる。北東端は段状となっている。規模は長さ（北東-南西）11m76cm、幅（南東-北西）0.72~0.9m、確認面から底面までの深さ1.32~1.48mを測る。堆積土は調査区境界部のラインで38層に分層した。1・2・3層はそれぞれ基本層位のI・II a・II b層に対応する。溝跡埋土の上部4~33層は地山塊や礫、炭化物を混入する堆積厚2~20cmの薄層が堆積しており、明らかな人為堆積を示す。これに対し下部の34~38層は混入物少なく、溝機能時の自然堆積土であろう。遺物は土師器坏破片が9点、土師器鉢（第50図12）が3点、須恵器甕（第52図8）が1点、鉄滓25.1gが出土した。本溝跡は全体形状が不明であるが、調査対象とした範囲においては、逆台形状の断面をもつ空堀と想定される。廃絶時には埋め戻しが行われており、土層断面で観察された多数の薄層は土の廃棄単位を示す可能性が高い。溝跡の位置する斜面の上方調査区外には一定規模をもつ平坦面が段状に連なっており、これらに関連する防衛的な性格が強いと考えられる。

SD1185 (第25図、図版27)

MD26・27グリッドに位置し、V層地山面で斜面に直行する灰黄褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係はない。平面形は蛇行しており、底面は凹凸著しく、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長さ3.40m(北西-南東)、幅0.60m、確認面から底面までの深さ0.9mを測る。堆積土は2層に分層した。礫以外の混入物は無く、自然堆積の可能性が高い。遺物は須恵器甕(第52図11)が1点、石器残骸が1点、石器剥片が4点出土した。本溝跡は形状が極めて不整形であり、溝跡下の自然堆積に乱れが生じていることから、人工的な溝跡ではなく、断層や地滑りにより自然に形成された窪みの可能性も考えられる。

SD1188 (第24図)

L T41グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で斜面に直行する褐色の溝状プランを確認した。SD1189を切り、北側は攪乱されている。地面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南北)1.04m、幅0.28~0.3m、確認面から底面までの深さ0.6mを測る。堆積土は地山粒や炭化物を含む単層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡はSD1192の延長部である可能性が高い。

SD1189 (第24図、図版28)

L R~L T41、MA41・42グリッドに位置し、V層地山面上で灰黄褐色の溝状プランを確認し、トレンチにおいてⅢ層地山由来盛土層に被覆された溝状プランを確認した。S DD1188・1190およびS K P 1186に切られる。東側は調査区外に延長しており、全体規模は不明である。底面は平坦で、部分的に直径15cmほどの浅い窪みを伴い、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長さ(東西)14.34m、幅(南北)0.16~0.5m、確認面から底面までの深さ0.2~0.72mを測る。堆積土は2~7層に分層した。地山由来盛土に被覆される深い部分では、北壁寄りの堆積土が硬く締まり、南壁寄りの堆積土はしまりが緩く地山由来盛土が流入している状況が確認された。遺物は土師器坏破片が12点、鉄滓が11.9g出土した。本溝跡は、堆積状況から板壁等を設置した区画施設と考えられる。設置された構造物の廃絶後、間断なく地山由来盛土が流入していることから、沢状地形を埋める盛土平坦面の造成は区画施設の撤去後速やかに行われたと考えられる。本溝跡は南側の平坦面と北側の斜面の地形変換点に位置し、西側延長部分には同様の位置関係を示すSD403が連続することから、これと一体のものである可能性が高い。

SD1190 (第24図、図版29)

L T・MA41グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に直行する黒褐色の溝状プランを確認した。SD1189を切り、北東側はプランが不明瞭となっている。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。規模は長さ1.88m(北東-南西)、幅0.38m(北西-南東)、確認面から底面までの深さ0.16mを測る。堆積土は地山塊を含む単層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡はSD1161の延長部の可能性が高い。

SD1191 (第27図)

MB40・41、MC39・40グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に直行する暗褐色の溝状プランを確認した。北東端部を攪乱されるが、他遺構との重複関係はない。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ6.45m(北東-南西)、幅0.56~1.11m(北西-南東)、確認面から底面までの深

さ0.10～0.27mを測る。堆積土は3層に分層した。地山土や炭化物を混入しており、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

SD1192 (第24図、図版29)

LS41・42、LT41・42グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に直行する黒褐色の溝状プランを確認した。南側を攪乱されるが、他遺構との重複関係はない。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。規模は長さ1.92m(北-南)、幅0.69m(東-西)、確認面から底面までの深さ0.16mを測る。堆積土は3層に分層した。特に下部に地山塊を多く混入しており、人為堆積の可能性が高い。底面は平坦である。遺物は出土しなかった。本溝跡はSD1188の延長部である可能性が高い。

SD1202 (第28図)

MA・MB38、MB・MC39グリッドに位置し、V層地山面上で蛇行する暗褐色の溝状プランを確認した。SD1301を切る。南端部はトレンチのため消失している。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。規模は全長さ9.72m、幅0.23～0.45m、確認面から底面までの深さ0.24～0.27mを測る。堆積土は2層に分層した。地山粒や炭化物を含み人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は斜面を削平し、その削土を下方に盛って造成した平坦面を区画しており、平坦面上にはSN1206・1291などの焼土遺構が分布することから、何らかの燃焼作業を行った作業場と一体のものと考えられ、排水溝の機能を果たした可能性が高い。なお、南側が攪乱されているため連続性が不明確ではあるが、SD1256の延長部である可能性も指摘できる。

SD1208 (第24図、図版29)

MA42グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に直行する暗褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ1.78m(北東-南西)、幅0.24～0.50m(北西-南東)、確認面から底面までの深さ0.1mを測る。堆積土は黒褐色の単層である。遺物は出土しなかった。

SD1209 (第29図、図版30)

LR42・43、LS42・43、LT43・44グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する弧状の掘り込みとこれに連続する溝状プランを確認した。他遺構との重複関係はない。北西端部は境界が不明瞭である。底面は平坦で、壁は北側の削平された平坦面に向かって緩やかに立ち上がり、南側の斜面に向かって急傾斜に立ち上がる。規模は長さ(北西-南東)9.9m、幅(南西-北東)0.20～0.46m、確認面から底面までの深さ0.1～0.2mを測る。溝内堆積土は3層に分層した。地山塊や炭化物を混入しており、人為堆積の可能性が高い。平坦面上の堆積土も地山塊や炭化物を多く混入しており、溝内堆積と連続した埋め戻しが想定される。特に平坦面上には広範囲にわたる炭化物の分布が確認されており、本来何らかの燃焼施設が伴っていた可能性も指摘できる。遺物は炭化物の分布範囲と重複して平坦面上に被熱礫を含む多数の礫が出土している。

SD1210 (第28図)

MC39グリッドに位置する。V層地山面上で黄褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係はない。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。規模は長さ3.35m(北西-南東)、幅0.23m(東-西)、確認面から底面までの深さ0.17mを測る。堆積土は地山に似る黄褐色土の単層で地山粒や炭化物を少量含み、人為堆積の可能性が高い。遺物は土師器破片が3点。本溝跡は西の盛土平

坦面を区画しており、その平坦面上にはSN1206が分布することから、何らかの燃焼作業を行った作業場と一体のものと考えられ、周辺の隣接するSD1202同様、排水溝の機能を果たした可能性が高い。

SD1215 (第27図、図版29)

MA34グリッドに位置する。V層地山面上でにぶい黄褐色の溝状プランを確認した。SKP1228を切る。南側は調査区外に延長するため全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。また北端部は柱穴状に窪む。規模は長さ(南-北)1.5m、幅(東-西)0.24~0.3m、確認面から底面までの深さ0.02m~0.06mを測る。堆積土は灰黄褐色土の単層で地山塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は全体形状が不明であるが、西側の平坦面と東側の急斜面の境界部に位置しており、造成された平坦面に伴うものと考えられる。同様の状況にあるSD1216もしくは1217の延長部である可能性もあろう。

SD1216 (第27図、図版29)

MA32グリッドに位置する。V層地山面上でにぶい黄褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。北側は調査区外に延長するため全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。また南端部は柱穴状に窪む。規模は長さ(南-北)2.0m、幅(東-西)0.14~0.2m、確認面から底面までの深さ0.02m~0.04mを測る。堆積土は灰黄褐色土の単層で地山塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は全体形状が不明であるが、SD1215同様造成された平坦面に伴うものと考えられ、この延長部である可能性もあろう。

SD1217 (第27図、図版29)

MA32グリッドに位置する。V層地山面上でにぶい黄褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。北側は調査区外に延長するため全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。また南端部は柱穴状に窪む。規模は長さ(南-北)0.21m、幅(東-西)0.2~0.25m、確認面から底面までの深さ0.02m~0.04mを測る。堆積土は灰黄褐色土の単層で地山塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は全体形状が不明であるが、SD1215同様造成された平坦面に伴うものと考えられ、この延長部である可能性もあろう。

SD1235 (第30図、図版31)

MD33・34グリッドに位置し、V層地山面上でにぶい黄褐色のL字形に屈曲する溝状プランを確認した。新旧関係は不明であるが、屈曲部において12基の柱穴と重複する。北西端部は攪乱のため消失している。底面は平坦で、壁は南西側の平坦面に向かって緩く、北東側の斜面に向かって急傾斜で立ち上がる。規模は全長5.62m、幅0.39~0.62m、平坦面から底面までの深さ0.11mを測る。堆積土は3層に分層した。地山に似る褐色基調の土で地山粒や炭化物を含んでおり、人為堆積の可能性が高い。遺物は鉄滓3.1gが出土した。本溝跡は南西側の削平造成された平坦面を区画しており、この平坦面にはSN1234が位置することから、何らかの燃焼作業を行った作業場と一体のものであると考えられ、排水溝の機能を果たした可能性が高い。

SD1246 (第27図)

MD・ME29グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行するにぶい黄褐色土の溝状プランを確認した。SKP1252に切られる。底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長さ(東-西)4.20m、幅(北-南)0.54m、確認面から底面までの深さ0.09mを測る。堆積土は地山に似

るにぶい黄褐色土の単層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

SD1250 (第30図、図版31)

ME・MF31グリッドに位置し、V層地山面上でL字形に屈曲するにぶい黄褐色の溝状プランを確認した。SKP1248・1254に切られ、1253を切る。南端はプランが不明瞭となっている。底面は平坦で、壁は南西側の平坦面に向かって緩く、北東側の斜面に向かって急傾斜で立ち上がる。規模は全長6.65m、幅0.21~0.58m、平坦面から底面までの深さ0.14~0.22mを測る。堆積土は4層に分層した。地山に似るにぶい黄褐色土を基調として地山塊や炭化物を含んでおり、人為堆積の可能性が高い。遺物は砥石(第54図7)1点が出土した。本溝跡は南西側の削平造成された平坦面を区画しており、この平坦面にはSN1240が位置することから、何らかの燃焼作業を行った作業場と一体のものであると考えられ、排水溝の機能を果たした可能性が高い。なおSN1240は大きな沢状地形を埋めた盛土上で確認されており、この作業場の造成は大規模な盛土作業の後に行われたものと考えられる。

SD1255 (第33図、図版32)

MD27~29グリッドに位置し、V層地山面上で段状地形の境界線で斜面に並行する褐色基調の溝状プランを確認した。SK1230に切られ、大きな沢状地形を埋めた盛土に被覆されている。底面は平坦で、壁は西側の平坦面に向かって緩やかに、東側の斜面に向かって急傾斜で立ち上がる。規模は長さ(北-南)9.76m、幅(東-西)0.63~1.09m、平坦面から底面までの深さ0.14~0.41mを測る。溝内堆積土は最も深い箇所でも9層に分層した。地山に似るにぶい黄褐色土を基調として地山塊を含んでおり、人為堆積の可能性が高い。上方の斜面から連続する堆積土にも地山塊を含んでおり、溝と平坦面は連続して埋められている可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は西側の削平造成された平坦面と東側の段状地形の境界線に位置しており、平坦面と一体のものであると考えられる。排水溝の機能を果たした可能性が高い。

SD1256 (第32図、図版30)

MB36・37、MC35・36、MD35グリッドに位置する。V層地山面上でL字状に屈曲するにぶい黄褐色基調の溝状プランを確認した。新旧関係は不明であるが、柱穴1基と重複している。北側は確認調査時のトレンチにより消失している。なお溝屈曲部の南側には、溝の掘りこみと連続して長さ約5m、幅3mの平坦面が作られている。溝の底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は全長6.62m、幅0.41~0.70m、平坦面から底面までの深さ0.14mを測る。堆積土は溝で3層に、平坦面で2層に分層した。溝の1・2層はにぶい黄褐色基調で地山粒や炭化物を含み、人為堆積の可能性が高い。3層は溝に区画された平坦面を覆っており、溝機能時の堆積と考えられる。

平坦面の1層は比較的大径の地山粒を含み、2層は炭化物と焼土粒を多く含む。ともに人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は西側の削平造成された平坦面を区画しており、これと一体のものであると考えられ、排水溝の機能を果たした可能性が高い。南側の平坦面では炭化物や焼土粒の分布が確認されており、これも本溝跡と一体の燃焼作業に関わる作業場と推測される。

SD1275 (第30図)

MD・ME34グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に直行する溝状プランを確認した。SKP1273・1274に切られる。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長さ1.45m(東-西)、幅0.16~0.30m、確認面から底面までの深さ0.15mを測る。遺物は出土しなかった。本溝跡は本来SD1235

の延長部分である可能性が高い。

SD1279 (第34図)

MK・ML28、MM27・28グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する溝状プランを確認した。新旧関係は不明であるが、4基の柱穴と重複する。底面は平坦で、壁は北側の平坦面に向かって緩やかに、南側の斜面に向かって急傾斜で立ち上がる。規模は長さ(東-西)7.48m、幅(南-北)0.18~0.40m、平坦面から底面までの深さ0.02~0.06mを測る。堆積土は2層に分層した。炭化物を含み、人為堆積の可能性がある。遺物は鉄滓125.4gが出土した。本溝跡は北側の削平造成された平坦面を区画しており、これと一体のものであると考えられる。

SD1280 (第36図)

MK29、ML28・29グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する溝状プランを確認した。トレンチにより消失しているため不明確であるが、2段構造となっており、西側上部はSD1280の延長部分である可能性が高い。底面は平坦で柱穴状の窪みが2ヶ所認められ、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(北東-南西)5.20m、幅(南東-北西)0.37~1.1m、確認面から底面までの深さ0.16~0.2mを測る。堆積土は2層に分層したが、このうち2層が本溝跡の堆積土と考えられる。地山塊や炭化物を含むにふい黄褐色土の単層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

SD1292 (第33図、図版32)

MD28・29グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、北側端部はトレンチにより、南側は沢状地形に接して消失している。底面は南側で段状となっているほか平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(北-南)4.56m(残存値)、幅(東-西)0.56~0.98m、確認面から底面までの深さは0.15mを測る。堆積土は4層に分層した。3層は地山由来土であるほか、全体的に地山塊を多く含んでおり、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は削平により造成された平坦面上に位置しており、本来平坦面と一体のものであったと推測される。東西には並行する溝跡があり、これらは平坦面の拡張に伴い更新された可能性もあろう。

SD1293 (第33図、図版32)

MD28グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、南側は沢状地形に接して消失している。底面緩やかに窪み、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長さ(北-南)3.48m、幅(東-西)0.20~0.28m、確認面から底面までの深さ0.10mを測る。堆積土は地山に似る褐色の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本溝跡は削平により造成された平坦面上に位置しており、SD1292と同様平坦面と一体のものであったと推測される。

SD1300 (第35図、図版32)

MH27、MI27~29、MJ27~29グリッドに位置し、V層地山面上で段状地形を区画するL字形の溝状プランを確認した。4基の柱穴と重複するが、新旧関係は不明である。溝の底面は平坦で、壁は東側の削平により造成された平坦面に向かって緩やかに、西側の斜面に向かって急傾斜に、部分的にオーバーハングして立ち上がる。規模は全長10.30m、幅0.4~0.8m、平坦面から底面までの深さ0.10mを測る。溝中の堆積土は深い箇所では5層に分層した。にふい黄褐色土を基調として地山塊や炭化物

を含み、人為堆積の可能性が高い。斜面から平坦面全体にかけて被覆する上部の堆積土も同様の傾向があり、一連の埋め戻しによる堆積と推測される。遺物は土師器環破片が7点、鉄滓が628.7g、羽口が892.7g出土した。本溝跡は削平により造成された平坦面を区画しており、平坦面上にはSN1344が形成されていることから、何らかの燃焼作業を行った作業場と一体のものと考えられ、排水溝の機能を果たした可能性が高い。平坦面上には多数の柱穴が分布しており、燃焼作業に伴う上屋支柱の存在が想定される。

SD1301 (第28図、図版29)

MB・MC38グリッドに位置し、V層地山面上で褐色の溝状プランを確認した。SD1202に切られる。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長さ2.12m(北西-南東)、幅0.3m(南西-北東)、確認面から底面までの深さ0.11mを測る。堆積土は地山に似る褐色基調の単層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は周辺のSD1202・1210と同様、造成された平坦面と一体のものと考えられる。

SD1309 (第34図)

MI・MJ22グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、南側は調査区外に延長するため全体規模は不明である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(北西-南東)2.80m、幅(南東-北西)0.24m、確認面から底面までの深さ0.12mを測る。堆積土は地山に似る褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。本溝跡は南側の平坦面から北側の斜面に移り変わる地形変換点で等高線に沿って掘り込まれており、同様の位置関係にあるSD306・345・1310同様、広い平坦面を区画する防衛的な性格をもつものと想定される。

SD1310 (第34図、図版29)

MF・MI22グリッドに位置する。V層地山面上で斜面に並行するにぶい黄褐色の溝状プランを確認した。調査区境界部の壁面では、IV層より上部からの掘り込みであることが確認された。他遺構との重複関係は無いが、東側は調査区外へ延長するため全体規模は不明である。底面は緩く窪み部分的に柱穴状の窪みを伴い、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長さ(北東-南西)11.50m、幅(南東-北西)0.16~0.35m、確認面から底面までの深さ0.54mを測る。堆積土は5層に分層した。1層は溝廃絶時の埋め戻し土、2層は板壁等の設置痕跡で、3~5層はその裏込め土と考えられる。遺物は出土しなかった。本溝跡は南側の平坦面から北側の斜面に移り変わる地形変換点で等高線に沿って掘り込まれており、同様の位置関係にあるSD306・345・1309同様、広い平坦面を区画する防衛的な性格をもつものと想定される。本溝跡の土層堆積状況から、これらの溝には板壁等が設置されていた可能性を指摘し得る。

SD1338 (第36図)

MK29グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に並行する黒褐色の溝状プランを確認した。トレンチにより消失しているため不明確であるが、SD1280と重複し、これより新しい可能性が高い。北東側と南西側はプランが消失している。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(東-西)2.56m、幅(南-北)0.48~0.64m、確認面から底面までの深さ0.10~0.12mを測る。堆積土は地山塊と炭化物を含む黒褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

S D1353 (第36図)

ME25・26グリッドに位置し、V層地山面上で斜面に直行する黒褐色の溝状プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、南側は調査区外へと延長するため全体規模は不明である。底面は凹凸が著しく、北端部では次第に浅くなり消失する。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長さ(南-北)6.15m、幅(東-西)0.72~1.30m、確認面から底面までの深さ0.20mを測る。堆積土は礫を多量に含む黒褐色土の単一層で、自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。本溝跡は形状が極めて不整形であり、溝跡下の自然堆積に乱れが生じていることから、S D1185同様、人工的な溝跡ではなく、断層や地滑りにより自然に形成された窪みの可能性が考えられる。

7 土 塁

S F945 (第37図、図版37)

LH~LJ49~52、LK~LO49~51グリッドに位置する。調査区境界付近に設定したトレンチ壁面の土層観察により確認した。Lライン以西は攪乱を受けており、盛土がのる削平された平坦面の範囲から、推定範囲を示している。東側は調査区外に延長する。調査区内で確認された規模は、長さ(東-西)11.2m、基底幅(南-北)10.4m、上幅5.28m、構築面から頂部までの高さは1.7mを測る。推定範囲の西端と調査区外の範囲を含めると、市道に沿う長さ約40mの規模が推定される。盛土の堆積は17層に分層した。1~7層はにぶい黄褐色基調の地山由来土で比較的まりが緩く、土の連続的な盛り上げ単位を示すものと考えられる。8層はにぶい黄褐色基調の細砂で、9層上面の流水に起因する自然堆積土、盛土造成に一時的な間断が生じている可能性が高い。9層以下では、土質から9~11層、12~15層、16・17層がそれぞれのまとまりとして区別され、土の盛り上げ作業の単位と考えられる。18層は基本層序IV層に対応する自然堆積土で、上面は削平により平坦に整地されている。遺物は18層直上で土器器破片が1点出土した。本土塁は規模が大きく、その盛土供給源を勘案して、土塁に沿う市道が元々は空堀であり、その構築時の排土を盛りあげたと推測する。本土塁から市道を挟んだ南側対岸の急斜面には一定規模の平坦面があり、この平坦面からさらに南側には段状に連なる平場を現状で確認することができる。当該部は本来、緩やかな尾根地形が南北に連なっていたものと考えられ、尾根を断ち切る空堀と土塁を構築することによって、南側に展開する平場群の防衛性を高めたものと推測される。

8 土 坑

S K48 (第38図、図版33)

LS・LT59グリッドに位置し、V層地山面上で黒褐色土プランを確認した。14基の柱穴様ビットを切る。平面形は不整形円形を呈し、底面は平坦で、壁の立ち上がりは北西側の斜面に向かって急傾斜に、南東側の平坦面に向かって緩やかに立ち上がる。規模は長軸(南東-北西)3.02m×短軸(南西-北東)2.96m、確認面からの底面までの深さ0.91mを測る。堆積土は3層に分層した。1・2層は混入物少なく、廃絶後の自然堆積である可能性がある。3層は大径地山塊を多量に含み、底面に貼りつけた土の可能性がある。遺物は土器器破片が1点出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,195±35yrBPの年代値が得られた(第3章第1節参照)。

SK49 (第38図、図版33)

L S59グリッドに位置し、V層地山面上で黒褐色土ブランを確認した。平面形は長方形を呈し、底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）2.05m×短軸（南東-北西）0.67m、確認面から底面までの深さ0.43mを測る。堆積土は4層に分層した。全ての層に地山塊を含み、特に4層は混入量が多い。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。本土坑はその形態や堆積状況から土坑墓の可能性をもつが、詳細は不明である。

SK226 (第38図、図版33)

MO15グリッドに位置し、V層地山面上で黒褐色土ブランを確認した。SD227を切る。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平坦で2箇所の落ち込みを伴う。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南東-北西）0.77m×短軸（南西-北東）0.47mで、確認面から底面までの深さ0.31mを測る。堆積土は4層に分層した。上部に堆積する1・2層は黒褐色土を基調として地山粒や大径炭化物を含む。3層は焼土主体の層で、5層には焼土粒を多く混入する。いずれも人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,510 \pm 35$ yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本土坑は形態が不整であり、焼土や炭化物の検出から鍛冶生産に関連した遺構である可能性も考えられるが、詳細は不明である。

SK232 (第38図、図版33)

MN18・19、MO18・19グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色土ブランを確認した。SKP237に切られる。南側を攪乱されているため全体規模は不明であるが、残存部の平面は不整形を呈し、底面は平坦で、壁は西側で急角度に、東側で緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南-北）0.25m×短軸（東-西）0.22m、確認面から底面までの深さ0.34mを測る。堆積土は3層に分層した。1・3層は地山に似るに黄褐色土に地山粒を含む。これに挟まれる2層は炭化物を多量に含む。いずれも人為堆積と考えられる。遺物は土師器破片が1点、須恵器壺（第53図4）が1点、鉄滓が18.1g、羽子が26.3gが出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から $1,295 \pm 30$ yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。本土坑は鉄関連遺物の出土から鉄生産に関連する遺構である可能性があるが、詳細は不明である。

SK276 (第39図、図版33)

MQ16グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色土ブランを確認した。他遺構との重複関係は無い。南西側を攪乱されているため全体形状は不明であるが、残存部の平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）0.62m×短軸（南東-北西）0.32m、確認面から底面までの深さは0.11mを測る。堆積土は暗褐色土の単一層である。遺物は出土しなかった。

SK303 (第39図)

MM19・20、MN19・20グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色土ブランを確認した。他遺構との重複関係は無い。中央部をトレンチで攪乱されているが、平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸（南東-北西）1.26m×短軸（南西-北東）0.96m、確認面から底面までの深さ0.22mを測る。堆積土は大径地山塊を含むに黄褐色土の単一層で、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K 347 (第39図、図版33)

MS 21グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。南西側を掘乱されているため全体形状は不明であるが、平面形は不整長方形を呈し、底面は礫層に達して凹凸著しく、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸（南東-北西）1.64m×短軸（南西-北東）0.95m、確認面から底面までの深さ0.15mを測る。堆積土は2層に分層した。特に2層は大径地山塊を多量に含んでおり、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

S K 527 (第39図、図版33)

MQ 30・31グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は円形を呈し、底面は概ね平坦であるが北側が浅く窪み、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）2.24m×短軸（南東-北西）2.1m、確認面から底面までの深さ0.22～0.25mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は地山塊を含む。2層は底面の浅い窪みに堆積し、炭化物を含んでいる。ともに人為堆積と考えられる。遺物は石器剥片が2点、径約10～30cmの礫7点が出土した。礫のうち5点は被熱しており、1点は鉄床石（12,186.0g）と考えられる。本土坑は壁底面に被熱の痕跡は認められず、出土した被熱礫は搬入された可能性が高い。鉄生産に関連する遺構である可能性をもつが、詳細な性格は不明である。

S K 633 (第39図、図版33)

MF 36・37グリッドに位置し、V層地山面上で黄褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は楕円形を呈し、底面は西側が平坦で東側が浅く窪み、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（東-西）1.15m×短軸（南-北）0.84m、確認面から底面までの深さ0.29mを測る。堆積土は3層に分層した。1・2層は地山土塊を含み、3層は多量の炭化物を含む。いずれの層も人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K 715 (第39図、図版34)

LG 73グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は長方形を呈し、底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）1.1m×短軸（南東-北西）0.46m、確認面から底面までの深さ0.16mを測る。堆積土は2層に分層した。ともに暗褐色土を基調として大径地山塊を含み、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。本土坑はその形態や堆積状況から土坑墓の可能性をもつが、詳細は不明である。

S K 760 (第39図、図版34)

LI・LJ 72グリッドに位置し、V層地山面上で褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で中央に浅い窪みを有し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）1.1m×短軸（南東-北西）0.72m、確認面から底面までの深さ0.28mを測る。堆積土は6層に分層した。上部1～4層は褐色土を基調として地山塊を含む。下部の5・6層は混入物をほとんど含まない。上部層は人為堆積、下部層は自然堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

S K 790 (第40図、図版34)

LF 73グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で中央に浅い窪みを有し、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸

(東-西) 0.84m×短軸(南-北) 0.5m、確認面から底面までの深さ0.24mを測る。堆積土は地山塊を含む暗褐色土の単一層で、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK791 (第40図、図版34)

L F73グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸(東-西) 0.7m×短軸(南-北) 0.4m、確認面から底面までの深さ0.22mを測る。堆積土は地山塊を含む褐色土の単一層で、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK799 (第40図、図版34)

L Q59グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で暗褐色土プランを確認した。SKP997に切られ、SKP998を切る。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸(南西-北東) 1.03m×短軸(南東-北西) 1.01m、確認面から底面までの深さ0.14mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は褐色土中に炭化物と焼土塊を、2層は炭化物を多量に含む。ともに人為堆積と考えられる。遺物は土師器破片が19点、炉壁が906.9g、流動滓が142.7g、炉内滓および炉底塊が83.4g出土した。本土坑は多量に炭化物が検出されたことから、小規模の伏せ焼き炭窯と想定したが、壁底面に被熱の痕跡は認められなかった。鉄関連遺物が多く出土していることから、特に鍛冶生産に関わる遺構の可能性はあるが、詳細は不明である。

SK828 (第40図、図版34)

L M65グリッドに位置し、V層地山面上でふい黄褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、SD800によって区画された平坦面上に位置する。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸(南西-北東) 0.66m×短軸(南東-北西) 0.6m、確認面から底面までの深さ0.06mを測る。堆積土は地山塊や炭化物を含むふい黄褐色土の単一層で、人為堆積の可能性はある。遺物は土師器環が84点出土し、5点には油煙が付着していた。

SK913 (第40図)

L M50グリッドに位置し、IV層上で褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、SF945の推定範囲と重複しており、本来その下位に存在したものと考えられる。北東側が攪乱されているため全体形状は不明であるが、平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、壁は北側で緩やかに、南側で急傾斜に立ち上がる。規模は長軸(南東-北西) 1.06m×短軸(南西-北東) 0.52m、確認面から底面までの深さ0.28mを測る。堆積土は地山塊と炭化物を少量含む褐色土の単一層で、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。

SK933 (第40図、図版34)

L M57グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸(南西-北東) 0.6m×短軸(南東-北西) 0.54m、確認面から底面までの深さ0.34mを測る。堆積土は2層に分層した。ともに地土塊を含み、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。

SK947 (第12図)

L G66グリッドに位置し、地山由来のⅢ層盛土層を除去した後、IV層上で暗褐色土プランを確認した。SN949・950に切られる。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で2箇所の浅い窪みを有し、壁は

緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南東－北西）0.75m×短軸（南西－北東）0.39m、確認面から底面までの深さ0.11mを測る。堆積土は炭化物を少量含む暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本土坑は壁底面に被熱の痕跡は確認されていないが、形状から周辺の焼土遺構と同様の性格をもつ可能性がある。

SK990（第12図）

L G66グリッドに位置し、地山由来のⅢ層盛土層を除去した後、Ⅳ層上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は楕円形を呈し、底面は緩く窪んで壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南－北）1.02m×短軸（東－西）0.5m、確認面から底面までの深さ0.11mを測る。堆積土は地山塊と炭化物を少量含む暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は土師器杯（第44図6）が5点出土した。本土坑は壁底面に被熱の痕跡は確認されていないが、SK947同様、周辺の焼土遺構と同様の性格をもつ可能性がある。

SK1000（第40図）

L P59グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。南西側をトレンチにより消失しており、全体形状は不明であるが、平面形は方形を呈し、底面は平坦で北西側に窪み、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（東－西）0.68m×短軸（北－南）0.64m、確認面から底面までの深さ0.14mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は地山塊と炭化物を少量含む暗褐色土、2層は地山塊・炭化物・焼土塊を含むにぶい黄褐色土で、ともに人為堆積と考えられる。遺物は土師器杯破片が4点、粘土塊が7.1g出土した。本土坑は堆積土に焼土や炭化物を含み、それらは隣接するSN798から供給されたものと考えられる。底面の窪みは、鉄床石の設置痕跡の可能性もあろう。

SK1078（第40図）

L N・L O56グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。北東側をトレンチにより消失しており、全体形状は不明であるが、平面形は円形を呈し、底面は緩やかに窪んで南東側に傾斜し、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南東－北西）1.0m×短軸（南西－北東）0.52mで、確認面から底面までの深さ0.16mを測る。堆積土は地山塊・炭化物・焼土粒を含む褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は土師器杯破片が13点、土師器甕破片（第48図5）が10点、粘土塊が7.3g出土した。

SK1081（第40図、図版34）

MA54グリッドに位置し、Ⅴ層地山面上で暗褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南東－北西）0.68m×短軸（南西－北東）0.5m、確認面から底面までの深さ0.06mを測る。堆積土は2層に分層した。1層は地山塊と炭化物を少量含む、2層は炭化物を多量を含む。いずれも人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から870±40yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。

SK1094（第40図、図版35）

L N・L O58グリッドに位置し、Ⅴ層地山面上で暗褐色土プランを確認した。SK P1095に切られる。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（東－西）1.07m×

短軸（南—北）0.99m、確認面から底面までの深さ0.15mを測る。堆積土は地山塊・焼土塊・炭化物を含むにぶい黄褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は底面から被熱燻1点が出土した。

SK1098（第8図）

LL・LM58グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で褐色土プランを確認した。SD942、SKP1105・1106を切る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、壁は北側の斜面に向かって急角度に、南側の平坦面に向かって緩やかに立ち上がる。規模は長軸（南東—北西）1.36m×短軸（南西—北東）0.92m、確認面から底面までの深さ0.19mを測る。堆積土は3層に分層した。褐色を基調として地山塊と炭化物を少量含み、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本土坑はSD942の屈曲部に位置し、本来は単独の土坑ではなく、平坦面や溝跡の造成と連続した掘り込みの可能性がある。

SK1130（第9図）

LM・LN55グリッドに位置し、SD1099に囲まれた平坦面上で暗褐色土プランを確認した。SKP1128・1129を切る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（東—西）1.05m×短軸（南—北）0.69m、確認面から底面までの深さ0.07mを測る。堆積土は地山塊や炭化物を少量含む暗褐色土の単一層で、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。本土坑はSS1100に伴う鍛冶生産に関連する遺構と考えられ、鉄床石の設置穴の可能性もあろう。

SK1170（第20図、図版35）

MA・MB43グリッドに位置し、V層地山面上でにぶい黄褐色土プランを確認した。SD403を切る。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸0.98m（北西—南東）、短軸0.70m（北東—南西）、確認面から底面までの深さ0.54mを測る。堆積土は地山塊を多量に含んでおり、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK1175（第40図、図版35）

MB40グリッドに位置し、V層地山面上でにぶい黄褐色土プランを確認した。他遺構との重複関係は無い。平面形は円形を呈し、底面は平坦で南東隅に浅い窪みを有し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸（南—北）0.7m、短軸（東—西）0.64m、確認面から底面までの深さ0.22mを測る。堆積土は地山塊・炭化物・焼土塊を含むにぶい黄褐色土の単一層で、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK1197（第41図、図版35）

MC41グリッドに位置し、V層地山面上でにぶい黄褐色土プランを確認した。SK1198と重複するが新旧関係は不明である。平面形は不整形を呈し、底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長軸（北東—南西）0.9m、短軸（南東—北西）0.7m、確認面から底面までの深さ0.15mを測る。堆積土は地山塊を多量に含むにぶい黄褐色土の単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

SK1198（第41図、図版35）

MB・MC41グリッドに位置し、V層地山面上でにぶい黄褐色土プランを確認した。SK1197と重複するが新旧関係は不明である。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で南西壁に接して一部柱穴状に掘り込まれ、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸（東—西）1.4m、短軸（南—北）0.6m、確認面から底面までの深さ0.08mを測る。堆積土は地山塊を多量に含むにぶい黄褐色土の単一層で、人

為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

SK1230 (第33図、図版35)

MD29・30グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で暗褐色土ブランを確認した。SD1255を切る。平面形は楕円形を呈し、底面は西側が深く掘り込まれているほかは平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸(北西-南東)1.55m、短軸(北東-南西)0.87m、確認面から底面最深部までの深さ1.77mを測る。堆積土は5層に分層した。全体的に地山塊を多く混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は礫が底面の掘り込み上面と内部を中心として多数出土した。本土坑は形態が不整形で多量の礫が意図的に投げ込まれているが、その性格については不明である。

SK1306 (第28図、図版35)

MC39グリッドに位置する。V層地山面上で褐色土ブランを確認した。SKP1307に切られる。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸0.99m(北西-南東)、短軸0.74m(南西-北東)、確認面から底面までの深さ0.11mを測る。堆積土は地山粒と炭化物を少量含む単一層で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

SK1311 (第35図、図版35)

MI28グリッドに位置し、V層地山面上で暗褐色土ブランを確認した。SN1344と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は不整形楕円形を呈し、底面は緩く窪み、壁は連続して緩やかに立ち上がる。規模は長軸(東-西)2.32m、短軸(南-北)1.4m、確認面から底面までの深さ0.76mを測る。堆積土は7層に分層した。全体として地山粒の混入量が多く、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK1352 (第41図、図版35)

ME28グリッドに位置し、Ⅲ層地山由来盛土層上で黒褐色土ブランを確認した。他遺構との重複関係は無いが、上部中央は攪乱され、底面も一部根による攪乱を受けている。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。規模は長軸(北-南)1.57m、短軸(東-西)1.51m、確認面から底面までの深さ0.35mを測る。堆積土は3層に分層した。黒褐色土を基調として混入物が少なく、自然堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

9 陥し穴

SKT1111 (第41図、図版36)

LH57・58グリッドに位置し、IV層上で暗褐色土ブランを確認した。SKP1115に切られる。平面形は長楕円形を呈し、底面は平坦で、壁はほぼ垂直に、北端部ではオーバーハングして立ち上がる。規模は長軸(南東-北西)3.0m×短軸(南西-北東)0.57m、確認面から底面までの深さ1.07mを測る。堆積土は4層に分層した。地山由来土と壁面崩落土が混在しており、自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。縄文時代の陥し穴である可能性が高いが、出土遺物が無いため詳細な時期は不明である。

SKT1238 (第41図、図版36)

MC32グリッドに位置し、V層地山面上で褐色土ブランを確認した。他遺構との重複関係は無い。上確認面平面形は不整形楕円形を呈し、底部平面形は長方形を呈する。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立

ち上がる。規模は長軸（北東-南西）1.34m、短軸（南東-北西）0.44~0.78m、確認面から底面までの深さ0.20mを測る。堆積土は11層に分層した。壁面崩落によると推測される地山由来土を全体に含んでおり、自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。SKT1111同様、縄文時代の陥し穴である可能性が高いが、出土遺物が無いため詳細な時期は不明である。

10 捨て場

ST1140（第42図、図版39）

M I 35グリッド周辺の北西に開口する比較的規模の大きな沢地において、Ⅲ層地山由来盛土層を除去した後、Ⅳ層中で木製品の出土を確認した。特に木製品が多量に出土したMH34・35、M I 34・35グリッドを、木製品を祭祀的な性格の強い捨て場の略範囲として認定した。内訳は、漆器椀（第55図1~3）・机天板（第57図1・第58図1）・机脚（第57図2~5・第58図2~5）、形代（第59図1~3）・斎串（第60図1~6）、棒状木製品（第60図7~13・第61~63図）・板状木製品（第59図4・6~12）・部材（第64図）がある。特に斎串や形代の出土から木製品は単なる廃棄物ではなく、祭祀的な意味を込めて沢地に持ち込まれたものと考えられる。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,020±40yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。

ST1141（第42図）

L M54グリッド周辺の南西に開口する比較的規模の大きな沢地において、Ⅳ層中で土器類の出土を確認した。特に土器類が多量に出土したL M54・55、L N54・55グリッドを、祭祀的な性格の強い捨て場の略範囲として認定した。内訳は、土師器が高台環（第47図13）含む環類（第45図5~15、第46図、第47図1~6）2,286点、壺（第50図15）、鉢（第50図10・13・14）、鍋（第50図1~9）含む甕類（第48図8~15・第49図1・3~6・10・11・13・14・17・18）250点、須恵器が環（第51図1・3・4）4点、壺（第53図1・3・5・7・8・11・12・14・15）26点、甕（第51図5~8・第52図1・2・4・9・10）50点である。土師器環のうち28点には油煙が付着していた。須恵器甕のうち2点（第52図2・7）、壺のうち2点（第53図8・9）は転用硯である。遺跡全体での土器類の出土量は決して多くは無いが、特にこれらのグリッドから集中して出土していることから、意図的な、可能性の一端として祭祀行為の結果、土器集中域が形成されたものと考えられる。土器類の他、曲物の底板1点（第59図5）、部材2点の木製品が出土した。なお、放射性炭素年代測定の結果、出土した炭化物から1,190±40yrBPの年代値が得られた（第3章第1節参照）。

11 柱穴様ビット

他の遺構に属する柱穴を除き、1,003基の柱穴様ビットを検出した。これらは検出位置や出土遺物から、主として平安時代に帰属すると考えられる。個々の検出グリッド・規模・底面標高・堆積土の属性・出土遺物・他遺構との新旧関係（新>旧）等は第2~15表に示した。

第2表 柱穴様ビット一覧(1)

No.	グリッド	規模 (cm)		掘削深さ (m)	土色	土質	地山土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・異出前・遺構内など)		
		長径	短径										
2	MG53	24	19	17.4	20.984	10YR6/1	黒褐色	シルト質	3%	2~5mm:3%	強	中	
3	MG53	20	15	28.1	20.867	10YR6/2	黒褐色	シルト質	—	—	強	中	
4	MF53-54	20	17	12.0	21.090	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	1%	強	中	
5	MF53	20	16	11.7	20.442	10YR6/1	黒褐色	シルト質	5mm:1%	—	強	中	
6	MF-MG54	22	12	19.2	21.250	10YR6/1	黒褐色	シルト質	2%	2~5mm:2%	強	中	
7	MF54	20	15	12.2	21.252	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3%	—	強	中	
8	MF54	15	14	9.4	21.515	10YR4/2 ~10YR3/2	灰黄褐色 ~黒褐色	シルト質	5mm:1%	—	強	中	
9	ME54	25	22	15.3	21.360	10YR6/1	黒褐色	シルト質	3mm:2%	—	強	中	
10	MK62	21	14	31.9	20.596	10YR6/2	黒褐色	シルト質	1mm粒:1%	1~3mm:1%	中	中	<SW01
11	MK62	15	12	22.0	20.665	10YR6/2	黒褐色	シルト質	—	1mm粒:1%	中	中	<SW01
12	ME53	23	18	14.0	20.346	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	5mm:1%	強	中	
13	MF54-55	26	23	17.2	21.721	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:3%	5mm:5%	強	中	
14	MC53	27	21	22.8	19.562	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
15	MD-MG54	23	18	23.0	20.070	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	10mm前後:2%	—	強	中	
16	MB54	19	16	22.0	20.105	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	10mm前後:3%	—	強	中	
17	MB54	20	16	20.0	19.950	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
18	MB54	16	15	14.5	20.380	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:2%	—	強	中	
19	MB54	20	18	13.5	20.095	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:1%	—	強	中	
20	MB55	23	22	16.0	20.385	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:1%	—	強	中	
21	MB55	24	22	19.3	20.190	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:2%	—	強	中	
22	MA56	19	18	13.1	20.544	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:2%	—	強	中	
23	MA56	16	16	11.0	20.550	10YR6/2	黒褐色	シルト質	10~20mm:2%	—	強	中	
24	MA56	17	13	9.8	20.877	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:2%	—	強	中	
25	MB54	16	14	9.0	20.015	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5~20mm:3%	—	中	中	
26	MD-ME53	16	14	10.8	20.478	10YR6/1	黒褐色	シルト質	—	2%	強	中	
27	MG53	16	12	13.8	20.891	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:5%	—	強	中	
28	MH53	17	16	13.2	21.340	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5~10mm:3%	5mm:3%	強	中	
29	MH52	17	16	8.7	20.148	10YR6/1	黒褐色	シルト質	3mm:3%	1~10mm:3%	強	中	
30	MB57	24	21	15.2	21.230	断面図	L:黒褐色 全灰黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
31	MA57	24	20	15.6	21.499	10YR2/1	黒色	シルト質	10mm粒:5%	—	かなり強	中	
32	MA57	20	18	7.8	21.567	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:30%	—	強	中	
33	MK62	20	16	16.5	20.560	10YR6/2	黒褐色	シルト質	1mm以下:1%	1~3mm:1%	中	中	<SW01
34	MA58	30	23	22.4	22.107	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:5%	2~3mm:5%	強	中	
35	MA58	26	23	17.5	22.746	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
36	MA58	24	21	16.1	23.040	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:3%	—	強	中	
37	MA58-59	28	25	19.2	23.164	10YR6/1	黒褐色	シルト質	2~3mm:5%	—	強	中	
38	MA58-59	24	18	14.6	23.298	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:3%	1~2mm:3%	強	中	
39	MA58	24	22	12.5	23.285	10YR6/2	黒褐色	シルト質	10mm粒:5%	2~10mm:3%	強	中	
40	LT68	26	23	4.6	23.336	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
41	LT68	30	29	9.1	23.455	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
42	MB56	20	14	9.0	21.385	10YR6/1	黒褐色	シルト質	—	—	強	中	
43	MB56	17	14	11.8	21.217	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:5%	—	強	中	
44	MC56	14	13	7.7	21.367	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5~10mm:10%	—	強	中	
45	MJ52	22	18	10.8	20.518	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:10%	—	強	中	
46	MC56	22	18	15.0	21.855	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:3%	—	中	中	
47	MJ52	43	29	18.1	20.695	10YR6/1	黒褐色	シルト質	—	5~20mm:3%	かなり強	中	
50	LS58	18	15	19.6	23.071	10YR6/2	黒褐色	シルト質	粒2mm:2%	—	かなり強	中	
51	LS58-59	26	23	9.7	23.116	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	5mm:10%	—	強	中	
52	LS59	22	20	20.7	23.136	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:5%	1%	強	中	>SK48
53	LS59	14	12	13.4	23.107	10YR6/2	黒褐色	シルト質	—	—	強	中	>SK48
54	LS59	16	13	13.3	23.044	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:3%	2%	強	中	
55	LS59	19	17	23.4	23.066	10YR6/2	黒褐色	シルト質	—	—	強	中	SK48内
56	LS59	20	17	10.1	23.232	10YR2/1	黒色	シルト質	2mm:10%	—	強	中	
57	LS59	20	18	25.7	23.043	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:5%	—	強	中	SK48内
58	LS59	20	15	19.1	23.304	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3~5mm:5%	—	強	中	
59	LS59	16	15	8.8	23.358	10YR6/2	黒褐色	シルト質	2mm:5%	—	強	中	
60	LS59	21	19	19.4	23.163	10YR6/2	黒褐色	シルト質	2mm:3%	—	強	中	
61	LT59	16	15	18.6	23.940	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5~10mm:5%	—	強	中	>SK48
63	LT59	19	16	5.1	23.599	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:3%	2%	強	中	>SK48
64	LT59	21	19	8.5	23.493	10YR2/1	黒色	シルト質	—	—	強	中	>SK48
65	LT59	30	29	31.1	23.222	10YR2/2	黒褐色	シルト質	2mm:3%	1%	強	中	>SK48
66	LT59	23	21	7.5	23.489	10YR2/1	黒色	シルト質	—	2mm:3%	強	中	>SK48
67	LS+LT59	24	20	13.2	23.641	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:5%	—	強	中	>SK48
68	LS59	16	14	13.5	23.436	10YR6/2	黒褐色	シルト質	3mm:5%	—	強	中	>SK48
69	LS59	24	21	27.6	23.216	10YR6/2	黒褐色	シルト質	2mm:2%	1mm:5%	強	中	>SK48、>SKP173
70	LS59	21	18	11.1	23.474	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	2~10mm:10%	1mm:1%	強	中	>SK48
71	LS59	18	17	12.3	23.393	10YR6/2	黒褐色	シルト質	5mm:5%	—	強	中	>SK48
72	MG56	20	16	10.0	21.968	10YR6/2	黒褐色	シルト質	1~10mm:1%	—	強	中	
73	MG56	20	15	7.1	21.536	10YR4/2	におい黄褐色	シルト質	—	—	強	中	
74	MG56	19	15	14.3	21.388	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	1~5mm:1%	強	中	
75	MG56	12	10	6.0	21.463	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	1~3mm:1%	強	中	
76	MG57	18	16	5.2	21.517	10YR6/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~5mm:1%	強	中	
77	MF58	20	18	9.0	21.645	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	—	中	中	

第3表 柱穴様ビット一覧(2)

No.	グリッド	間隔 (cm)		掘削深度 (m)	土 色	土 質	地山土混入量	炭化物混入量	しまり	粘 性	備 考 (遺物・異出崩・遺構内など)			
		長径	短径											
78	ME58	18	17	15.5	21.906	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~20mm:1%	-	強	中		
79	MH2	14	12.5	19.960	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:1%	-	-	中	中		
80	MH-MJ52	22	9	6.8	19.816	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	-	強	中	>SW68	
81	LS-LT59	18	14	22.4	23.243	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1mm:1%	-	中	中	SK48内	
83	LT59	15	13	14.4	23.828	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:1%	1%未満	強	中	>SK48	
84	LS59	17	16	31.7	23.107	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	1mm:1%	強	中	>SK48	
85	LS59	25	18	16.4	23.425	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	5mm:1%	強	中	SK48内	
86	LT59	22	19	29.4	23.571	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1mm:1%	-	強	中	SK48内	
87	LS59	25	20	22.1	23.291	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1mm:1%	1mm:1%	強	中	SK48内	
88	MC63	33	27	12.3	19.557	10YR3/2	黒褐色	シルト質	-	-	強	中		
89	MC63	19	15	14.2	19.435	10YR3/1	黒褐色	シルト質	3mm:3%	3mm:2%	-	強	中	
90	MC54	22	21	4.0	20.155	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	-	1mm:1%	-	強	中	
91	MC54	24	20	15.1	20.247	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2mm:3%	1mm:1%	強	中		
92	MC54	29	20	11.8	20.210	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5~10mm:3%	-	-	強	中	
93	MC54	21	20	17.3	20.154	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3~5mm:3%	-	-	中	中	
94	MC54	34	21	21.8	20.215	10YR2/2	黒褐色	シルト質	-	-	-	中	中	
95	MC54	19	15	9.8	20.522	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:3%	-	-	強	中	
96	MC55	18	13	5.9	20.515	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	-	-	-	かなり強	中	
97	MH55	26	20	19.4	20.340	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5~10mm:3%	-	-	中	中	
98	MH56	19	13	17.7	20.878	10YR3/2	黒褐色	シルト質	-	2mm:3%	強	中		
99	MH56	22	16	16.5	20.985	10YR2/2	黒褐色	シルト質	-	-	-	中	中	
100	MH57	19	16	10.0	21.255	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:5%	-	-	強	中	
101	MF-MG57	17	15	8.1	21.574	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~3mm:2%	-	-	強	中	
102	MF57	17	15	9.8	22.387	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:3%	1mm:1%	強	中		
103	MD58	28	17	9.1	23.023	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	10mm以下:3%	2~5mm:2%	強	中		
104	MD58	25	15	12.6	23.037	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10mm:3%	1mm:1%	強	中		
105	MD59	22	13	7.7	22.577	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:2%	-	-	強	中	
106	MC-MD60	18	15	10.7	22.341	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:3%	-	-	強	中	
107	LS59	17	10	13.5	23.286	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:3%	-	-	強	中	>SK48
108	MD60	36	29	22.5	21.513	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	-	-	強	中	
109	MD60	32	27	29.9	21.455	10YR2/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:3%	-	-	強	中	>SKP110
110	MD60	36	23	11.9	21.676	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:7%	-	-	かなり強	中	>SKP109
111	MD60	34	25	22.0	21.420	10YR2/2	黒褐色	シルト質	5mm:5%	-	-	かなり強	中	
112	MD61	25	17	19.9	21.263	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3~5mm:3%	1mm:1%	強	中		
113	MD60	30	27	21.1	21.456	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	10mm以下:2%	-	-	強	中	
114	MC61	21	15	10.1	21.381	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	-	-	強	中	
115	MC-MD61	26	23	11.3	21.193	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:1%	-	-	強	中	
116	MC61	18	16	6.2	21.232	10YR3/2	黒褐色	シルト質	-	1mm:1%	強	中		
117	MD61	22	21	26.1	20.864	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1mm以下:1%	-	-	強	中	
118	LS59	22	17	19.5	23.681	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:2%	-	-	中	中	
119	LS59	22	19	31.4	23.387	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~5mm:3%	1mm:1%	強	中		
120	LT59	26	20	10.0	23.718	10YR3/4 20YR4/4	1暗褐色 2暗褐色	共に シルト質	-	-	-	1強 2強	中	SK48内
121	LT59	20	18	12.0	23.553	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5mm:2%	1mm:1%	強	中	>SK48	
122	LT59	22	19	17.0	23.297	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	1~5mm:3%	1mm:1%	強	中	SK48内	
123	MC61	20	19	17.7	20.898	10YR3/2	黒褐色	シルト質	-	-	-	強	中	
124	MC62	21	16	10.5	20.897	10YR3/2	黒褐色	シルト質	腐状に10%	-	-	強	中	
125	MH61	31	28	36.5	22.405	10YR3/2	黒褐色	シルト質	-	-	-	中	中	
127	MH60-61	22	16	25.0	22.783	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:1%	-	-	強	中	
129	MC62	25	19	7.0	21.186	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	5mm:2%	-	-	強	中	
133	LS59	31	26	43.3	22.749	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1mm:2%	1mm:1%	強	中	SK48内	
134	MH62	43	32	21.4	22.435	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	-	-	-	強	中	
135	MH65	21	16	10.8	20.970	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:1%	-	-	強	中	
136	MH65	20	18	12.0	20.863	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:2%	-	-	強	中	
137	MA66	20	16	12.9	20.766	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:3%	-	-	強	中	
138	LT66	15	13	7.1	21.124	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:2%	-	-	強	中	
139	MA67	22	21	6.4	20.444	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3mm:1%	-	-	強	中	
140	MA67	31	20	13.0	20.350	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:1%	-	-	強	中	
141	MA67	19	15	7.9	20.106	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3mm:1%	5mm:1%	強	中		
143	LS62	23	22	36.6	25.569	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2mm:3%	-	-	中	中	
144	LS63	21	17	12.1	25.514	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	2mm:3%	-	-	強	中	
145	LT64	15	14	6.6	22.990	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~3mm:2%	-	-	強	中	
146	MA65	30	20	14.2	20.999	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3~10mm:3%	-	-	強	中	
147	MA67	36	30	10.2	19.928	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:10%	-	-	強	中	
148	LT-MA66	25	14	17.5	21.084	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2mm:3%	-	-	強	中	
149	MA67	26	20	10.8	20.398	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1mm:1%	-	-	強	中	
150	MA67	23	17	10.9	20.299	10YR2/2	黒褐色	シルト質	-	-	-	強	中	
151	MA67	14	13	10.0	20.300	10YR3/2	黒褐色	シルト質	-	-	-	強	中	
152	MA67	22	18	18.7	20.161	10YR2/2	黒褐色	シルト質	2mm:1%	-	-	強	中	
153	LS59	23	21	6.5	23.173	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	-	-	強	中	>SK48
154	LS59	26	20	59.9	22.969	10YR3/2	暗褐色	シルト質	1~2mm:2%	1mm:1%	強	中	>SKP155	
155	LS59	29	14	26.2	23.043	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:2%	-	-	強	中	>SKP154
156	LS59	21	19	16.1	23.245	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	-	-	中	中	

第4表 柱穴様ビット一覧(3)

No.	グリッド	規格(φ)		縦糸径 (mm)	土色	土質	地山土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・異出前・遺構内など)	
		外径	内径									
157	LR-L559	29	26	19.9	23.078	10YR5/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	強	中	
158	LR60	19	19	28.4	23.416	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~2mm:2%	—	中	中
159	LR60	19	18	10.0	23.483	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	1~2mm:2%	強	中
160	LR-L560	23	21	12.8	23.428	10YR2/3	黒褐色	シルト質	1~2mm:1%	1mm:1%	強	中
161	LR-L560	19	19	34.6	23.499	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1mm:2%	—	強	中
162	LR60	23	20	24.6	23.114	10YR6/2	黒褐色	シルト質	2mm:3%	—	中	中
163	LR60	30	20	18.8	23.217	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	—	—	強	中
164	LR-L559	30	25	13.3	23.053	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2mm:2%	1mm:1%	強	中
165	LR-L564	41	38	34.7	25.138	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	1mm:2%	強	中
166	LS65	17	14	14.6	23.542	10YR3/2	黒褐色	シルト質	—	—	強	中
167	LS59	22	20	38.9	22.693	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	—	強	中
168	LS66	40	22	23.1	21.710	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3mm:2%	—	強	中
169	LS66	23	22	2.1	22.145	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~5mm:5%	—	強	中
170	LS66	26	21	7.0	22.028	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	1mm:3%	強	中
171	LS66	35	32	7.7	21.890	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~20mm:10%	—	強	中
172	LS66	31	22	18.2	21.811	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3mm:5%	1mm:2%	強	中
173	LS59	24	21	18.8	23.127	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:3%	10mm以下:1%	中	中
174	LS59	29	28	38.4	22.890	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~5mm:2%	3mm:2%	強	中
175	LS58	23	20	14.6	22.843	10YR3/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:5%	—	強	中
176	LS59	20	18	24.4	23.173	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	1~2mm:1%	強	中
177	LS59	18	14	13.8	23.300	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~5mm:3%	1mm:2%	強	中
178	LS59	24	18	8.1	23.110	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:3%	—	強	中
179	LS59	22	15	12.5	23.054	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~10mm:3%	1mm:1%	強	中
180	LR65+66	35	31	27.3	23.840	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	—	3mm:2%	強	中
181	MF52	18	17	8.2	19.774	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~3mm:1%	強	中
182	MF52	22	17	15.5	19.499	10YR3/2	黒褐色	シルト質	—	1mm:1%	強	中
184	MF52	32	25	20.2	19.258	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:1%	1~5mm:1%	強	中
185	MF52	20	19	15.6	19.336	10YR3/2	黒褐色	シルト質	—	1mm	強	中
186	MF52	19	15	17.9	19.976	10YR3/2	にがい黄褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	強	中
187	MH52	24	18	15.9	19.565	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	2mm:1%	強	中
188	MC52	29	25	17.6	18.722	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~10mm:3%	1~5mm:1%	強	中
189	MC52	21	13	12.3	18.705	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~5mm:2%	1~3mm:1%	強	中
190	MD51+52	22	20	17.1	18.425	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~2mm:1%	中	中
191	MD51	18	14	23.6	18.336	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	強	中
192	LS59	31	25	20.5	22.820	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	中	中
194	LR73	21	17	28.7	18.505	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	中	中
195	LR73	30	25	29.2	17.451	10YR3/4	暗褐色	シルト質	—	—	中	中
196	LR74	25	22	22.4	17.001	10YR4/4	褐色	シルト質	2mm:1%	—	中	中
197	LR73+74	20	18	31.5	17.100	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	強	中
198	LR74	24	19	7.2	17.278	10YR3/4	暗褐色	シルト質	—	—	強	中
199	LR74	30	23	17.7	16.673	10YR3/4	暗褐色	シルト質	—	—	強	中
200	LR74	27	22	12.8	17.191	10YR3/4	暗褐色	シルト質	—	—	中	中
201	LR74	26	24	28.4	16.894	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	強	中
202	LR74	38	31	31.6	16.905	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	中	中
203	LR73	31	20	23.6	17.835	10YR3/4	暗褐色	シルト質	—	—	中	中
204	LT59	20	18	8.6	23.415	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	強	中
205	LS58	25	20	14.6	22.864	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:2%	1mm:1%	強	中
206	LS59+60	23	20	10.7	23.101	10YR5/3	にがい黄褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	中
207	LR59	18	15	12.0	23.113	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2mm:2%	1mm:1%	強	中
208	LR-L560	30	25	30.3	23.027	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	中	中
209	LR74	30	30	39.0	17.098	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	—	—	中	中
222	MN16	25	19	29.3	25.535	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	1~2mm:1%	強	中
223	MN16	23	20	7.2	25.746	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:2%	1mm:1%	強	中
224	MN16	27	22	16.3	25.619	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~10mm:1%	1mm:1%	強	中
225	MN16	22	19	24.7	25.557	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1mm:1%	—	強	中
233	MN19	27	26	11.8	26.600	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	中	中
237	MP19	29	24	13.5	28.156	10YR3/4	褐色	シルト質	10mm:3%	—	中	中
239	MP19	33	22	20.8	28.457	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	強	中
240	MP19+20	41	33	45.7	28.164	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~5mm:1%	強	中
241	MP19+20	27	25	21.0	28.395	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	—	強	中
242	MP21	31	26	16.3	28.398	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:5%	1mm:1%	強	中
243	MP20	27	25	21.9	28.322	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:7%	—	中	中
244	MQ20	54	40	43.9	27.965	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:10%	—	強	中
245	MQ20	43	42	14.6	28.217	10YR5/3	にがい黄褐色	シルト質	2mm:2%	—	強	中
246	MQ21	24	13	7.5	28.082	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:2%	—	強	中
247	MQ21	27	25	40.2	27.765	10YR3/4	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	1mm:1%	強	中
248	MQ20	29	23	23.8	27.918	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	中
249	MQ20	28	21	11.9	28.017	10YR2/3	黒褐色	シルト質	1~5mm:3%	—	強	中
250	MP19	23	20	3.9	28.311	10YR3/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:2%	—	強	中
251	MP19	32	30	12.5	27.950	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:3%	10mm以下:1%	中	中
252	MM18	25	20	13.5	28.150	10YR3/4	にがい黄褐色	シルト質	—	—	中	中
254	MQ19	21	21	8.8	28.174	10YR4/4	暗褐色	シルト質	—	1mm:1%	中	中
255	MQ19	25	22	14.1	27.359	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~10mm:5%	1mm:1%	強	中
257	MM15	23	20	8.7	25.510	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:3%	—	強	中

第5表 柱穴様ビット一覧(4)

No.	グリッド	間隔 (cm)		掘削深度 (m)	地 色	土 質	地山土混入率	炭化物混入率	しまり	粘 性	備 考 (遺物・土質・地層内など)	
		長尺	短尺									
258	MM15	24	16	10.0	25.887	10YR3/3	暗褐色	1mm:1%	—	かなり強	SD221付託,盛土上	
259	MM15	40	36	35.5	25.389	10YR3/3	暗褐色	5~10mm:2%	1mm:1%	強	SD221付託,盛土上+樹皮	
263	MN15	20	19	50.4	25.137	10YR4/3	におい黄褐色	5~10mm:10%	—	強	SD221付託,盛土上	
264	MN18	22	20	34.6	27.959	10YR4/3	におい黄褐色	5~10mm:2%	1mm:1%	中	SD234内	
265	MN17	26	20	28.8	26.198	10YR4/3	におい黄褐色	1~5mm:3%	1mm:1%	中	SD261付託,盛土上	
266	Mo-MP16	31	31	17.7	25.006	10YR3/3	暗褐色	1~10mm:10%	—	強	SD261付託,盛土上	
267	MM18	25	22	15.0	27.959	10YR4/4	褐色	1mm:1%	1mm:1%	強	SD234+253付託	
268	MN18-19	32	26	43.5	27.984	10YR5/4	におい黄褐色	5mm:2%	2~5mm:2%	強	SK232付託	
269	MN18	32	26	9.8	27.907	10YR4/4	褐色	1mm:2%	—	強	SK232付託	
270	MP17	34	33	58.2	25.425	10YR5/4	におい黄褐色	5~10mm:7%	—	中	中	
271	MO15	33	27	18.5	25.191	10YR3/3	暗褐色	2~5mm:3%	1mm:1%	強	SK337(P6)	
272	MN18	27	26	9.5	27.587	10YR5/4	におい黄褐色	5mm:2%	—	強	SD235内	
273	MN17-18	25	23	4.2	27.579	10YR5/4	におい黄褐色	10mm:5%	—	中	中	
274	MO17	27	25	42.7	26.427	10YR4/3	におい黄褐色	5~10mm:1%	1mm:1%	中	SK337(P3)	
275	MM17	31	28	18.3	27.114	10YR4/4	褐色	5mm:3%	—	強	SD235内	
279	MO17	34	32	29.4	26.101	10YR4/3	におい黄褐色	5mm:3%	—	中	中	
280	MO17	27	20	14.9	26.278	10YR4/3	におい黄褐色	5~10mm:3%	1mm:1%	強	SK337(P5),が壁2.8g	
											SD261内	
281	MO15	40	37	27.4	25.119	1:10YR3/3 2:10YR1/1 3:10YR2/2	1:暗褐色 2:黒色 3:黒褐色	全て シロ土質	1:10mm:2% 2:2~5mm:2% 3:1mm:2%	1-強 2-強 3-強	中	SD261付託,盛土上
282	MQ21	28	20	20.8	27.756	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	20mm:10%	—	強	中
283	MQ22	23	19	17.4	27.718	10YR5/4	におい黄褐色	シロ土質	2~10mm:7%	1mm:1%	強	中
284	MQ22	23	23	15.7	27.525	10YR5/2	黒褐色	シロ土質	10mm:5%	—	中	中
285	Mo-MR22	29	25	20.7	27.499	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	20~30mm:20%	—	強	中
286	MR22	30	29	18.0	27.478	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	20mm:15%	—	強	中
287	MR22	25	24	14.2	27.414	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	5~10mm:10%	—	強	中
288	MR22	27	27	15.3	27.043	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	5~10mm:7%	1mm:1%	強	中
289	MP18	24	23	4.9	26.452	10YR4/4	褐色	シロ土質	5~10mm:5%	5mm:1%	中	中
291	MN16	31	29	30.3	25.864	10YR4/4	暗褐色	シロ土質	2~5mm:10%	2~5mm:1%	強	SK337,7.5g(11.8g+樹皮)
292	MO21	38	33	6.6	28.307	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	10mm:5%	—	強	SD232付託
293	MN21	40	25	15.7	28.290	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	2~5mm:2%	2mm:1%	強	SD232付託
294	MM20-21	24	23	33.7	28.257	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	1~5mm:3%	1mm以下:1%	強	中
295	MM-MN20	26	20	50.5	28.575	10YR4/4	褐色	シロ土質	1~5mm:7%	—	強	中
296	MN21	32	30	56.1	28.208	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	5mm:3%	1mm以下:1%	強	中
297	MM20	35	27	17.5	28.540	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	1~2mm:1%	—	強	中
298	MM20	40	25	13.9	28.573	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	5~10mm:7%	5mm:1%	強	中
299	MM20	35	28	58.6	28.305	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	10~20mm:7%	—	強	中
301	MP21	40	31	31.8	28.188	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	5mm:3%	—	強	中
302	MP21	34	27	33.3	27.882	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	—	2mm:2%	強	中
304	MM19	20	10	13.5	28.742	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	5~10mm:2%	—	強	中
305	MM20	50	11	33.5	28.580	1:10YR3/3 2:10YR4/4 3:10YR3/3	1:におい黄褐色 2:褐色 3:暗褐色	全て シロ土質	1:1~10mm:2% 2:現状に含む	—	全て中	1中 2中 3中+強
308	MP18	32	29	59.6	25.884	10YR3/4	暗褐色	シロ土質	10mm以上:20%	2mm:1%	強	SD278内
310	MK30	21	20	12.5	28.742	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	—	1~5mm:1%	中	中
311	MK21	23	15	11.9	28.630	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	1~2mm:3%	—	中	中
312	MK21	33	27	12.1	28.287	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	1~2mm:2%	—	中	中
313	ML21	28	18	11.3	28.277	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	—	—	強	中
314	ML21	41	39	22.2	25.556	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	1~5mm:2%	—	強	中
315	MO16	39	37	54.1	25.388	1:10YR4/3 2:10YR3/3	1:におい黄褐色 2:暗褐色	全て シロ土質	1:10mm:50% 2:2mm:5%	—	1-強 2-中	SK337(P4),磁石1点
316	MN16	40	33	41.8	25.454	1:10YR4/3 2:10YR3/3	1:におい黄褐色 2:暗褐色	全て シロ土質	1:3~10mm:50% 2:5~20mm:3%	—	1:かなり強 2-強	SK337(P7)
317	MN16	49	26	25.1	25.584	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	5~20mm:15%	—	強	中
319	MN15	31	30	19.5	25.492	10YR4/3	におい黄褐色	粘土質	5~10mm:5%	—	強	中
323	MO15-16	77	52	28.4	25.448	1:10YR3/3 2:暗褐色	1:暗褐色 2:暗褐色	シロ土質	1:1.5~50mm:30% 2:5mm:3%	1:2mm:1% 2:2~5mm:2%	1-強 2-中	SD261+221付託,盛土上
324	MP16	50	30	40.1	24.798	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	2~10mm:10%	2mm:1%	中	SK337(P1)
325	MO16	24	22	17.9	25.669	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	20mm:2%	—	強	中
327	MM-MN30	33	22	19.334	10YR2/2	黒褐色	暗褐色	シロ土質	—	—	強	中
328	MM-MN30	28	24	52.5	19.383	10YR6/6	明黄褐色	シロ土質	—	—	強	中
329	MM30	19	15	13.4	19.336	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	10~20mm:15%	—	中	中
330	MM30	31	25	66.8	19.178	10YR2/1	黒色	シロ土質	—	—	強	中
331	MM30	24	21	12.6	19.250	10YR2/2	黒褐色	シロ土質	10mm:5%	2mm:1%	強	中
332	MM31	23	19	23.1	18.847	10YR3/2	黒褐色	シロ土質	2mm:2%	1mm:1%	強	中
333	MM31	38	33	21.3	18.833	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	1~30mm:5%	—	中	中
335	ML32	43	37	9.8	18.998	10YR4/2	灰黄褐色	シロ土質	10mm:20%	—	強	中
336	MP17	37	30	20.3	25.620	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	5mm:3%	1mm:1%	強	中
338	MP17	37	26	6.7	26.058	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	2~5mm:3%	—	強	中
339	MM22	26	20	9.0	27.294	10YR3/3	暗褐色	シロ土質	1~2mm:2%	—	強	中
340	Mo-MP16	19	15	11.4	25.631	10YR4/4	褐色	シロ土質	5mm:5%	—	強	中
341	MP22	25	21	17.2	27.710	10YR4/3	におい黄褐色	シロ土質	1~5mm:5%	—	強	中
342	MO22	28	25	29.6	26.970	10YR3/2	黒褐色	シロ土質	1~5mm:2%	1mm以下:1%	強	中

第6表 柱穴様ビット一覧(5)

No.	グリッド	規格 (cm)		縦糸径φ (mm)	土色	土質	地山土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・埋込物・遺構内など)		
		長径	短径										
343	MN22	31	19	12.9	26.782	0YR6/3	暗褐色	シルト質	10mm:5%	1mm粒:1%	中	中	SDX306
344	MQ17	34	31	19.1	24.645	0YR6/3	にぶい黄褐色	シルト質	—	1mm粒:1%	強	中	—
349	MR19	27	19	23.8	25.735	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:2%	1~2mm:1%	強	中	SDX290付近
350	MS22	47	17	20.3	26.848	0YR6/3	黒褐色	シルト質	—	—	強	中	—
351	ML32	18	13	16.5	18.920	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~30mm:5%	—	強	中	—
352	MR18	38	30	25.7	25.027	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:1%	—	強	中	—
353	MS19	28	22	15.3	25.623	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	—	1mm未満:1%	強	中	—
356	MG40	14	12	15.9	17.089	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:1%	—	強	中	SDX359付近
357	MG39	47	37	61.2	16.637	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:3%	1~5mm:2%	中	中	SDX359付近
360	MD42	50	46	20.3	20.417	0YR2/2	黒褐色	シルト質	1~4mm:1%	1~30mm:5%	中	中	盛土上、SKP41,多量1g
361	MC42	34	23	12.1	20.677	0YR2/3	黒褐色	シルト質	2~5mm:30%	3mm:数値	強	中	—
362	MB43	26	25	13.3	20.719	0YR6/4	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	—	強	中	SD403付近,盛土上
363	MP-MC43	45	40	36.7	20.705	0YR6/3	黒褐色	シルト質	20%	—	強	中	SD403付近,盛土上
364	MC43	28	25	25.4	20.591	0YR6/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:30%	1~3mm:数値	強	中	SD403付近,盛土上
365	MC42	23	21	14.8	20.740	0YR6/3	暗褐色	シルト質	3~20mm:10%	2~4mm:数値	強	中	—
366	MC42	22	19	11.3	20.673	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:10%	—	強	中	盛土上
367	MC42-43	35	30	8.2	20.641	0YR6/4	暗褐色	シルト質	1~15mm:20%	1mm:数値	強	中	盛土上
368	MC42	37	26	19.1	20.380	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~7mm:3%	1~4mm:1%	強	中	盛土上
369	MD42	45	33	16.2	20.436	0YR2/3	黒褐色	シルト質	1~10mm:2%	1~10mm:3%	強	中	盛土上、SKP970
370	MD42	22	22	15.2	20.366	0YR2/3	黒褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~10mm:3%	強	中	盛土上、SKP969
371	MC42	25	20	14.1	20.757	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~4mm:3%	1~3mm:数値	強	中	—
372	MC42	32	26	12.0	20.626	0YR6/4	暗褐色	シルト質	1~15mm:15%	1~2mm:数値	強	中	盛土上
373	MD42	39	38	22.2	20.425	0YR6/4	暗褐色	シルト質	2~50mm:40%	1~2mm:数値	強	中	盛土上
374	MC42	37	32	28.7	20.495	0YR6/3	暗褐色	シルト質	—	1~3mm:数値	強	中	—
375	MC42	25	22	38.4	20.636	0YR2/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~2mm:数値	強	中	刀子1点
376	MP-MD41	21	20	14.8	20.652	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:20%	—	強	中	—
377	MD41	23	22	9.7	20.654	0YR6/4	暗褐色	シルト質	1~10mm:10%	—	強	中	盛土上
378	MD41	29	26	18.9	20.499	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:20%	1mm:数値	強	中	盛土上
379	MD41	28	26	14.2	20.412	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	1mm:1%	強	中	盛土上
380	MD41	40	33	29.8	20.171	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:7%	1mm:数値	強	中	盛土上
381	MD41-42	35	26	26.5	20.146	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%	2mm:数値	強	中	盛土上
382	MD41	43	27	17.2	20.499	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:5%	1mm:数値	強	中	盛土上
383	MD40	34	28	11.7	17.760	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10mm:10%	1mm:数値	強	中	盛土上
384	MD40	38	33	15.9	17.651	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10mm:15%	1mm:数値	強	中	盛土上
385	MC40	47	41	19.3	18.217	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:3%	—	強	中	—
386	MD41	28	22	20.4	20.215	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	—	強	中	盛土上
387	MD42	28	24	12.3	19.956	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1mm:1%	1mm:数値	強	中	—
388	MD42	32	30	17.6	19.936	0YR6/3	暗褐色	シルト質	5mm:3%	2mm:数値	強	中	—
390	MC43	18	17	30.0	20.066	0YR2/3	黒褐色	シルト質	2~10mm:10%	—	強	中	SD403付近
391	MD42	44	30	13.5	20.077	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:3%	—	かなり強	中	盛土上
392	MD43	28	26	26.6	19.556	0YR6/2	黒褐色	シルト質	2mm:1%	1mm:数値	強	中	SD403内
393	ME42	40	33	14.7	19.948	0YR6/2	黒褐色	シルト質	20mm以上:50%	2mm:3%	強	中	—
394	ME42	28	22	32.8	19.492	0YR6/3	暗褐色	シルト質	5mm:7%	1mm:数値	強	中	SD403付近
395	ME42	26	22	14.4	19.600	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	—	強	中	SD403付近
396	MC40	28	25	7.2	18.196	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~5mm:10%	1mm:数値	強	中	盛土上
397	MD42	23	12	11.8	20.217	0YR2/3	黒褐色	シルト質	1~5mm:3%	2mm:数値	強	中	盛土上
398	MC40-41	23	22	5.5	18.622	0YR6/3	暗褐色	シルト質	5mm:5%	—	中	中	盛土上
399	MC40	47	29	14.2	18.035	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:10%	1mm:1%	強	中	盛土上
400	MC40	34	21	13.1	18.006	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%	1mm:数値	強	中	盛土上
404	MP-MG41	86	82	51.9	17.809	1:0YR4/3 2:0YR6/2 3:0YR6/2	1:にぶい黄褐色 2:黒褐色 3:黒褐色	全て シルト質	1.5mm:10% 2:10~40mm:25% 3:10~30mm:15%	1.5mm:1% 3:1	1-中 2-強 3-強	全て中	SB450 (P6)
405	MG41	87	85	73.4	17.420	1:0YR6/3 2:0YR6/2	1:暗褐色 2:黒褐色	全て シルト質	1.5~10mm:5% 2:10~30mm:30%	1.5mm:3%	1-中 2-強	全て中	SB450 (P5)
406	MH41	108	80	98.8	17.008	1:0YR6/3 2:0YR6/2 3:0YR6/2	1:暗褐色 2:黒褐色 3:黒褐色	全て シルト質	1.2~30mm:5% 2:10mm:1%	—	1-強 2-中 3-強	全て中	SB450 (P4)
407	MD41	26	21	18.2	20.111	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:3%	2mm:数値	中	中	—
408	MD41	20	19	18.1	19.950	0YR6/3	暗褐色	シルト質	10mm:5%	—	中	中	—
409	MD42	25	20	22.3	19.966	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~10mm:10%	1mm:数値	強	中	—
410	MD-ME42	18	18	17.2	19.878	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	中	中	—
411	ME42	25	20	31.9	19.569	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	中	中	—
412	ME42	16	14	10.8	19.552	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	中	中	—
413	ME42	22	20	24.0	19.280	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2mm:3%	—	中	中	—
414	ME42	23	17	29.0	19.220	0YR6/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:15%	—	中	中	—
415	ME42	28	18	24.9	19.330	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:10%	—	中	中	—
416	MD41	20	19	20.5	19.840	0YR6/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:7%	1mm:数値	強	中	—
417	MD41	28	24	28.1	19.659	0YR6/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:5%	1mm:数値	強	中	—
418	MD41	21	20	18.4	19.715	0YR6/3	暗褐色	シルト質	10mm:15%	—	中	中	—
419	ME41	23	22	20.3	18.452	0YR6/4	暗褐色	シルト質	2~5mm:7%	1mm:1%	中	中	—
420	MP-MH41	30	30	13.1	18.353	0YR6/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:20%	—	強	中	—
421	MF41	40	35	21.6	18.260	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~10mm:15%	—	強	中	—
422	MF41	33	25	16.6	18.248	0YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10mm:10%	—	中	中	—

第7表 柱穴様ビット一覧(6)

No	グリッド	規格 (cm)		最高標高 (m)	土 色	土 質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘 性	備 考 (遺物・土師・遺構・内など)	
		外径	内径									
423	MF41-42	25	22	18.223	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:10%	—	中	中	
424	MG40-41	34	31	17.834	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:25%	2mm:微量	中	中	
425	MG41	30	27	17.868	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:30%	—	強	中	
426	MG40-41	58	46	22.3	17.906	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:40%	—	中	中
427	MG-MH01	50	43	29.2	17.616	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~10mm:40%	1~10mm:7%	強	中
428	MC42-43	30	25	17.7	20.564	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	強	中
429	MC42	29	19	16.5	20.640	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:15%	—	中	中
430	MC42	24	23	24.1	20.532	10YR4/3	暗褐色	シルト質	10mm以下:40%	1mm:微量	中	中
431	MC42	29	22	17.8	20.389	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	1mm以下:微量	強	中
432	MC42-43	40	39	18.4	20.550	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~10mm:10%	1mm:微量	中	中
433	MB43	32	31	25.7	20.632	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:10%	1mm:1%	強	中
434	MC42	23	22	18.0	20.655	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:10%	—	強	中
435	MC42	25	21	8.8	20.591	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:15%	5mm:1%	強	中
436	MG42	24	23	16.7	20.170	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1mm:1%	1mm:微量	中	中
439	MD43	30	30	37.0	21.564	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:5%	—	弱	中
440	MC43	55	51	21.6	20.035	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:7%	—	弱	中
441	MD42	45	24	16.0	20.214	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:3%	1mm:1%	強	中
442	MH40	38	35	44.0	16.670	10YR3/3	暗褐色	シルト質	10mm:7%	1mm:微量	中	中
443	MG40	36	32	17.6	17.698	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:5%	—	中	中
444	MG40	46	35	17.2	17.726	10YR4/4	暗褐色	シルト質	10mm:20%	—	強	中
445	MD42	21	20	15.6	19.011	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:7%	1mm:1%	強	中
446	MG-MH01	38	26	17.0	17.216	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:7%	—	中	中
447	MG42	76	66	53.6	17.595	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:10%	2mm:1%	中	中
448	MH41-42	77	62	33.3	17.206	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:10%	1~3mm:1%	強	中
449	MH41	59	55	58.1	16.762	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~20mm:15%	—	強	中
451	ME40	50	48	19.9	18.462	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:10%	1mm:1%	弱	中
452	ME40	30	28	21.7	18.460	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	5mm:1%	弱	中
453	MG40	35	31	17.1	17.201	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:15%	1mm:1%	中	中
455	ME39	32	30	35.5	18.288	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:10%	—	強	中
456	MF39	32	26	23.1	17.997	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:10%	—	中	中
457	MG39	51	36	48.4	17.272	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2mm:3%	5mm:1%	強	中
458	MG39	40	37	33.1	17.472	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2mm:1%	2mm:5%	中	中
459	MG39	38	35	22.4	17.612	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:10%	1mm:3%	中	中
460	MF39	34	33	25.8	17.679	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:2%	1~10mm:10%	中	中
462	MF39	42	36	13.3	17.849	10YR2/3	黒褐色	シルト質	2~5mm:3%	2mm:7%	強	中
463	MF39	36	30	10.1	17.943	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:7%	1mm:1%	中	中
464	ME-MF39	57	48	86.1	17.225	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:3%	—	強	中
465	ME-MF39	70	53	11.9	17.955	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:10%	2mm:1%	中	中
466	ME39	33	31	33.3	18.291	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5mm:3%	1mm:1%	中	中
467	ME40	23	21	36.1	18.121	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	中
468	MF40	35	28	11.2	18.033	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	中	中
469	MG40	42	28	32.4	17.327	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:15%	1mm:1%	中	中
470	ME38	23	23	15.7	17.988	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:20%	—	強	中
471	MF38	30	29	11.1	17.922	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:10%	—	強	中
472	MF38	31	26	14.3	17.867	10YR3/3	暗褐色	シルト質	10mm:5%	—	中	中
473	MF38	33	30	19.0	17.815	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	—	中	中
474	MG38	41	33	19.6	17.495	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5mm:7%	—	強	中
475	ME38	35	34	8.2	17.930	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:15%	1mm:1%	強	中
476	ME39	26	22	8.4	18.438	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2mm:3%	—	中	中
480	ME38	20	18	11.2	18.429	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:20%	2mm:1%	中	中
481	MD38	22	17	11.9	18.477	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~20mm:40%	1mm:1%	強	中
482	MD38	19	18	8.8	18.494	10YR3/3	暗褐色	シルト質	10mm:10%	—	強	中
483	ME38	25	24	34.5	18.024	10YR2/2	黒褐色	シルト質	2~10mm:2%	2mm:1%	中	中
484	MD37-38 ME37-38	31	21	46.9	18.014	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	1mm:1%	強	中
485	ME38	20	17	19.8	18.271	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	強	中
486	ME38	17	15	14.7	18.274	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2mm:3%	2mm:1%	中	中
487	ME38	25	7.2	18.056	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2mm:1%	1mm:1%	中	中	
488	MD-MF37	27	26.4	18.217	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:20%	—	強	中	
489	MD38	17	16	30.7	18.333	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1mm:2%	1mm:1%	強	中
490	MD38	15	13	11.5	18.458	10YR4/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:3%	1mm:1%	強	中
491	ME36	23	22	10.3	18.106	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	1mm:1%	強	中
492	ME35	22	20	16.9	18.210	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5mm:2%	1mm:1%	中	中
493	ME35	19	17	21.3	18.200	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	中
494	ME35	24	19	23.3	18.174	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2mm:1%	—	弱	中
495	ME35	20	19	25.0	18.094	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	中	中
496	MF35	42	26	42.0	17.868	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2mm:2%	1mm:1%	弱	中
497	MF35	24	23	32.7	17.909	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	中	中
498	MF35	18	17	16.4	17.952	10YR2/3	黒褐色	シルト質	2~10mm:3%	—	中	中
499	ME-MF35	25	20	20.0	18.143	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	中
500	ME35	28	28	19.1	18.257	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:10%	—	中	中
501	ME-MF36	27	23	22.9	27.585	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~10mm:2%	—	中	中
502	ML22	38	37	22.6	26.290	10YR4/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	1~5mm:1%	中	中
503	MM21	27	12	17.6	27.911	10YR3/4	暗褐色	シルト質	—	—	強	中

第8表 柱穴様ビット一覧(7)

No.	グリッド	規模 (cm)		発見階高 (m)	土色	土質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・灰土面・遺構内など)			
		長径	短径・深さ											
504	MQ27-28	25	25	15.8	22.383	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~5mm:3%	1mm:1%	強	中	中	
505	MQ27	23	21	18.2	22.382	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	2~5mm:5%	2mm:1%	強	中	中	
506	MQ26	20	19	25.7	22.403	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:40%	—	弱	中	中	
507	MQ27	38	33	50.0	22.082	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	中	中	中	
508	MP25	26	20	50.1	23.100	10YR3/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:7%	1mm:1%	強	中	中	SD610付近
509	MQ25	27	26	16.2	23.274	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:3%	—	強	中	中	
511	MO27	18	16	19.0	21.515	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	2mm:1%	強	中	中	
512	MP25-26	42	37	25.3	23.141	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	—	中	中	中	SD610付近
515	MO30	24	23	15.8	20.550	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	10mm:3%	1mm:1%	弱	中	弱	
516	MO30	31	21	11.7	20.063	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	10~20mm:5%	2mm:1%	強	中	中	
517	MP90	26	22	21.2	21.723	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	10~20mm:20%	1mm:1%	強	中	中	
518	MP28	25	23	12.0	22.044	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	10mm:2%	—	強	中	中	
520	MQ28	24	22	38.7	22.036	10YR4/4	褐色	シルト質	—	—	強	中	中	
521	MQ28	24	29	35.8	22.321	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	強	中	中	盛土上
522	MP26	24	22	21.9	22.353	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:2%	—	強	中	弱	盛土上
523	MN28	27	22	36.0	20.930	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	—	強	中	中	
524	MP26-27	31	27	20.1	22.471	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	強	中	中	盛土上
525	MP26	26	25	15.5	22.607	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	強	中	中	盛土上
526	MP26	18	11	12.6	22.827	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1mm:1%	—	強	中	中	
529	MO29	60	43	50.2	21.129	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1mm:1%	—	強	中	中	柱根あり
530	MO26	23	23	38.0	22.800	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	強	中	中	
531	ML31	14	14	39.0	19.058	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:3%	—	強	中	中	
532	MQ32-33	22	21	17.0	21.490	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:3%	—	強	中	中	
533	MQ33	26	22	9.4	21.310	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:2%	—	強	中	中	
535	MN-MO37	61	28	48.3	21.389	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	—	強	中	中	
536	MO28	39	23	51.8	20.731	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	—	強	中	中	
537	MM33	23	21	10.6	18.427	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1mm:1%	—	強	中	中	
538	MP37	41	35	74.8	16.793	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~5mm:1%	弱	中	弱	SB550(P3)
539	MP36	43	42	107.1	17.213	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1mm:1%	1mm前後:1%	弱	中	弱	SB550(P3)
540	MO35	27	17	51.0	17.816	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~30mm:15%	—	弱	中	弱	SD547・548付近
541	MQ31	30	27	7.4	21.697	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	—	強	中	中	SK327付近
542	MN31	38	35	35.0	18.773	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~20mm:20%	1~5mm:1%	強	中	強	盛土上
543	MP37	63	56	115.8	16.892	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	強	中	強	SB550(P2)
544	MP36	47	37	59.2	17.905	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~2mm:1%	—	強	中	強	SB550(P3)
545	MQ37	83	53	83.5	17.000	11YR4/3 210YR4/3 810YR4/4 4暗褐色 810YR6/4 610YR3/4	1におい黄褐色 2におい黄褐色 3暗褐色 4暗褐色 5におい黄褐色 6におい黄褐色	1~4.6: シルト質 5砂質	1:1~5mm:1% 2:1~5mm:1% 3:1~20mm:1% 4:1~10mm:7% 6:1~30mm:3%	1:1~5mm:1% 2:1~5mm:1%	2:かかろり弱 3:かかろり弱 4:弱 5:弱 6:中	1~3,5,6 2:柱根上 4:裏込土 5:裏込土 6:裏込土		
546	MQ36	60	42	104.8	17.920	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1mm:1%	—	強	中	中	SB550(P4)
549	MM33	30	23	20.5	18.344	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~2mm:1%	2mm:1%	強	中	中	
551	MM33	30	26	35.8	18.008	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3~40mm:3%	1~20mm:1%	強	中	中	盛土上
552	MN32	25	19	33.0	18.664	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:1%	—	強	中	中	SD547・548付近
553	MN33	21	20	41.5	18.277	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:15%	1~5mm:1%	強	中	中	盛土上
554	MN34	21	20	15.3	17.910	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~30mm:10%	—	強	中	中	盛土上
555	MM31	30	25	12.1	18.744	10YR4/4	褐色	シルト質	1~20mm:5%	2mm:1%	強	中	中	盛土上
556	MN33	24	23	20.2	18.630	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	強	中	中	SD547・548付近
557	MM32	34	31	31.2	18.561	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:20%	3mm:1%	強	中	中	
558	MM32	29	25	8.5	18.478	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	2~10mm:10%	1mm:2%	かなり強	中	中	盛土上
560	MM34	27	21	6.1	17.815	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~30mm:30%	—	強	中	中	
561	MM34	20	17	15.2	17.538	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	3~10mm:15%	1mm:1%	強	中	中	盛土上
562	MO34	30	24	25.0	18.035	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%	—	強	中	中	SD547・548付近
563	MO32	22	18	24.3	19.832	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	—	1~10mm:1%	強	中	中	SD559付近
564	MO32	23	19	27.0	18.896	10YR4/4	褐色	粘土質	—	—	強	中	中	SD547・548付近
565	MP35	22	18	33.3	18.288	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~10mm:1%	—	強	中	中	SD547・548付近
566	MM32	23	21	15.3	19.228	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~10mm:2%	—	強	中	中	盛土上
567	MO31	27	26	84.0	19.236	10YR4/4	暗褐色	シルト質	—	—	強	中	中	SD559付近
601	ME36	46	37	11.4	18.261	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:20%	2mm:1%	強	中	中	SD478付近
602	ME36	55	34	22.6	18.120	10YR4/4	褐色	シルト質	1~10mm:5%	2mm:1%	強	中	中	SD478付近
604	ME36	26	24	21.9	18.158	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:5%	1mm:1%	強	中	中	SD478付近
605	MP36	40	36	9.5	17.981	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	1mm:1%	強	中	中	SD478付近,SK633
606	ME33	30	26	16.7	18.489	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:7%	1mm:1%	強	中	中	
607	ME33	29	23	14.6	18.478	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	2~5mm:7%	2mm:1%	強	中	中	
608	MF33	32	31	15.0	17.650	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:7%	1mm:1%	強	中	中	
609	MF33	37	31	60.2	17.492	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2mm:3%	—	強	中	中	
610	ME36	29	28	25.7	18.272	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	1mm:1%	強	中	中	SD478内
611	MG40	26	23	26.9	17.470	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	2mm:1%	強	中	中	SD3399付近,盛土上
612	ME38	20	16	5.8	17.955	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:5%	—	強	中	中	SD479
613	ME35	26	25	11.2	17.888	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:7%	—	強	中	中	SD478付近
614	MG33	24	22	20.6	17.363	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	1~5mm:2%	—	強	中	中	SD620付近
615	MG32	28	24	17.7	17.354	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5mm:2%	2mm:1%	強	中	中	SD319付近
616	MG32	45	37	43.0	17.041	10YR4/3	におい黄褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	中	中	SD619付近

第9表 柱穴様ビット一覧(8)

No.	グリッド	規模 (cm)		掘削深さ (m)	土色	土質	地山土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・遺構・遺跡など)			
		長径	短径											
617	MG32	48	27	17.109	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5%	5~5%	強	中	SD478付近		
618	MG32	28	10	17.309	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5~5%	—	強	中	SD478付近		
621	MF35	24	21	18.6	17.243	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~2%	—	強	中	SD478付近	
622	MG39	37	26	17.1	16.976	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~7%	1~1%	強	中	SD359付近	
623	MG39	26	19	5.2	16.998	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~7%	1~1%	強	中	SD359付近	
624	MG38	17	14	4.0	17.095	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5%	1~1%	強	中	SD359付近	
625	MG38	30	14	11.3	17.051	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~7%	1~1%	強	中	SD359付近	
626	MG39	32	27	33.4	17.015	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~5%	—	強	中	SD359付近	
627	MG39	31	29	38.8	17.017	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5~7%	1~1%	強	中	SD359付近	
628	MH39	35	29	20.2	16.965	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~5~1%	—	強	中	SD359付近	
629	MG+MH39	42	41	26.6	16.874	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5~1%	2~2%	強	中	SD359付近, SD359	
630	ME36	26	23	29.1	17.914	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5~3%	1~1%	強	中	SD478付近	
631	MF36	31	21	16.7	18.050	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10~7%	1~5~2%	強	中	SD478付近	
632	MF36	26	25	15.1	17.874	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5~3%	1~1%	強	中	SD478付近	
634	MG32	27	21	14.5	16.750	10YR4/4	褐色	シルト質	1~10~3%	1~5~1%	強	中	SD478付近	
635	MG32	30	28	16.2	16.795	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10~20%	—	強	中	SD478付近	
636	MG31	23	18	11.2	16.945	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~2%	—	強	中	SD478付近	
637	MG31	25	24	14.0	16.880	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10~5%	—	強	中	SD478付近	
638	MG31	18	15	12.9	16.997	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5%	—	強	中	SD478付近	
639	MF40	21	19	11.0	17.231	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~1%	1~1%	強	中	SD359付近	
640	MG40	46	36	13.7	17.580	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5~10%	—	強	中	SD359付近, 盛土上	
641	MG40	46	39	10.0	17.517	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~5~3%	—	強	中	SD359付近, 盛土上	
642	MG40	15	14	22.2	17.422	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~5~10%	1~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
643	MF39	27	22	20.8	17.738	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~10~2%	2~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
644	MF38	22	21	26.9	17.446	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~5~1%	1~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
645	MF38	35	24	20.6	17.435	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10~3%	1~3~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
646	MF38	22	18	23.0	16.463	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10~5%	1~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
647	MF38	26	20	8.8	16.651	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10~10%	1~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
648	MG38	21	19	20.7	17.833	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~10~3%	—	強	中	SD359付近, 盛土上	
649	MG39	30	29	18.1	17.359	10YR2/2	黒褐色	シルト質	10~10%	1~2~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
650	MG39	33	29	25.7	17.421	10YR2/2	黒褐色	シルト質	10~1%	5~2%	強	中	SD359付近, 盛土上	
651	MF38	35	29	14.2	16.665	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5~20%	—	強	中	SD359付近, 盛土上	
652	MF39	25	22	50.7	17.469	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10~1%	2~1%	強	中	SD359付近, 盛土上	
653	MF36	31	20	30.6	16.949	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5~7%	5~5%	強	中	SD359付近	
654	MF+MG35	23	22	14.7	16.519	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~10%	5~1%	強	中	SD359付近	
656	ME42	22	14	16.4	18.841	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10~40%	1~1%	強	弱	中	SD403内
700	K773	34	33	10.1	27.106	10YR4/4	褐色	シルト質	10~10%	—	強	強	—	
701	K773	31	30	19.9	26.915	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10~5%	—	強	強	—	
702	LA73	36	29	21.0	26.628	10YR3/3	暗褐色	シルト質	10~20~10%	—	強	強	—	
703	LA73	33	29	26.2	26.504	10YR4/4	褐色	シルト質	—	—	強	強	—	
704	LB73	22	21	7.8	26.474	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10~3%	2~1%	強	強	—	
705	LC72	31	28	9.5	25.497	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	—	1~1%	強	強	—	
706	LD+LC71	35	34	11.9	25.856	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~30%	—	強	強	—	
707	LD73	30	30	12.2	25.255	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~10~3%	—	強	強	—	
708	LD72+79	42	40	22.3	24.759	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10~3%	—	強	強	—	
709	LD71	29	24	9.9	24.820	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5~3%	2~1%	強	中	—	
710	LE70	27	25	26.8	23.930	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3~5~3%	5~5%	強	中	—	
711	LE70	22	20	32.8	23.910	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10~3%	5~1%	強	中	—	
712	LE70	25	23	30.2	24.000	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10~2%	5~1%	強	中	—	
713	LD72	26	22	24.7	24.360	10YR4/4	暗褐色	シルト質	3~5~2%	1~5~1%	強	中	—	
714	LD71+72	34	29	9.6	24.493	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10~3%	1~5~1%	強	中	—	
718	LE+LF73	22	20	12.1	25.979	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~10~2%	3~1%	強	中	—	
719	LF73	35	29	18.1	26.000	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5~1%	3~1%	強	中	—	
720	LF73	23	22	14.4	26.082	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5~2%	3~5~1%	強	中	—	
721	LF72	20	19	12.2	24.699	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~10~2%	1~3~1%	強	中	—	
722	LG72	16	14	24.2	24.699	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~10~2%	2~3~1%	強	中	—	
723	LF72	18	13	9.3	23.854	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~10~2%	2~5~1%	強	中	—	
724	LF72	29	16	24.225	24.225	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~1%	—	強	中	—	
725	LF72	35	30	21.9	24.330	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10~2%	2~5~1%	強	中	柱頭あり	
726	LG71	22	22	12.2	24.631	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5~1%	1~2~1%	強	中	—	
727	LG71	22	17	27.4	24.754	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~3~1%	—	強	中	—	
728	LG71	19	18	16.2	24.506	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10~2%	3~5~1%	強	中	—	
729	LG71	26	25	18.9	24.506	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~10~2%	5~1%	強	中	—	
730	LD72	39	31	24.8	24.751	10YR4/4	褐色	シルト質	3~5~2%	1~2~1%	かなり強	強	柱頭あり	
731	LG71	25	19	9.1	24.316	10YR4/4	褐色	シルト質	3~5~2%	1~3~1%	強	中	—	
732	LG70	18	16	12.6	24.115	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~2%	1~5~1%	強	弱	<SKP733	
733	LG70	24	17	8.9	24.127	10YR3/4	暗褐色	シルト質	3~5~2%	1~5~1%	強	弱	<SKP732	
734	LG70	20	19	19.1	24.125	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~20~2%	1~3~1%	強	弱	—	
735	LG71	23	21	14.1	24.233	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10~5%	—	強	弱	—	
736	LH70+71	22	19	16.8	24.639	10YR4/4	褐色	シルト質	1~10~3%	—	強	弱	—	
737	LG70	20	18	13.3	24.833	10YR4/4	褐色	シルト質	1~20~1%	1~5~1%	強	弱	—	
738	LG70	28	24	16.0	23.967	10YR4/4	褐色	シルト質	2~20~3%	1~5~1%	強	弱	—	
739	LG70	27	26	32.5	23.754	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~20~3%	1~5~1%	強	弱	—	
740	LE72	24	22	19.8	24.036	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~10~2%	1~5~1%	強	中	—	

第10表 柱穴様ビット一覧(9)

No.	グリッド	規格 (cm)		縦糸径 (mm)	土 色	土 質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘 性	備 考 (遺物・異出箇・遺構内など)		
		長径	短径										
741	LG71	22	19	11.3	24.506	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:1%	1~3mm:1%	中	中	
744	LG70	27	24	22.3	24.164	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~5mm:1%	1~3mm:1%	強	弱	
745	LH72	22	19	9.6	25.471	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10mm:3%	—	強	弱	
746	LH72	16	15	12.4	25.476	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:2%	—	中	強	
747	LH72	31	28	15.2	25.992	10YR4/4	褐色	シルト質	3~10mm:5%	—	強	強	
748	LH72	17	16	12.9	25.541	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	強	
749	LG71	21	19	12.5	24.268	10YR3/4	暗褐色	シルト質	10~20mm:7%	—	中	強	
750	LH71	28	23	22.7	24.888	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~3mm:1%	1~5mm:2%	中	中	
751	LH70	21	19	13.3	24.318	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:10%	1~5mm:1%	強	中	
752	LG69+70	22	18	18.8	23.857	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:2%	1~5mm:1%	中	中	
753	LG70	25	23	9.5	24.106	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	強	中	
754	LH72	24	18	16.0	25.894	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~10mm:3%	—	中	中	
755	LP71	24	23	8.9	24.187	—	—	—	—	—	—	—	
756	LG70	22	19	7.7	23.952	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10mm:3%	1~3mm:1%	強	弱	
757	LG70	12	11	12.3	23.774	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~5mm:1%	強	中	
758	LG70	18	16	15.9	23.697	10YR4/4	褐色	シルト質	1~10mm:3%	1~5mm:2%	中	弱	
761	LH70	22	18	18.3	24.472	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:1%	1~3mm:1%	中	中	
762	LP70	34	21	19.6	23.401	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:1%	1~2mm:1%	中	強	
763	LP70	25	16	19.6	23.509	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10mm:2%	1~3mm:1%	強	中	
764	LP70	39	38	16.0	23.417	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:2%	2~3mm:1%	強	中	
765	LP70	47	46	16.1	23.405	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~7mm:1%	1~3mm:1%	強	強	
766	LP70	27	26	0.3	23.326	—	—	—	—	—	—	—	
767	LP70	22	18	17.4	23.457	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5mm:3%	1~3mm:1%	中	中	
768	LP70	19	15	10.2	23.645	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:2%	1~3mm:1%	中	中	
772	LB99	22	20	20.6	23.450	10YR2/2	黒褐色	シルト質	2~10mm:2%	—	中	強	
773	LB99	20	18	10.0	23.524	10YR3/3	暗褐色	シルト質	10~15mm:10%	—	中	強	
775	LH72	16	15	10.5	25.169	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10mm:5%	—	中	中	
776	LB99	55	49	31.0	23.456	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~5mm:3%	1~2mm:1%	中/強	中	
777	LB98	30	25	17.9	23.858	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10mm:3%	—	強	弱	
778	LD+LB98	24	21	15.7	23.616	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	弱	
779	LB98	30	25	16.6	23.586	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:2%	5mm:1%	中	強	
780	LH71	29	27	25.3	24.883	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	1~5mm:1%	中	強	
783	LP94+95	32	29	28.7	22.110	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:2%	—	強	強	
784	LG64	19	18	18.1	21.867	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:2%	—	強	弱	
785	LG64	20	16	16.5	21.779	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:5%	2~5mm:1%	強	弱	
786	LE70	35	28	32.0	23.770	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10mm:3%	3~5mm:3%	強	中	
787	LE70	24	23	21.6	23.911	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:3%	5mm:5%	強	中	
788	LH71	17	16	14.4	25.211	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:5%	—	弱	中	
789	LG70	16	15	12.1	24.101	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:1%	2~3mm:1%	強	中	
796	LE70	24	19	12.6	23.796	—	—	—	—	—	—	—	
801	MA55	20	16	21.9	19.835	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5mm:1%	1~3mm:1%	弱	強	
802	MA55	22	19	16.1	19.735	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:1%	1~3mm:1%	弱	強	
803	MA55	23	20	13.4	19.847	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:13%	—	1~2mm:1%	強	中
804	MA55	23	20	12.2	19.706	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:2%	—	強	中	
805	MA-MH55	28	25	13.5	19.510	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:1%	5mm:1%	中	中	
806	MA55	37	24	12.9	19.612	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:1%	—	中	中	
807	MA55	20	17	10.6	19.541	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:2%	—	中	中	
808	MA55	21	15	16.0	19.525	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:1%	—	中	中	
809	MA55	30	20	16.2	19.477	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:1%	3~5mm:1%	中	中	
810	MA55	26	24	17.0	19.397	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:1%	1~2mm:1%	強	中	
811	MA55	27	21	17.6	19.532	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:1%	1~2mm:1%	中	中	
812	MA55	52	24	31.3	19.580	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:1%	1~5mm:1%	強	中	
813	MB54	19	18	8.7	19.165	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~12mm:2%	—	中	中	
814	MA54	22	21	14.7	19.157	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3mm:1%	1~2mm:1%	中	中	
815	MA54	23	21	11.2	19.260	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:1%	2~3mm:1%	中	中	
816	LT65	20	19	17.8	19.697	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:1%	—	中	—	
817	LT65	23	20	18.4	19.858	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:2%	10mm:1%	中	—	
818	LL65	29	28	5.0	25.178	10YR2/2	黒褐色	シルト質	2~10mm:7%	10mm:1%	中	中	
819	LL66	42	36	8.0	24.608	10YR3/2	暗褐色	シルト質	1~7mm:3%	—	中	中	
820	LL+LM66	44	32	12.0	24.575	10YR3/2	暗褐色	シルト質	1~20mm:15%	—	中	強	
821	LK67	38	23	18.0	24.380	7.5YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:5%	1~3mm:1%	中	中	
822	LK67	22	21	11.0	24.324	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~10mm:1%	強	強	
823	LB67	25	23	19.0	24.309	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~3mm:1%	中	強	
824	LB67	26	22	23.0	24.077	10YR4/4	褐色	シルト質	5~20mm:10%	2~5mm:1%	強	中	
825	LM66	24	16	13.0	24.517	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:2%	—	強	弱	
826	LM66	26	25	23.0	24.478	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:5%	2~5mm:1%	中	強	
827	LM66	25	16	14.0	24.500	10YR4/4	褐色	シルト質	1~3mm:2%	5~20mm:3%	強	弱	
829	LL+LM66	30	22	15.0	24.485	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~2mm:1%	1~2mm:1%	中	強	
830	LL67	22	20	12.0	24.654	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~3mm:3%	2~3mm:3%	中	強	
831	LR66	25	5.0	24.260	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:1%	—	強	弱		
832	LR66	37	30	7.0	24.260	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	3~10mm:3%	—	強	弱	
833	LL65	35	32	9.0	24.294	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:2%	—	強	弱	
834	LL65	25	22	5.0	24.294	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~5mm:5%	1~3mm:1%	強	弱	
837	LM65	48	46	7.0	24.334	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	2~5mm:3%	強	中	

第11表 柱穴様ビット一覧 (10)

No.	グリッド	間隔 (cm)		掘削深さ (m)	掘削径 (mm)	土 色	土 質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘 性	備 考 (遺物・炭化物・遺構内など)	
		長	短										
839	LG7	54	36	20.0	24.133	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:5%	1~2mm:1%	中	中	>SD800+851
840	LG66	20	18	10.0	24.156	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~5mm:20%	1~2mm:1%	中	中	SD800付着
841	LG66	30	28	7.0	24.157	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:2%	1~2mm:1%	中	中	SD800付着
844	LG66	30	29	29.0	24.333	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~10mm:5%	1~2mm:1%	中	強	SD800付着
845	LG66	35	23	12.0	24.134	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~20mm:5%	1~2mm:1%	中	中	SB1150(P3)
846	LG66	46	26	7.0	24.277	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10mm:1%	1~2mm:1%	中	中	SD800付着、SD848
847	LL-M665	32	24	7.0	24.440	10YR4/4	褐色	シルト質	5~10mm:1%	1~2mm:1%	中	中	SD800付着、SD848
849	LM65	20	15.0	14.420	10YR2/3	黒褐色	シルト質	5~10mm:3%	5~10mm:7%	中	中	SD800付着、土層転接点	
852	LG69	19	16	11.1	23.655	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~2mm:1%	中	中	
853	LG69	28	20	9.2	23.674	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	5mm:1%	中	中	
854	LG68	32	24	18.2	23.412	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	5mm:1%	中	中	
855	LG68	23	20	17.3	23.482	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	5mm:1%	中	中	
856	LG65	23	20	12.0	24.187	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~10mm:10%	1mm:1%	中	中	SD800付着、土層転接点
858	LN65	21	21	3.9	24.575	10YR2/2	黒褐色	シルト質	3~10mm:3%	1~2mm:2%	中	中	SD800付着
859	LM-L564	22	21	7.6	23.530	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	3~5mm:2%	5mm:1%	中	強	SD800付着
860	LD68	22	18	16.1	23.287	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	中	強	
861	LG69	20	15	19.5	23.182	10YR2/2	黒褐色	シルト質	2~15mm:7%	—	強	強	
862	LG69	21	20	16.7	23.060	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~5mm:3%	1~2mm:1%	強	強	
863	LD69	46	26	25.7	23.664	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	強	
864	LD69	53	34	37.5	23.450	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:5%	1mm:1%	強	中	
865	LD69	21	18	13.5	23.439	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~10mm:7%	—	中	中	
866	LG68	22	21	15.9	22.516	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~15mm:5%	1~2mm:1%	強	強	
867	LP66	27	18	21.2	21.924	10YR2/3	黒褐色	シルト質	1~2mm:3%	—	中	弱	SN集巾域付着
869	LP66	26	25	16.4	22.691	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:5%	1mm:1%	中	弱	SN集巾域付着
870	LP65	23	21	16.8	22.488	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~15mm:3%	3mm:1%	強	弱	SN集巾域付着
871	LP65	22	20	14.2	22.472	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~20mm:10%	2~3mm:2%	強	弱	SN集巾域付着
874	LP65	45	32	17.4	21.888	10YR2/2	黒褐色	シルト質	5~10mm:5%	5~20mm:5%	中	中	SN集巾域付着、>SN876
875	LP65	23	19	9.0	21.909	10YR2/2	黒褐色	シルト質	3~5mm:3%	1~2mm:1%	中	中	SN集巾域付着、>SKP879
877	LP65	22	19	12.6	21.939	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:2%	1~2mm:3%	中	中	SN集巾域付着、>SKP875
878	LG65	37	35	—	—	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:3%	5~20mm:7%	強	中	SN集巾域付着
879	LG64	32	23	9.7	21.966	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	—	強	中	>SKP880
880	LG64	30	21	30.7	21.817	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~7mm:3%	—	中	中	>SKP879
882	LG63	30	24	14.3	21.586	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:2%	1~2mm:1%	強	中	SN集巾域付着
883	LG62	28	19	13.2	21.345	10YR4/4	暗褐色	シルト質	—	1~2mm:1%	強	中	SN集巾域付着
884	LH59	30	26	11.7	20.250	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:1%	1~2mm:1%	強	弱	
885	LH59	22	20	10.7	20.193	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:1%	1~2mm:1%	強	弱	
886	LH58	20	18	8.6	20.077	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:1%	—	強	中	
887	LH58	29	25	19.9	19.845	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:2%	1~2mm:1%	強	中	
888	LH58	48	34	18.9	19.897	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:1%	3~3mm:1%	強	中	
889	LH58	32	26	18.3	19.822	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~2mm:1%	強	中	
890	LH59	21	20	17.6	19.734	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	1~2mm:1%	強	中	
891	LH57	34	30	43.2	19.461	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~12mm:3%	2~5mm:1%	強	中	
892	LH56+57	25	24	27.5	19.560	10YR3/3	暗褐色	シルト質	10mm:1%	1~2mm:1%	強	中	
893	LH56	24	23	23.1	19.600	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~7mm:1%	1~2mm:1%	強	中	>SKP883
895	LH59	21	19	16.5	20.082	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:2%	1~2mm:1%	強	弱	>SKP882、石膏剥片点
896	LH59	23	22	11.9	19.900	10YR4/4	褐色	シルト質	1~2mm:2%	1~2mm:1%	強	弱	
897	LH59	25	17	10.4	19.856	10YR4/4	褐色	シルト質	1~2mm:3%	1mm:1%	強	弱	
898	LH59	19	11	17.0	19.895	10YR4/4	褐色	シルト質	1~2mm:2%	—	強	弱	
899	LH58	24	21	19.1	19.680	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~15mm:2%	—	強	弱	
900	LH57	23	22	34.9	19.309	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~2mm:2%	1~2mm:1%	強	弱	
902	LH56	57	42	18.5	20.097	—	—	—	—	—	中	中	
903	LH56	25	20	22.2	20.072	—	—	—	—	—	中	中	
904	LH55	24	23	19.9	19.664	—	—	—	—	—	中	中	
905	LH55	20	19	11.2	19.708	—	—	—	—	—	中	中	
906	LH56	32	26	18.0	19.778	—	—	—	—	—	中	中	
907	LH55	20	14	18.3	19.958	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:5%	1~2mm:1%	強	弱	
908	LH55+56	25	22	9.8	19.847	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:3%	1~2mm:2%	中	中	
909	LH55	27	17	17.3	20.038	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~10mm:5%	1~2mm:1%	強	弱	
910	LH56	31	27	16.6	19.921	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:7%	1~2mm:1%	強	弱	
914	LI-L151	32	29	13.6	20.154	10YR4/3	暗褐色	シルト質	5~20mm:20%	—	弱	中弱	>SP945
918	LM59	37	22	18.7	21.165	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	塊状小<1%	1~2mm:1%	強	中	
919	LM59	42	36	12.7	21.389	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	1~2mm:1%	強	強	盛土上、土層転接点
921	LM56	18	10	8.6	19.272	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	1~2mm:1%	強	弱	盛土上、土層転接点
922	LL57	20	16	6.0	19.765	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	1~2mm:1%	強	弱	SD942付着、盛土上
923	LL58	20	20	10.0	19.895	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	1~2mm:1%	強	強	SD942付着
924	LL58	29	24	13.4	19.919	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	1~2mm:3%	強	弱	SD942付着
925	LL58	17	17	13.0	19.883	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:5%	1~5mm:5%	強	強	SD942付着
926	LM56	30	24	9.3	19.311	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:10%、塊状	1~2mm:1%	強	弱	盛土上、土層転接点
928	LM56	23	20	12.4	19.341	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%、塊状	1~10mm:1%	強	弱	盛土上、土層転接点
931	LL57	20	19	12.0	19.353	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~2mm:20%	1~2mm:1%	強	弱	盛土上
932	LL56+57	29	30	8.8	19.318	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:40%	—	強	弱	盛土上
934	LL59	18	17	17.2	21.169	—	—	—	—	—	—	—	SW940付着

第12表 柱穴様ビット一覧 (11)

No.	グリッド	間隔 (cm)		縦糸径 (mm)	土色	土質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・異出前・遺構内など)		
		長径	短径										
935	LK-L60	22	20	15.3	21.094	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~2mm:1%	強	中	
936	LK60	22	21	9.8	20.357	10YR2/2	黒褐色	シルト質	1~10mm:30%	—	強	弱	
939	LL56-57	47	35	57.2	18.826	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	—	強	弱	盛土上
948	LG66	32	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	>SN949
951	LL57	22	20	10.9	19.696	—	—	—	—	—	—	—	
952	LL58	19	18	16.6	19.626	—	—	—	—	—	—	—	
956	LP62	33	25	23.3	25.297	10YR3/4	暗褐色	シルト質	3~10mm:7%	1~2mm:1%	強	弱	盛土上
957	LP63	22	21	12.9	25.389	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~15mm:5%	1~2mm:1%	強	弱	盛土上
958	LO63	15	12	16.3	24.696	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~30mm:7%	1~10mm:2%	強	弱	
959	LN62	37	30	19.4	24.223	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	強	強	
960	LN62	30	22	21.8	23.845	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~5mm:3%	—	強	強	
961	LP61	31	25	15.5	23.155	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~10mm:7%	—	強	弱	盛土上
962	LP61	19	16	12.3	23.182	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:7%	1~2mm:1%	強	中	盛土上
963	LP61	39	36	15.2	23.193	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~20mm:10%	1~10mm:1%	強	弱	盛土上
964	LQ61	63	53	40.9	23.542	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~10mm:3%	1~2mm:2%	中	弱	盛土上
965	LQ60+61	30	21	13.7	25.125	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~5mm:1%	1~2mm:1%	強	弱	盛土上、土師器埴2点
966	LR60	27	15	17.5	23.575	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~2mm:2%	中	強	盛土上
968	LR60	38	27	17.6	23.105	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10mm:7%	1~2mm:1%	強	弱	盛土上
969	LR60	31	30	34.4	22.851	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~5mm:7%	2~3mm:2%	強	弱	盛土上
970	LN61	37	30	15.7	23.486	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~2mm:1%	中	強	
971	LN62	48	40	34.4	23.786	10YR4/4	褐色	シルト質	2~3mm:7%	1~2mm:2%	中	中	
972	LO60	45	30	10.1	22.612	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:3%	2~3mm:2%	中	弱	盛土上
973	LO60	23	18	17.9	22.288	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~15mm:5%	2mm:1%	強	弱	盛土上
975	LO61	35	33	32.1	22.730	10YR4/4	褐色	シルト質	2~3mm:7%	1~2mm:1%	強	弱	盛土上
976	LO+LP61	21	18	20.8	23.571	10YR4/4	褐色	シルト質	2~10mm:7%	1mm:1%	強	弱	盛土上
977	LN59	19	18	13.6	21.695	10YR4/4	褐色	シルト質	2~5mm:5%	—	中	中	盛土上
978	LK60	34	25	36.0	20.255	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~2mm:1%	—	中	強	
979	LL59	29	26	15.7	21.048	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	2~10mm:2%	1~2mm:1%	強	強	SW940付近
980	LN59	19	15	17.0	21.038	10YR3/2	黒褐色	シルト質	2~15mm:3%	—	中	強	盛土上
981	LN58	11	19	5.2	20.656	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~10mm:3%	1mm:1%	強	弱	盛土上
982	LG66	30	27	20.2	22.324	10YR4/4	暗褐色	シルト質	2~5mm:1%	3~1mm:1%	中	強	SN集巾域付近
983	LG66	29	22	29.9	22.211	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	5mm:1%	中	強	SN集巾域付近
984	LG66	27	24	34.4	22.007	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:2%	5~10mm:2%	中	強	SN集巾域付近
985	LG66	25	22	34.1	21.977	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:2%	3~5mm:3%	中	強	SN集巾域付近
986	LG66	24	23	31.0	21.968	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~12mm:2%	3~5mm:1%	中	強	SN集巾域付近、<SN953
987	LP65	33	25	18.0	22.353	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5mm:3%	1~5mm:1%	中	強	SN集巾域付近
988	LP65	20	18	11.2	22.438	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5mm:2%	5~10mm:1%	中	強	SN集巾域付近
989	LP66	23	22	15.5	22.394	10YR3/4	暗褐色	シルト質	3~5mm:1%	3~5mm:1%	中	強	SN集巾域付近
995	LQ59	26	23	10.8	22.552	—	—	—	—	—	—	—	盛土上、<SKP996
996	LQ59	26	22	11.5	22.536	—	—	—	—	—	—	—	盛土上、<SKP995
997	LQ59	60	55	20.5	22.467	10YR3/3	暗褐色	—	—	5~10mm:3%	強	中	盛土上、<SKP799
998	LQ59	39	22	7.1	22.680	—	—	—	—	—	—	—	盛土上、<SKP799
999	LQ60	32	31	7.4	22.988	—	—	—	—	—	—	—	盛土上
1001	LM56	22	19	14.9	19.609	10YR3/4	暗褐色	シルト質	2~3mm:2%	1~2mm:1%	中	強	SD1099付近、盛土上
1002	LM56	30	20	18.2	18.948	10YR4/4	褐色	シルト質	2~20mm:3%	1~2mm:1%	中	強	SD1099付近、盛土上
1003	LM56	21	18	16.1	19.658	10YR4/4	褐色	シルト質	1~2mm:1%	1~5mm:1%	強	強	SD1099付近、盛土上
1004	LP61	20	17	18.6	22.894	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:5%	—	強	やや弱	盛土上
1005	LO60	22	20	14.3	22.575	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:1%	1mm:1%	強	やや弱	盛土上
1006	LO60	25	22	10.2	22.528	10YR3/2	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1mm:1%	強	やや弱	盛土上
1007	LO59	20	18	22.0	21.946	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや弱	盛土上
1008	LP60	24	21	17.6	22.551	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:3%	—	中	弱	盛土上
1009	LP60	29	19	7.5	22.163	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	弱	盛土上
1010	LP59	26	17	16.6	21.960	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	強	やや弱	盛土上
1011	LP58+59	21	17	14.6	21.851	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1mm:1%	—	強	やや弱	盛土上
1012	LP58	22	16	15.2	21.612	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	強	やや弱	盛土上
1013	LP58	21	19	16.4	21.480	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	やや弱	盛土上
1014	LP58	22	19	24.2	20.673	10YR3/2	暗褐色	シルト質	1~3mm:5%	1~3mm:1%	中	弱	盛土上、土師器埴止、南遺跡
1015	LM56	15	14.5	19.073	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1mm:1%	強	やや弱	SD1100付近、盛土上	
1016	LP58	42	39	32.5	21.286	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1mm:1%	1~5mm:1%	強	やや弱	盛土上、土師器埴43点
1017	LR59	31	28	45.3	22.704	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:2%	1mm:1%	中	強	
1018	LL59	45	20	20.4	20.414	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	1mm:1%	強	強	SW940内
1019	LR59	24	20	8.5	23.060	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:10%	—	強	強	
1020	LR59	28	27	22.6	22.882	10YR3/1	黒褐色	シルト質	1~2mm:1%	—	強	弱	盛土上
1021	LR59	21	20	17.4	22.768	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~2mm:2%	1~5mm:1%	強	やや弱	盛土上
1022	LQ59	22	18	16.5	22.668	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:1%	1mm:1%	中	弱	盛土上
1023	LQ59	22	21	11.8	22.322	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	弱	盛土上
1024	LQ59	25	20	36.8	21.965	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~3mm:1%	強	弱	盛土上
1025	LQ58	28	23	38.8	21.586	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~5mm:1%	中	やや弱	盛土上
1026	LP59	18	16	15.2	22.002	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~3mm:1%	強	やや弱	盛土上
1027	LQ56	22	15	19.1	19.841	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	やや弱	盛土上
1028	LR55	27	19	9.0	20.637	10YR3/2	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	やや弱	盛土上
1029	LQ+LR55	27	21	11.1	19.835	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	やや弱	盛土上
1030	LQ55+56	25	21	18.0	20.353	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:5%	—	中	やや強	盛土上
1032	LQ55	22	21	20.4	19.940	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:5%	—	中	やや弱	盛土上

第13表 柱穴様ビット一覧(12)

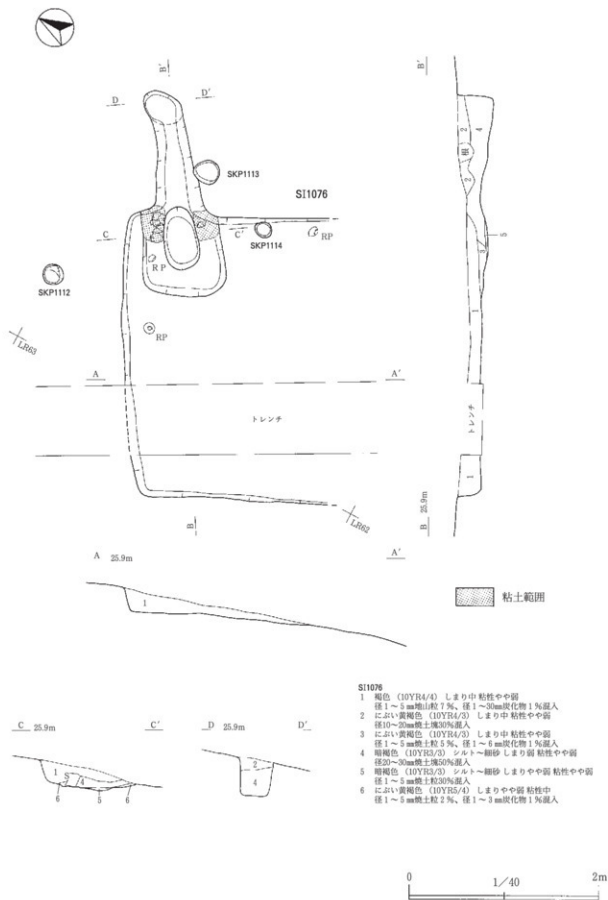
No.	グリッド	規格 (cm)		縦糸径 (mm)	土色	土質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (構造・周辺面・通風など)		
		長径	短径										
1033	LQ55	28	25	18.4	19.985	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~2mm:3%	—	中	やや強	盛土上
1034	LP56	29	21	21.8	20.011	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1mm:1%	—	中	強	盛土上
1035	LQ56	25	20	17.0	20.160	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや強	盛土上
1036	LP56-57	18	15	9.3	23.203	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	やや強	盛土上
1037	LQ56	22	21	29.8	19.943	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~5mm:1%	中	やや強	盛土上
1039	LP56	20	19	13.0	20.237	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや強	盛土上、土師器鉢1点
1040	LQ56	28	17	15.4	20.222	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:3%	1~2mm:1%	中	やや強	盛土上
1041	LQ56	20	19	11.6	20.256	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:5%	1mm:1%	中	やや強	盛土上
1042	LQ56	20	17	6.2	20.296	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:5%	1mm:1%	中	やや強	盛土上
1044	LQ55	25	20	13.5	20.010	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~3mm:1%	中	やや強	盛土上
1045	LQ55	22	21	20.9	19.980	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5mm:3%	1~3mm:1%	中	やや強	盛土上
1046	LQ56	21	18	12.9	20.196	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	1mm:1%	中	やや強	盛土上
1047	LQ55	22	20	16.8	19.950	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:5%	1~3mm:1%	中	やや強	盛土上
1048	LQ55	24	21	27.0	19.851	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:5%	1~3mm:1%	中	やや強	盛土上
1049	LQ55	23	23	11.8	19.914	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~3mm:1%	中	やや強	盛土上
1050	LQ55	19	18	17.9	20.021	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:1%	—	中	やや強	盛土上
1056	LP54	30	25	15.1	19.461	10YR4/4	褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや強	盛土上
1057	LS55	27	23	18.9	20.106	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:3%	1~2mm:1%	強	やや強	
1058	LS55	28	24	21.3	19.948	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~2mm:1%	強	弱	
1059	LT57-58	20	17	18.9	22.619	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:5%	1~3mm:1%	中	やや強	
1060	LS58	25	21	14.0	22.820	10YR4/4	褐色	シルト質	1~3mm:2%	—	中	やや強	
1061	LS56	19	17	18.9	21.981	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:2%	—	中	やや強	
1062	LT56	22	21	3.1	21.281	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:2%	1mm:1%	強	やや強	
1063	LT56	21	20	18.1	21.110	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや強	
1064	LT56	19	18	23.8	20.483	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや強	
1065	LT56	22	20	16.0	20.657	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	—	中	やや強	
1066	MA55	21	18	18.4	20.643	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~2mm:1%	—	中	やや強	
1067	MA54	28	22	15.1	18.775	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~3mm:2%	1mm:1%	中	やや強	
1068	LQ55	23	19	25.3	19.783	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:5%	1~3mm:2%	中	やや強	盛土上、土師器鉢4点
1069	MA54	30	24	9.7	18.804	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:3%	—	中	やや強	
1070	LT53	30	28	23.8	18.059	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~2mm:1%	1~3mm:1%	中	やや強	
1072	LL58-59	18	9	—	—	10YR1/1	黒	シルト質	1~5mm:1%	1~5mm:1%	中	弱	SW940内
1073	LL59	25	13	7.7	20.565	10YR1/1	黒	シルト質	—	—	中	中	SW940内
1074	LL59	26	21	13.9	20.639	10YR2/2	黒褐色	シルト質	—	—	中	弱	SW940内
1075	LL58	22	22	19.0	20.532	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~3mm:1%	1mm:1%	強	弱	SD42付近
1079	LO56	33	29	27.1	19.600	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5mm:1%	1~3mm:1%	強	強	土師器鉢1点
1082	MA54	21	20	14.6	19.031	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5mm:2%	2~3mm:2%	中	強	
1083	MA54	18	15	9.7	19.080	10YR3/3	暗褐色	シルト質	2~3mm:3%	1~2mm:1%	中	中	
1084	LL59	23	19	13.0	20.764	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~3mm:1%	強	中	
1085	LL59	31	27	12.1	20.615	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	2~5mm:1%	強	中	
1086	LL58	34	26	14.0	20.187	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~3mm:2%	強	中	SD42付近、盛土上
1088	LL58	34	26	14.0	20.187	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~5mm:2%	5~10mm:3%	強	中	SD42付近、盛土上
1089	LL58	22	20	11.9	20.086	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~20mm:2%	3~10mm:2%	強	中	SD42付近、盛土上
1090	LN59	29	17	10.7	20.785	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:2%	3~5mm:1%	強	中	SW940付近
1091	LK+LL59	22	1	9.8	20.576	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:2%	1~5mm:1%	強	中	SW940付近
1092	LC57	26	20	12.1	20.120	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	1~3mm:1%	1~5mm:1%	強	中	SD42付近、盛土上
1093	LN57-58	30	27	17.0	20.167	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~10mm:3%	1~5mm:3%	強	強	SD42付近、盛土上
1095	LN+LO58	31	23	18.1	20.336	—	—	—	—	—	—	—	盛土上、>SK1094
1096	LN58	20	19	24.4	20.271	—	—	—	—	—	—	—	—
1097	LN58	24	23	10.0	20.253	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:5%	5mm:5%	やや強	中	SD42付近
1101	LN58	29	27	13.0	20.219	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:5%	5mm:5%	やや強	中	SD42付近、盛土上、須恵器農具1点、その他の埴29点
1102	LM+LN58	21	20	12.0	20.273	10YR3/4	暗褐色	シルト質	5~10mm:7%	5mm:3%	やや強	中	SD42付近、盛土上
1103	LM58	22	17	16.0	20.166	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:2%	3~5mm:1%	中	やや強	SD42付近、盛土上
1104	LM58	22	22	37.0	20.024	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:3%	5mm:2%	やや強	中	SD42付近、盛土上
1105	LM58	28	24	7.0	20.255	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:2%	5~10mm:3%	強	中	S3097付近、土師器鉢3点
1106	LM+LM58	29	25	38.0	19.853	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:3%	5mm:3%	強	中	S3097付近、土師器鉢1点
1107	LN59	19	16	9.0	20.475	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5mm:1%	5mm:3%	強	中	SD42付近、盛土上
1108	LM58	28	22	15.0	20.367	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:1%	5mm:3%	強	中	SD42付近、盛土上
1109	LM58	22	19	17.0	20.183	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	5~10mm:1%	5mm:3%	強	中	SD42付近、盛土上
1110	LM57-58	22	20	11.0	20.115	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質	10~12mm:5%	5mm:1%	やや強	中	SD42付近、盛土上
1112	LQ62-63	23	22	32.8	25.445	—	—	—	—	—	—	—	盛土上
1113	LQ62	28	26	15.2	25.280	—	—	—	—	—	—	—	>SI1076
1114	LQ62	19	17	13.1	25.129	—	—	—	—	—	—	—	SI1076内
1115	LL57	40	32	19.1	19.600	10YR3/2	黒褐色	シルト質	5~10mm	—	—	—	>SKT1111
1116	LH58	26	23	9.9	19.816	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm	—	—	—	—
1117	LH58	21	20	12.9	19.711	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	—	—	—
1118	LH58	20	16	—	19.820	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	—	—	—
1119	LM55	26	22	8.7	19.076	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10mm:2%	3~5mm:1%	強	中	SD1099付近、盛土上
1120	LM55	24	20	17.2	19.201	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3mm:1%	3~5mm:1%	強	中	SD1099付近、盛土上
1121	LM55	29	25	38.0	19.853	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト質	3~5mm:2%	3~15mm:70%	中	弱	S3097付近、土師器鉢1点
1122	LM55	28	22	11.4	19.322	10YR3/3	暗褐色	シルト質	—	—	—	—	—
1123	LM55	34	29	13.4	19.279	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3~5mm:2%	3~5mm:2%	強	中	SD1099付近、盛土上
1124	LM55	34	28	10.8	19.327	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5mm:2%	5mm:2%	強	中	SD1099付近、盛土上
1125	LM55	37	29	10.4	19.303	10YR4/4	暗褐色	シルト質	3mm:1%	3~5mm:1%	強	中	S3097付近、土師器鉢4点

第14表 柱穴様ビット一覧 (13)

No.	グリッド	規格 (cm)		縦糸径 (mm)	土色	土質	地山土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・埋土面・遺構内など)			
		長径	短径											
1126	LM55	27	20	14.2	19.342	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	5~8-2%	中	強	SD1099付瓦, 盛土上		
1127	LM55	25	22	9.3	19.406	10YR4/1	暗褐色	シルト質	5~8-1%	5~8-2%	中	強	SD1099付瓦, 盛土上	
1128	LM55	21	18	4.5	19.365	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~8-2%	5~8-5%	中	強	SD1099付瓦上上, SK1130	
1129	LM+LN55	30	28	4.9	19.313	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~8-2%	5~8-5%	中	強	SD1099付瓦, 盛土上	
1131	LN55	27	16	8.3	19.387	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	5~10~2%	5~8-2%	強	中	SD1099付瓦, 盛土上	
1132	LN55	29	24	17.2	19.291	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	5~8-1%	5~8-3%	中	強	SD1099付瓦, 盛土上	
1133	LN55	23	20	14.3	19.319	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	5~8-1%	5~8-1%	強	中	SD1099付瓦, 盛土上	
1134	LN55	22	21	20.2	19.181	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	3~5~2%	5~8-2%	強	中	強	SD1099付瓦, 盛土上
1135	LN55	24	21	15.3	19.097	10YR4/1	暗褐色	シルト質	3~5~1%	5~8-2%	強	中	強	SD1099付瓦, 盛土上
1136	LN55	23	19	18.0	18.940	10YR4/1	暗褐色	シルト質	3~5~2%	3~5~1%	強	強	SD1099付瓦, 盛土上	
1137	LL59	47	27	28.3	20.094	—	—	—	—	—	—	SW940内		
1138	LM58	37	26	18.3	20.331	—	—	—	—	—	—	盛土上, >SD942		
1139	LM58	19	18	6.5	20.183	10YR3/3	暗褐色	—	—	1~5~3%	中	中	SD942付瓦, 盛土上	
1142	LG64	25	20	17.5	21.725	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~10~2%	1~3~1%	強	中	—	
1143	MO+MP96	39	33	18.7	22.616	—	—	—	—	—	—	—		
1152	LN47	17	17	18.0	20.327	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5~2%	—	—	中	弱	
1154	MB28	23	21	46.3	21.441	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	—	—	—	強	中	
1155	MA28	43	37	22.7	22.370	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~3~2%	5~8-1%	強	中	強	
1156	MA28	30	25	14.5	22.551	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	2~3~2%	5~8-1%	強	中	強	
1157	MA28	20	20	18.1	22.242	10YR3/2	黒褐色	シルト質	—	—	—	強	中	
1159	MB42	29	26	43.7	20.529	10YR4/4	暗褐色	シルト質	10~1%	—	—	強	弱	
1160	MB42	18	16	15.1	20.750	10YR4/4	暗褐色	シルト質	5~8-2%	—	—	強	弱	
1167	LT36	25	25	29.5	23.430	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~7~20%	3%	強	強	強	
1168	LT36	24	22	20.7	23.660	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~5~10%	3%	強	強	強	
1171	MB39	25	21	17.2	20.784	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5~8%	3%	中	中	強	
1172	MA39	24	20	12.0	21.331	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5~5%	3%	強	強	強	
1173	MB40	18	18	15.0	21.066	10YR3/2	黒褐色	シルト質	1~5~10%	3%	強	強	強	
1174	MB40	50	50	37.5	20.762	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~5~8%	3%	中	中	強	
1179	MC27	(46)	(30)	10.0	20.221	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	2~3-1%	—	—	強	中	
1180	MC27	24	26	39.0	19.970	10YR4/3	灰黄褐色	シルト質	10%	—	—	強	中	
1182	MB39	(23)	(21)	26.4	20.740	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~5~10%	5%	中	強	>SKP1170 + 1355	
1184	MB39	34	20	31.7	20.605	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~5~30%	3%	中	中	強	
1186	LT41	49	28	23.9	21.137	11YR4/2 210YR4/2	1:灰黄褐色 2:灰黄褐色	1:シルト質 2:シルト質	15~10~10% 250%混合上	1:1%	1:強 2:中	1:中 2:中	>SD1189	
1200	LR+LS41	25	18	9.2	21.750	10YR4/3	にがい黄褐色	中や粘土	50%混合上	1%	中	強	中	
1201	MB40	(30)	45	20.9	20.844	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~10%	—	—	中	強	中
1203	MB40	36	21	28.0	20.754	10YR4/3	暗褐色	シルト質	3~8-1%	—	—	強	弱	中
1204	MB40	44	36	29.2	20.755	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~10~1%	—	—	強	弱	中
1205	MB39+40	57	31	41.7	20.606	10YR3/3	にがい黄褐色	シルト質	5~8-3%	—	—	強	弱	中
1207	MA37	26	24	15.9	22.321	—	—	—	—	—	—	—	—	
1211	MC39	31	31	23.6	20.139	10YR4/4	褐色	シルト質	5~8-3%	—	—	強	弱	SD1202 + 1210 + 1300付瓦
1212	MA36	26	19	18.3	22.352	10YR3/3	暗褐色	シルト質	5~8-3%	—	—	中	中	強
1218	MB33	36	30	49.2	21.405	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-6%混合上	3%	中	中	強	SD1217付瓦
1219	MA+MB33	27	27	54.9	21.407	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-6%混合上	1%	中	中	強	SD1217付瓦
1220	MA33	(26)	(12)	36.4	21.812	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-10%	3%	中	中	強	SD1217付瓦
1221	MA33	31	29	45.0	21.720	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-30%	1%	中	中	強	SD1217付瓦
1222	MA32	17	17	30.2	20.217	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	1~8-3%	3%	中	中	強	SD1217付瓦
1223	MA32	21	21	11.5	20.070	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-30%	3%	中	中	強	SD1217付瓦
1224	MA32	20	20	32.3	19.900	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-30%	3%	中	中	強	SD1217付瓦
1225	MB34	45	38	53.0	21.367	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~8-30%	3%	中	中	強	SD1217付瓦
1226	MC33	25	23	27.3	21.500	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-20%	3%	中	中	強	中
1227	MC33	20	15	9.2	21.561	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質	1~8-8%	5%	強	中	強	中
1228	MA34	50	24	47.6	20.538	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~8-8%	3%	中	中	強	<SD1215
1229	MC33	28	25	14.4	20.980	10YR3/3	暗褐色	シルト質	3%	1~5~5%	中	中	強	中
1231	MC33	40	36	44.8	21.328	10YR4/4	褐色	シルト質	10~3%	2~1%	強	強	強	中
1232	MC33	25	21	11.5	21.668	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-20%	3%	中	中	強	中
1241	MD33	23	23	53.0	19.970	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	1~8-1%	3~8-1%未満	強	弱	SD1235付瓦	
1242	MD32	42	24	28.0	19.558	10YR4/4	にがい黄褐色	シルト質	1~8-1%	—	—	強	弱	中
1243	MD32-33	26	22	11.5	19.485	10YR4/4	褐色	シルト質	3~8-2%	—	—	強	弱	SD1235付瓦, >SKP1244
1244	MD32-33	(22)	21	25.4	19.444	10YR4/4	褐色	シルト質	3~8-2%	—	—	強	弱	SD1235付瓦, >SKP1243
1245	MD32-33	20	16	14.4	19.468	10YR4/4	褐色	シルト質	3~8-2%	—	—	強	弱	SD1235付瓦
1247	ME30-31	20	18	11.9	17.641	10YR4/4	褐色	シルト質	1~3~5%	1~8-2%	非常に強い	強	SD1250内	
1248	ME31	37	28	28.1	17.791	10YR3/4	暗褐色	シルト質	1~3~2%	—	—	強	SD1250内	
1251	ME31	17	17	13.6	17.683	10YR4/4	褐色	シルト質	1~5~2%	1~8-1%	強	弱	SD1250内	
1252	ME29	54	36	21.0	17.600	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~5~3%	—	非常に強い	強	>SD1246	
1253	ME31	35	30	35.6	17.407	10YR5/4	にがい黄褐色	シルト質	1~30~40%	—	—	強	中	SD1250内
1254	ME31	24	22	39.0	17.635	10YR5/6	黄褐色	シルト質	1~20~30%	—	—	強	強	SD1250内
1257	MD+ME34	50	40	19.8	19.990	10YR3/1	黒褐色	シルト質	1~5~3%	1~5~8%	中	中	強	中
1258	ME34	57	39	24.1	19.015	10YR3/3	暗褐色	シルト質	1~20~30%	—	—	強	弱	中
1260	ME34	23	21	27.0	18.939	10YR3/2	黒褐色	シルト質	3~8%	1~8-1%	強	中	強	中
1261	MD34	23	23	53.0	19.970	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト質	—	3~8-2%	強	中	強	SD1235内
1262	MD34	23	23	28.3	19.300	10YR3/2	黒褐色	シルト質	—	3~8-2%	強	中	強	SD1235付瓦
1263	MD34	20	20	8.5	19.450	10YR4/4	暗褐色	シルト質	1~30~7%	1~8-1%	中	中	強	SD1235付瓦
1264	MD34	(19)	22	17.2	19.336	10YR4/4	褐色	シルト質	—	—	強	強	SD1235付瓦, >SKP1265	

第15表 柱穴様ビット一覧(14)

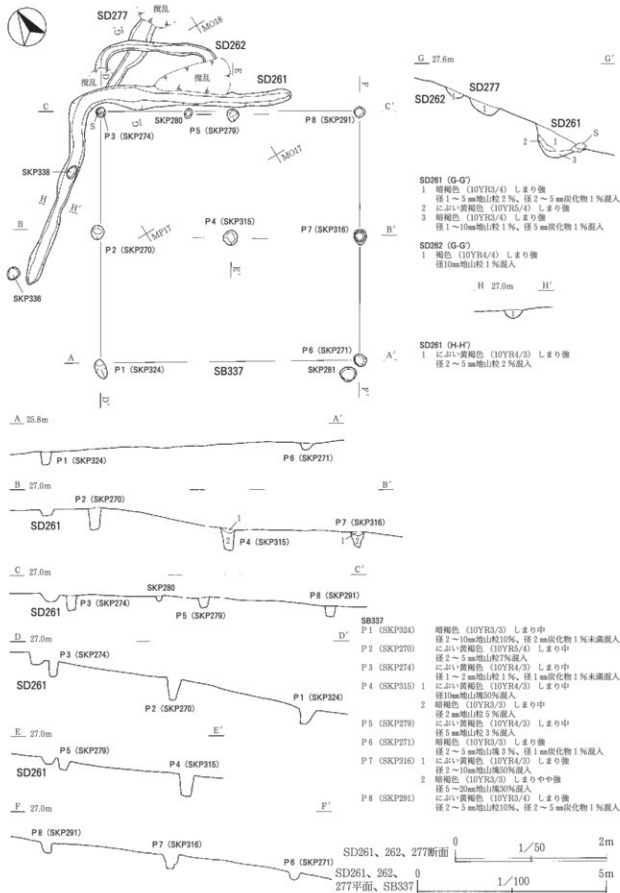
No.	グリッド	規模 (cm)		掘削深度 (m)	土色	土質	地上土混入率	炭化物混入率	しまり	粘性	備考 (遺物・埋設物・遺構内など)		
		長径	短径										
1265	MD39-34	53	27	17.5	19.519	10YR/2	黒褐色	シルト質	8~9%	—	中	中	SD1235付近、<SKP1264
1269	MD34	26	16	13.8	19.273	10YR/4	褐色	シルト質	10~11%	—	強	中	SD1235付近
1267	MD34	33	27	21.5	19.296	10YR/3	暗褐色	シルト質	5~6%	—	強	中	SD1235付近
1268	MD34	19	19	19.6	19.304	10YR/2	黒褐色	シルト質	5~6%	1~1%未測定	強	中	SD1235付近
1269	MD34	16	16	12.8	19.300	10YR/2	黒褐色	シルト質	3~4%	—	強	中	SD1235付近
1270	MD34	33	26	21.0	19.800	10YR/4	暗褐色	シルト質	3~4%	1~1%未測定	強	中	SD1235付近、<SKP1271
1271	MD34	29	(18)	13.0	19.900	10YR/4	褐色	シルト質	1~1%	1~1%	強	弱	SD1254付近、<SKP1272
1272	MD34	26	24	20.5	19.070	10YR/4	褐色	シルト質	1~3~3%	1~1%	強	中	SD1254付近、<SKP1273
1273	MD-ME34	35	(18)	41.6	18.798	10YR/2	黒褐色	シルト質	5~6%	—	強	中	<SKP1274、<SD1275
1274	MD-ME34	37	37	16.3	19.060	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5~15~10%	—	中	中	<SKP1273、SD1275
1276	MD34	22	17	14.8	19.560	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~1%	—	強	中	SD1235付近
1277	MD34	21	19	21.5	19.290	10YR/2	黒褐色	シルト質	5~6%	1~1%未測定	強	中	SD1235付近
1286	MM28	24	20	27.9	21.008	10YR/2	灰黄褐色	シルト	—	1%	やや強	中	SD1279付近、<SKP1287
1287	MM28	33	26	15.0	20.896	10YR/2	灰黄褐色	シルト	—	3%	やや強	中	SD1279付近、<SKP1286
1288	MM28	27	17	13.1	21.018	10YR/2	灰黄褐色	シルト	—	3%	やや強	中	SD1279付近
1294	MD27-28	42	26	23.5	19.965	10YR/2	黒褐色	シルト質	1~3~2%	1~10~15%	強	強	SD1279付近
1297	MK28	20	20	18.9	20.989	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	—	3%	中	中	SD1279付近
1298	MK28	25	18	22.1	20.907	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	—	1%	中	中	SD1279付近
1299	MK28	15	15	15.7	21.004	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	—	3%	中	中	SD1279付近
1300	MN24	41	31	16.4	23.308	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	20%	1~10~5%	中	やや強	SD8009付近、<SKP1304
1304	MN24	37	(16)	34.0	23.471	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	10%	1%	中	やや強	SD8009付近、<SKP1303
1306	ML24	52	41	41.0	23.155	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	30%混合上	3%	中	やや強	SD8009付近
1307	MC38-39	34	32	16.0	20.250	10YR/4	褐色	シルト質	3~10~5%	1~1%未測定	強	強	<SK1306
1308	MM28	26	24	36.3	20.882	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	5%	8%	中	やや強	SD1279付近
1312	MJ28	28	24	16.6	18.940	10YR/3	暗褐色	シルト質	5%	5%	中	やや強	SD1300付近
1313	MJ28	30	30	20.9	18.897	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	8%	1~10~8%	中	やや強	SD1300付近
1314	MJ28	22	22	22.0	18.930	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~10~20%	5%	中	やや強	SD1300付近
1315	MJ27	30	30	13.8	18.970	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	8%	5%	中	やや強	SD1300付近
1316	MJ27	29	25	21.9	19.381	2.5Y4/2	暗褐色	シルト質	1%	1%	中	やや強	SD1300付近
1317	MJ27	32	20	18.0	19.056	10YR/2	暗褐色	シルト質	3%	3%	中	やや強	SD1300付近、<SKP1325
1318	MJ27	33	24	42.6	18.883	10YR/2	黒褐色	シルト質	3%	1~5~8%	中	やや強	SD1300付近、鉄屑9.6g
1319	MJ27	22	22	10.2	19.296	10YR/2	黒褐色	シルト質	6%	1~5~8%	中	やや強	SD1300付近、鉄屑13.8g
1321	MJ27	40	40	58.6	18.957	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5%	1~8~8%	中	やや強	SD1044付近、<SKP1322、1323
1322	MJ27	60	(27)	13.0	19.086	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	1~10~3%	1~8~8%	中	やや強	SD1044付近、鉄屑13.8g
1323	MJ27	25	17	11.0	19.086	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~15~20%	5%	中	やや強	SD1300付近、<SKP1321
1324	MJ27	20	20	24.3	18.997	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5%	3%	中	やや強	SD1300付近
1325	MJ27	25	11	11.0	19.094	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~8~8%	3%	中	やや強	SD1300付近、<SKP1317
1326	MJ26-27	30	26	28.1	19.169	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	10%	1~10~8%	やや強	やや強	SD1300付近
1327	MJ27	25	25	9.8	19.542	10YR/2	黒褐色	シルト質	8%	1~8~8%	やや強	やや強	SD1300付近
1328	MJ27	20	20	18.4	19.296	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	8%	1~8~8%	やや強	やや強	SD1300付近
1329	MJ27	22	11	16.3	19.270	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	1~10~10%	1~8~8%	やや強	やや強	SD1300付近
1330	MH-MJ27	35	26	26.2	19.018	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	1%	3%	やや強	やや強	SD1300付近
1331	MJ27	23	23	37.0	18.850	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	1~5~8%	3%	やや強	やや強	SD1300付近
1332	MJ27	(15)	18	14.7	19.264	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	1~5~8%	1~3~3%	やや強	やや強	SD1300付近
1333	MJ27	46	42	15.3	19.232	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	10%	3%	やや強	やや強	SD1300付近
1334	MJ27	24	18	14.3	19.168	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5%	5%	中	やや強	SD1300付近
1335	MJ26-27	28	25	8.4	19.261	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5%	1~30~30%	中	やや強	SD1300付近
1336	MJ27	19	16	19.9	19.850	10UR/3	におい黄褐色	シルト質	5%	8%	中	やや強	SD1300付近
1337	MJ27	20	18	19.5	19.047	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	3%	3%	中	やや強	SD1300付近
1339	MJ27	24	12	7.5	19.180	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	20%	1~10~8%	中	やや強	SD1300付近
1340	MJ27	22	(17)	13.7	19.130	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	10%	3%	中	やや強	SD1300付近、<SKP1322
1341	MJ26	34	34	8.8	19.557	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	10%	3%	中	やや強	SD1300付近
1342	MJ26	18	15	12.6	19.260	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	8%	8%	やや強	やや強	SD1300付近
1343	MJ28	24	17	14.4	19.000	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5%	3%	やや強	やや強	SD1300付近、石割片1点
1345	MJ27-28	20	18	19.9	18.915	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~3~8%	3%	やや強	やや強	SD1300付近
1346	MP23	38	36	15.0	23.960	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~1%	1~1%	強	弱	SD1300付近
1347	MP23	34	34	27.1	24.059	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~1%	1~1%	強	弱	SD1300付近
1348	MP23	50	40	8.3	24.339	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	1~1%	1~1%	強	弱	SD1300付近
1349	MP22	45	(38)	42.8	24.577	10YR/3	暗褐色	シルト質	1~5%	1~1%	強	弱	SD1300付近
1354	ME27	27	27	10.3	19.276	10YR/2	黒褐色	シルト質	—	—	強	中	—
1355	MC-MJ27	(31)	33	16.7	20.179	10YR/2	灰黄褐色	シルト質	5%	—	強	中	<SKP1180
1360	MC38	24	21	19.7	20.269	10YR/3	暗褐色	シルト質	10~3%	—	中	中	SD1202、1210、1300付近
1361	MH38	24	24	27.6	20.518	10YR/4	褐色	シルト質	—	—	強	中	SD1202、1210、1300付近
1362	MH38	23	22	16.5	20.230	10YR/3	暗褐色	シルト質	10~3%	—	強	中	SD1202、1210、1300付近
1363	MA38	17	17	25.4	20.958	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	10~3%	—	強	中	SD1202、1210、1300付近
1364	MC39	(44)	42	30.4	20.302	10YR/4	におい黄褐色	シルト質	5~3%	—	中	中	SD1202、1210、1300付近、<SKP1365
1365	MC39	28	23	31.5	20.475	10YR/3	暗褐色	シルト質	—	—	強	弱	SD1202、1210、1300付近、<SKP1366
1366	MA42	19	16	13.0	20.537	10YR/3	におい黄褐色	シルト質	5~1%	—	中	弱	SD1208付近



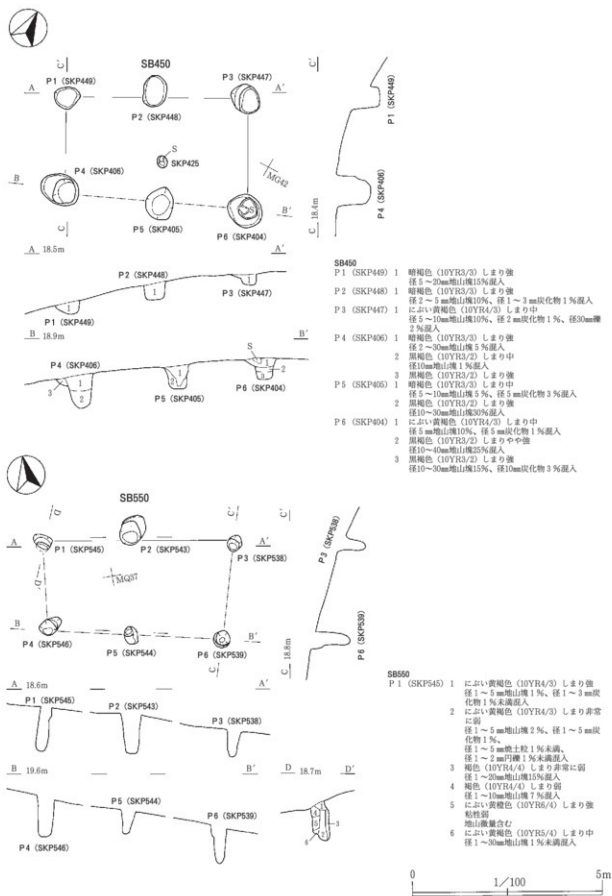
SI1076

- 1 褐色 (10YR4/4) しまり中粘性や中面
径1~5mm地山粒7%, 径1~30mm炭化物1%混入
- 2 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり中粘性や中面
径10~20mm炭土粒30%混入
- 3 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり中粘性や中面
径1~5mm炭土粒5%, 径1~6mm炭化物1%混入
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト~細砂しまり中粘性や中面
径20~50mm炭土粒50%混入
- 5 暗褐色 (10YR3/3) シルト~細砂しまり中粘性や中面
径1~5mm炭土粒30%混入
- 6 におい黄褐色 (10YR5/4) しまりやや弱粘性中
径1~5mm炭土粒2%, 径1~3mm炭化物1%混入

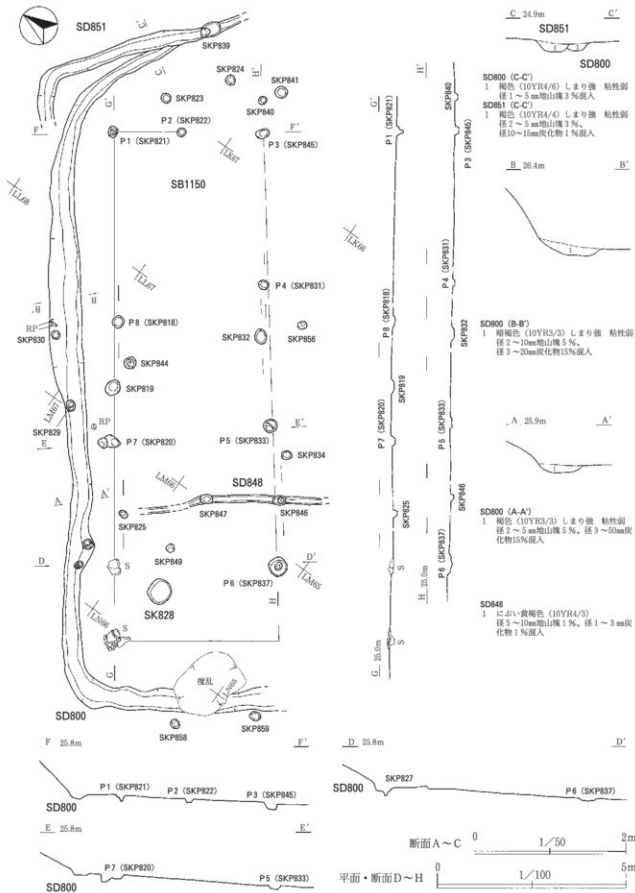
第3図 竪穴住居跡 SI1076



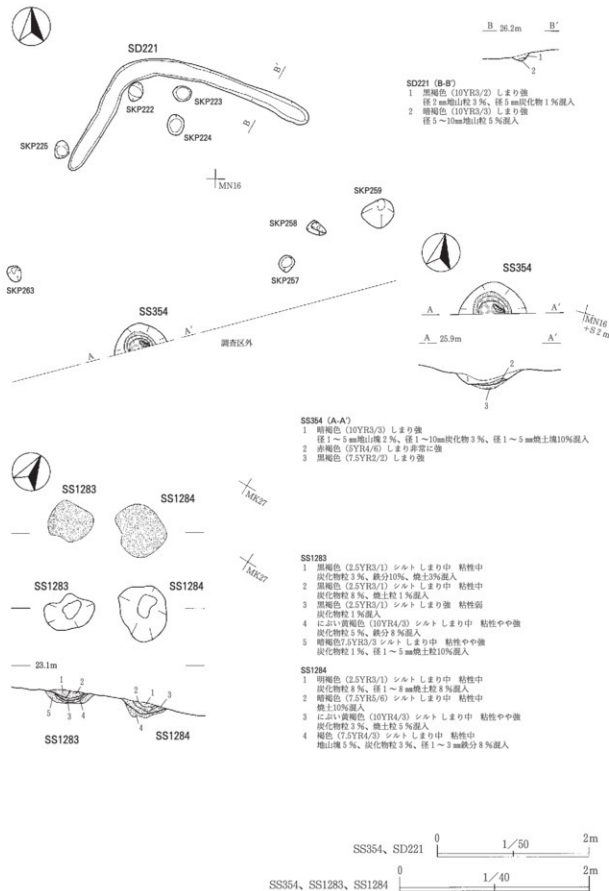
第4図 掘立柱建物跡(1) SB337、SD261・262・277溝跡



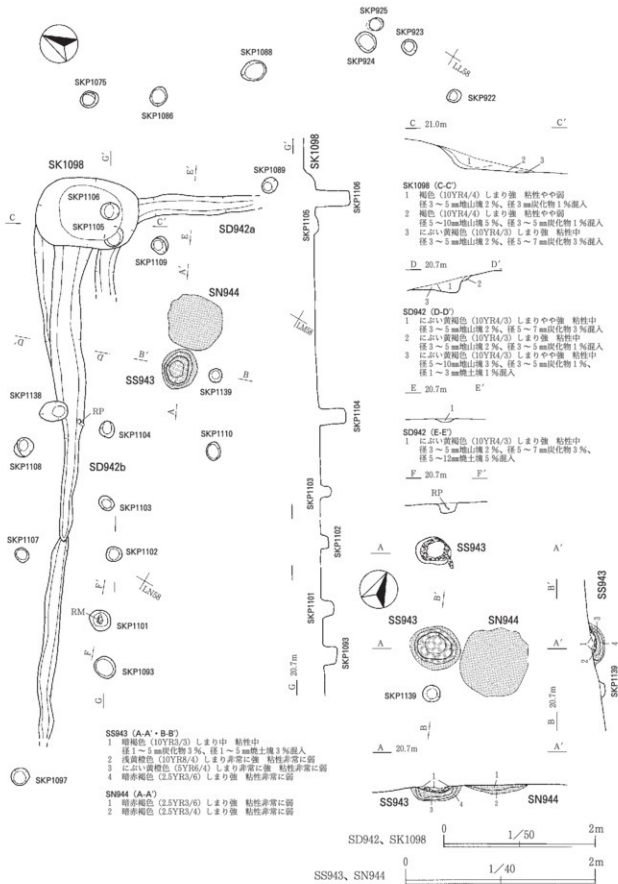
第5図 掘立柱建物跡(2) SB450・550



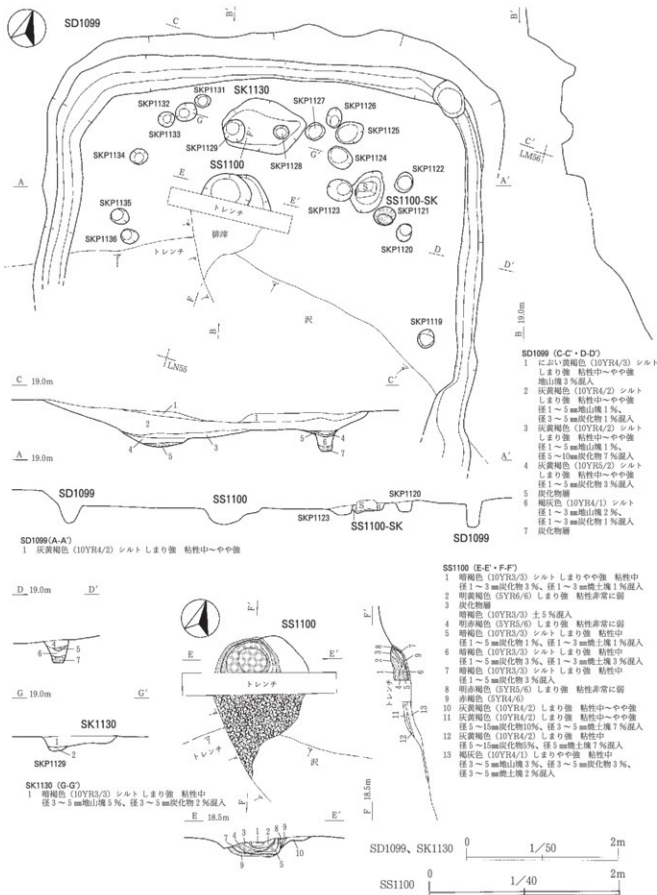
第6図 掘立柱建物跡(3) SB1150、SD800・848・851溝跡、SK828土坑



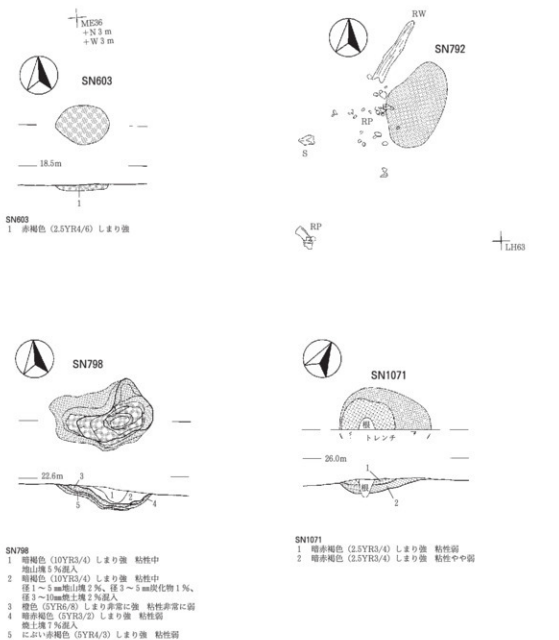
第 7 図 鍛冶炉 (1) SS354・1283・1284、SD221 溝跡



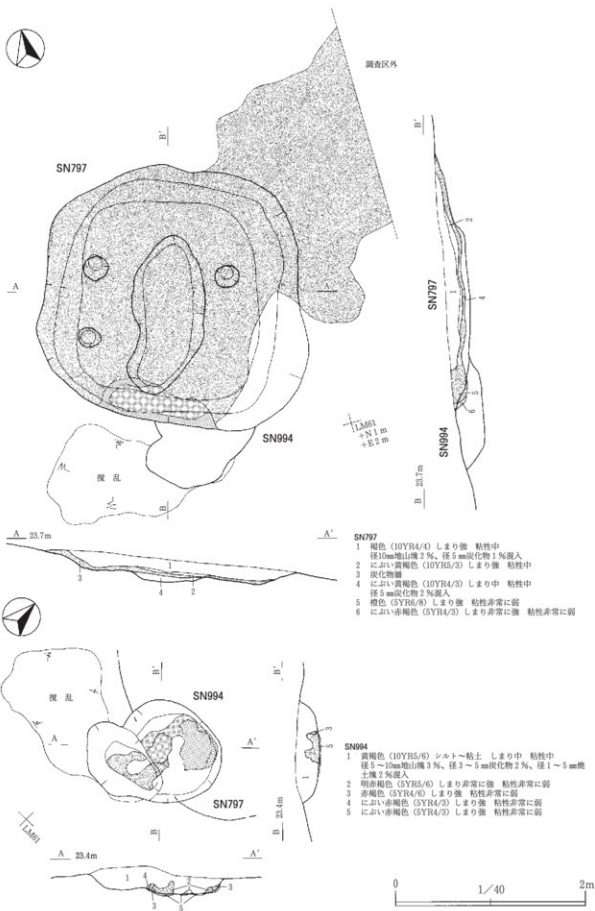
第8図 鍛冶炉(2) SS943、SN944焼土遺構、SD942溝跡、SK1098土坑



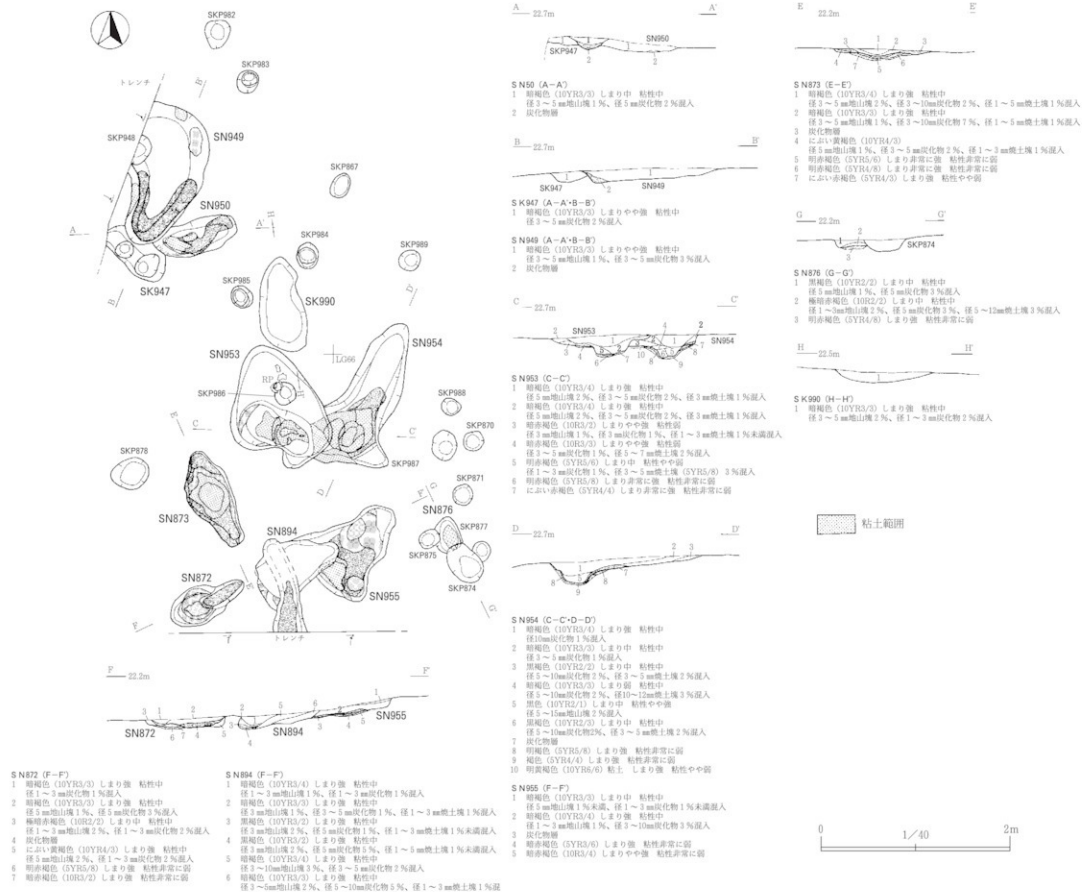
第9図 鍛冶炉(3) SS1100、SD1099溝跡、SK1130土坑



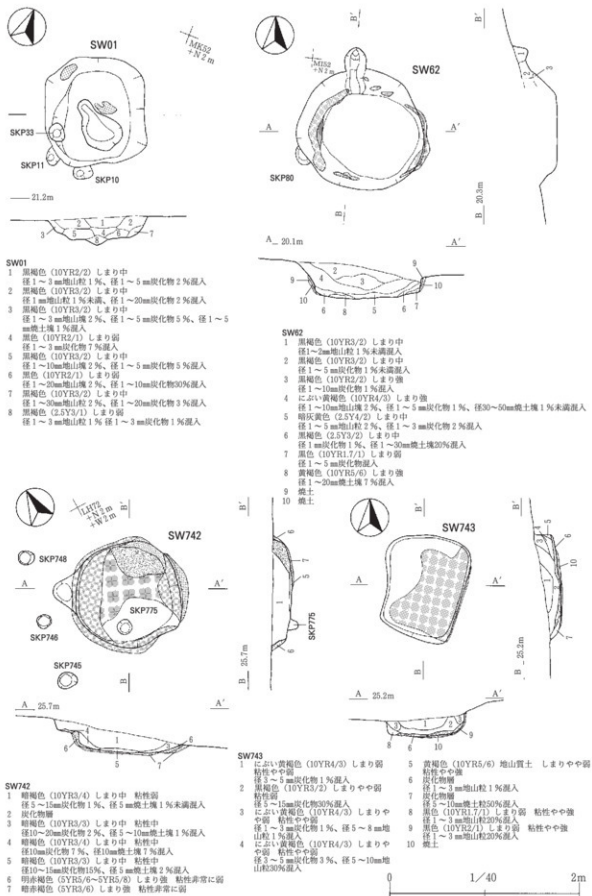
第10図 焼土遺構(1) SN603・792・798・1071



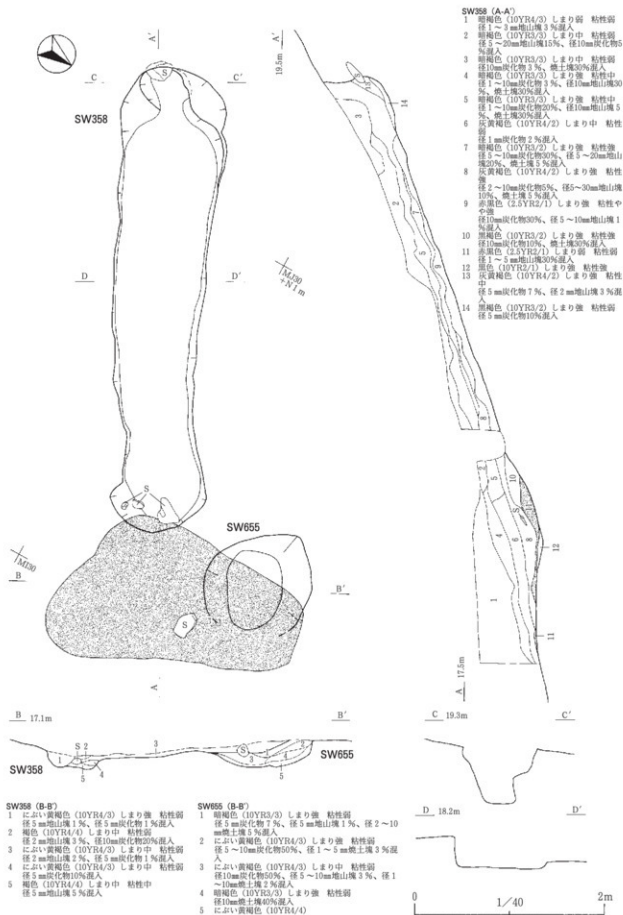
第11図 焼土遺構 (2) SN797・994



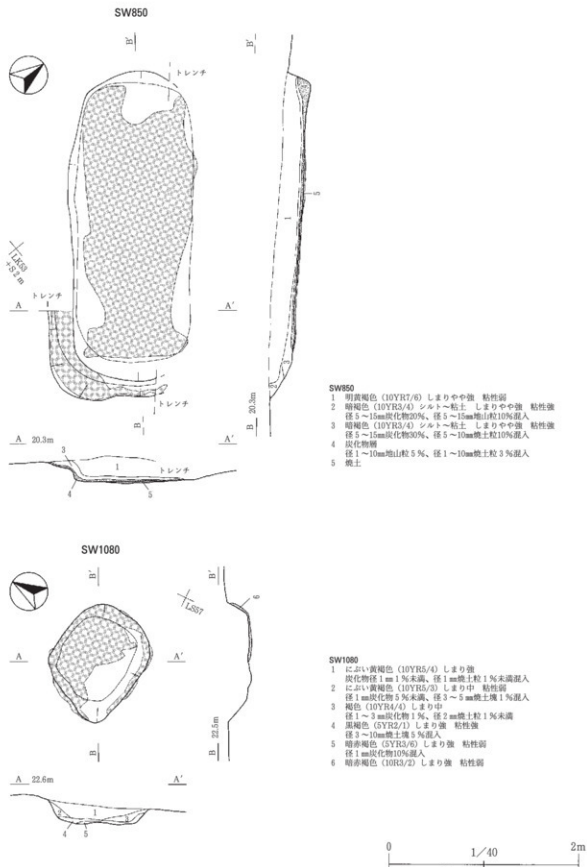
第12図 焼土遺構(3) S N872・873・876・894・949・950・953・954・955、S K947・990土坑



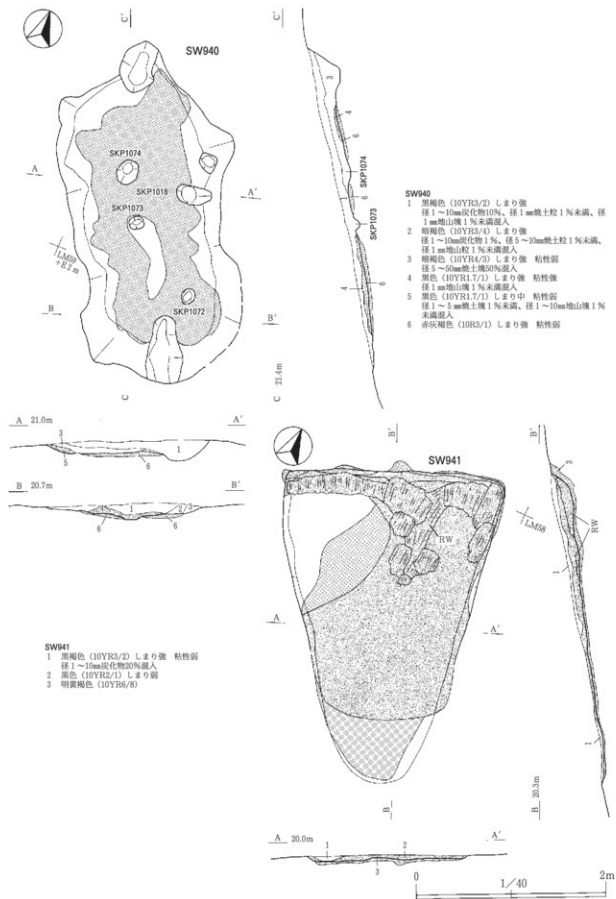
第13図 炭素跡(1) SW01・62・742・743



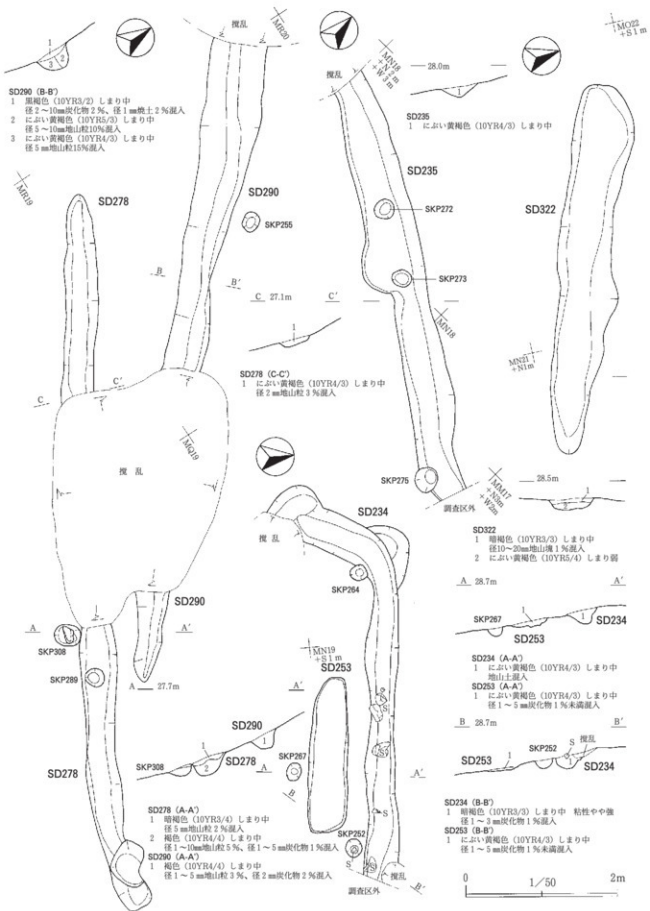
第14図 炭素跡(2) SW358・655



第15図 炭窯跡(3) SW850・1080

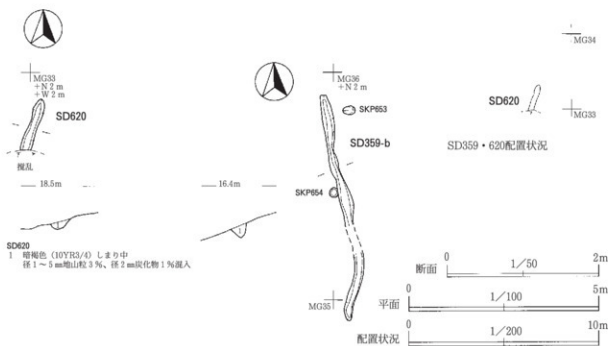
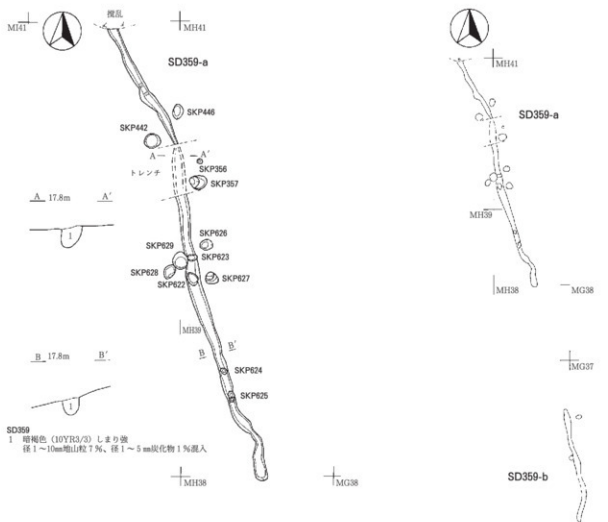


第16図 炭素跡(4) SW940・941

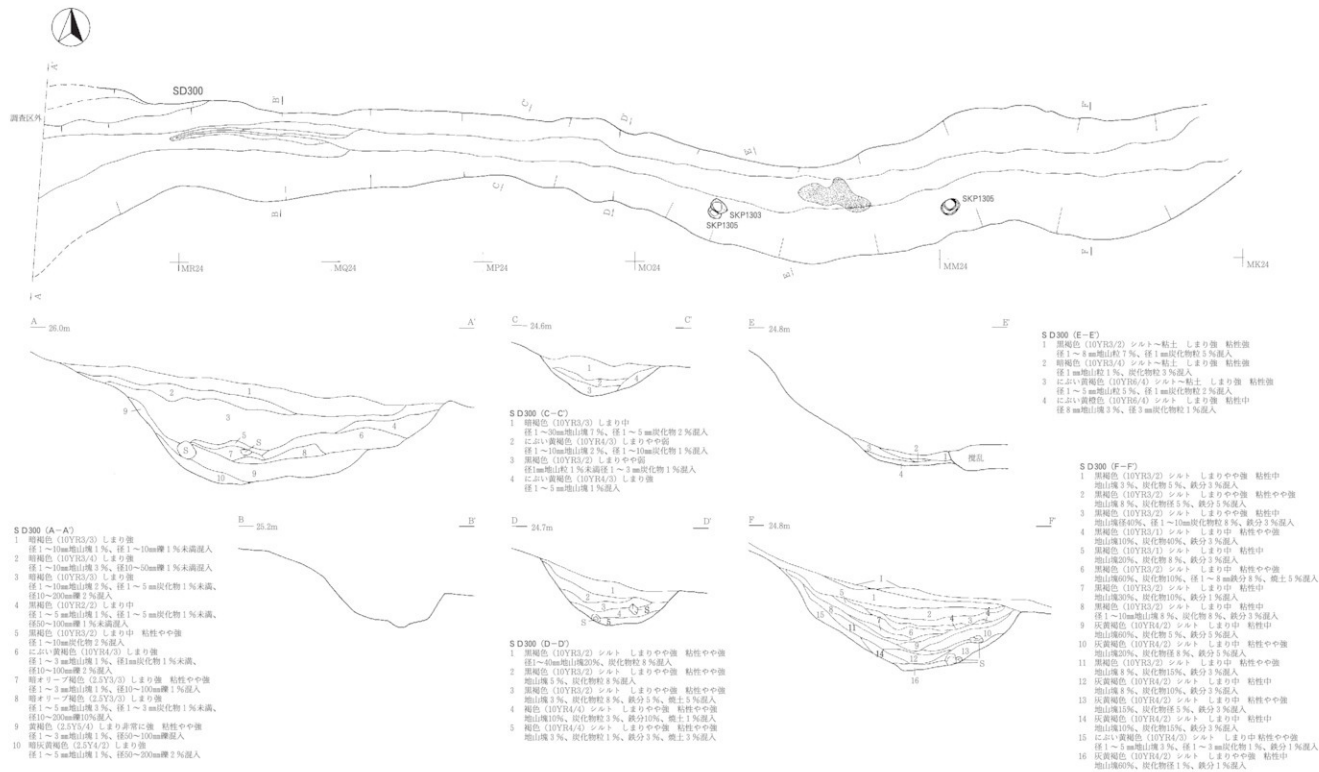


第17図 溝跡(1) SD234・235・253・278・290・322

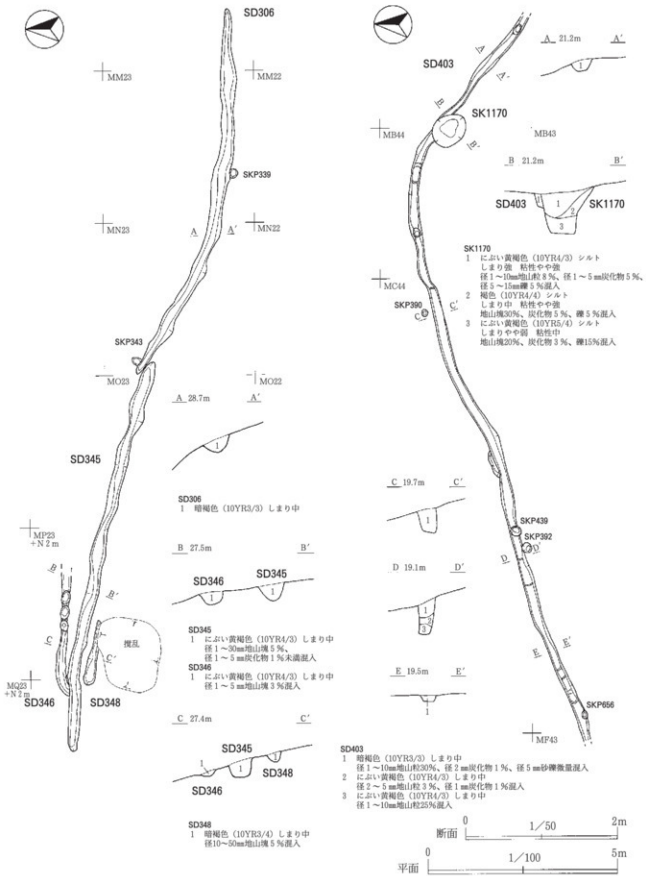
樋ノ口遺跡



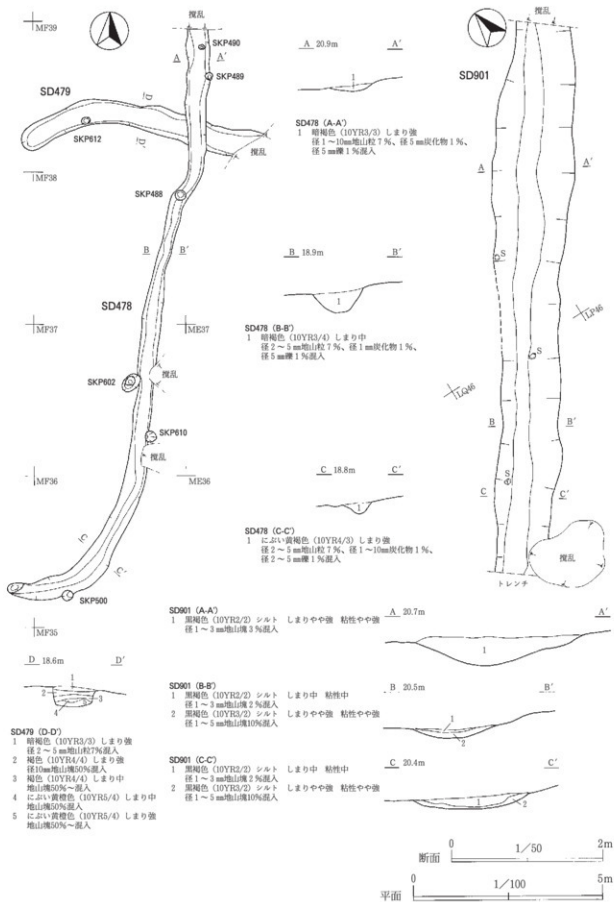
第18図 溝跡(2) SD359・620



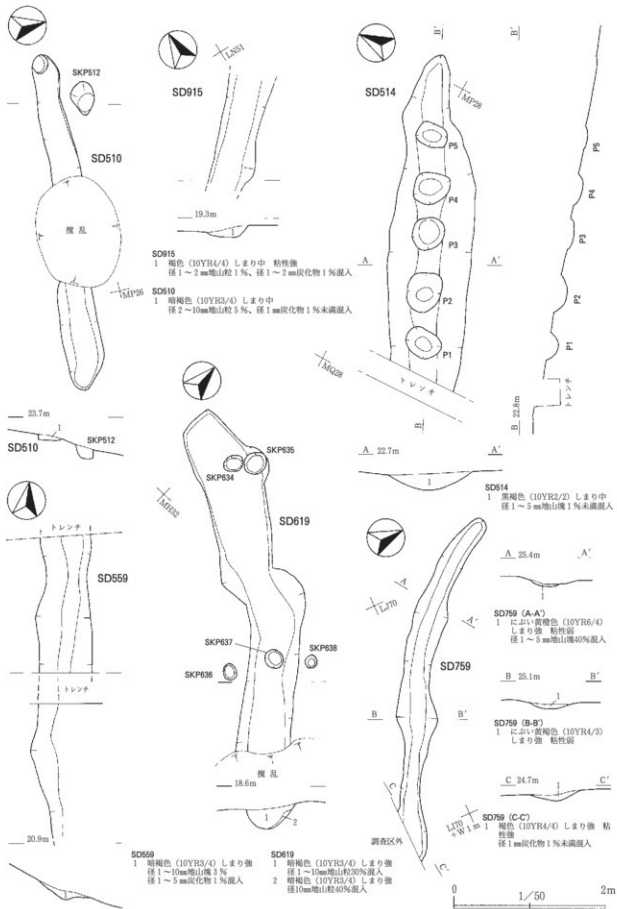
第19図 溝跡(3) SD300



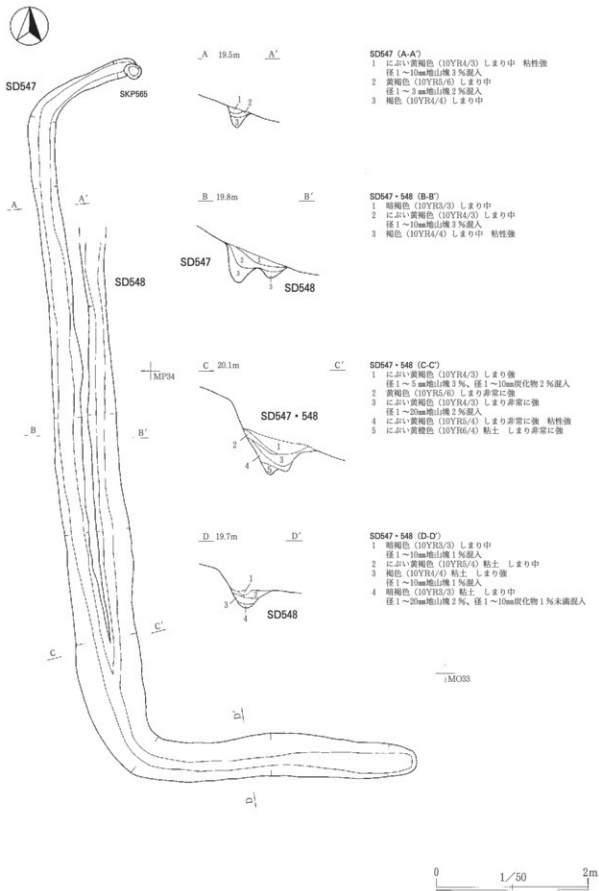
第20図 溝跡(4) SD306・345・346・348・403、SK1170土坑



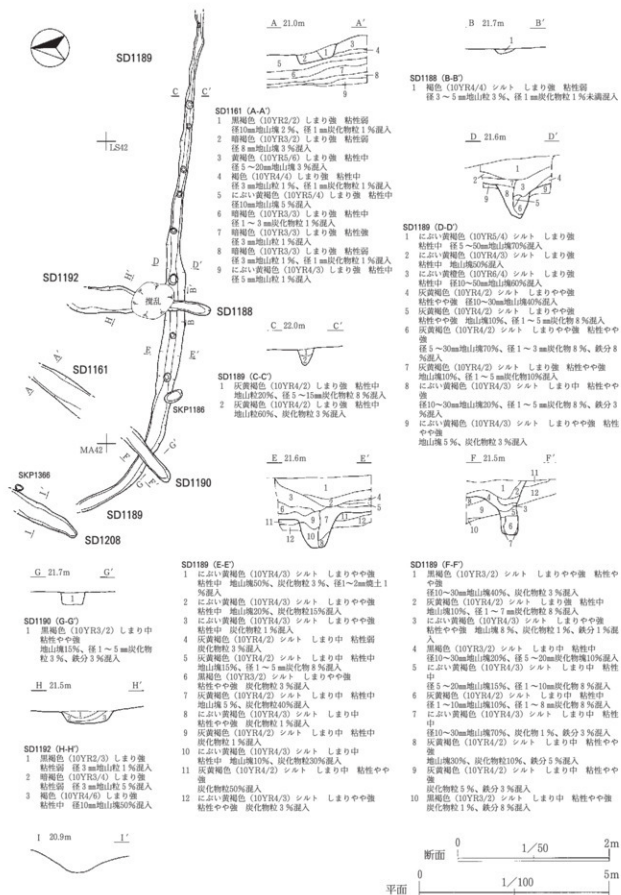
第21図 溝跡 (5) SD478・479・901



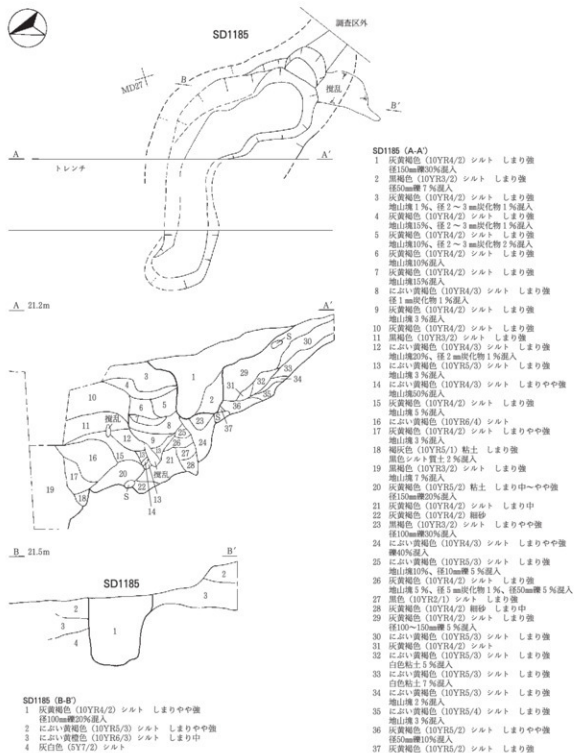
第22図 溝跡 (6) SD510・514・559・619・759・915



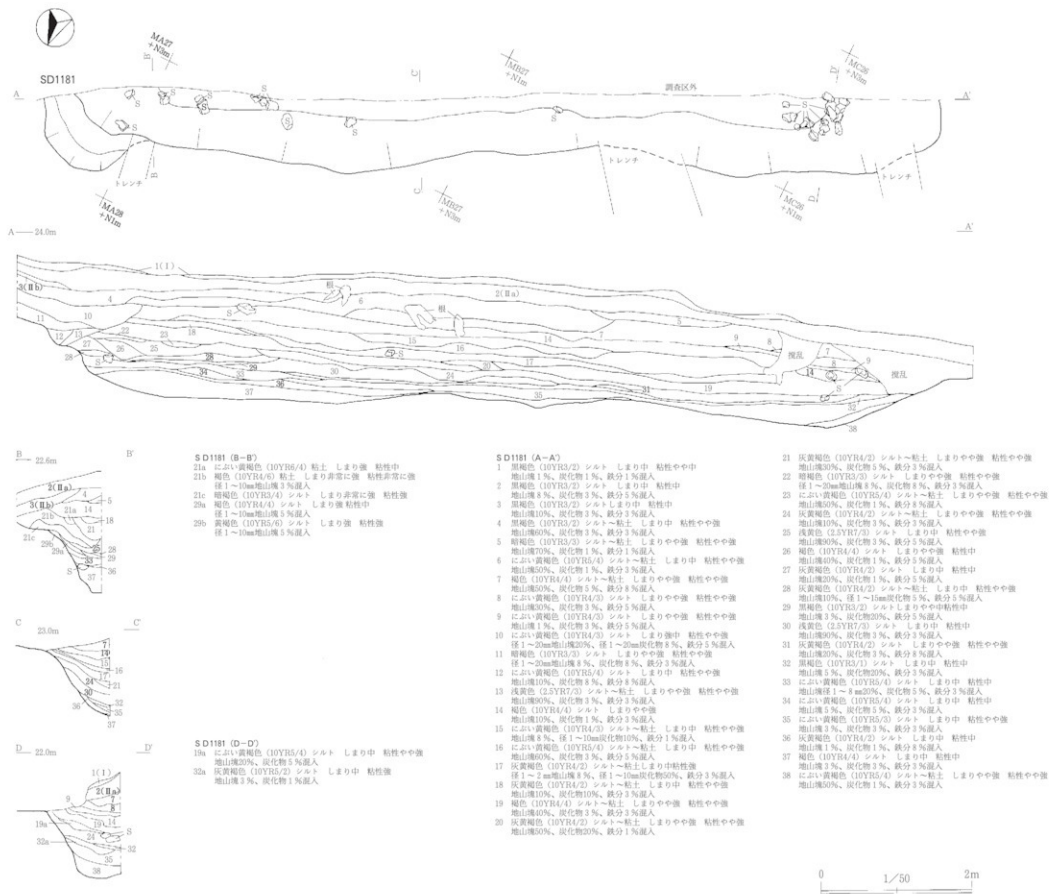
第23図 溝跡(7) SD547・548



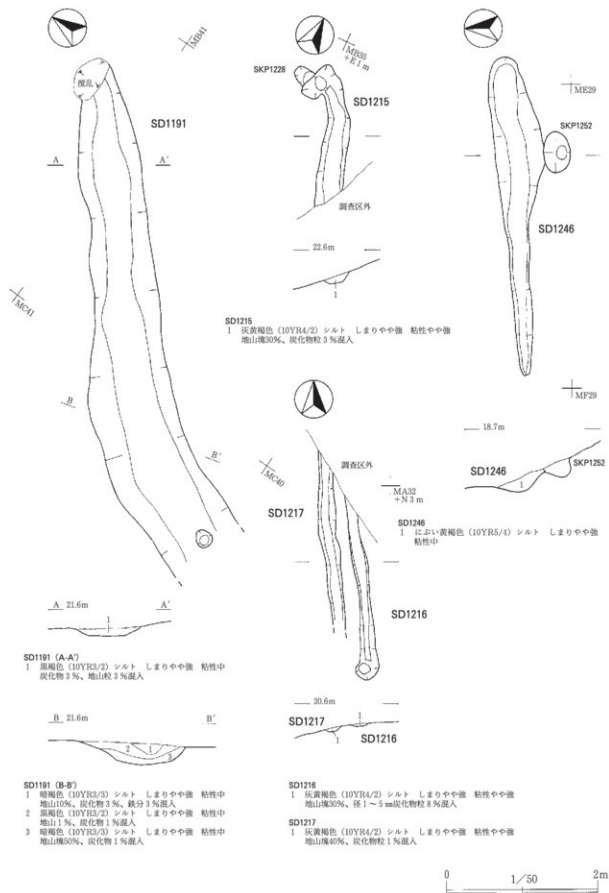
第24図 溝跡(8) SD1161・1188・1189・1190・1192・1208



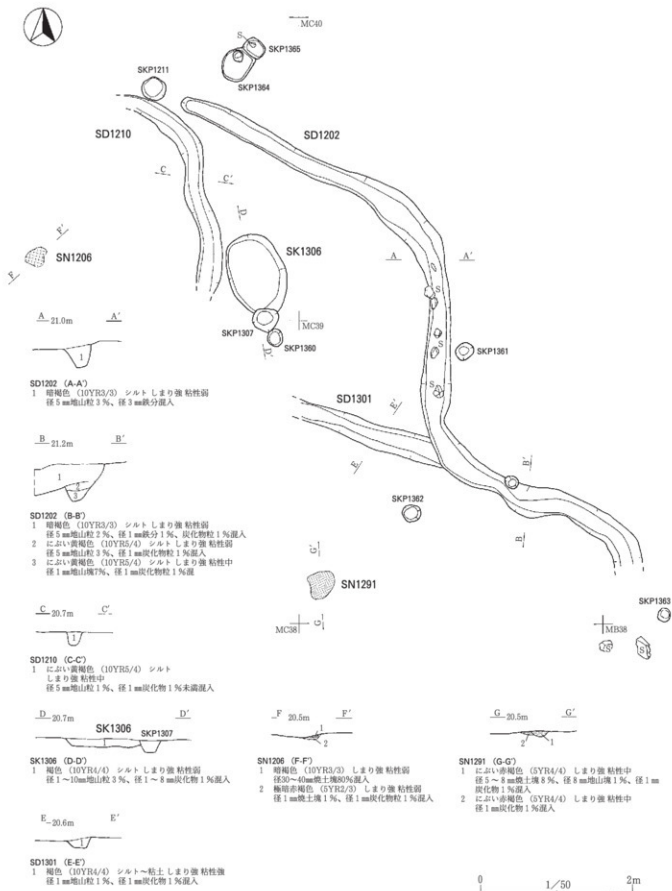
第25図 溝跡(9) SD1185



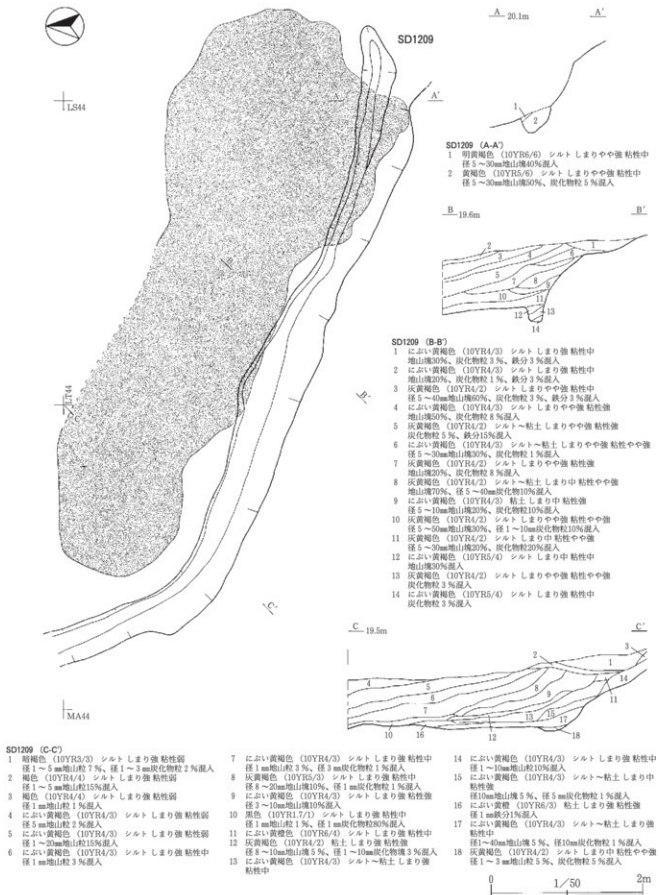
第26図 溝跡 (10) SD1181



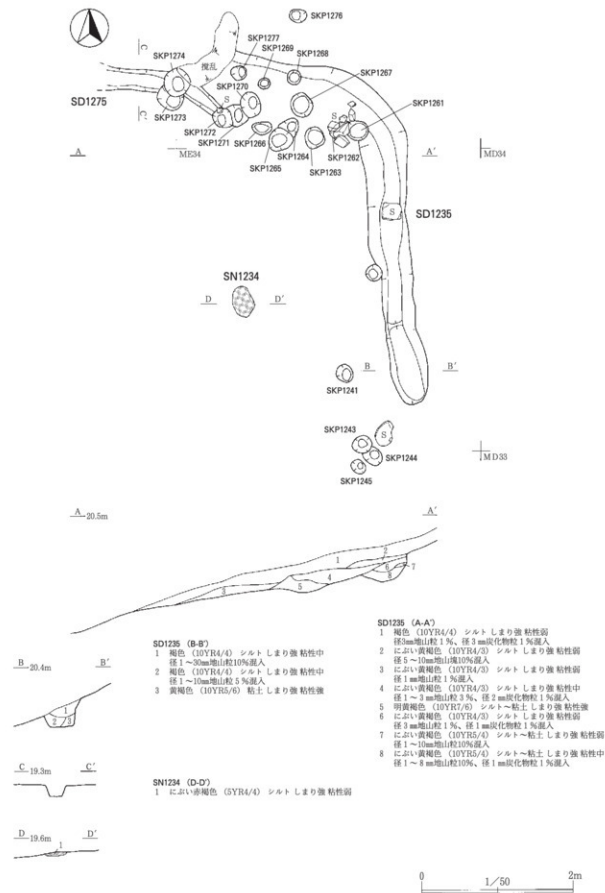
第27図 溝跡 (11) SD1191・1215・1216・1217・1246



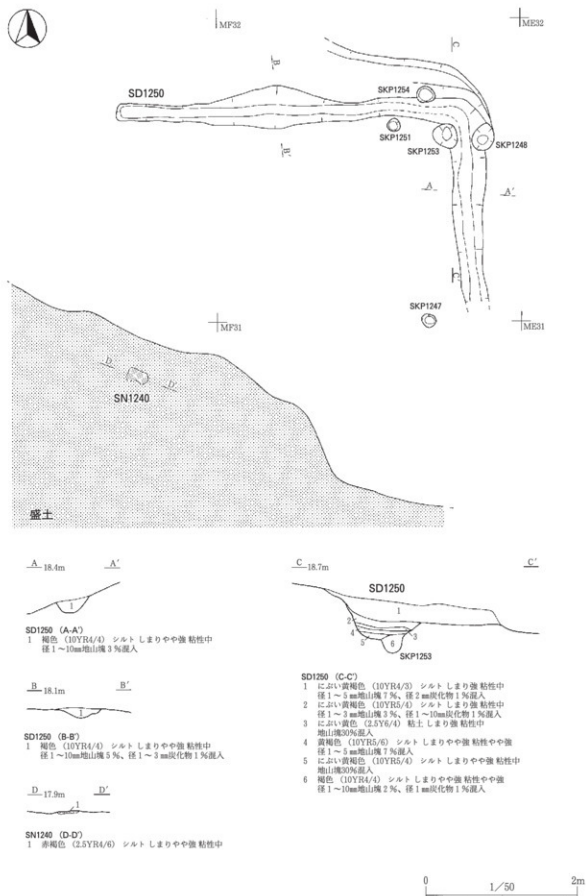
第28図 溝跡 (12) SD1202・1210・1301、SN1206・1291焼土遺構、SK1306土坑



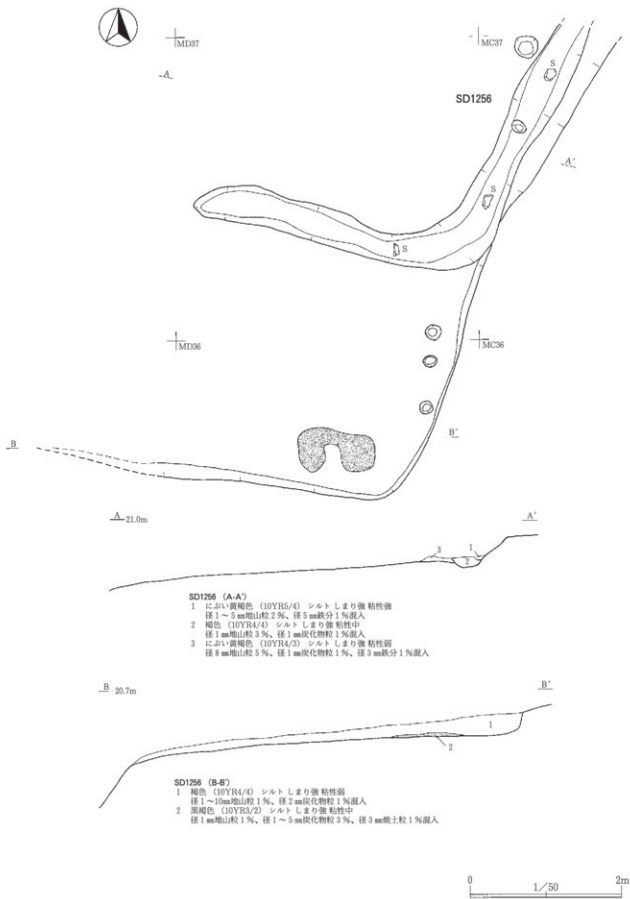
第29図 溝跡 (13) SD1209



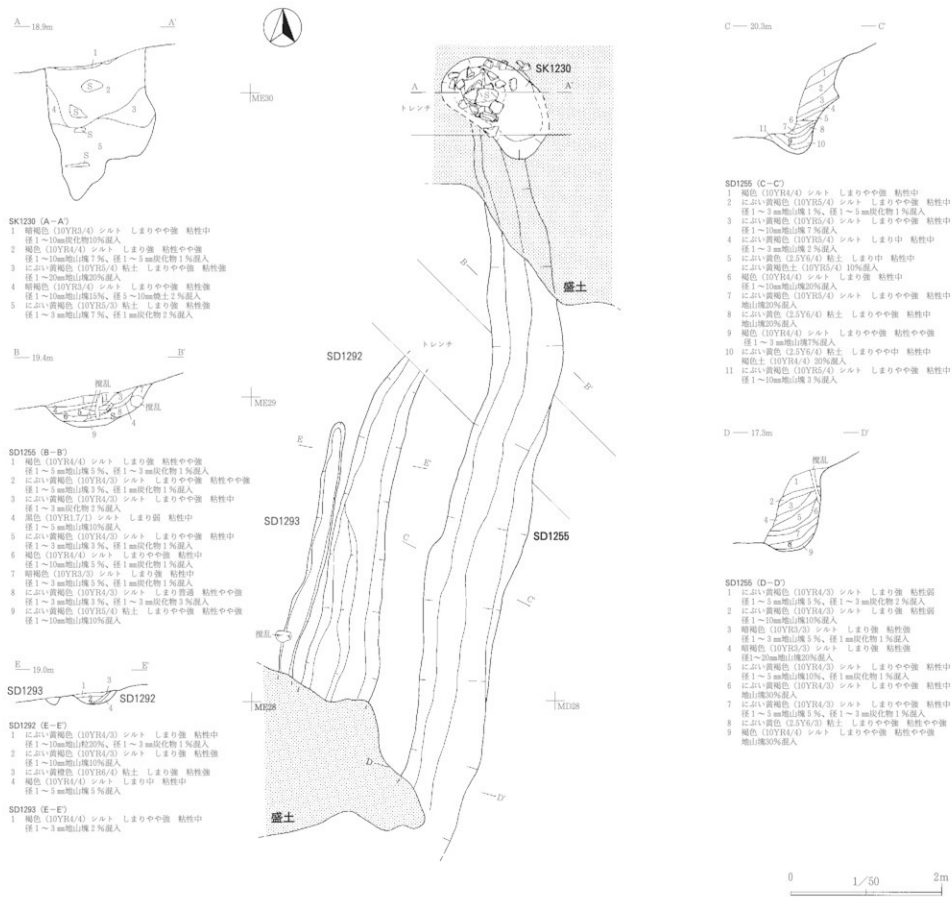
第30図 溝跡 (14) SD1235・1275、SN1234焼土遺構



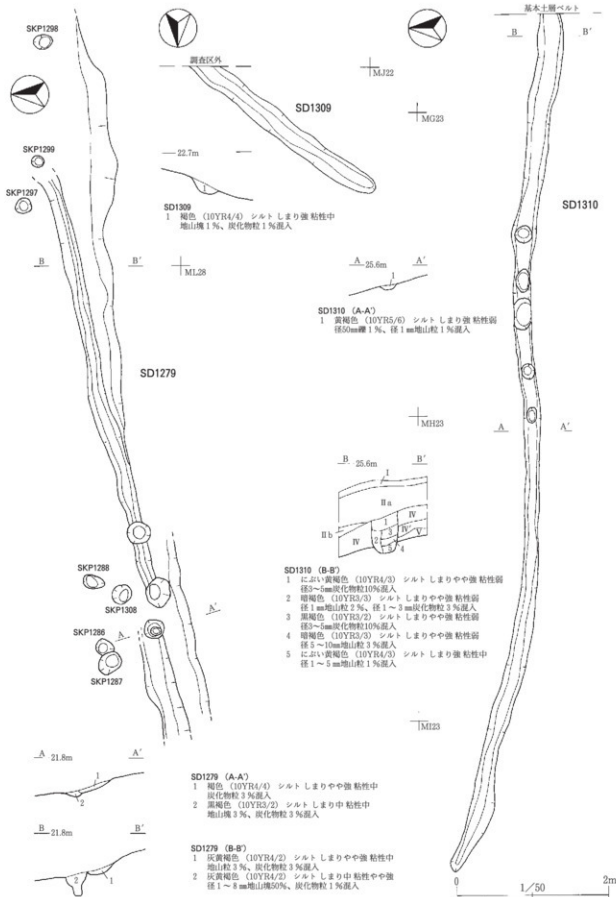
第31図 溝跡(15) SD1250、SN1240焼土遺構



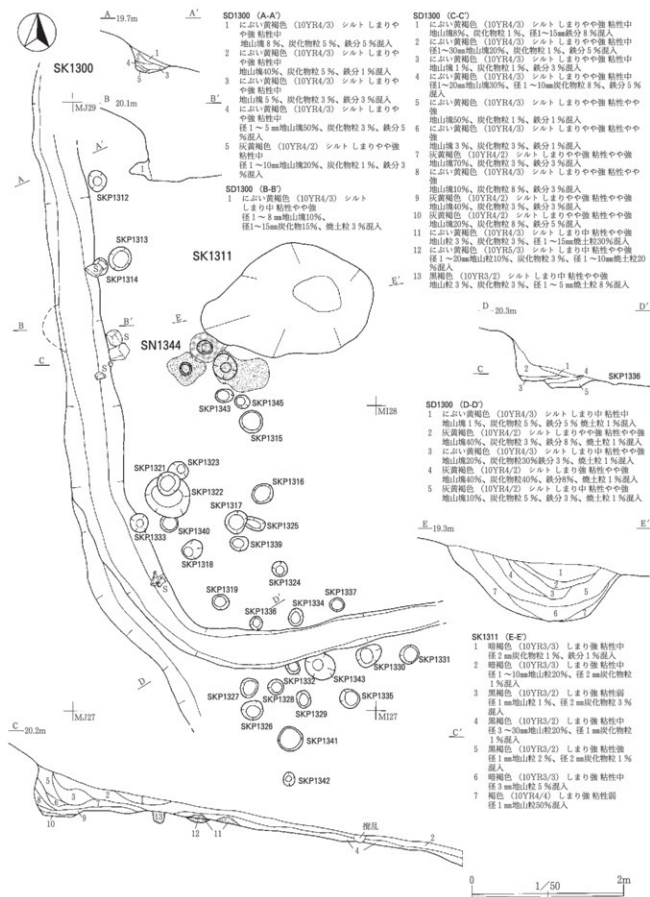
第32図 溝跡 (16) SD1256



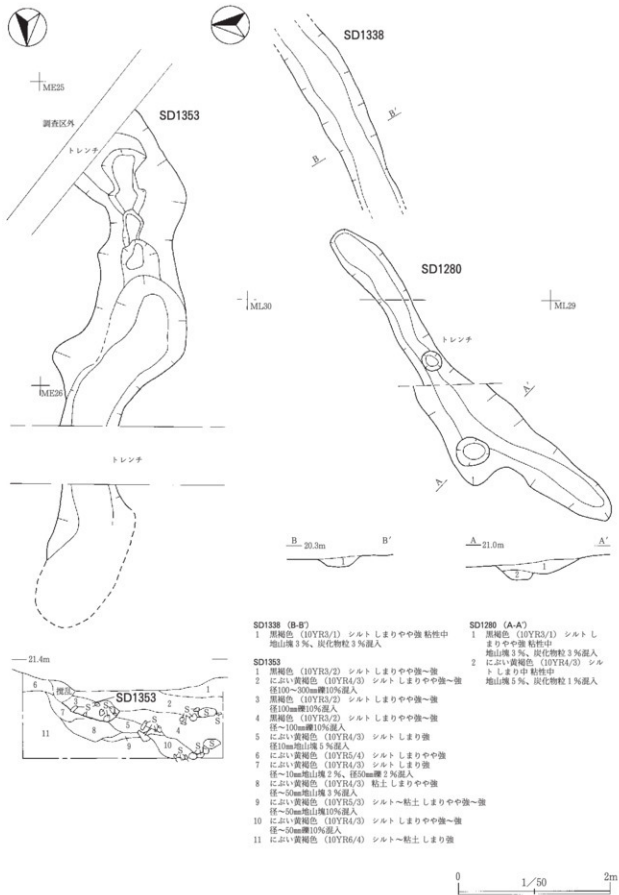
第33図 溝跡 (17) S D1255・1292・1293、S K1230土坑



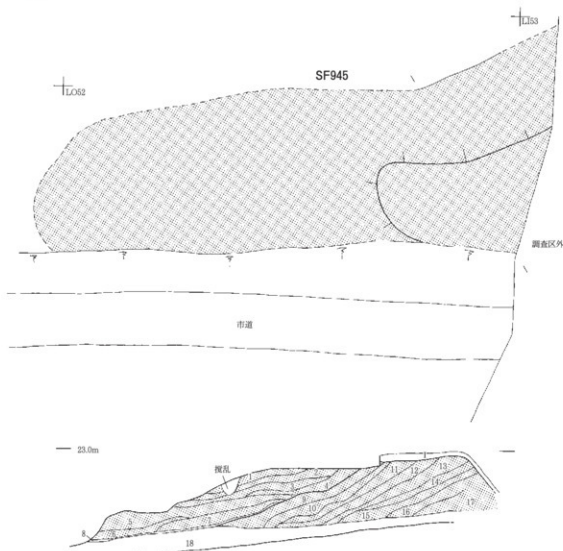
第34図 溝跡 (18) SD1279・1309・1310



第35図 溝跡(19) SD1300、SN1344焼土遺構、SK1311土坑

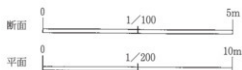


第36図 溝跡 (20) SD1280・1338・1353

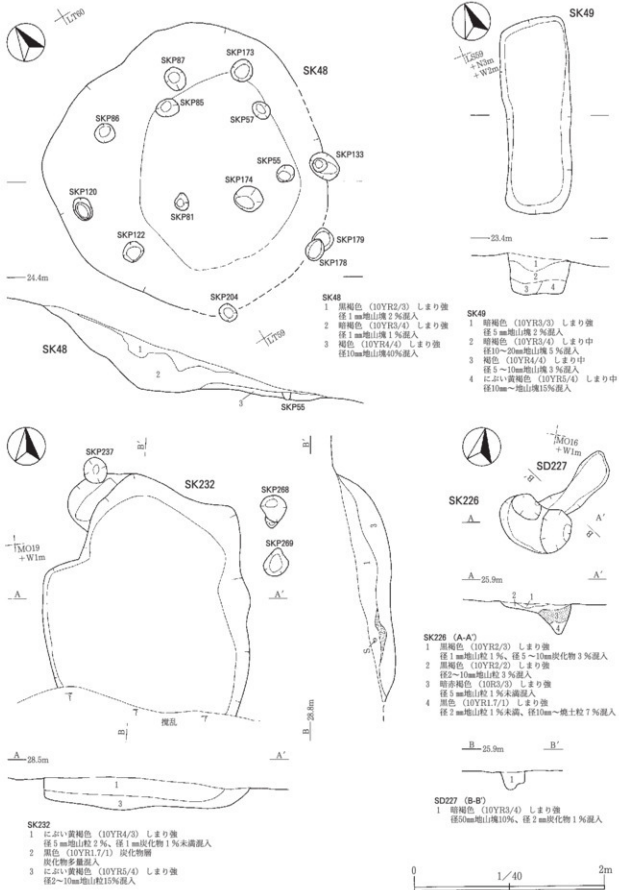


SF945

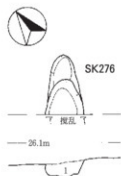
- | | |
|---|--|
| <p>1 におい黄褐色 (10YR5/4) しまりやや弱 粘性やや弱</p> <p>2 におい黄褐色 (10YR5/4) しまりやや弱 粘性やや弱</p> <p>3 におい黄褐色 (10YR5/4) しまり弱 粘性やや弱</p> <p>4 におい橙 (2.5YR6/3) しまり弱 粘性弱</p> <p>5 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり弱 粘性中</p> <p>6 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり弱 粘性中</p> <p>7 淡赤褐色 (2.5YR7/4) しまりやや弱 粘性弱</p> <p>8 におい黄褐色土 (10YR5/4) 細砂 しまり非常に弱 粘性非常に弱</p> <p>9 淡赤褐色 (2.5YR7/4) しまりやや強 粘性弱</p> <p>10 明褐色 (7.5YR5/6) しまり中 粘性中</p> | <p>11 淡赤褐色 (2.5YR7/4) しまり中 粘性弱</p> <p>12 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強 粘性強</p> <p>13 暗褐色 (10YR3/3) しまり強 粘性やや強</p> <p>14 暗褐色 (10YR3/3) しまり強 粘性やや強</p> <p>15 暗褐色 (10YR3/3) しまり強 粘性やや強</p> <p>16 におい黄褐色 (10YR5/4) しまりやや強 粘性強</p> <p>17 におい黄褐色 (10YR5/4) しまり中 粘性強</p> <p>18 黒褐色 (10YR3/2) シルト～細砂 しまり非常に強 粘性非常に強</p> |
|---|--|



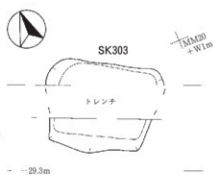
第37図 土壘 SF945



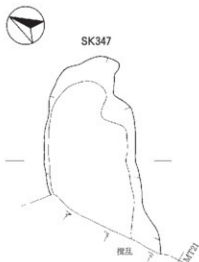
第38図 土坑(1) SK48・49・226・232、SD227溝跡



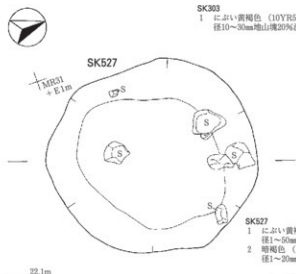
SK276
1 暗褐色 (10YR3/3) しまり中



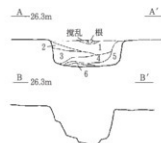
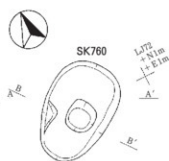
SK303
1 におい黄褐色 (10YR5/4) しまり中
径10~30mm地山塊20%混入



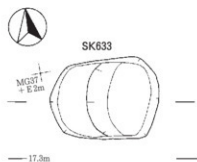
SK347
1 暗褐色 (10YR3/3) しまり中
径5mm地山塊2%混入
2 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり中
径10mm地山塊30%混入



SK527
1 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり中
径1~50mm地山塊7%混入
2 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや弱
径1~20mm地山塊1%、径1mm未満炭化物2%混入



SK780
1 褐色 (10YR4/4) しまりやや強 粘性強
径2~10mm地山塊5%混入
2 褐色 (10YR4/4) しまり強 粘性中
径1~2mm地山塊3%混入
3 黄褐色 (10YR5/6) しまり強 粘性中
径3~20mm地山塊7%混入
4 褐色 (10YR4/4) しまり中 粘性強
径1~5mm地山塊10%混入
5 暗褐色 (7.5YR3/2) しまりやや弱
6 におい黄褐色 (10YR5/3) しまりやや強



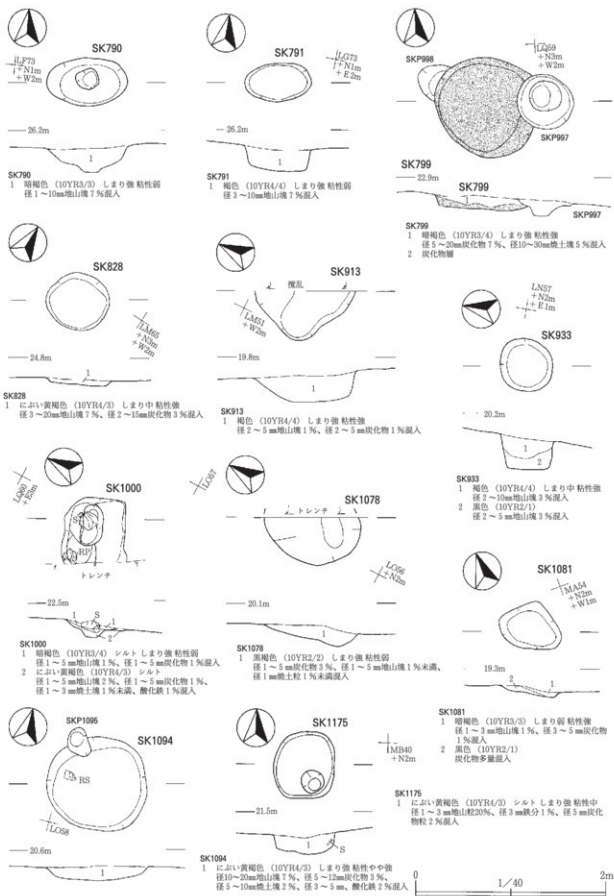
SK633
1 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり強 粘性弱
径2~10mm地山塊40%混入
2 暗褐色 (10YR3/3) しまり強 粘性強
径1~10mm地山塊1%、径2mm炭化物3%混入
3 黒色 (10YR1.7/1) しまり強 粘性強
径5~10mm地山塊1%、炭化物多量混入



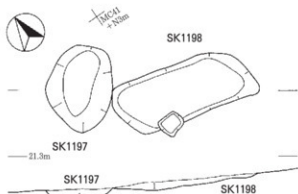
SK715
1 暗褐色 (10YR3/4) しまり強 粘性中
径5~20mm地山塊3%混入
2 暗褐色 (10YR3/4) しまりやや強 粘性中
径5~10mm地山塊5%混入



第39図 土坑 (2) SK276・303・347・527・633・715・760



第40図 土坑(3) SK790・791・799・828・913・933・1000・1078・1081・1094・1175



SK1197

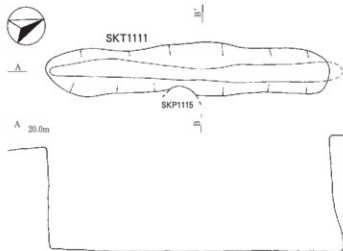
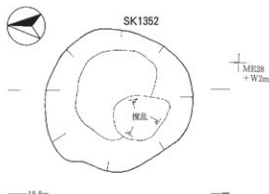
- 1 におい黄褐色 (10YR4/3) シルトしまりやや強 粘性中 地山塊50%、炭化物粒1%混入

SK1198

- 1 におい黄褐色 (10YR4/3) シルトしまり中 粘性中 地山塊70%、炭化物粒5%混入

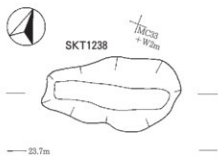
SK1352

- 1 黄褐色 (10YR2/3) シルトしまりやや強 粘性中 径1mm地山塊3%、径1~2mm炭化物1%混入
2 黒褐色 (10YR3/2) シルトしまりやや強 粘性中 径1~2mm地山塊1%、径1~3mm炭化物1%混入
3 暗褐色 (10YR3/3) シルトしまりやや強 粘性中 径1~2mm地山塊3%、径1mm炭化物1%混入



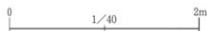
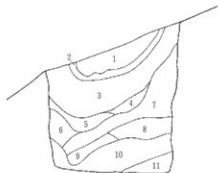
SKT1111

- 1 暗褐色 (10YR3/3) しまり強 粘性中 径2~10mm地山塊2%混入
2 暗褐色 (10YR3/2) しまり中 粘性中 径10~20mm地山塊20%混入
3 明黄褐色 (10YR6/6) しまり強 粘性強 暗褐色土が30%混入
4 褐色 (10YR4/4) しまり強 粘性強

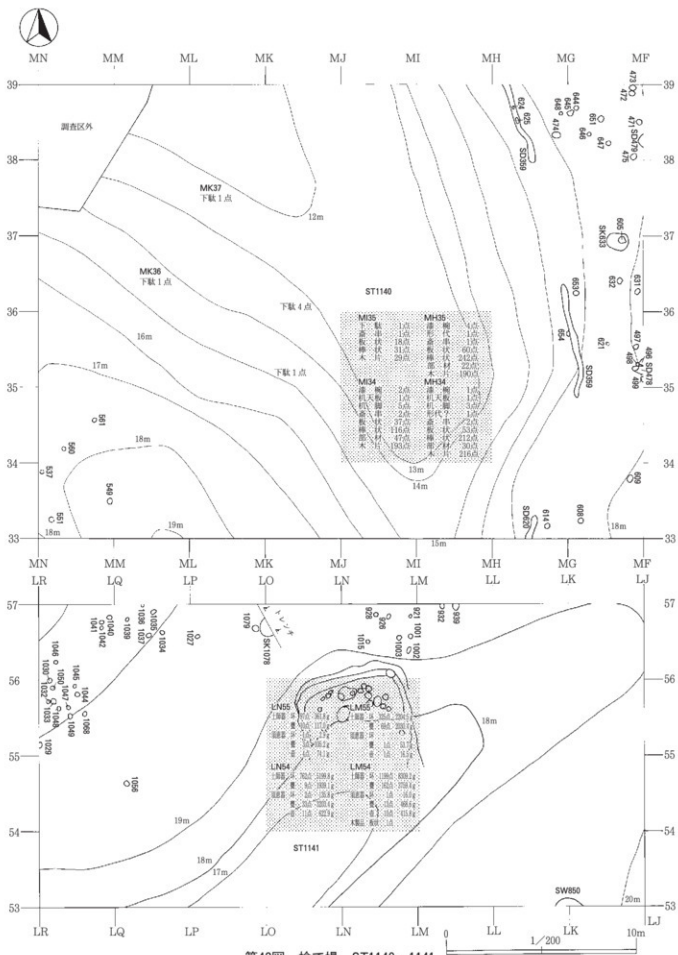


SKT1238

- 1 褐色 (10YR4/4) シルトしまり中 粘性中 地山塊5%、炭化物粒1%、径1~5mm鉄分8%混入
2 褐色 (10YR4/4) シルトしまりやや強 粘性中 地山塊5%、炭化物粒40%、鉄分3%混入
3 灰黄褐色 (10YR4/2) シルトしまりやや強 粘性やや強 径1~10mm地山塊8%、炭化物粒3%、鉄分3%混入
4 褐色 (10YR4/4) シルトしまり中 粘性やや強 地山塊20%、炭化物粒1%、鉄分3%混入
5 灰黄褐色 (10YR4/2) シルトしまり中 粘性やや強 地山塊30%、炭化物粒3%、鉄分3%混入
6 におい黄褐色 (10YR4/3) シルトしまり中 粘性中 地山塊10%、炭化物粒3%、鉄分3%混入
7 におい黄褐色 (10YR4/3) シルトしまり中 粘性やや強 地山塊50% 炭化物粒1%、鉄分5%混入
8 におい黄褐色 (10YR4/3) シルトしまり中 粘性やや強 地山塊30%、炭化物粒1%、鉄分5%混入
9 におい黄褐色 (10YR4/3) シルトしまり中 粘性やや強 地山塊5%、炭化物粒1%、鉄分3%混入
10 褐色 (10YR4/4) シルトしまりやや中 粘性中 地山塊30%、炭化物粒1%、鉄分3%混入
11 褐色 (10YR4/4) シルトしまり中 粘性やや強 地山塊5%、炭化物粒3%、鉄分3%混入



第41図 土坑(4) SK1197・1198・1352、陥し穴 SKT1111・1238



第42図 捨て場 ST1140・1141

第3節 出土遺物

1 縄文土器（第43・65図、図版40）

縄文土器は、遺構外で131点が出土した。特にLT42で多く出土している。文様構成の分かる資料は少ないが、横位施文された羽状縄文や木目状撚糸文が確認されており、大部分は前期に属するものと推定される。

2 石器（第43・66図、図版40）

石器は、遺構内・外で石鏃が4点、石槍が1点、石鐮が2点、石匙が2点、スクレイパーが4点、剥片が35点、残核が2点が出土した。スクレイパーのうち、第43図16・17は石匙の破損品である可能性も考えられる。石器の帰属時期は不明であるが、大きくは縄文時代前期に属するものと推測される。

3 土師器（第44～50・67・68図、図版41～44）

土師器は、遺構内・外で坏と高台坏をあわせて5509点、甕と羽釜・鍋・鉢・壺を合わせて731点が出土した。

坏は全てロクロ成形で底面に回転糸切り痕を残す。底部にヘラケズリなどの調整は認められない。器形は底部から口縁まで直線的に立ち上がるが、第44図13のように口縁端部が強く外反するものがわずかに存在する。また、全体の約4%に相当する220点に油煙の付着が認められ、灯明皿として使用された可能性が高い。高台坏は内面が研磨され黒色処理が施されており、底面には回転糸切り痕を残す。出土点数は非常に少ない。甕は全体の形状を復元することはできないが、成形技法により非ロクロ成形とロクロ成形のものに大別される。出土点数は後者が圧倒的に多い。非ロクロ成形の第48図8は、ほぼ直立する器壁から口縁部が短く明瞭に外反する器形をなし、外面には上方向のケズリ、内面には横方向のハケメが施される。第49図11は非ロクロ成形甕の底部資料で、内外面にハケメが施され、底面には木葉痕が残る。ロクロ成形の資料は調整技法が不明確であるが、第48図6・7には内面に縦方向のハケメが、第49図1には外面に下方向のケズリが認められる。口縁部形状にはいくつかのバリエーションがあり、時期的変遷を示す可能性がある。胴部破片には叩き整形のものが、底部破片には回転糸切り痕を残すものがあり、大形品は叩きにより丸底に形成され、小形品は平底の形態をなすものと考えられる。羽釜は、第49図3・4の2点のみであるが、甕の可能性もある。鍋はロクロ成形によるもので、平底をなしており、第50図9の様な高台を伴う可能性がある。鉢は第50図10の様な大形品と11～14の小形品があり、前者は下部に横位ケズリ調整、後者は外面に縦位ケズリ調整が認められる。壺は1点のみの出土である。

4 須恵器（第51～53・69～71図、図版45・46）

須恵器は、遺構内外で坏が7点、甕が68点、壺が39点が出土した。

坏は個体数が少ないが、底部が残存する資料では回転糸切り後無調整である。甕は口縁部が残る資料では口唇が丸味を帯び、口縁は緩やかに外反して立ち上がる器形をなす。外面の叩き具痕は平行線状格子目状のものがあり、内面の当て具痕は平行線状のほか、放射線状青海波状のものが認められる。

第52図2・7は内面を研磨使用している。壺は内面にハケメ状の調整が認められものがあり、底部にはリング状の高台を取り付けている。第53図8・9は内面を研磨使用している。

5 灰釉陶器（第54図、図版46）

灰釉陶器は、遺構内外で皿2点、壺1点が出土した。9世紀後半の猿投窯産で、編年からK-90号窯式と考えられる。

6 石製品（第54図、図版47）

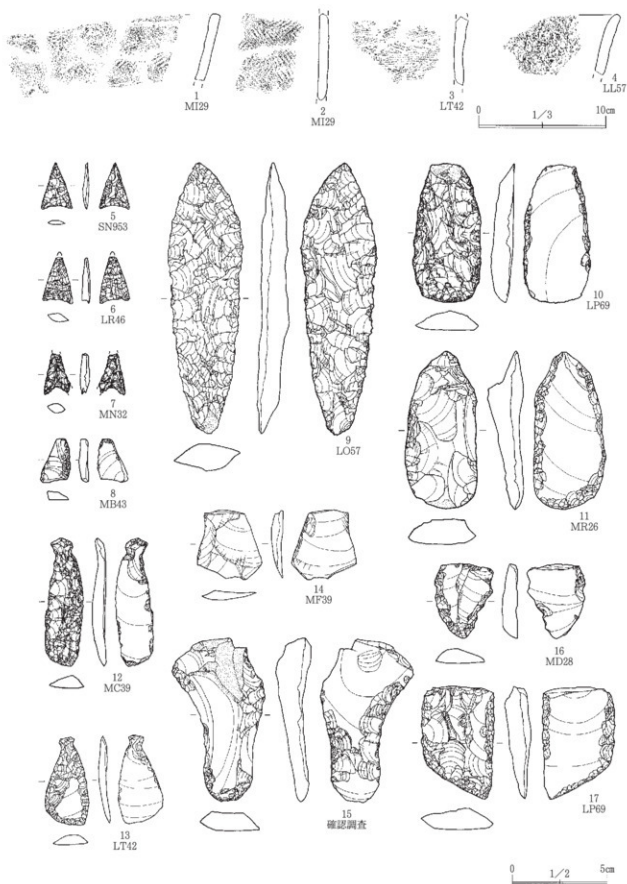
石製品は、遺構内外で砥石が4点、硯が1点が出土した。

7 鉄製品（第54・72図、図版47）

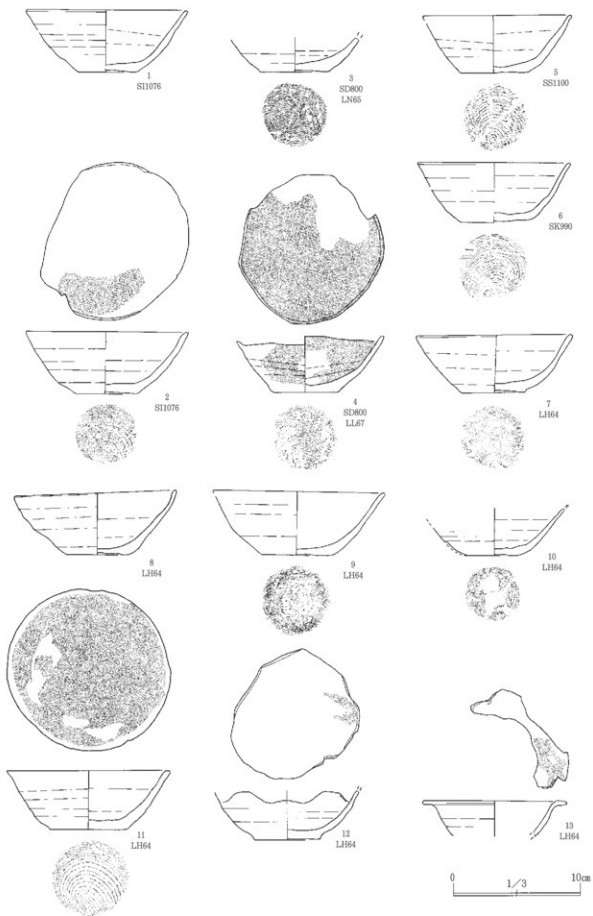
鉄製品は、遺構内外で紡錘車2点、鉄鑿4点、鉄鍋1点、釘1点、不明鉄製品20点が出土した。

8 木製品（第55図～56図、図版49）

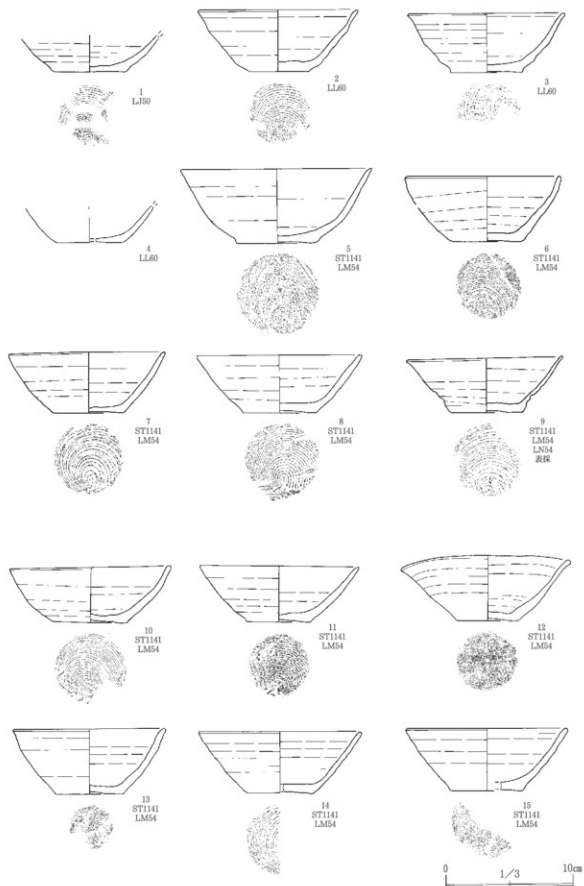
木製品は大部分がS T 1140とその周辺、部分的にS T 1141周辺の沢地で、碗7点、下駄8点、机天板2点、机脚8点、形代3点、斎串6点、板状木製品168点、棒状木製品601点、部材99点、木片628点が出土した。碗は全て黒漆塗りで、底面には轆轤爪痕が残る。下駄は8点中7点がS T 1140の範囲から外れており、この捨て場とは無関係である可能性が高い。平面形は方形もしくは楕円形を呈し、鼻緒穴は全て中軸線上にのる。7点が連歯下駄、1点が差歯下駄である。机は天板と脚を含めて2組分認められる。天板は片面を丁寧に整形し、四隅に脚を嵌め込む穴を穿っている。脚には楔が残る場合がある。形代は第59図1が刀形、同2・3は鳥形の可能性がある。斎串は、棒状木製品のうち先端を丁寧に細く加工したものを抽出し認定した。板状木製品は円形で中心部が穿孔されたものや、細長く一端が尖るものなどがある。棒状木製品は、先端部を篋状に加工したもの（第60図8）、一端に括れをもつもの（同9）、一辺を鋸状に加工したもの（同10）などがあるが、このような加工の施された例は量的に少ない。サイズや加工法により大きく分けると、幅10mmほどで比較的大く断面四角形のもの113点、同様の幅で断面円形のもの37点、幅5～6mmと比較的細く断面四角形のもの26点、同様の幅で断面六角形のいわゆる箸状のもの416点がある。これら592点のうち97点に、部分的な炭化を認めることができる。



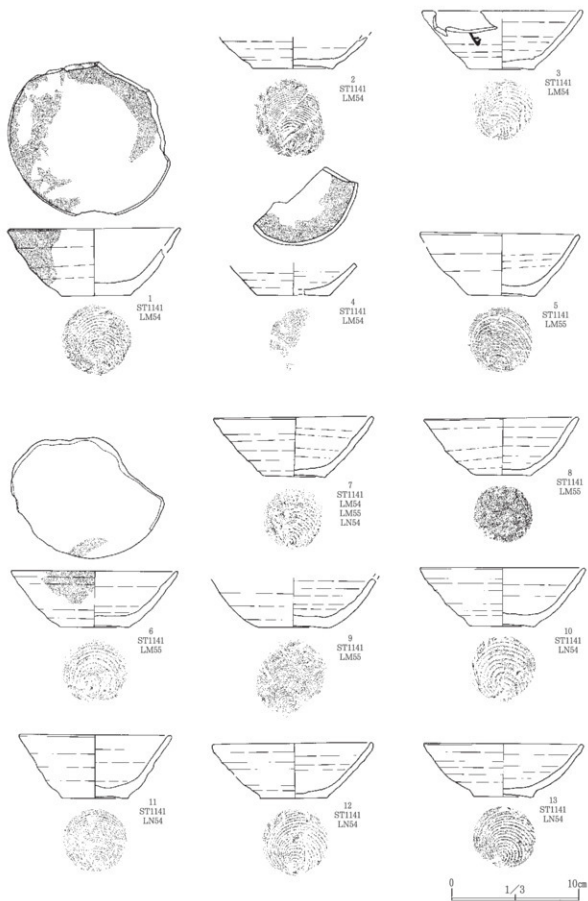
第43図 縄文土器・石器



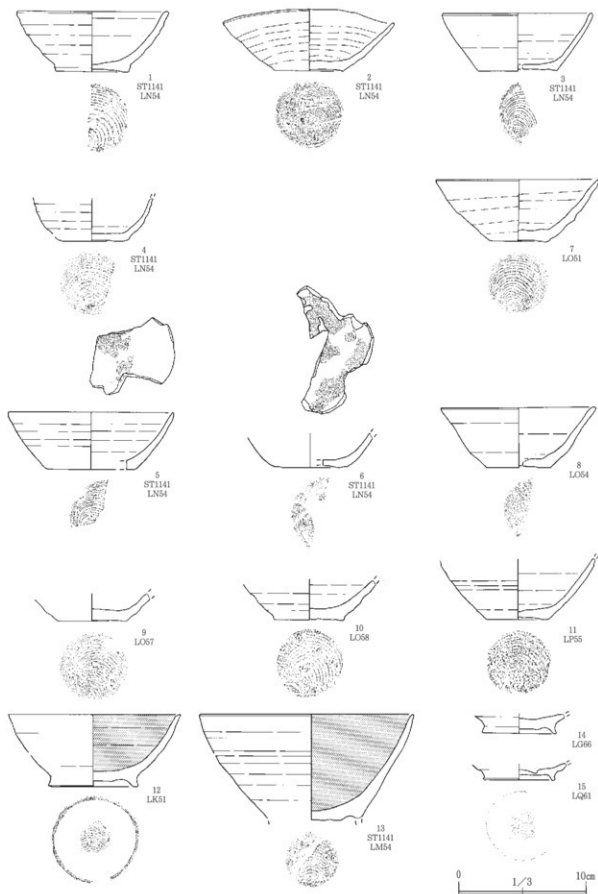
第44図 土師器(1) 坏



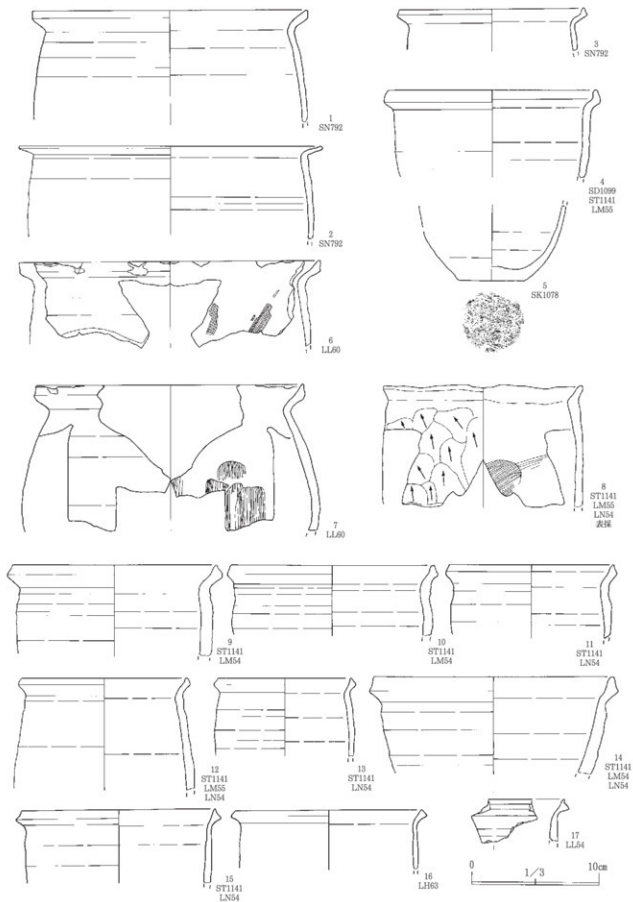
第45图 土師器(2) 坏



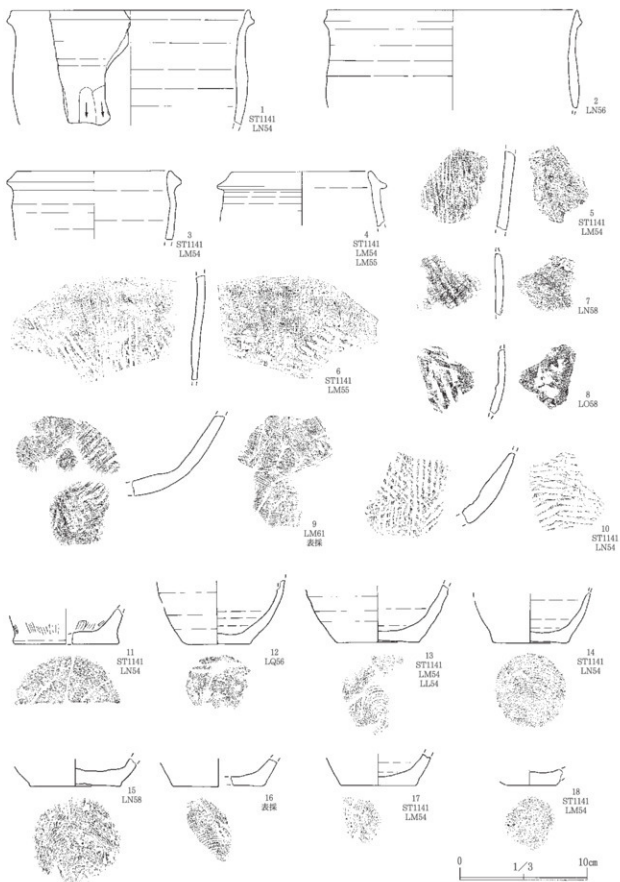
第46図 土師器 (3) 坏



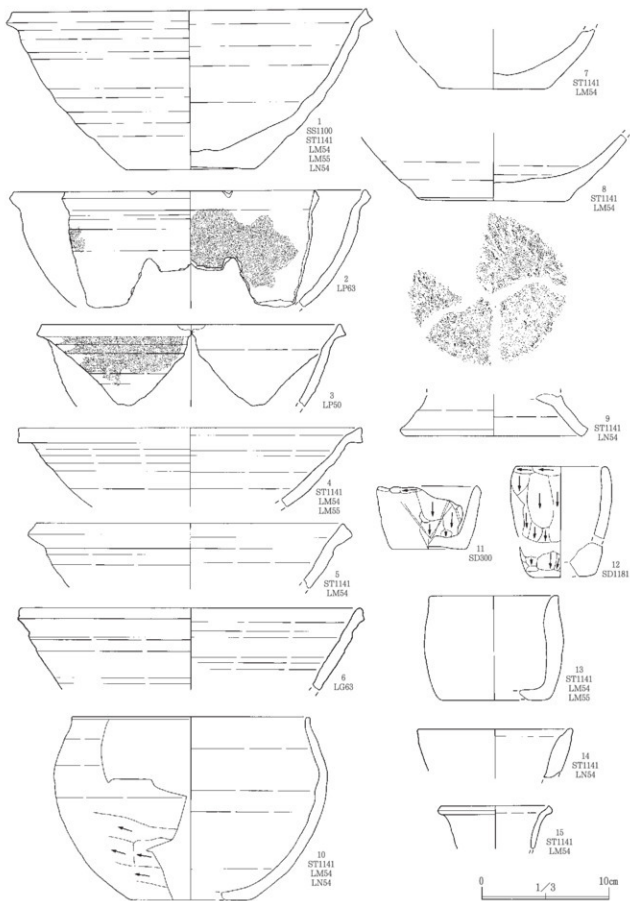
第47図 土師器(4) 杯・高台杯



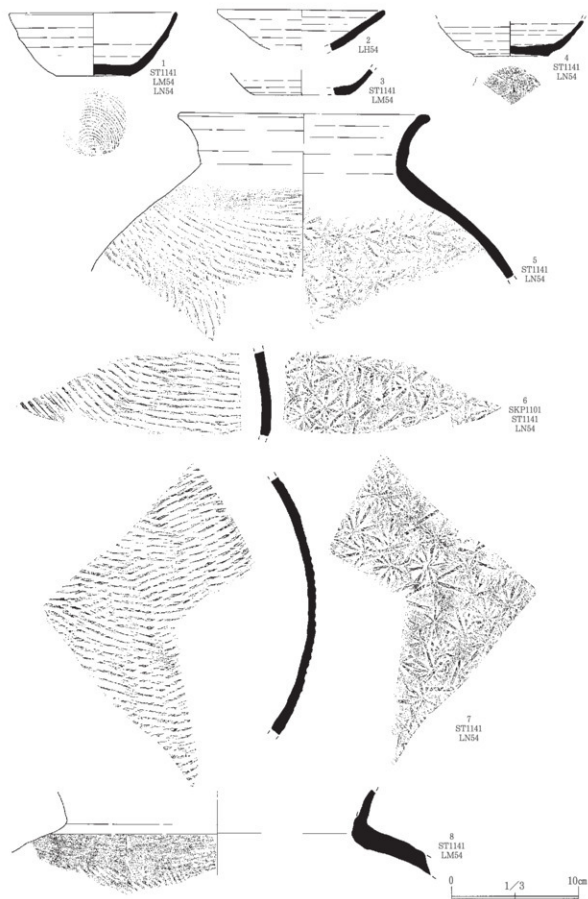
第48図 土師器(5) 甕



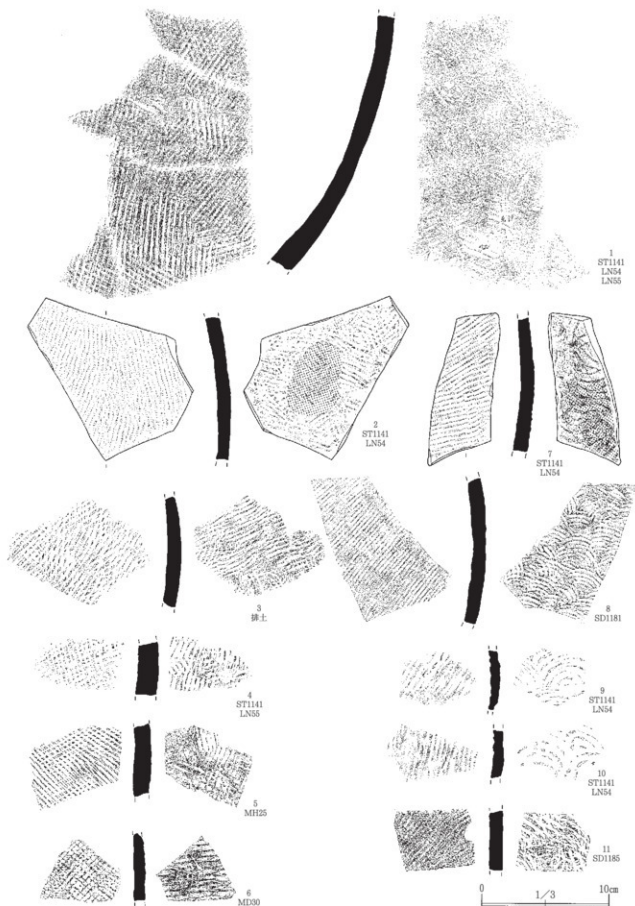
第49図 土師器(6) 甕



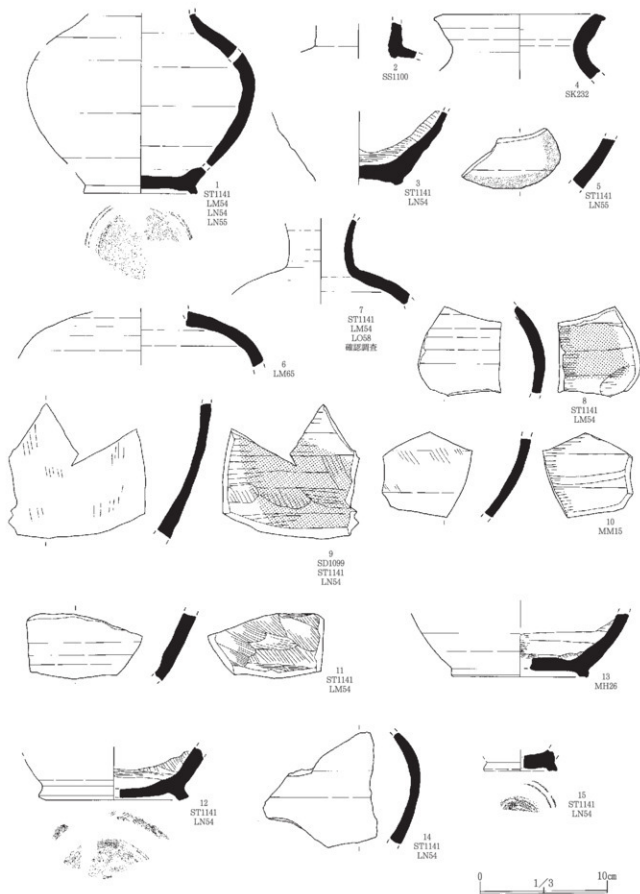
第50図 土師器(7) 鍋・鉢・壺



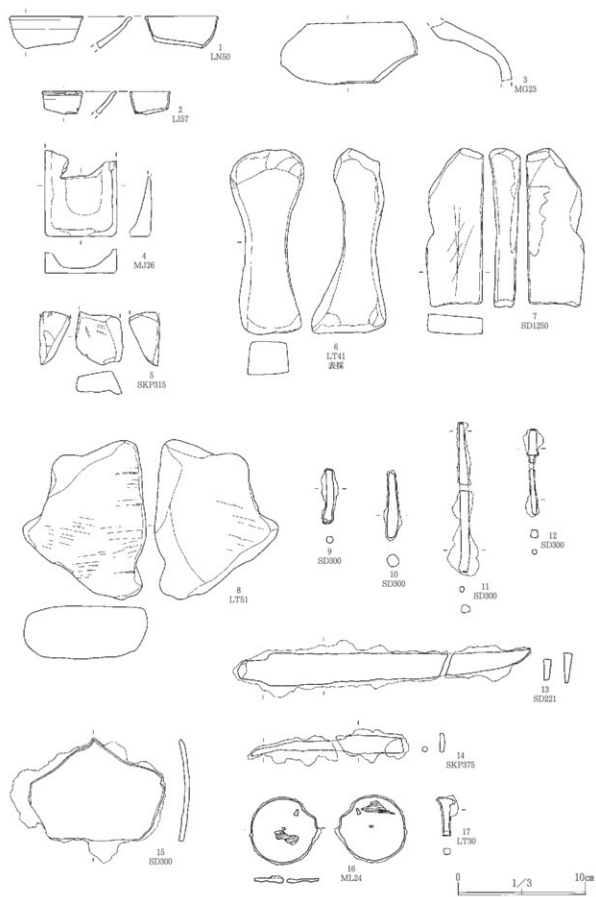
第51図 須恵器(1) 坏・甕



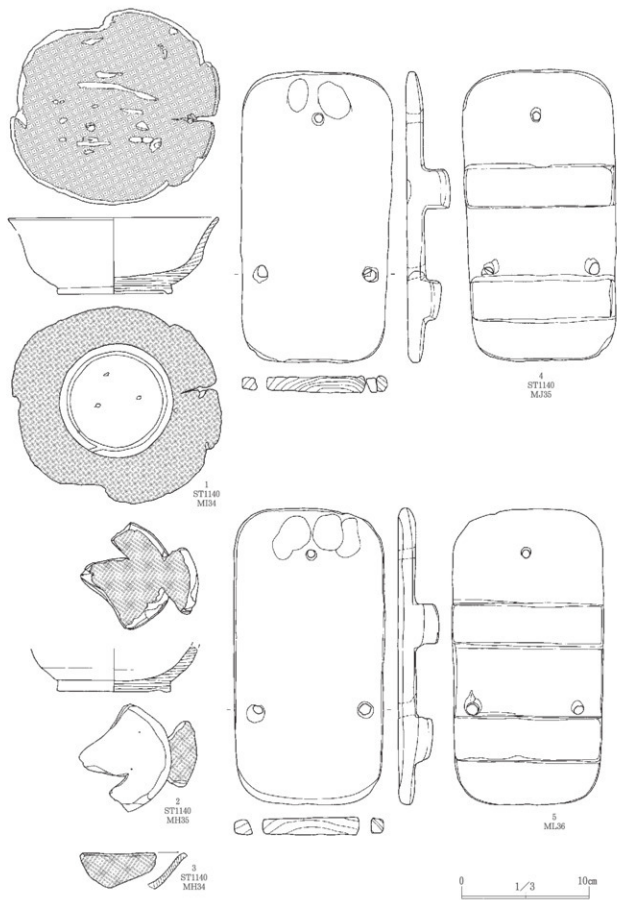
第52図 須恵器(2) 壺



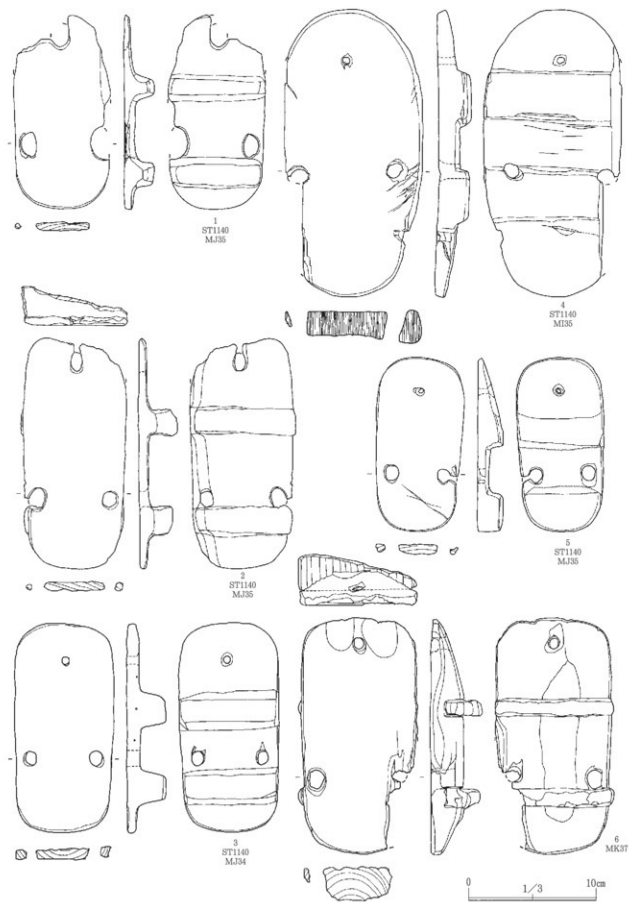
第53図 須恵器(3) 壺



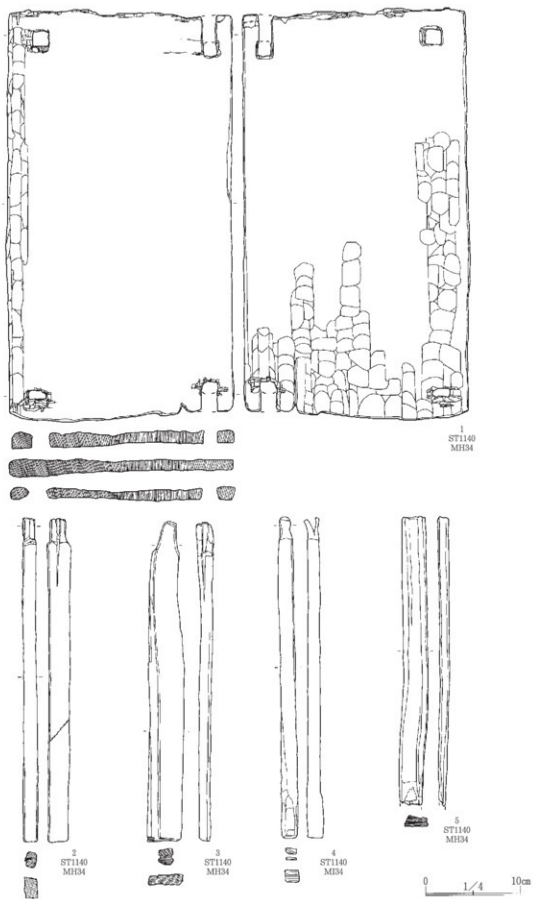
第54図 灰釉陶器・硯・砥石・鉄製品



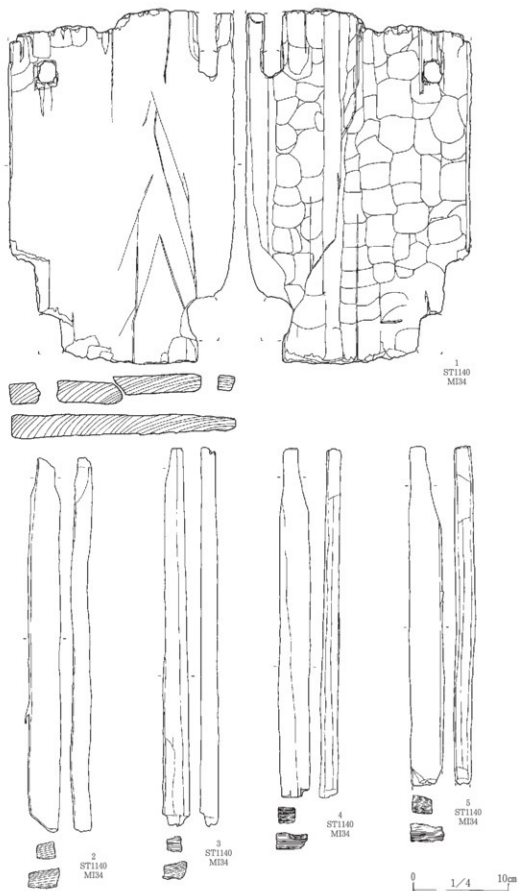
第55図 木製品(1) 椀・下駄



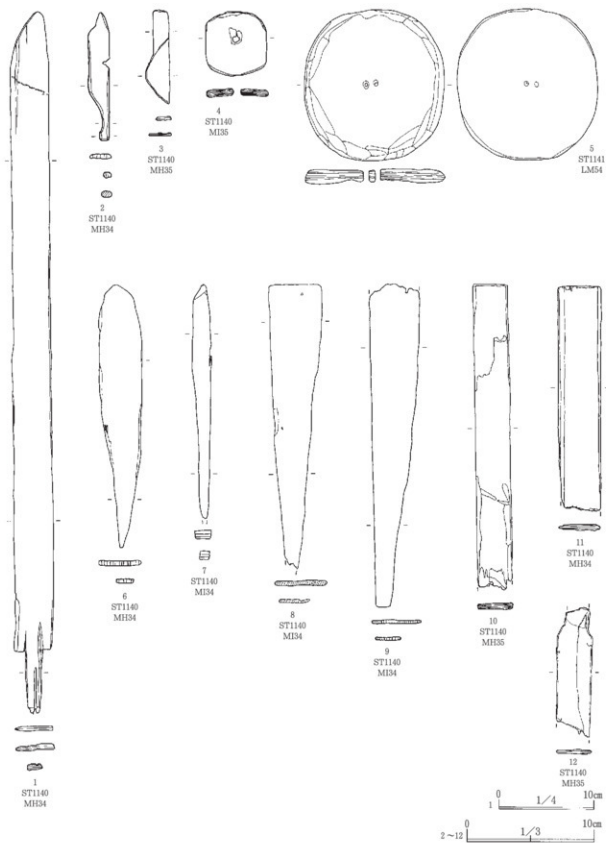
第56図 木製品(2) 下駄



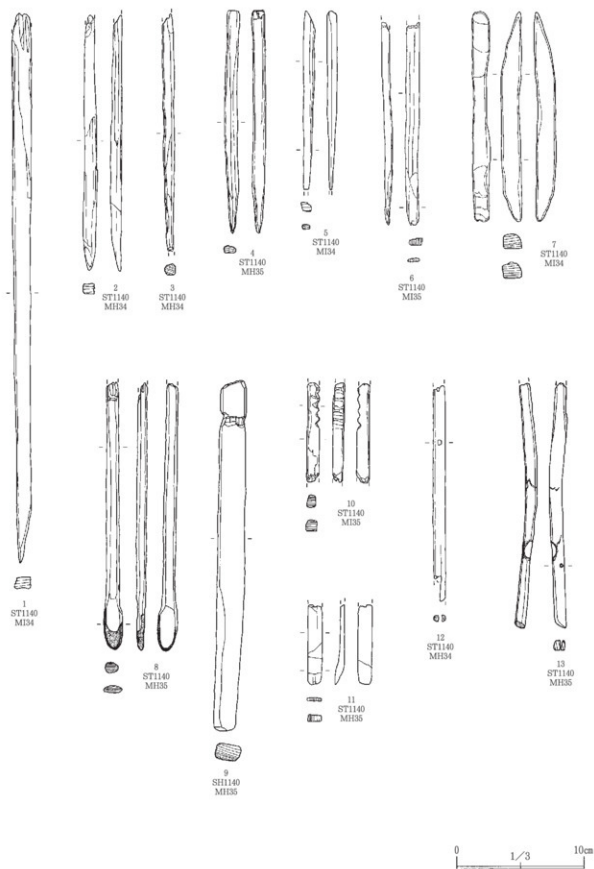
第57図 木製品(3) 机天板・机脚



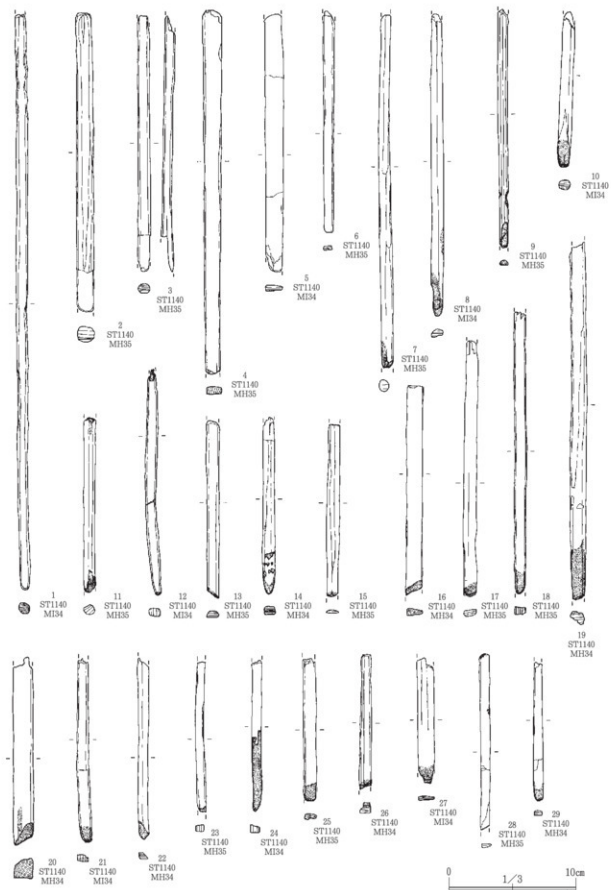
第58図 木製品(4) 机天板・机脚



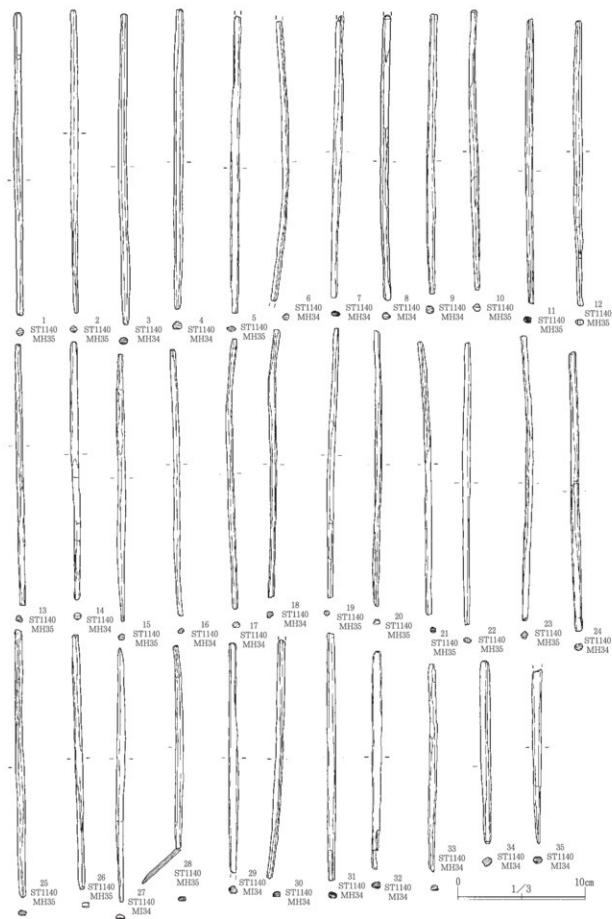
第59図 木製品(5) 形代・板状木製品



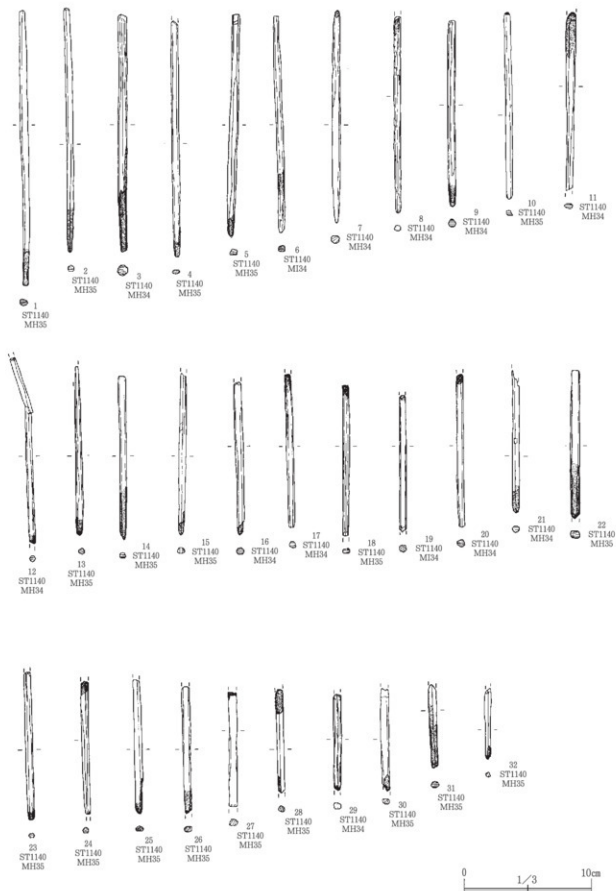
第60図 木製品(6) 斎串・棒状木製品



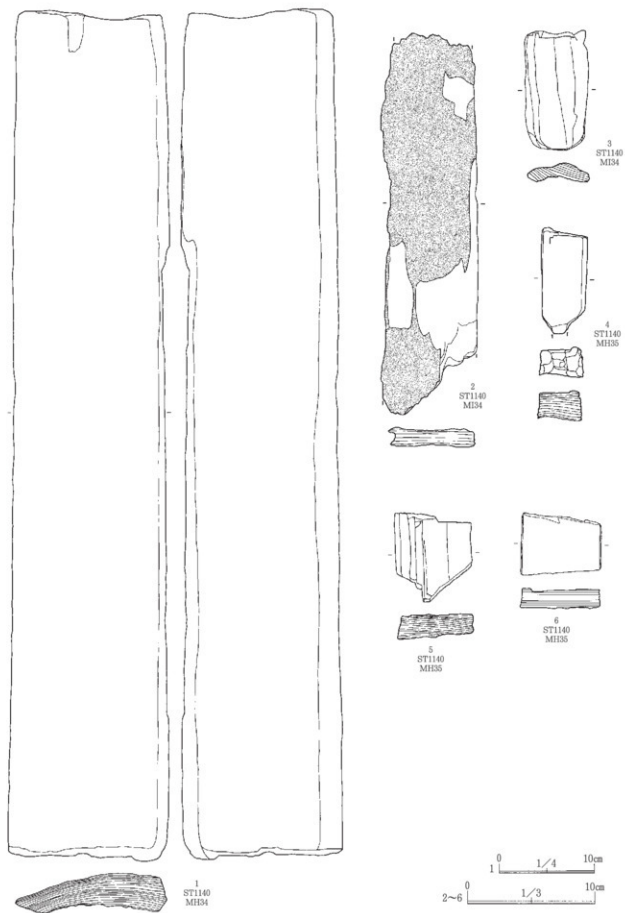
第61図 木製品(7) 棒状木製品



第62図 木製品(8) 棒状木製品



第63図 木製品(9) 棒状木製品



第64図 木製品 (10) 部材

第16表 掲載遺物一覧(1)

神岡 番号	遺物 番号	図取 番号	種 別	器 形 器 種	出 土 遺 構 出 土 地 区	法 量 (mm)	備 考
43	1	40	縄文土器	深鉢	M129	-	羽状縄文(横位)
43	2	40	縄文土器	深鉢	M129	-	羽状縄文(横位)
43	3	40	縄文土器	深鉢	L742	-	木目状横紋(横位)
43	4	40	縄文土器	深鉢	LL57	-	
43	5	40	石器	石鏃	SN263	長さ25×幅16×厚さ3、重量0.7g	
43	6	40	石器	石鏃	LR46	長さ25×幅16×厚さ4、重量1.1g	
43	7	40	石器	石鏃	MN32	長さ21×幅14×厚さ5、重量1.0g	
43	8	40	石器	石鏃	MB43	長さ23×幅16×厚さ5、重量1.5g	
43	9	40	石器	石槍	LO57	長さ149×幅40×厚さ17、重量79.2g	
43	10	40	石器	石鏃	LP69	長さ73×幅36×厚さ12、重量31.0g	
43	11	40	石器	石鏃	MR26	長さ83×幅38.5×厚さ19、重量49.4g	
43	12	40	石器	石鏃	MC39	長さ67×幅20×厚さ7、重量7.7g	
43	13	40	石器	石鏃	L742	長さ47.5×幅23×厚さ5、重量4.9g	
43	14	40	石器	ステイバー	MF39	長さ37×幅34×厚さ6、重量5.1g	
43	15	40	石器	ステイバー	確認調査	長さ86×幅49×厚さ19、重量45.3g	
43	16	40	石器	ステイバー	MD28	長さ39×幅31×厚さ8、重量6.5g	
43	17	40	石器	ステイバー	LP89	長さ59.5×幅39×厚さ14、重量29.8g	
44	1	41	土師器	杯	S11076	口径(127)×底径46×器高(49)	底面厚減
44	2	41	土師器	杯	S11076	口径(128)×底径48×器高(49)	内面:油煙
44	3	41	土師器	杯	SD800・LN85	口径×底径54×器高-	
44	4	41	土師器	杯	SD800・LL67	口径116.5×底径49×器高44	内外面:油煙
44	5	41	土師器	杯	SS1100	口径(117)×底径52×器高(45.5)	
44	6	41	土師器	杯	SR390	口径(120)×底径55×器高(47)	
44	7	41	土師器	杯	LJ64	口径123×底径50×器高49	
44	8	41	土師器	杯	LJ64	口径128×底径51×器高51	底面厚減
44	9	41	土師器	杯	LJ64	口径(136)×底径54×器高(50)	
44	10	41	土師器	杯	LJ64	口径×底径39×器高-	
44	11	41	土師器	杯	LJ64	口径129×底径60×器高47	内面:油煙
44	12	41	土師器	杯	LJ64	口径×底径50×器高-	内面:油煙・底面厚減
44	13	41	土師器	杯	LJ64	口径(114)×底径×器高-	内面:油煙
45	1	41	土師器	杯	LJ50	口径×底径54×器高-	
45	2	41	土師器	杯	LL60	口径(126)×底径46×器高(48.5)	
45	3	41	土師器	杯	LL60	口径(124)×底径(56)×器高(46.5)	
45	4	41	土師器	杯	LL60	口径×底径(51)×器高-	底面厚減
45	5	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径151×底径65×器高59	
45	6	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径123×底径54×器高51.5	
45	7	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径123×底径55×器高48	
45	8	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径130×底径59×器高46	
45	9	41	土師器	杯	ST1141・LM54・LN54	口径123×底径58×器高43	
45	10	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径127×底径57×器高46	
45	11	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径(126)×底径(50)×器高(44)	
45	12	41	土師器	杯	ST1141・LM54	口径134×底径48×器高51	
45	13	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径120×底径54×器高51	
45	14	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径(128)×底径(52)×器高(48)	
45	15	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径(128)×底径(58)×器高(49)	
46	1	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径(136)×底径55×器高(53)	内・外面:油煙
46	2	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径×底径64×器高-	
46	3	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径126×底径51×器高46	墨書土器
46	4	42	土師器	杯	ST1141・LM54	口径×底径58×器高-	内面:油煙
46	5	42	土師器	杯	ST1141・LM55	口径(126)×底径52×器高(49)	
46	6	42	土師器	杯	ST1141・LM55	口径(131)×底径52×器高(45)	内・外面:油煙
46	7	42	土師器	杯	ST1141・LM54・55・LN54	口径126×底径50×器高49	
46	8	42	土師器	杯	ST1141・LM55	口径122×底径45×器高47	
46	9	42	土師器	杯	ST1141・LM55	口径×底径60×器高-	
46	10	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径130×底径53×器高46	
46	11	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径(120)×底径52×器高(50)	
46	12	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径(127)×底径54×器高(43)	
46	13	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径(126)×底径48×器高(42)	
47	1	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径(120)×底径(58)×器高(48)	
47	2	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径135×底径54×器高49	
47	3	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径(118)×底径(62)×器高(45.5)	
47	4	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径×底径55×器高-	
47	5	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径(131)×底径(70)×器高(45)	内面:油煙
47	6	42	土師器	杯	ST1141・LN54	口径×底径(56)×器高-	内面:油煙
47	7	42	土師器	杯	LO51	口径129×底径46×器高50	

第17表 掲載遺物一覧(2)

神田 番号	遺物 番号	図取 番号	種別	器形 器種	出土遺構 出土地区	法量(mm)	備考
47	8		土師器	坏	LO54	口径(122)×底径(50)×器高(47)	
47	9		土師器	坏	LO57	口径×底径54×器高-	
47	10		土師器	坏	LO58	口径×底径54×器高-	
47	11		土師器	坏	LP55	口径×底径46×器高-	
47	12	42	土師器	高台杯	LK51	口径(136)×底径70×器高(57)	内面黒色処理
47	13	42	土師器	高台杯	ST1141・LM54	口径(169.5)×底径(75)×器高(84)	内面黒色処理
47	14		土師器	高台杯	LQ66	口径×底径58×器高-	
47	15		土師器	高台杯	LQ61	口径×底径54×器高-	
48	1	43	土師器	甕	SN792	口径(218)×底径×器高-	
48	2	43	土師器	甕	SN792	口径(240)×底径×器高-	
48	3	43	土師器	甕	SN792	口径(150)×底径×器高-	
48	4	43	土師器	甕	SK1099・ST1141・LM55	口径(170)×底径×器高-	
48	5		土師器	甕	SK1078	口径×底径50×器高-	
48	6	43	土師器	甕	LL60	口径(238)×底径×器高-	内面:ハケメ
48	7	43	土師器	甕	LL60	口径(214)×底径×器高-	内面:ハケメ
48	8	43	土師器	甕	ST1141・LM55・LN54・表採	口径(158)×底径×器高-	内面:ハケメ・外面:ケズリ
48	9	43	土師器	甕	ST1141・LM54	口径(170)×底径×器高-	
48	10	43	土師器	甕	ST1141・LM54	口径(166)×底径×器高-	
48	11	43	土師器	甕	ST1141・LN54	口径(134)×底径×器高-	
48	12	43	土師器	甕	ST1141・LM55・LN54	口径(136)×底径×器高-	
48	13	43	土師器	甕	ST1141・LN54	口径(112)×底径×器高-	
48	14	43	土師器	甕	ST1141・LM54・LN54	口径(196)×底径×器高-	
48	15	43	土師器	甕	ST1141・LN54	口径(162)×底径×器高-	
48	16	43	土師器	甕	LH63	口径(154)×底径×器高-	
48	17	43	土師器	甕	LL54	-	
49	1	43	土師器	甕	ST1141・LN54	口径(196)×底径×器高-	外面:ケズリ
49	2	43	土師器	甕	LN56	口径(204)×底径×器高-	
49	3	43	土師器	羽釜	ST1141・LM54	口径(138)×底径×器高-	
49	4	43	土師器	羽釜	ST1141・LM54・55	口径(134)×底径×器高-	
49	5	43	土師器	甕	ST1141・LM54	-	内面:ハケメ・外面:ケズリ
49	6	43	土師器	甕	ST1141・LM55	-	内面:行線状具・ハケメ・彫; 外面:行線印具
49	7	43	土師器	甕	LN58	-	内面:摩滅・外面:平行線印具
49	8	43	土師器	甕	LO58	-	内面:当て具・外面:平行線印具
49	9	43	土師器	甕	LM61・表採	-	内面:ハケメ・彫; 外面:行線印具
49	10	43	土師器	甕	ST1141・LN54	-	長脚甕・内面:当て具・外面:平行線印具
49	11	43	土師器	甕	ST1141・LN54	口径×底径(84)×器高-	
49	12	43	土師器	甕	LQ56	口径×底径49×器高-	
49	13	43	土師器	甕	ST1141・LM54・LL54	口径×底径66×器高-	
49	14	43	土師器	甕	ST1141・LN54	口径×底径60×器高-	
49	15	43	土師器	甕	LN58	口径×底径70×器高-	
49	16	43	土師器	甕	表採	口径×底径(72)×器高-	
49	17	43	土師器	甕	ST1141・LM54	口径×底径58×器高-	
49	18	43	土師器	甕	ST1141・LM54	口径×底径39×器高-	
50	1	44	土師器	罎	SS100・ST1141・LM54・55・LN54	口径(288)×底径100×器高(125)	
50	2	44	土師器	罎	LP63	口径(230)×底径×器高-	内面:炭化物
50	3	44	土師器	罎	LP50	口径(244)×底径×器高-	外面:炭化物
50	4	44	土師器	罎	ST1141・LM54・55	口径(272)×底径×器高-	
50	5	44	土師器	罎	ST1141・LM54	口径(256)×底径×器高-	
50	6	44	土師器	罎	LQ63	口径(274)×底径×器高-	
50	7		土師器	罎	ST1141・LM54	口径×底径88×器高-	
50	8	44	土師器	罎	ST1141・LM54	口径×底径111×器高-	
50	9		土師器	罎	ST1141・LN54	口径×底径(137)×器高-	高台
50	10	44	土師器	罎	ST1141・LM54・LN54	口径(188)×底径(92)×器高(145)	外面:横ケズリ
50	11	44	土師器	罎	SD000	口径(82)×底径(49.5)×器高(60)	外面:ケズリ、割線
50	12	44	土師器	罎	SD181	口径(70)×底径(52)×器高(88)	外面:ケズリ
50	13	44	土師器	罎	ST1141・LM54・55	口径(102)×底径(86)×器高(83)	
50	14	44	土師器	罎	ST1141・LN54	口径(124)×底径×器高-	
50	15	44	土師器	罎	ST1141・LM54	口径(90)×底径×器高-	
51	1	45	須恵器	坏	ST1141・LM54・LN54	口径(132)×底径58×器高(49.5)	
51	2	45	須恵器	坏	LH54	口径(132)×底径×器高-	
51	3	45	須恵器	坏	ST1141・LM54	口径×底径(74)×器高-	
51	4	45	須恵器	坏	ST1141・LN54	口径×底径(58)×器高-	
51	5	45	須恵器	甕	ST1141・LN54	口径×底径(198)×器高-	内面:放射状当て具・外面:平行線印具
51	6		須恵器	甕	SKP1101・ST1141・LN54	-	"
51	7	45	須恵器	甕	ST1141・LN54	-	"

第18表 掲載遺物一覧(3)

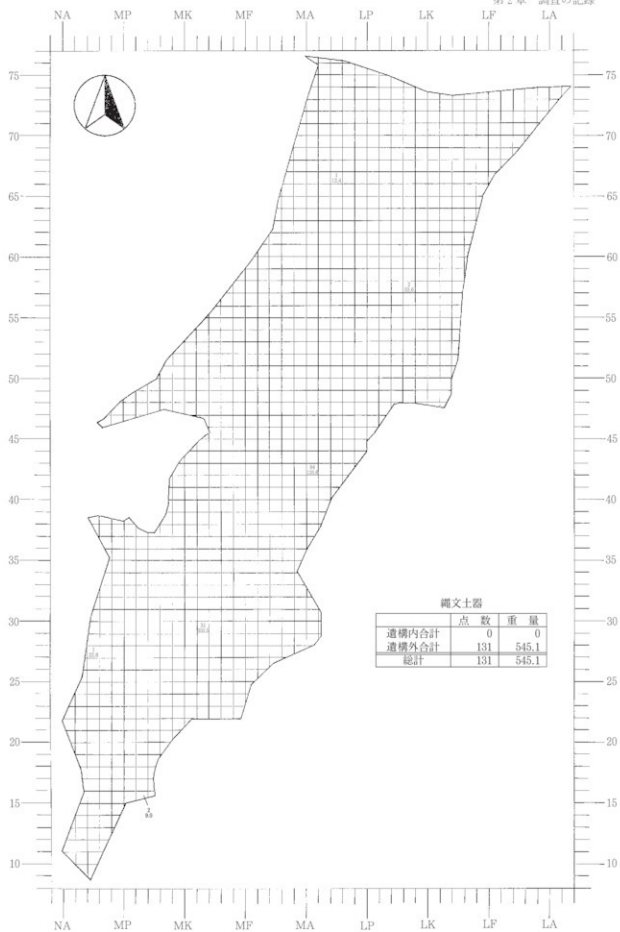
神田 番号	遺物 番号	図取 番号	種 別	器 形 器 種	出 土 遺 構 出 土 地 区	法 量 (mm)	備 考
51	8	45	須臾器	甕	ST1141・LN54	-	内面：厚減・外面：平行線印き具
52	1	45	須臾器	甕	ST1141・LN54・55	-	内面：平行線当て具・外面："
52	2	45	須臾器	甕	ST1141・LN54	-	内面：平行線・外面：平行線印き具
52	3	45	須臾器	甕	同上	-	"
52	4	45	須臾器	甕	ST1141・LN55	-	内外面：平行線印き具
52	5	45	須臾器	甕	MH25	-	"
52	6	45	須臾器	甕	MD30	-	内面：平行線当て具・外面：格子状印き具
52	7	45	須臾器	甕	ST1141・LN54	-	内面：青海波状当て具・外面：平行線印き具
52	8	45	須臾器	甕	SD1181	-	内面：青海波状当て具・外面：平行線印き具
52	9	45	須臾器	甕	ST1141・LN54	-	内面：青海波状当て具・外面：平行線印き具
52	10	45	須臾器	甕	ST1141・LN54	-	内面：青海波状・外面：平行線印き具
52	11	45	須臾器	甕	SD1185	-	内面：青海波状・外面：平行線印き具
53	1	46	須臾器	甕	ST1141・LM54・LN54・55	口径・×底径(90)×器高-	
53	2	46	須臾器	甕	SS1100	-	
53	3	46	須臾器	甕	ST1141・LN54	口径・×底径(60)×器高-	
53	4	46	須臾器	甕	SK232	口径(136)×底径・×器高-	
53	5	46	須臾器	甕	ST1141・LN55	-	
53	6	46	須臾器	甕	LM65	-	
53	7	46	須臾器	甕	ST1141・LM54・LO58・確認調査	-	
53	8	46	須臾器	甕	ST1141・LM54	-	
53	9	46	須臾器	甕	SD1099・ST1141・LN54	-	
53	10	46	須臾器	甕	MM15	-	
53	11	46	須臾器	甕	ST1141・LM54	-	
53	12	46	須臾器	甕	ST1141・LN54	口径・×底径(104)×器高-	
53	13	46	須臾器	甕	MH26	口径・×底径(106)×器高-	
53	14	46	須臾器	甕	ST1141・LN54	-	
53	15	46	須臾器	甕	ST1141・LN54	口径・×底径(58)×器高-	
54	1	46	灰釉陶器	皿	LN50	-	
54	2	46	灰釉陶器	皿	LJ57	-	
54	3	46	灰釉陶器	甕	MG23	-	
54	4	47	石製品	硯	ML26	長さ(68)×幅(56)×厚さ19	
54	5	47	石製品	砥石	SKP315	長さ(42)×幅(37)×厚さ23、重量31.7g	
54	6	47	石製品	砥石	L741・表採	長さ145×幅(58)×厚さ58、重量344.4g	
54	7	47	石製品	砥石	SD1250	長さ121.5×幅(44)×厚さ25、重量168.5g	
54	8	47	石製品	砥石	L751	長さ125×幅(98)×厚さ44、重量574.4g	
54	9	47	鉄製品	鉄鏝	SD000	長さ(42)×幅(7)×厚さ(6)、重量3.2g	
54	10	47	鉄製品	鉄鏝	SD000	長さ(52)×幅(9.5)×厚さ(10)、重量6.5g	
54	11	47	鉄製品	鉄鏝	SD000	長さ(111)×幅(7)×厚さ(6)、重量5.8g	
54	12	47	鉄製品	鉄鏝	SD000	長さ(63)×幅(8.5)×厚さ(7)、重量2.4g	
54	13	47	鉄製品	刀子	SD221	長さ(232)×幅(24)×厚さ(7)、重量54.2g	
54	14	47	鉄製品	刀子	SKP375	長さ(120)×幅(15)×厚さ(5)、重量10.5g	
54	15	47	鉄製品	鉄鋤	SD000	長さ(80)×幅(106)×厚さ(5)、重量79.8g	
54	16	47	鉄製品	紡錘車	ML24	長さ(50.5)×幅(52)×厚さ(6)、重量16.2g	
54	17	47	鉄製品	釘	L730	長さ(30)×幅(5.5)×厚さ(3)、重量1.7g	
55	1	48	木製品	椀	ST1140・M134	口径(165)×底径(90)×器高(60)	
55	2	48	木製品	椀	ST1140・M135	口径・×底径(90)×器高-	
55	3	48	木製品	椀	ST1140・M134	-	
55	4	49	木製品	下駄	ST1140・M135	長さ228×幅(120)×厚さ34	
55	5	49	木製品	下駄	ML26	長さ234×幅(119)×厚さ33	
56	1	49	木製品	下駄	ST1140・M135	長さ(154)×幅(77)×厚さ24	
56	2	49	木製品	下駄	ST1140・M135	長さ(179)×幅(84)×厚さ30	
56	3	49	木製品	下駄	ST1140・M134	長さ166×幅(78)×厚さ31	
56	4	49	木製品	下駄	ST1140・M135	長さ227×幅(108.5)×厚さ26	
56	5	49	木製品	下駄	ST1140・M135	長さ137.5×幅(69)×厚さ20	
56	6	49	木製品	下駄	MK37	長さ187×幅(94)×厚さ(41)	
57	1	50	木製品	机天板	ST1140・M134	長さ435×幅(240)×厚さ20	
57	2	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ343×幅(25)×厚さ15	
57	3	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ336×幅(38)×厚さ17	
57	4	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ338×幅(18)×厚さ13.5	
57	5	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ(306)×幅(27)×厚さ11	
58	1	50	木製品	机天板	ST1140・M134	長さ(375)×幅(236)×厚さ26	
58	2	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ394.5×幅(38)×厚さ21.5	
58	3	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ399×幅(28.5)×厚さ18.5	
58	4	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ368.5×幅(32)×厚さ17	
58	5	51	木製品	机脚	ST1140・M134	長さ(382)×幅(37)×厚さ20.5	

第19表 掲載遺物一覧(4)

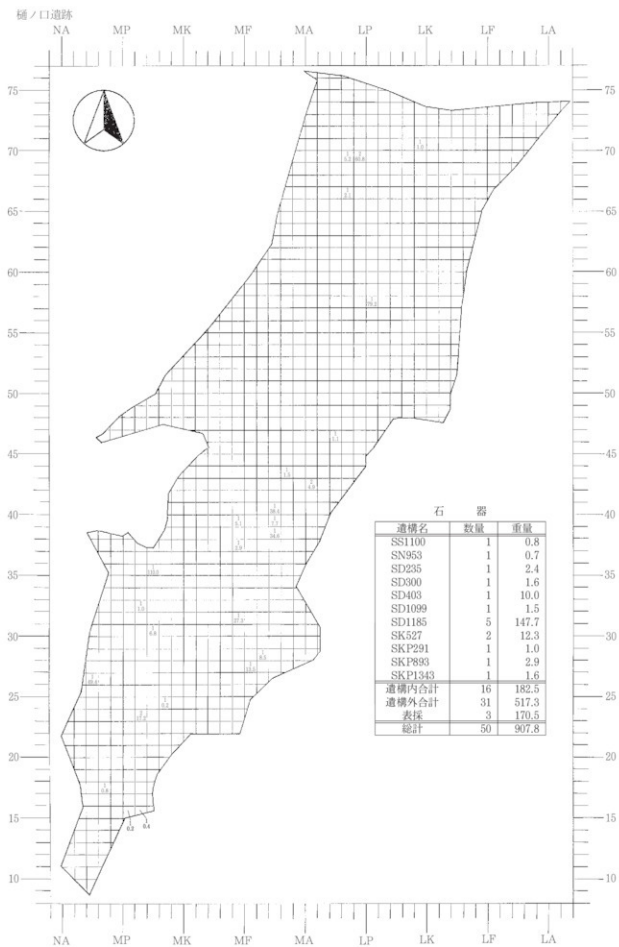
神田 番付	遺物 番号	図取 番号	種別	器形 器種	出土遺構 出土地	法量(mm)	備考
59	1	48	木製品	形代	ST1140・M154	長さ741.5×幅42×厚さ9	
59	2	48	木製品	形代	ST1140・M154	長さ17×幅101×厚さ4.5	
59	3	48	木製品	形代	ST1140・M155	長さ19×幅74×厚さ4	
59	4	48	木製品	板状木製品	ST1140・M155	長さ51×幅48×厚さ6	
59	5	48	木製品	板状木製品	ST1141・L.M54	長さ108×幅110.5×厚さ10	
59	6	48	木製品	板状木製品	ST1140・M154	長さ207×幅34×厚さ4.5	
59	7	48	木製品	板状木製品	ST1140・M154	長さ(185)×幅15×厚さ7	
59	8	48	木製品	板状木製品	ST1140・M154	長さ(225)×幅42×厚さ4.5	
59	9	48	木製品	板状木製品	ST1140・M154	長さ(255)×幅39×厚さ2.5	
59	10		木製品	板状木製品	ST1140・M155	長さ(242)×幅28×厚さ5	
59	11		木製品	板状木製品	ST1140・M154	長さ(177)×幅34×厚さ4.5	
59	12		木製品	板状木製品	ST1140・M155	長さ(102)×幅28×厚さ3	
60	1	51	木製品	漆串	ST1140・M154	長さ433.5×幅15×厚さ9.5	
60	2	52	木製品	漆串	ST1140・M154	長さ(202)×幅10×厚さ9	
60	3	52	木製品	漆串	ST1140・M154	長さ(187)×幅9×厚さ9	
60	4	52	木製品	漆串	ST1140・M155	長さ176×幅10×厚さ6	
60	5	52	木製品	漆串	ST1140・M154	長さ(141)×幅9×厚さ7	
60	6	52	木製品	漆串	ST1140・M155	長さ(160)×幅11×厚さ5	
60	7	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ165×幅16×厚さ13	
60	8	51	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(211)×幅14×厚さ8	一部炭化
60	9	51	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ274.5×幅22×厚さ14	
60	10	48	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(79)×幅10.5×厚さ9	
60	11	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(63.5)×幅11×厚さ7	
60	12	51	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(171)×幅10×厚さ5.5	
60	13		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(192)×幅11×厚さ9	一部炭化
61	1	51	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(452)×幅9×厚さ8	
61	2	51	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(236)×幅14×厚さ13	
61	3	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(202)×幅10×厚さ7	
61	4		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(287)×幅15.5×厚さ6	
61	5		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(204)×幅14×厚さ5	
61	6		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(176)×幅9.5×厚さ3.5	
61	7		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(279)×幅10×厚さ9	一部炭化
61	8	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(238.5)×幅10×厚さ6.5	一部炭化
61	9	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(188)×幅8×厚さ4	一部炭化
61	10		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(122)×幅10×厚さ8	一部炭化
61	11	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(138)×幅9×厚さ8	一部炭化
61	12		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(177)×幅9×厚さ6	一部炭化
61	13		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(140)×幅10.5×厚さ5	一部炭化
61	14		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(140)×幅10×厚さ7	一部炭化
61	15		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(136)×幅10.5×厚さ2	一部炭化
61	16	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(165.5)×幅13×厚さ5.5	一部炭化
61	17	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(202)×幅11.5×厚さ5.5	一部炭化
61	18	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(222)×幅9×厚さ6	一部炭化
61	19		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(282)×幅13×厚さ11	一部炭化
61	20	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(148.5)×幅16×厚さ16	一部炭化
61	21	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(145)×幅9×厚さ5	一部炭化
61	22		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(142.5)×幅9×厚さ5.5	一部炭化
61	23	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(119)×幅7×厚さ5.5	一部炭化
61	24		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(119)×幅8×厚さ7	一部炭化
61	25		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(113)×幅10×厚さ4	一部炭化
61	26		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(116)×幅10×厚さ9	一部炭化
61	27		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(99.5)×幅13×厚さ3	一部炭化
61	28		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(139)×幅8×厚さ3.5	一部炭化
61	29		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(109)×幅8×厚さ4	一部炭化
62	1	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ240.5×幅6.5×厚さ6.5	
62	2	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ239×幅6×厚さ5.5	
62	3		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ245×幅6×厚さ5	
62	4		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ236×幅7×厚さ5	
62	5	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ(234.5)×幅8.5×厚さ4	
62	6		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(221)×幅5×厚さ5	
62	7		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(223)×幅7×厚さ4	
62	8		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ(234)×幅7×厚さ4.5	
62	9		木製品	棒状木製品	ST1140・M154	長さ220×幅7×厚さ5	
62	10		木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ221×幅6×厚さ6	
62	11	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M155	長さ225×幅6×厚さ5	

第20表 掲載遺物一覧(5)

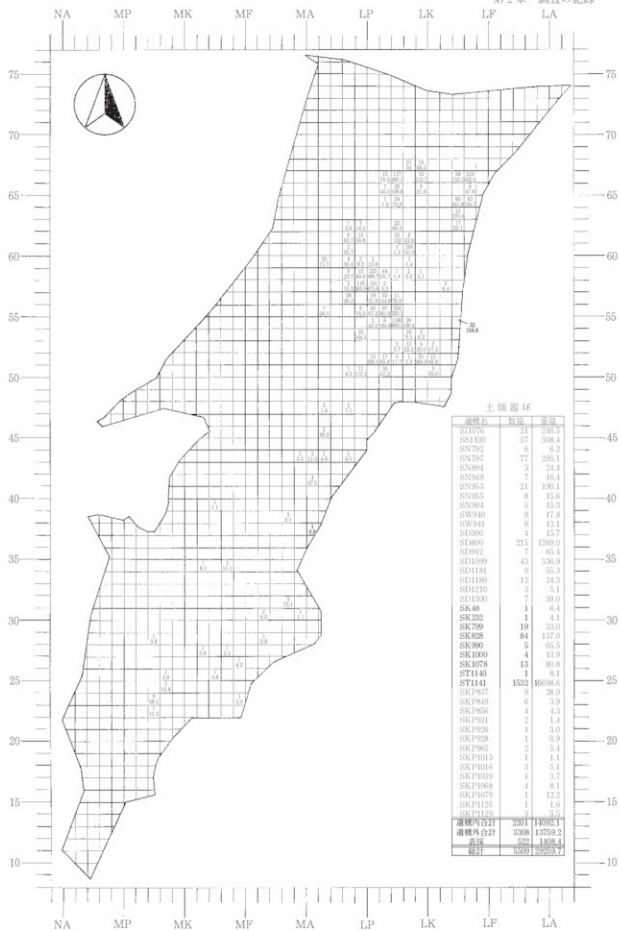
神田 番号	遺物 番号	図取 番号	種 別	器 形 器 種	出 土 遺 構 出 土 地 区	法 量 (mm)	備 考
62	12	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ225×幅7.5×厚さ5	
62	13	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ205.5×幅5×厚さ5	
62	14		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ200×幅6×厚さ5	
62	15		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ210.5×幅6×厚さ4.5	
62	16		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ211×幅5×厚さ3.5	
62	17		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ213×幅5×厚さ4	
62	18		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ211×幅6×厚さ5	
62	19	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ212×幅5×厚さ4	
62	20	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ217.5×幅5×厚さ4	
62	21		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ215.5×幅5×厚さ4.5	
62	22	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ223×幅6×厚さ4.5	
62	23	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ225×幅5×厚さ6	
62	24		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ220×幅6×厚さ5	
62	25		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ210.5×幅6.5×厚さ4	
62	26		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ201×幅6×厚さ4	
62	27		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ201×幅7×厚さ4.5	
62	28		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ200×幅6.5×厚さ4	
62	29		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ180.5×幅8×厚さ6	
62	30		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(188)×幅6×厚さ4	
62	31		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ195×幅7×厚さ4	
62	32		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ172×幅7×厚さ5	
62	33		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ164×幅6×厚さ4	
62	34		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ144.5×幅8×厚さ7	
63	35		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(137)×幅7×厚さ5	
63	1		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ217×幅6×厚さ5	一部炭化
63	2	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ193×幅5×厚さ5	一部炭化
63	3		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ187×幅7.5×厚さ8	一部炭化
63	4	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(187)×幅6×厚さ3	一部炭化
63	5	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ175×幅7×厚さ4.5	一部炭化
63	6		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ171×幅5.5×厚さ5	一部炭化
63	7		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ167×幅6.5×厚さ6	一部炭化
63	8		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(155)×幅5×厚さ4	一部炭化
63	9		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ147×幅6×厚さ6	一部炭化
63	10	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ147.5×幅5×厚さ4	一部炭化
63	11		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(141)×幅8.5×厚さ4	一部炭化
63	12		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(147)×幅5×厚さ4	一部炭化
63	13	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(133)×幅5×厚さ4.5	一部炭化
63	14	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ128.5×幅5.5×厚さ4.5	一部炭化
63	15		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(127)×幅5×厚さ4.5	一部炭化
63	16		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(120)×幅6.5×厚さ5.5	一部炭化
63	17		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(121)×幅6×厚さ5	一部炭化
63	18	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(118.5)×幅5.5×厚さ4	一部炭化
63	19		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(107)×幅6×厚さ5.5	一部炭化
63	20		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(120)×幅6×厚さ5.5	一部炭化
63	21		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(112)×幅6×厚さ5.5	一部炭化
63	22		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(116.5)×幅7.5×厚さ5.5	一部炭化
63	23	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(116.5)×幅5.5×厚さ3.5	一部炭化
63	24	52	木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(104.5)×幅6×厚さ4.5	一部炭化
63	25		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(105.5)×幅6×厚さ3.5	一部炭化
63	26		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(100)×幅6×厚さ4	一部炭化
63	27		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(90)×幅7×厚さ5	一部炭化
63	28		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(82)×幅6×厚さ4.5	一部炭化
63	29		木製品	棒状木製品	ST1140・M134	長さ(76)×幅6×厚さ5	一部炭化
63	30		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(81)×幅7×厚さ4	一部炭化
63	31		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(66)×幅6.5×厚さ5	一部炭化
63	32		木製品	棒状木製品	ST1140・M135	長さ(56)×幅5×厚さ4	一部炭化
64	1		木製品	部材	ST1140・M134	長さ(901)×幅189×厚さ49	
64	2		木製品	部材	ST1140・M134	長さ(901)×幅75×厚さ14	一部炭化
64	3		木製品	部材	ST1140・M134	長さ(94.5)×幅50×厚さ15	
64	4		木製品	部材	ST1140・M135	長さ(83.5)×幅36.5×厚さ23.5	
64	5		木製品	部材	ST1140・M135	長さ(70)×幅60×厚さ19	
64	6		木製品	部材	ST1140・M135	長さ(49.5)×幅63×厚さ15.5	



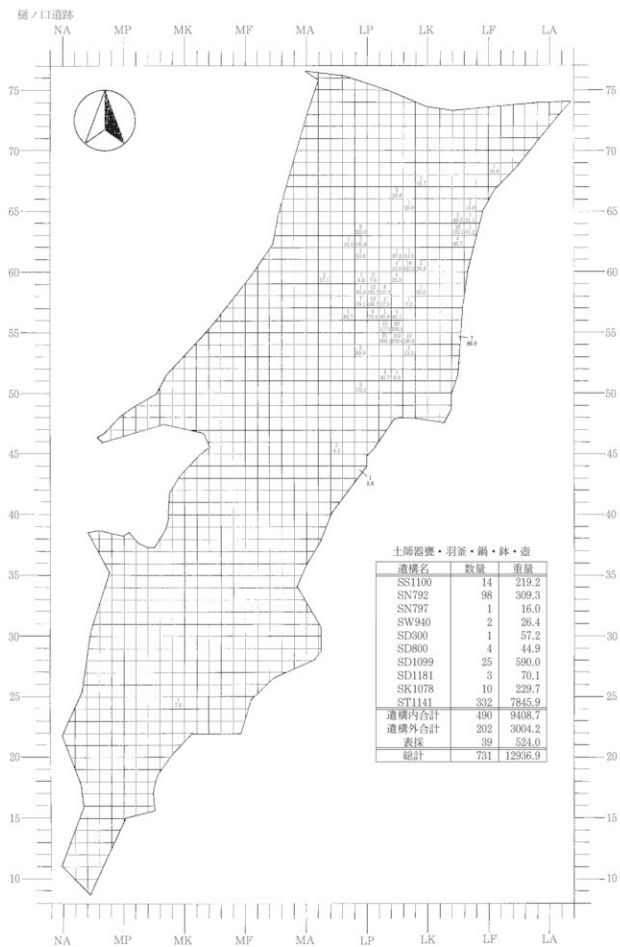
第65図 遺物分布図(1) 縄文土器



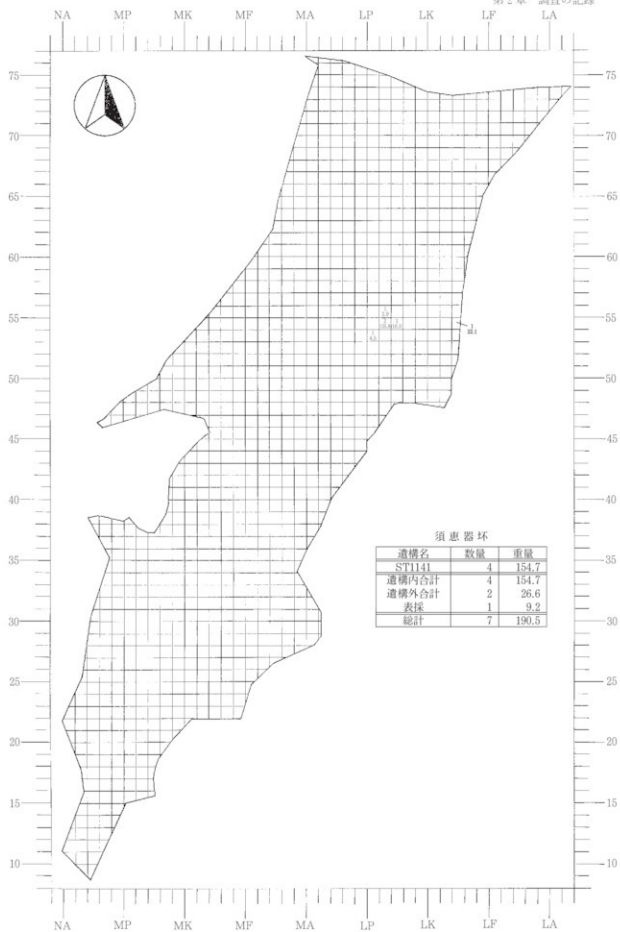
第66図 遺物分布図(2) 石器



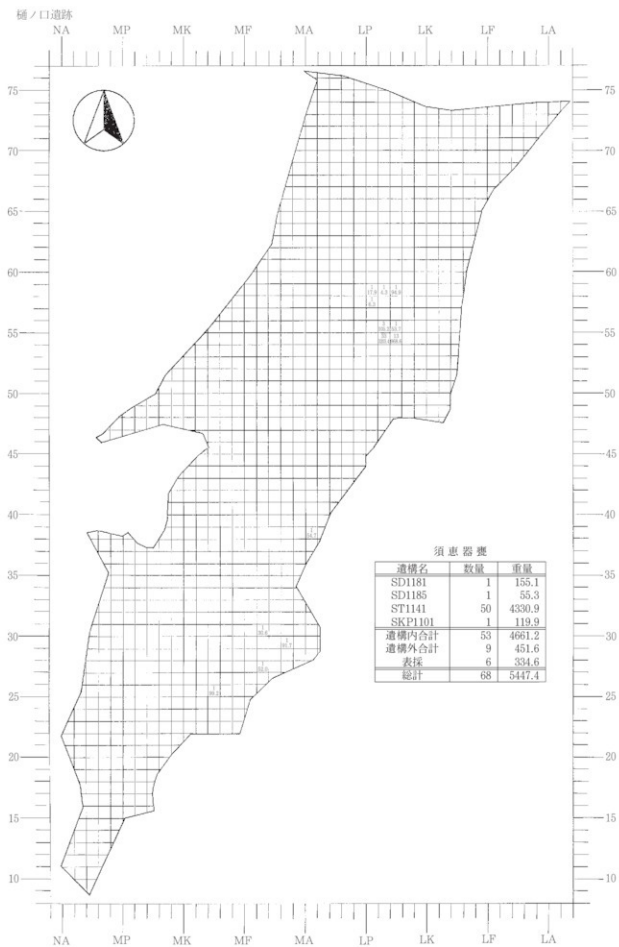
第67図 遺物分布図(3) 土師器坯



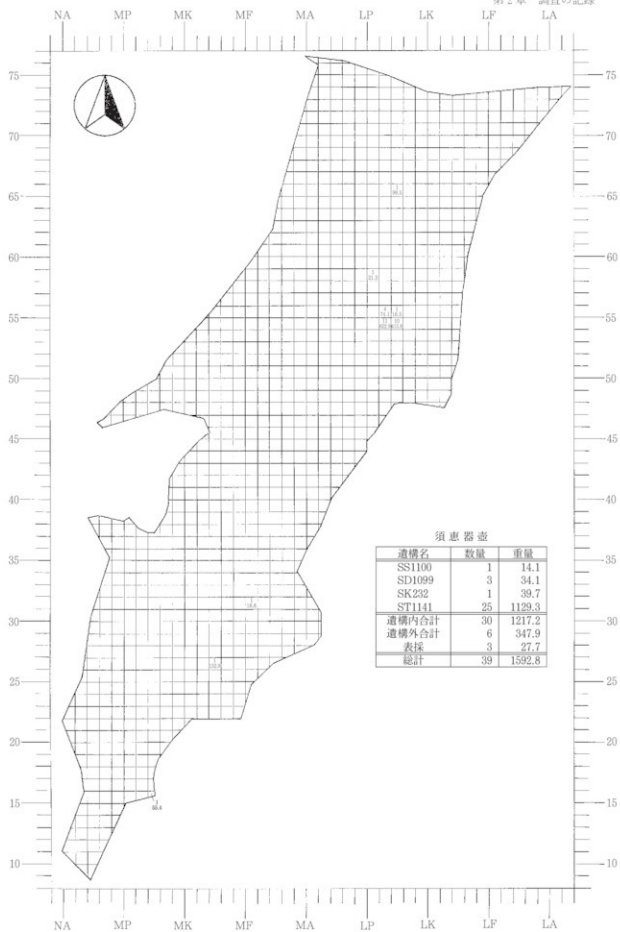
第68図 遺物分布図(4) 土師器甕・羽釜・鍋・鉢・壺



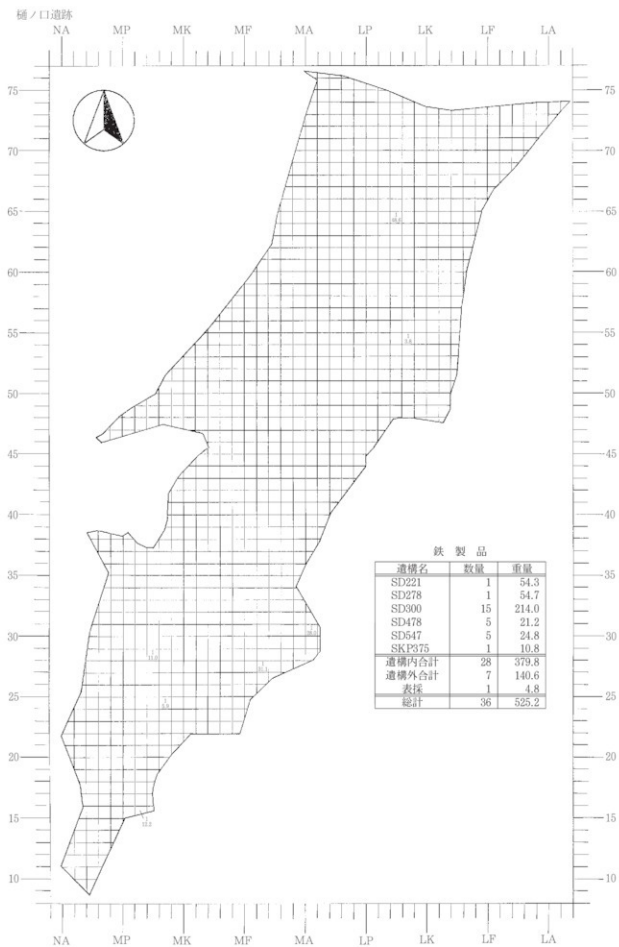
第69図 遺物分布図(5) 須恵器環



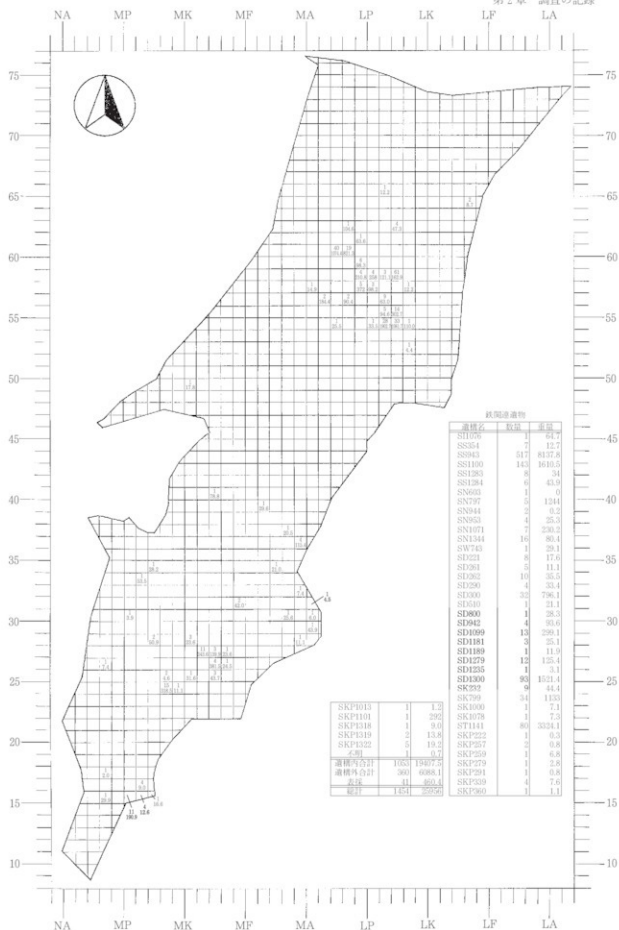
第70図 遺物分布図(6) 須恵器表



第71図 遺物分布図(7) 須恵器壺



第72図 遺物分布図(8) 鉄製品



第73図 遺物分布図(9) 鉄関連遺物

第3章 自然科学的分析

第1節 放射性炭素年代測定

1 平成15年度調査分

山形秀樹（パレオ・ラボ）

(1) はじめに

樋ノ口遺跡より検出された炭化材および木片の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

(2) 試料と方法

試料は、溝跡から採取した炭化材2点、土坑から採取した炭化材3点、炭窯から採取した炭化材3点、柱穴から採取した炭化材1点、捨て場から採取した木片1点の併せて10点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定した ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。

(3) 結果

第21表に、各試料の同位体分別効果の補正值（基準値-25.0%）、同位体分別効果による測定誤差を補正した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C 年代値（yrBP）の算出は、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の ^{14}C 年代が、その ^{14}C 年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（ ^{14}C の半減期5,730 \pm 40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、 ^{14}C 年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と ^{14}C 年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて ^{14}C 年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}C 年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正值は ^{14}C 年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、 1σ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 暦年代範囲の確かさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。 1σ 暦年代範囲のうち、その確かさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で

示した。

(4) 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した 1σ 暦年代範囲のうち、その確からしきの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎, 日本先史時代の ^{14}C 年代, p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

第21表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1σ 暦年代範囲
PLD-2500 (AMS)	炭化材 溝跡 (SD234) No.1	-24.0	1,110 \pm 30	cal AD 900 cal AD 915 cal AD 960	cal AD 895-920 (41.6%) cal AD 940-980 (58.4%)
PLD-2501 (AMS)	炭化材 溝跡 (SD306) No.2	-23.0	1,325 \pm 30	cal AD 680	cal AD 660-690 (65.8%) cal AD 700-715 (17.7%) cal AD 750-760 (16.5%)
PLD-2502 (AMS)	炭化材 土坑 (SK232) No.3	-23.7	1,295 \pm 30	cal AD 690 cal AD 755	cal AD 680-720 (61.1%) cal AD 745-770 (38.9%)
PLD-2503 (AMS)	炭化材 土坑 (SK226) No.4	-24.3	1,510 \pm 35	cal AD 545 cal AD 550 cal AD 560	cal AD 535-605 (95.2%)
PLD-2504 (AMS)	炭化材 炭窯 (SW01) No.5	-25.7	1,165 \pm 35	cal AD 890	cal AD 810-845 (30.3%) cal AD 850-895 (44.0%) cal AD 920-940 (16.5%)
PLD-2505 (AMS)	炭化材 炭窯 (SW62) No.3	-25.4	1,250 \pm 35	cal AD 735 cal AD 775	cal AD 690-780 (89.2%) cal AD 790-805 (10.8%)
PLD-2506 (AMS)	炭化材 炭窯 (SW358) No.7	-24.1	1,180 \pm 30	cal AD 885	cal AD 780-790 (11.7%) cal AD 810-890 (88.3%)
PLD-2507 (AMS)	炭化材 土坑 (SK48) No.8	-22.0	1,195 \pm 35	cal AD 785 cal AD 790 cal AD 830 cal AD 840 cal AD 865	cal AD 780-795 (12.9%) cal AD 805-885 (87.1%)
PLD-2508 (AMS)	炭化材 柱穴 (SKP268) No.9	-26.4	1,345 \pm 30	cal AD 665	cal AD 655-690 (98.8%)
PLD-2509 (AMS)	木片 捨て場 (ST1140) No.10	-25.5	990 \pm 30	cal AD 1,025	cal AD 1,000-1,040 (75.6%) cal AD 1,105-1,115 (10.9%) cal AD 1,140-1,150 (13.6%)

2 平成16・17年度調査分

株式会社 加速器分析研究所

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用した。
- 2) BP年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表した。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。
複数回（通常は4回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いた。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。

$\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておく。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものである。

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_s - {}^{13}\text{A}_R) / {}^{13}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_s - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{13}\text{A}_s$ ：試料炭素の ^{13}C 濃度： $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_s$ または $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_s$

${}^{13}\text{A}_R$ ：標準現代炭素の ^{13}C 濃度： $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_R$ または $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度（ ${}^{13}\text{A}_s = {}^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、IAAでは加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ も測定するので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ （‰）であるとしたときの ^{13}C 濃度（ ${}^{13}\text{A}_s$ ）に換算した上で計算した値である。（1）式の ^{13}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{13}\text{A}_s = {}^{13}\text{A}_R \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{13}\text{A}_s \text{として} {}^{13}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{13}\text{A}_R \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{13}\text{A}_s \text{として} {}^{13}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_s - {}^{13}\text{A}_R) / {}^{13}\text{A}_R] \times 1000 \text{ (‰)}$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的好くその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{13}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており、 $\Delta^{13}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{13}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{13}\text{C} / 10 + 100 \text{ (‰)}$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{13}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{13}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

第22表 H16年度放射性炭素測定結果表

Code No.	試料	B P年代および炭素の同位体比
IAAA-41398	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：1 溝跡 (SD800)	Libby Age(yrBP) : 1,250 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -24.62 ± 0.72 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -143.9 ± 4.0 pMC(%) = 85.61 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -143.2 ± 3.8 pMC(%) = 85.68 ± 0.38 Age (yrBP) : 1,240 ± 40
IAAA-41399	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：2 堅穴住居跡 (SI1076)	Libby Age(yrBP) : 1,160 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -25.48 ± 0.62 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -135.0 ± 4.0 pMC(%) = 86.50 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -135.9 ± 3.9 pMC(%) = 86.41 ± 0.39 Age (yrBP) : 1,170 ± 40
IAAA-41400	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：3 溝跡 (SD1099)	Libby Age(yrBP) : 1,130 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -25.63 ± 0.65 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -130.7 ± 3.9 pMC(%) = 86.93 ± 0.39
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -131.9 ± 3.7 pMC(%) = 86.81 ± 0.37 Age (yrBP) : 1,140 ± 40
IAAA-41401	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：4 焼土 (SN953)	Libby Age(yrBP) : 1,010 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -23.01 ± 0.79 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -118.1 ± 3.9 pMC(%) = 88.19 ± 0.39
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -114.5 ± 3.6 pMC(%) = 88.55 ± 0.36 Age (yrBP) : 980 ± 30
IAAA-41402	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：5 炭窩 (SW850)	Libby Age(yrBP) : 1,200 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -26.13 ± 0.76 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -139.2 ± 4.0 pMC(%) = 86.08 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -141.2 ± 3.8 pMC(%) = 85.88 ± 0.38 Age (yrBP) : 1,220 ± 40
IAAA-41403	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：6 炭窩 (SW940)	Libby Age(yrBP) : 1,190 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -30.27 ± 0.63 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -137.8 ± 4.0 pMC(%) = 86.22 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.1 ± 3.8 pMC(%) = 85.29 ± 0.38 Age (yrBP) : 1,280 ± 40
IAAA-41404	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：7 炭窩 (SW941)	Libby Age(yrBP) : 1,140 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -24.96 ± 0.65 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -132.2 ± 3.9 pMC(%) = 86.78 ± 0.39
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -135.9 ± 3.9 pMC(%) = 86.41 ± 0.39 Age (yrBP) : 1,140 ± 40
IAAA-41405	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：8 焼土 (SN797)	Libby Age(yrBP) : 1,590 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -27.34 ± 0.71 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -180.0 ± 3.9 pMC(%) = 82.00 ± 0.39
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -183.9 ± 3.7 pMC(%) = 81.61 ± 0.37 Age (yrBP) : 1,630 ± 40
IAAA-41406	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：9 捨て場 (ST1141)	Libby Age(yrBP) : 1,190 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -29.08 ± 0.69 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -137.2 ± 4.0 pMC(%) = 86.28 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -144.4 ± 3.8 pMC(%) = 85.56 ± 0.36 Age (yrBP) : 1,250 ± 40
IAAA-41407	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：10 捨て場 (ST1140)	Libby Age(yrBP) : 1,020 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -21.64 ± 0.65 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -119.4 ± 4.0 pMC(%) = 86.06 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -113.3 ± 3.8 pMC(%) = 88.67 ± 0.38 Age (yrBP) : 970 ± 40
IAAA-41408	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字樋ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：11 土抗 (SK1081)	Libby Age(yrBP) : 870 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$, (加速器) = -26.36 ± 0.72 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -102.9 ± 4.5 pMC(%) = 89.71 ± 0.45
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -106.5 ± 4.3 pMC(%) = 89.35 ± 0.43 Age (yrBP) : 900 ± 40

Code No.	試料	B P年代および炭素の同位体比
IAAA-41409	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字種ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：12 鍛冶炉 (SS1100)	Libby Age(yrBP) : 1,060 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -22.07±0.75 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -124.2 ± 4.5 pMC(%) = 87.58±0.45
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -118.9 ± 4.3 pMC(%) = 88.11±0.43 Age (yrBP) : 1,020 ± 40
IAAA-41410	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字種ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：13 炭窯 (SW742)	Libby Age(yrBP) : 1,280 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.20±0.62 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.3 ± 4.3 pMC(%) = 85.27±0.43
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -151.1 ± 4.1 pMC(%) = 84.89±0.41 Age (yrBP) : 1,320 ± 40
IAAA-41411	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字種ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：14 炭窯 (SW743)	Libby Age(yrBP) : 1,400 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.91±0.61 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -159.8 ± 4.3 pMC(%) = 84.02±0.43
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -161.3 ± 4.2 pMC(%) = 83.87±0.42 Age (yrBP) : 1,410 ± 40
IAAA-41412	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字種ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：15 炭窯 (SW1080)	Libby Age(yrBP) : 1,330 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.77±0.77 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -153.1 ± 4.5 pMC(%) = 84.69±0.45
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -156.1 ± 4.3 pMC(%) = 84.39±0.43 Age (yrBP) : 1,360 ± 40
IAAA-41413	試料採取場所：秋田県由利本荘市福山字種ノ口36外 試料形態：炭化物 試料名(番号)：16 柱穴 (SKP1101)	Libby Age(yrBP) : 1,260 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.95±0.68 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -144.7 ± 4.6 pMC(%) = 85.53±0.46
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -144.6 ± 4.4 pMC(%) = 85.54±0.44 Age (yrBP) : 1,250 ± 40

参考 IAAA-41407に関しては、木片を処理し測定した結果である。

第23表 H17年度放射性炭素測定結果表

Code No.	試料	B P年代および炭素の同位体比
IAAA-51467	試料採取場所：種ノ口遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：1 溝跡 (SD1189)	Libby Age (yrBP) : 850 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -30.12±0.85 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -100.0 ± 3.8 pMC (%) = 90.00±0.38
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -109.4 ± 3.4 pMC (%) = 89.06 ± 0.4 Age (yrBP) : 930 ± 30
IAAA-51468	試料採取場所：種ノ口遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：2 溝跡 (SD1255)	Libby Age (yrBP) : 1,120 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.08±0.79 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -130.1 ± 3.7 pMC(%) = 86.99±0.37
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -137.3 ± 3.4 pMC(%) = 86.27±0.34 Age (yrBP) : 1,190 ± 30
IAAA-51469	試料採取場所：種ノ口遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：3 溝跡 (SD300)	Libby Age(yrBP) : 970 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -30.01±0.77 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -114.2 ± 3.5 pMC(%) = 88.58±0.35
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -123.2 ± 3.2 pMC(%) = 87.68±0.32 Age (yrBP) : 1,060 ± 30
IAAA-51470	試料採取場所：種ノ口遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：4 盛土下 (LO46)	Libby Age(yrBP) : 990 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.11±0.59 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -115.7 ± 3.8 pMC(%) = 88.43±0.38
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -123.1 ± 3.6 pMC(%) = 87.69±0.36 Age (yrBP) : 1,060 ± 30
IAAA-51471	試料採取場所：種ノ口遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：5 盛土下 (MN26)	Libby Age(yrBP) : 970 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.74±0.82 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -114.1 ± 3.6 pMC(%) = 88.59±0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -120.9 ± 3.3 pMC(%) = 87.91±0.33 Age (yrBP) : 1,040 ± 30

Code No.	試料	B P年代および炭素の同位体比
IAAA-51472	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 920 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -20.47 ± 0.86 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -108.7 ± 3.6 pMC(%) = 89.13 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -100.4 ± 3.3 pMC(%) = 89.96 ± 0.33 Age (yrBP) : 850 ± 30
IAAA-51473	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 780 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.05 ± 0.76 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -92.2 ± 3.4 pMC(%) = 90.78 ± 0.34
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -88.6 ± 3.1 pMC(%) = 91.14 ± 0.31 Age (yrBP) : 750 ± 30
IAAA-51474	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 1,090 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.30 ± 0.84 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -126.5 ± 3.6 pMC(%) = 87.35 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -132.4 ± 3.3 pMC(%) = 86.76 ± 0.33 Age (yrBP) : 1,140 ± 30
IAAA-51475	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 930 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.04 ± 0.83 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -109.3 ± 3.5 pMC(%) = 89.07 ± 0.35
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -107.5 ± 3.1 pMC(%) = 89.25 ± 0.31 Age (yrBP) : 910 ± 30
IAAA-51476	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 1,080 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.94 ± 0.82 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -126.3 ± 3.5 pMC(%) = 87.37 ± 0.35
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -129.7 ± 3.1 pMC(%) = 87.03 ± 0.31 Age (yrBP) : 1,120 ± 30
IAAA-51477	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 1,030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -22.51 ± 0.81 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -120.3 ± 3.7 pMC(%) = 87.97 ± 0.37
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -115.8 ± 3.4 pMC(%) = 88.42 ± 0.34 Age (yrBP) : 990 ± 30
IAAA-51478	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 900 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.19 ± 1.05 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -106.3 ± 4.5 pMC(%) = 89.37 ± 0.45
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -112.1 ± 4.0 pMC(%) = 88.79 ± 0.40 Age (yrBP) : 960 ± 40
IAAA-51479	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 1,040 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -20.69 ± 1.02 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -121.9 ± 4.1 pMC(%) = 87.81 ± 0.41
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -114.1 ± 3.6 pMC(%) = 88.59 ± 0.36 Age (yrBP) : 970 ± 30
IAAA-51480	試料採取場所：樋ノ口遺跡	Libby Age(yrBP) : 1,200 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.93 ± 0.86 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -138.7 ± 3.6 pMC(%) = 86.13 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正なし	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -138.6 ± 3.2 pMC(%) = 86.14 ± 0.32 Age (yrBP) : 1,200 ± 30

参考 試料形態については、実際に処理し測定したものを記載した。

第2節 出土炭化材樹種同定

株式会社 加速器分析研究所

はじめに

種ノ口遺跡では、これまでの発掘調査により縄文時代と古代の遺構が検出されている。今回の発掘調査では、溝跡、土坑、焼土遺構、盛土等が検出されている。

本報告では、各遺構から出土した炭化材の樹種を明らかにするため樹種同定を実施する。

1 試料

溝跡（SD）、盛土、焼土遺構（SN）、鍛冶炉（SS）から出土した炭化材14点（試料番号1-14）である。このうち、試料番号13, 14には各2点、試料番号12には4点、試料番号9, 10には各5点、試料番号8には7点の試料があった。年代測定にどの試料を用いたのか不明であるため、全点を対象として樹種同定を実施する。したがって、合計点数は33点となる。

2 分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）およびWheeler 他（1998）を参考にした。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1990）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にした。

3 結果

樹種同定結果を第24表に示す。試料の中には保存状態が悪いものや樹皮が含まれていた。保存状態の悪い試料については、観察できた範囲での結果を記し、組織が全く観察できなかった場合には不明とした。これらの状態の悪い試料を除いた炭化材は、針葉樹1種類（スギ）と広葉樹5種類（ヤナギ属・カバノキ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ヤマグワ）に同定された。なお、試料番号8土サンプルの1点には2種類、試料番号12西炭部分には5種類が認められた。同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-3個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・カバノキ属 (*Betula*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、1-4細胞幅、

1-30細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものとは複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激〜やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis Poir.*) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は2-5列、孔圏外への移行は緩やかで、年輪界へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

4 考察

炭化材が出土した遺構は、溝跡、盛土、焼土・鍛冶炉等である。焼土・鍛冶炉から出土した炭化材については燃料材の一部が残存した可能性がある。その他の遺構から出土した炭化材は、炭化していることから何らかの理由により火を受けたことは明らかであるが、用途等の詳細は不明である。

遺構別の種類構成を表2に示す。全体では38点中スギとクリが各12点で約1/3づつを占めている。次いでヤナギ属とコナラ節の3点、カバノキ属とヤマグワの1点となっており、スギとクリの利用が多いことが指摘される。これらの樹種は、現在の植生等から考慮すれば、遺跡周辺で入手可能であったことが推定される。

焼土・鍛冶炉の遺構別種類構成をみると、S N1240, S S1283, 1284ではスギとクリを利用する点で木材利用の傾向が似ている。一方、S N1344は、スギが利用される点はS N1240, S S1283, 1284と同じであるが、クリの利用が少なく、コナラ節の利用が目立つ。また、合計で5種類が利用されており、他の遺構よりも利用されている木材の種類が多い。この違いは、遺構による種類構成の違いを反映した可能性がある。

今後、遺構の性格や年代測定結果も含めて木材利用状況について検討することが必要である。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。
 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。
 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。
 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p。
 Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第24表 炭化材樹種同定表

番号	遺構	樹種
1	SD1189	ヤナギ属
2	SD1255	不明
3	SD300	スギ
4	LO46盛上下	クリ
5	MN26盛上下	不明
6	MD29盛上下	スギ
7	SK1230	広葉樹
8	SN1240	樹皮
		スギ
		スギ
		クリ
		クリ
		ヒノキ科
		カバノキ属
9	SS1283	クリ近似種
		クリ
		不明
		クリ
		スギ
10	SS1284	スギ
		クリ
		クリ
		クリ
		スギ
11	SN1291	ヤナギ属
12	SN1344	スギ
		ヤナギ属
		コナラ属コナラ亜属コナラ節
		スギ
		クリ
		ヤマグワ
13	SD1209	コナラ属コナラ亜属コナラ節
		コナラ属コナラ亜属コナラ節
		スギ
14	SD1256	不明
		スギ
		クリ

第25表 遺構別樹種構成表

遺構	樹種								合計	
	スギ	ヤナギ属	カバノキ属	コナラ節	クリ	ヤマグワ	広葉樹	樹皮		不明
SD1189		1								1
SD1209	1								1	2
SD1255									1	1
SD1256	1				1					2
SD300	1									1
LO46盛上下					1					1
MN26盛上下									1	1
MD29盛上下	1									1
SK1230							1			1
SN1240	3	1	1	3			1			8
SN1291		1								1
SN1344	2	1		3	1	1				8
SS1283	1				3				1	5
SS1284	2				3					5
合計	12	3	1	3	12	1	1	1	4	38

第3節 出土木製品樹種同定

(株) 吉田生物研究所

1 試料

試料は秋田県種ノ口遺跡から出土した下駄 8 点、椀 3 点、机天板 2 点、机脚 2 点、形代 3 点、板状木製品 5 点、棒状木製品 1 点の合計 24 点である。

2 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡（Nikon MICROFLEX UFX-DX Type 115）で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果（針葉樹 2 種、広葉樹 2 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujaopsis* sp.)

(第56図-4・第57図-1、2、3・第58図-1・第59図-2、4、6、8、9)

(図版58・59・60・61・62・63・64)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で 1 分野に 2~4 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

2) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(第55図-4、5・第56図-1、2、3、5、6・第59図-1、3、7・第60図-10)

(図版56・57・58・59・61・62・63・64)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1~3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

3) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)

(第55図-1、2、3)

(図版55・56)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（~270 μm）が 1 列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集

閉管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圍部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柎目では大道管は単穿孔孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。柎目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

4) モクレン科モクレン属 (*Magnolia sp.*)

(第56図-6)

(図版57)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 110\mu\text{m}$ ）が単独ないし2～4個複合して多数分布する。軸方向柔組織は1～2層の幅で年輪界に配列する。柎目では道管は単穿孔孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性と平伏と直立細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は階段状である。柎目では放射組織は1～3細胞列、高さ $\sim 700\mu\text{m}$ となっている。モクレン属は、ホオノキ、コブシなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京大木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

第26表 木製品樹種同定表

挿図番号	器 種	樹 種	挿図番号	器 種	樹 種
第55図-1	碗	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	第57図-2	机脚(本体)	ヒノキ科アスナロ属
第55図-2	碗A	ニレ科ケヤキ属ケヤキ		机脚(榎)	ヒノキ科アスナロ属
	碗B	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	第57図-3	机脚(本体)	ヒノキ科アスナロ属
第55図-3	碗	ニレ科ケヤキ属ケヤキ		机脚(榎)	ヒノキ科アスナロ属
第55図-4	下駄	スギ科スギ属スギ	第58図-1	机天板	ヒノキ科アスナロ属
第55図-5	下駄	スギ科スギ属スギ	第59図-1	形代	スギ科スギ属スギ
第56図-1	下駄	スギ科スギ属スギ	第59図-2	形代	ヒノキ科アスナロ属
第56図-2	下駄	スギ科スギ属スギ	第59図-3	形代	スギ科スギ属スギ
第56図-3	下駄	スギ科スギ属スギ	第59図-4	棒状木製品	ヒノキ科アスナロ属
第56図-4	下駄	ヒノキ科アスナロ属	第59図-6	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
第56図-5	下駄	スギ科スギ属スギ	第59図-7	板状木製品	スギ科スギ属スギ
第56図-6	下駄(台)	スギ科スギ属スギ	第59図-8	形代	ヒノキ科アスナロ属
	下駄(歯)	モクレン科モクレン属	第59図-9	形代	ヒノキ科アスナロ属
第57図-1	机天板A	ヒノキ科アスナロ属	第60図-10	棒状木製品	スギ科スギ属スギ
	机天板B	ヒノキ科アスナロ属			

第4章 まとめ

今回の樋ノ口遺跡の調査は芋川に平行して南北に連なる丘陵の西側裾部を対象として、縄文時代・平安時代の遺構・遺物を検出した。縄文時代の遺構は2基の陥し穴を確認したのみで、詳細な帰属時期は不明である。遺物は前期後葉の土器が出土しているが、量は非常に少ない。このように遺跡は縄文時代前期後葉には利用が開始され、ある時期狩猟場として機能していたと推測されるが、存続時期や利用形態の詳細については不明確である。

平安時代に下ると、特に鍛冶関連遺構が多数検出されており、出土土器等から9世紀末～10世紀初めの短期間に鍛冶生産域として機能していたと考えられる。一方、調査区東側においては雛段状に連続する平坦面を現地表面において観察することができ、調査区においてもこれと一連の盛土造成による人工地形が確認されている。遺跡は調査範囲に止まらず調査区東側の丘陵地全体が含まれるものと推定され、丘陵鞍部を中核として鍛冶生産が展開したと推測することができる。本章では平安時代の主要な検出遺構の内容とその前後関係を整理し、遺跡の時期的な変遷過程と性格について所見を述べておく。

検出した遺構の個別の時期を決定するのは困難であるが、丘陵全体を対象に行われた大規模盛土造成が一つの大きな画期と考えられる。ここでは1期・2期の二時期を設定する。

1期は平安時代に丘陵地を対象として遺跡が形成された最初の段階に相当し、板塀列・櫓状建物・捨て場・鍛冶関連遺構が主要な構成要素として挙げられる。

調査区南側の丘陵縁辺に巡る溝跡（S D 278・306・345・359・403・620・1189・1309・1310）は、堆積状況から板塀を設置した防御区画施設と考えられる。S D 1189は廃絶直後に沢状地形を埋め立てた盛土によって覆われており、盛土造成直前まで機能していた可能性が高い。S D 359と403の間にあるS B 450と、大きな沢を挟んで対向するS B 550の2棟は、同じく丘陵縁辺の突出部に位置し、柱穴規模や6本柱の配置関係、平面規模が非常に似通っており、同時存在の可能性が高いものと推測される。この2棟の建物は立地および溝跡との関係を重視して、板塀列と一体の櫓状建物である可能性を指摘しておく。

2棟の櫓状建物に挟まれる沢地に位置する捨て場（S T 1140）は、沢を埋め立てた大規模な盛土の下に形成されており、斎串や形など祭祀的な意味合いの強い木製品を組成する。このような祭祀存在の背景として、律令体制との強い結びつきを想定することが可能であろう。

鍛冶生産遺構については、調査区南側の比較的標高の高い部分で3基の鍛冶炉（S S 354・1283・1284）が確認されており、いずれも小規模で使用頻度が低く、防御区画の範囲内にあることから、この時期に伴うものと推定する。また調査区北側の焼土遺構群は木炭生産に関連する可能性が指摘できる。本段階においては調査区北側が木炭生産域として、南側が鍛冶生産域として機能していたと考えられる。

以上のように、本段階の防御施設は一般的な集落に伴うものではなく、東側調査区外の丘陵上に律令体制と深い関係を持つ管理施設の存在を示唆するものとして評価できる。通常は官衙遺跡から出土

する灰釉陶器も、帰属時期からこの段階で遺跡内に搬入された可能性がある。

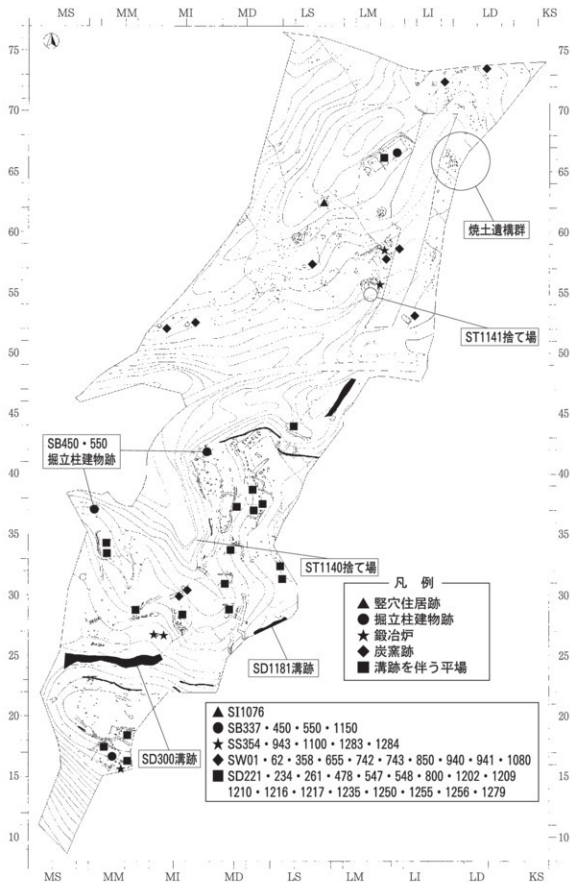
2期は大規模な盛土造成以降の遺構群で、土塁・空堀・鍛冶関連遺構・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡を伴う人工的な平場が主要な構成要素である。土塁（SF945）構築時期の詳細は不明であるが、土塁とその土の供給源となる空堀は人工的な平坦面に隣接しており、丘陵地を対象とする大規模造成作業の一環として同時に行われたと推定する。調査区南側の空堀（SD300・1180）も詳細な構築時期は明らかではないが、造成規模の観点から、土塁と同様この時期に帰属するものと考えられる。このように、防御施設は1期の自然地形に沿って構築される板塀列と櫓状建物から、2期の大規模な平坦面造成と機を一にした土塁・空堀による大規模な防御区画施設へと転換したと考えられる。

この時期の鍛冶関連遺構としては、盛土上に構築された2基の鍛冶炉（S943・1100）が相当する。溝に区画された人工的な平場を伴い、複数回使用されている点で調査区南側の鍛冶炉とは異質である。大規模盛土造成を画期として、鍛冶生産域は防御施設内から防御施設外へと転換したと考えられる。また、調査区北側では炭灰跡が拡散した分布状況を示しており、木炭生産域は資源の枯渇を背景として防御施設外縁からさらに遠ざかり拡散した可能性がある。

竪穴住居跡は調査区北側の盛土上で1軒（S11076）を検出したに過ぎない。2棟の掘立柱建物跡（SB337・1150）は、ともに区画溝を伴う平場にあり、柱穴径が小さいことでも共通する。この掘立柱建物跡の帰属時期は不明確であるが、区画溝を伴う平場は後述するように大規模盛土造成に後出する傾向があるため、本段階に伴う可能性を指摘できる。竪穴住居跡と掘立柱建物跡は棟数も少なく散発的な分布状況を示しており、一定規模の集団、特に鍛冶生産に関わる工人のまとまりをもつ居住域を形成するには至らない。

コ字形・L字形・直線平面形の溝跡に区画された平場（SD221・234・235・261・262・277・478・547・548・800・848・851・942・1099・1202・1209・1210・1215・1216・1217・1235・1250・1255・1256・1275・1279・1292・1293・1300・1301）は、調査区南側で濃密な分布を示している。このうち1箇所（SD1250）は盛土上面に形成されており、同様の平場は盛土造成に後出する傾向をもつと推定する。平場には焼土遺構を伴う例（SN1206・1234・1240・1291・1344）が認められ、調査段階では鍛冶生産に関連する工房跡の可能性を考えたが、土壌水洗により鉄関連遺構が出土したのは1基のみ（SN1344）で、明確な鍛冶生産遺構とは認定し難い。これらの区画溝を伴う平場については、簡易な上屋施設を伴う（痕跡として規則的な柱穴配置を残さない）居住施設と見る余地もあろう。

以上述べてきた遺跡の変遷過程をまとめると、1期：9世紀末には丘陵上に律令体制と深い関係をもつ管理施設が成立し、丘陵縁辺に板塀と櫓状建物からなる防御区画が巡り、工人を編成して防御区画内での鍛冶生産を開始し、2期：9世紀末から10世紀初めにかけてのある段階で、丘陵鞍部を中心に離壇状に連続する平場跡の造成とその削土を用いた盛土造成による大規模な地形改変が行われ、これと同時に板塀列から土塁と空堀による大規模防御区画への転換がなされ、鍛冶生産域は防御区画外へと展開し、10世紀前半には鍛冶生産域として終焉を向かえたものと推測する。大規模盛土造成の背景として、鍛冶生産の規模拡大に伴う管理施設の拡充と再編成が想定される。



第74図 主要遺構の位置



遺跡全景(西から)



1 遺跡遠景(真上から)



2 遺跡遠景(東から)



1 遺跡遠景(北から)



2 遺跡遠景(南から)



1 平成15年度調査区全景 (真上から)



2 平成15年度南側調査区 (北西から)



1 平成16年度調査区全景(真上から)



2 平成16年度調査区全景(南西から)



1 平成17年度調査区全景 (真上から)



2 平成17年度調査区全景 (北から)



1 調査前状況（北西から）



2 遺跡近景（南西から）



1 S I 1076完掘状況(南西から)



2 S I 1076確認状況(南西から)



3 S I 1076カマド完掘状況(南から)



4 S I 1076土層断面(南西から)



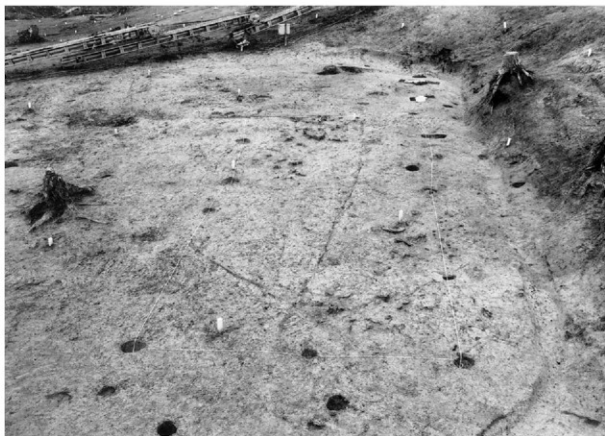
1 S B337・S D261完掘状況 (東から)



2 S B450完掘状況 (南から)



1 SD800・SB1150完掘状況(南から)



2 SD800・SB1150完掘状況(北東から)



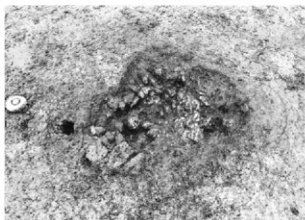
1 S S 354確認状況 (西から)



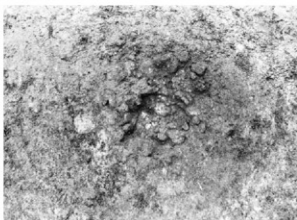
2 S S 354土層断面 (北から)



3 S S 1283・1284確認状況 (北から)



4 S S 1283確認状況 (南から)



5 S S 1284完掘状況 (南から)



1 SD1099確認状況(南から)



2 SS1100土層断面(南から)



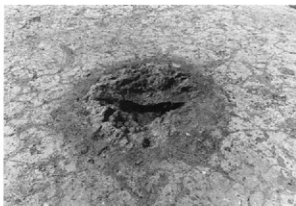
3 SD1099完掘状況(南から)



1 S D942・S S943・S N944確認状況 (南東から)



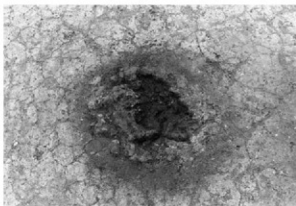
2 S S943確認状況 (南から)



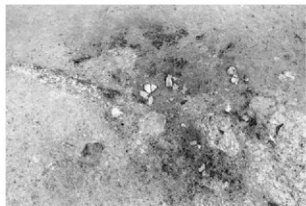
3 S S943土層断面 (北東から)



4 S S943土層断面 (南東から)



5 S S943完掘状況 (西から)



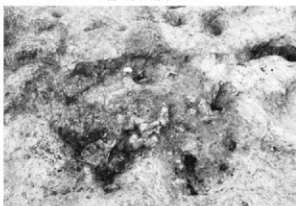
1 SN792確認状況 (西から)



2 SN797土層断面 (南から)



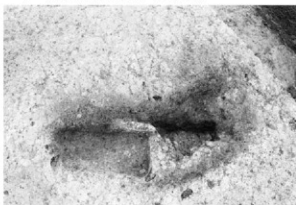
3 SN797完掘状況・SN994確認状況 (東から)



4 SN994完掘状況 (東から)



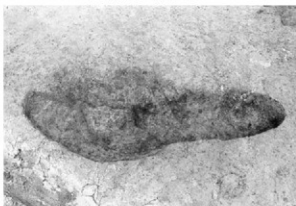
5 SN798土層断面 (南から)



6 SN798完掘状況 (南から)



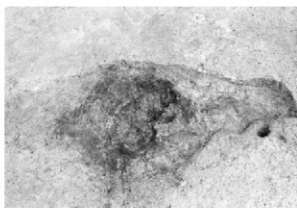
7 SN872土層断面 (南から)



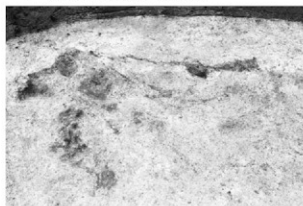
8 SN872完掘状況 (南東から)



1 SN 873土層断面(東から)



2 SN 873完掘状況(南西から)



3 SN 947・949・950確認状況(東から)



4 SN 947・949・950土層断面(南から)



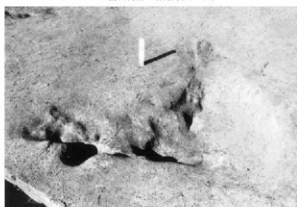
5 SN 953土層断面(南から)



6 SN 954土層断面(南東から)



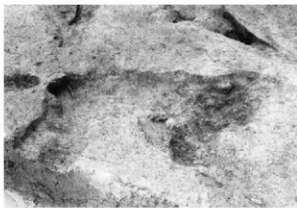
7 SN 953完掘状況(南から)



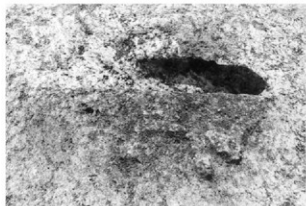
8 SN 953・954完掘状況(南西から)



1 SN894・955土層断面(南東から)



2 SN894・955完掘状況(南東から)



3 SN1071確認状況(北から)



4 SN1234土層断面(北から)



5 SN1240土層断面(南から)



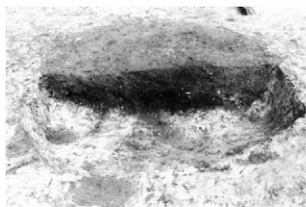
6 SN1291土層断面(東から)



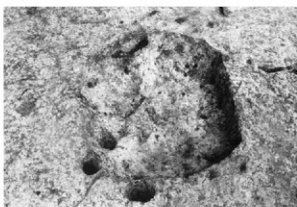
7 SN1344確認状況(北から)



8 SN1344土層断面(南から)



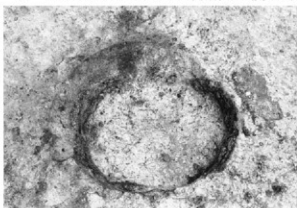
1 SW01土層断面 (南から)



2 SW01・SKP10・11・33完掘状況 (南から)



3 SW62土層断面 (南から)



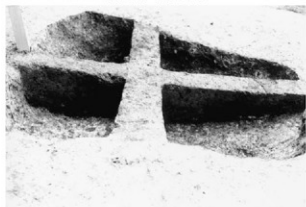
4 SW62完掘状況 (南から)



5 SW742土層断面 (南から)



6 SW742完掘状況 (南東から)



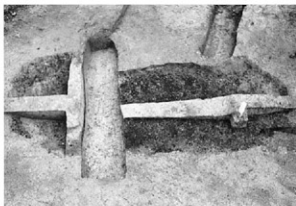
7 SW743土層断面 (西から)



8 SW743完掘状況 (南から)



1 SW850 A-A' 土層断面 (北西から)



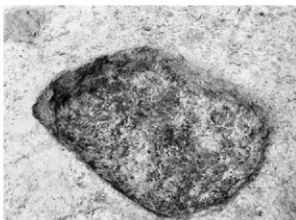
2 SW850 B-B' 土層断面 (北東から)



3 SW850完掘状況 (北東から)



4 SW1080土層断面 (南西から)



5 SW1080完掘状況 (南東から)



1 SW940土層断面 (南から)



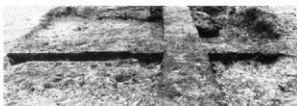
2 SW940土層断面 (北東から)



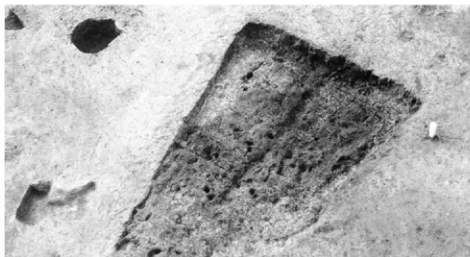
3 SW940完掘状況 (南東から)



4 SW941土層断面 (西から)



5 SW941土層断面 (南から)



6 SW941完掘状況 (南から)



1 SW358炭窯断面 (東から)



2 SW358焼土範囲 (北東から)



3 SW358土層断面 (東から)



4 SW358完掘状況 (北から)



5 SW655土層断面 (北から)



5 SW655完掘状況 (北から)



1 S D234・253完掘状況(東から)



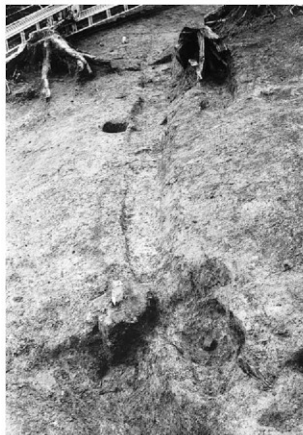
2 S D235完掘状況(東から)



3 S D261・262完掘状況(南から)



4 S D261(南北部分)完掘状況(北から)



1 SD278完掘状況(東から)



2 SD290完掘状況(西から)



3 SD322完掘状況(西から)



4 SD403完掘状況(北東から)



1 SD300土層断面(東から)



2 SD300土層断面(西から)



3 SD300土層断面(西から)



4 SD300土層断面(南から)



5 SD300完掘状況(西から)



1 S D 306・345完掘状況 (東から)



2 S D 345・346・348完掘状況 (西から)



3 S D 478完掘状況 (北東から)



5 S D 479完掘状況 (西から)



4 S D 510完掘状況 (南西から)



6 S D 514完掘状況 (東から)



7 S D 559完掘状況 (南から)



1 S D359完掘状況 (北から)



2 S D359 (南西から)



1 S D547・548完掘状況 (北から)



2 S D619完掘状況 (北東から)



3 S D759完掘状況 (北西から)



1 SD901土層断面(北から)



2 SD901完掘状況(南西から)



3 SD1181完掘状況(南西から)



4 SD1185完掘状況(西から)



1 SD1189 (D-D') 土層断面 (東から)



2 SD1189 (F-F') 土層断面 (東から)



3 SD1189完掘状況 (西から)



4 SD1189完掘状況 (北から)



1 SD1192完掘状況 (南から)



2 SD1190完掘状況 (北から)



3 SD1208完掘状況 (南から)



4 SD1215完掘状況 (北から)



5 SD1216・1217完掘状況 (南から)



6 SD1301完掘状況 (西から)



7 SD1310完掘状況 (西から)



1 SD1209完掘状況 (北から)



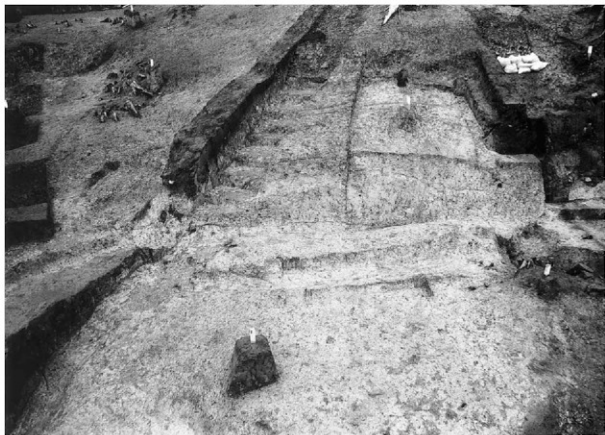
2 SD1256完掘状況 (西から)



1 S D1235完掘状況 (西から)



2 S D1250完掘状況 (南から)



1 S D1255・1292・1293完掘状況 (西から)



2 S D1300完掘状況 (東から)



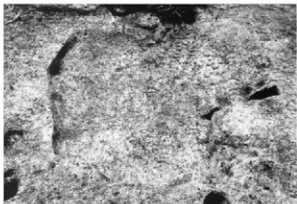
1 S K48完掘状況 (東から)



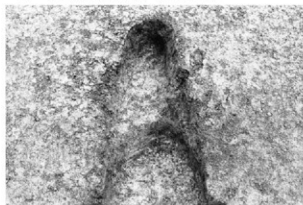
2 S K49完掘状況 (西から)



3 S K226完掘状況 (北西から)



4 S K232完掘状況 (北から)



5 S K276完掘状況 (南から)



6 S K347完掘状況 (西から)



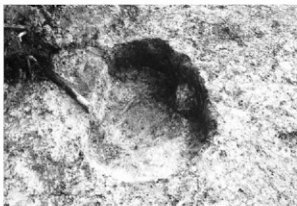
7 S K527完掘状況 (西から)



8 S K633完掘状況 (東から)



1 S K715完掘状況 (南から)



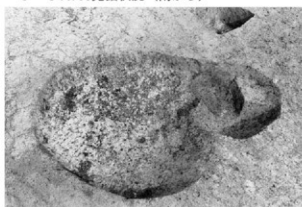
2 S K760完掘状況 (東から)



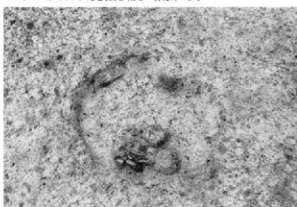
3 S K790完掘状況 (南から)



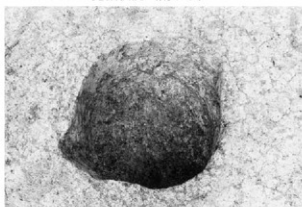
4 S K791完掘状況 (南から)



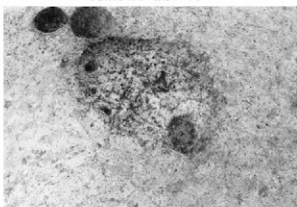
5 S K799完掘状況 (南から)



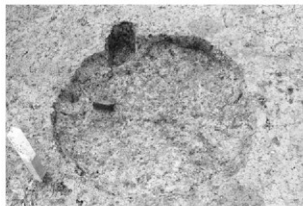
6 S K828完掘状況 (南から)



7 S K933完掘状況 (南東から)



8 S K1081完掘状況 (南から)



1 SK1094完掘状況 (南東から)



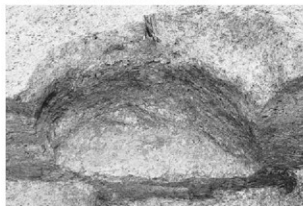
2 SK1170完掘状況 (北西から)



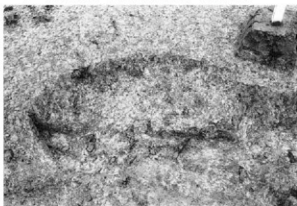
3 SK1175完掘状況 (南から)



4 SK1197・1198完掘状況 (南から)



5 SK1230完掘状況 (南から)



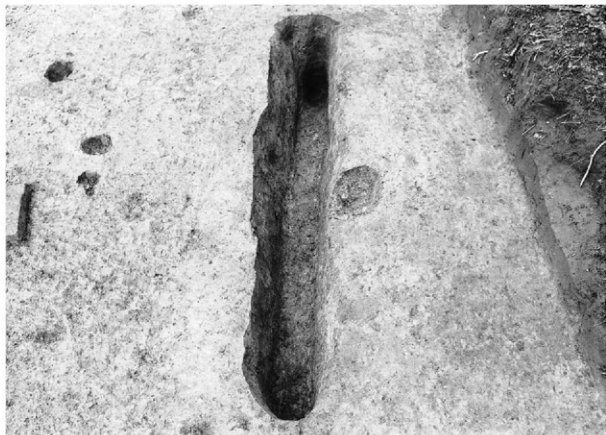
6 SK1306完掘状況 (西から)



7 SK1311完掘状況 (南から)



8 SK1352完掘状況 (東から)



1 SKT1111完掘状況 (南から)



2 SKT1238完掘状況 (南から)



1 SF945確認状況(西から)



2 SF945完掘状況(西など)



3 SF945土層断面(西から)



4 SF945遠景(西など)



1 LS46区盛土土層断面（北から）



2 LR41区盛土土層断面（西から）



3 LR41区盛土周辺状況（西から）



4 MA36区盛土土層断面（西から）



5 MC38区盛土土層断面（南から）



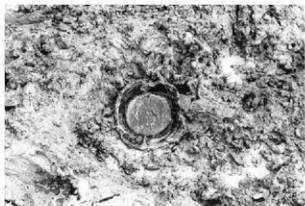
6 MN26区盛土土層断面（西から）



7 MI26区盛土土層断面（北から）



8 MF29区盛土土層断面（南から）



1 ST1140木製品(椀)出土状況(北西から)



2 ST1140木製品(下駄)出土状況(東から)



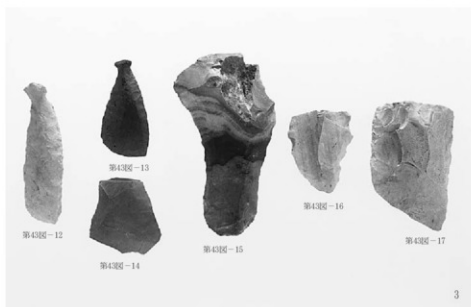
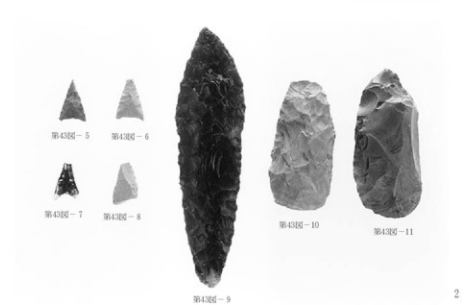
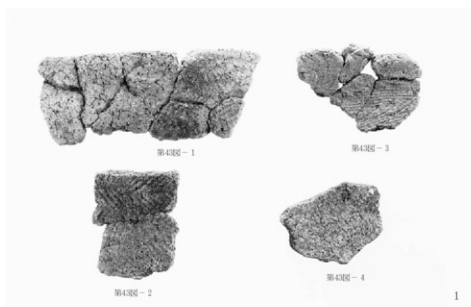
3 ST1140木製品(机天板)出土状況(西から)

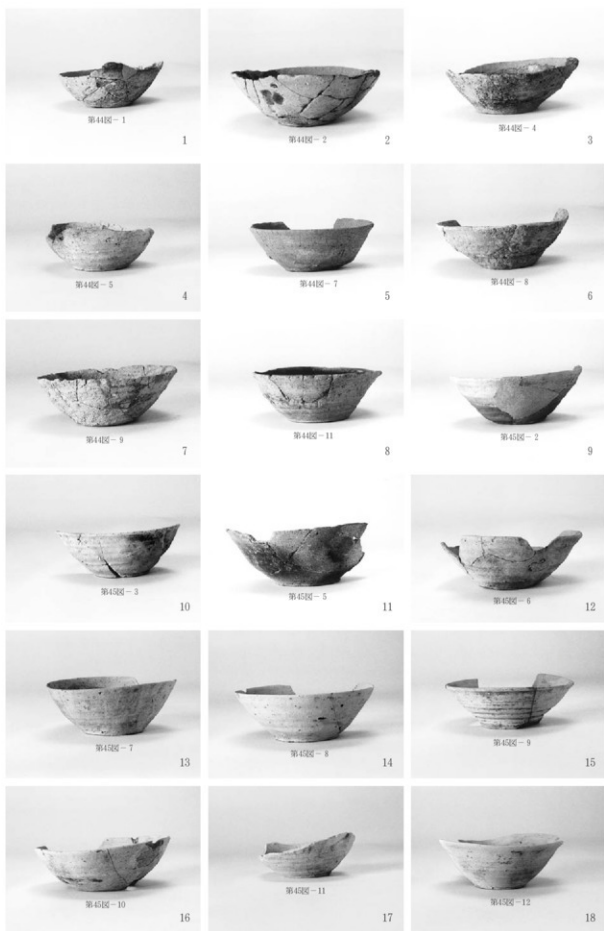


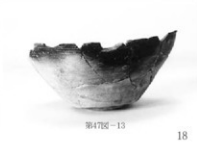
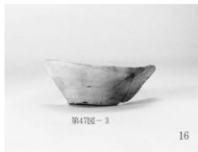
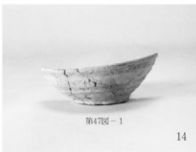
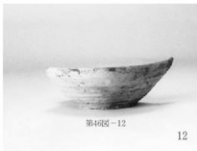
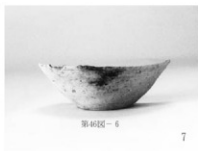
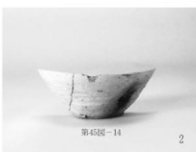
4 ST1140木製品(形代)出土状況(西から)

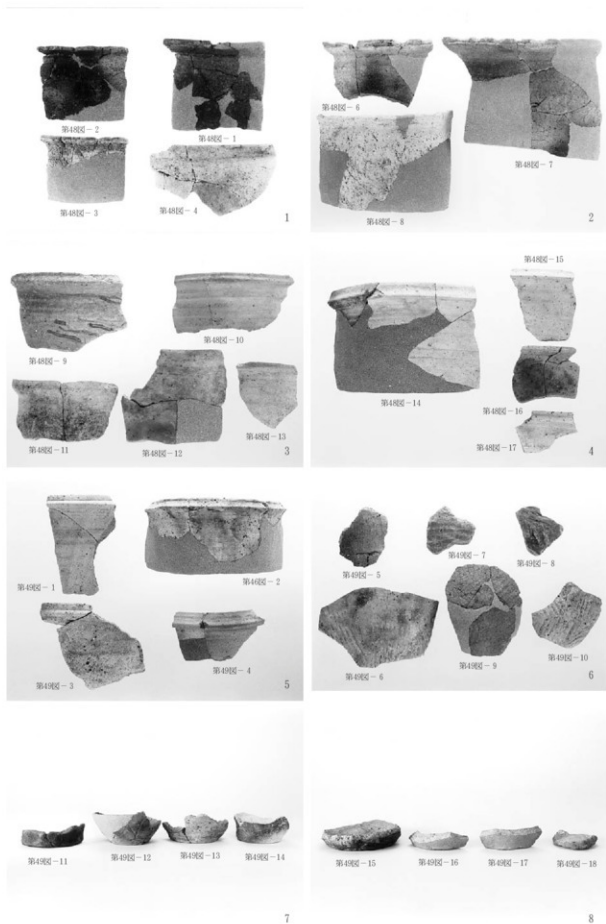


5 LH64区土師器出土状況(東から)











第5000 - 1

1



第5000 - 8

2



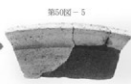
第5000 - 2

第5000 - 3

3



第5000 - 4



第5000 - 5



第5000 - 6

4

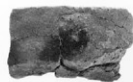


第5000 - 10

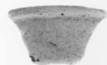
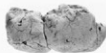
5



第5000 - 12



第5000 - 14



第5000 - 15

6



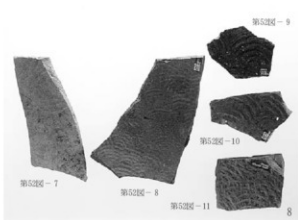
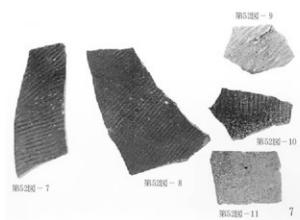
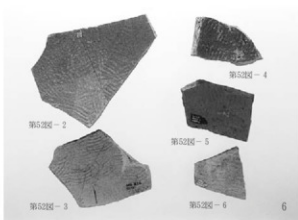
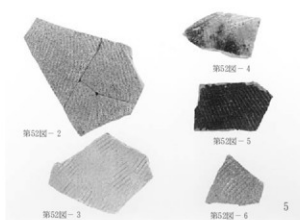
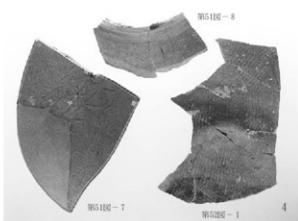
第5000 - 13

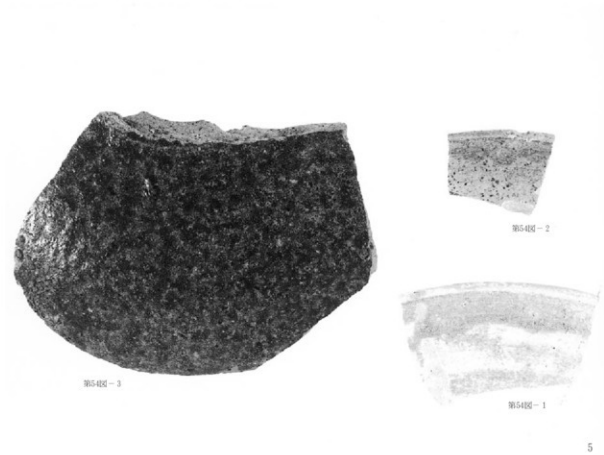
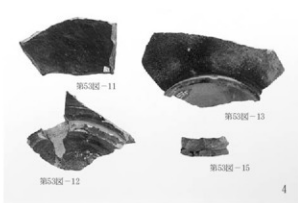
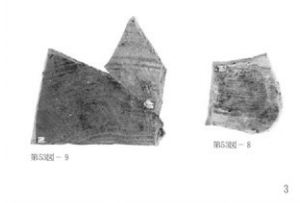
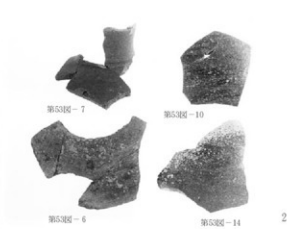
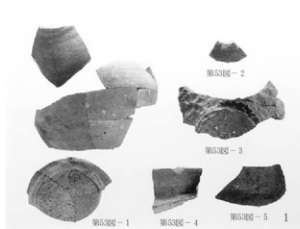
7

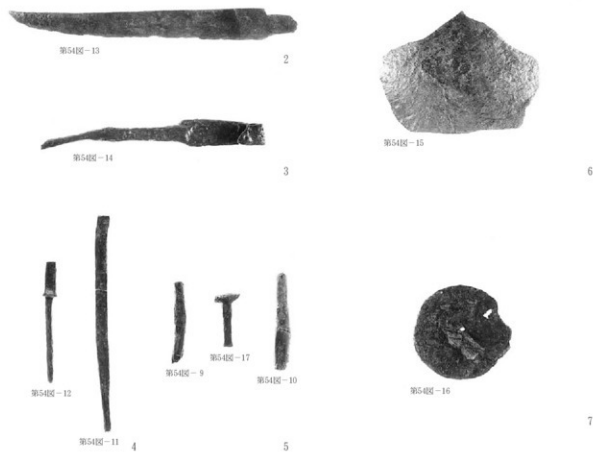


第5000 - 11

8









第5098E-1

1



第5098E-2

2



第5098E-3



第5098E-9



第5098E-8



第5098E-6



第5098E-7

3



第5098E-1

4



第5098E-10



第5098E-3



第5098E-2



第5098E-4

5



第5098E-5

6



第50402-1



第50402-5

1



第50502-1



第50602-5

2



第50402-3



第50402-6

3



第50402-3



第50402-6

4



第50502-5



第50402-2

5



第50502-5



第50402-2

6



第50502-4



第50402-4

7



第50502-4



第50402-4

8



機天板-1

1



機天板-1

2



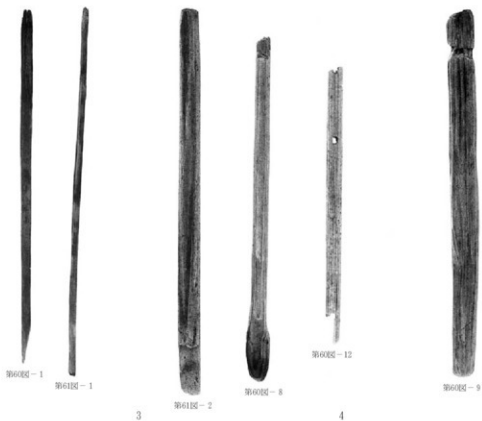
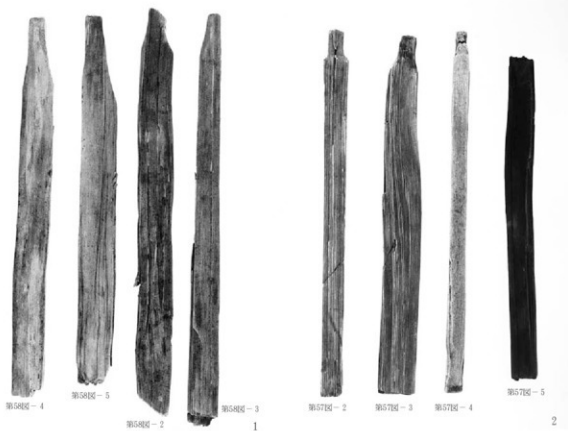
機天板-1

3



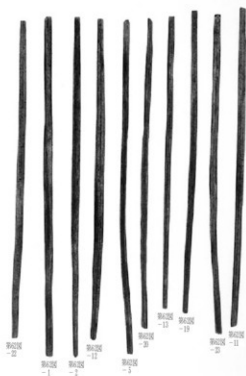
機天板-1

4





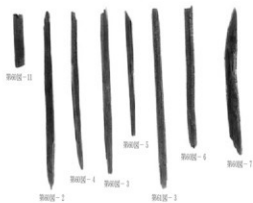
1



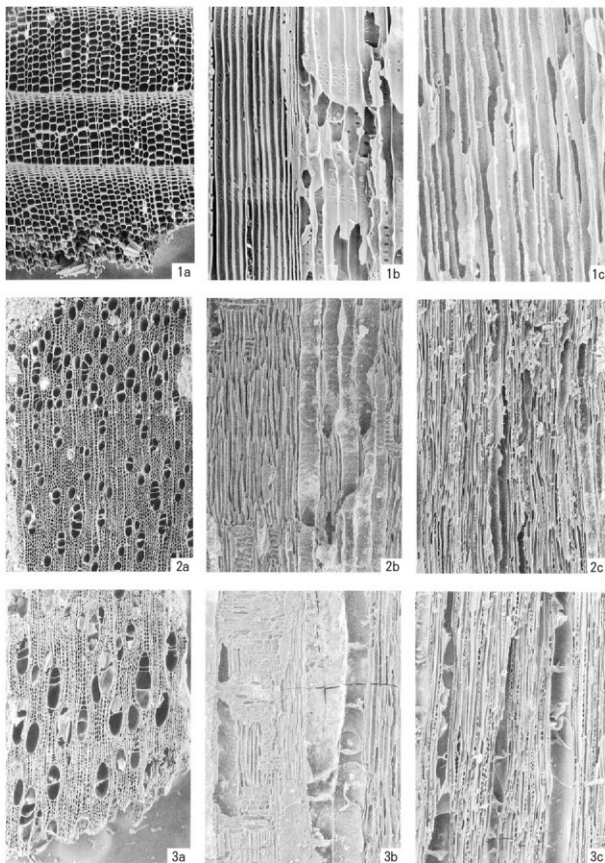
2



3



4



1. スギ (試料番号12) (S N1240・1283・1284・1344、S D1209・1256・1278、S F1351出土)

2. ヤナギ属 (試料番号11) (S N1291・1344、S D1189出土)

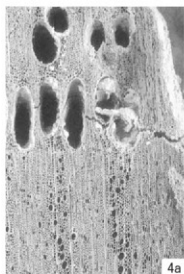
3. カバノキ属 (試料番号8) (S N1240出土)

a:木口, b:年目, c:板目

200 μ m:2-3a

200 μ m:1a・2-3b,c

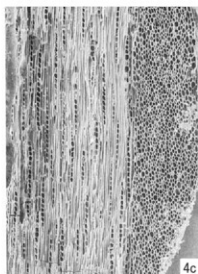
100 μ m:1b,c



4a



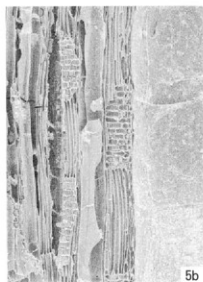
4b



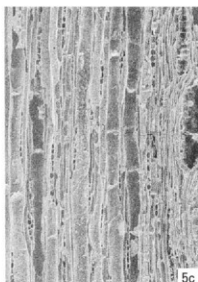
4c



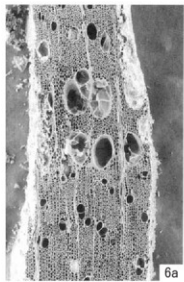
5a



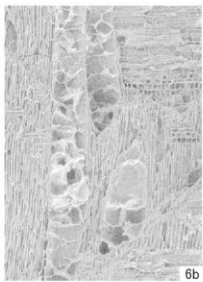
5b



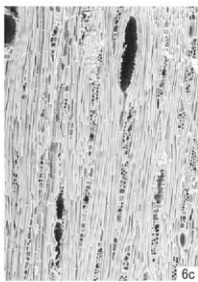
5c



6a



6b

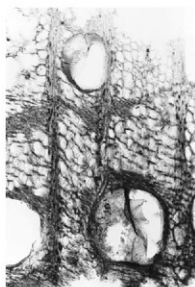


6c

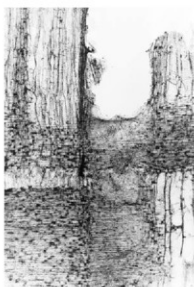
4. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料番号12) (S N 1344出土)
 5. クリ (試料番号8) (S N 1240・1283・1284・1344、S D 1256、S F 1151出土)
 6. ヤマガワ (試料番号12) (S N 1344出土)

a:木口, b:径目, c:板目

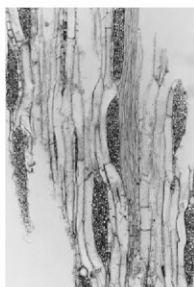
200 μ m: a
 200 μ m: b, c



木口×40

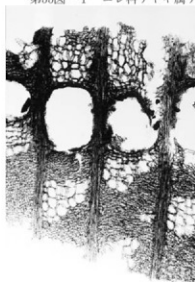


柢目×40



板目×40

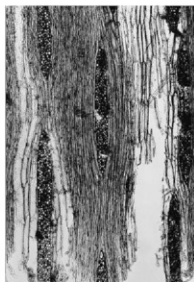
第55図-1 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口×40

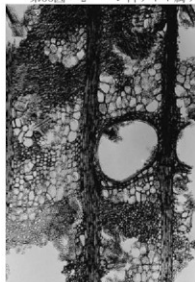


柢目×40



板目×40

第55図-2 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口×40

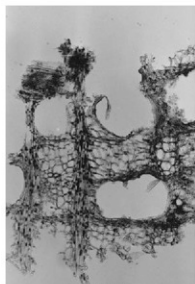


柢目×40



板目×40

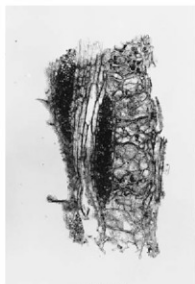
第55図-2 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口×40



板目×40



木口×40

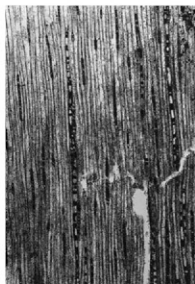
第55図-3 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口×40

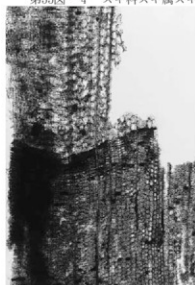


板目×100



木口×40

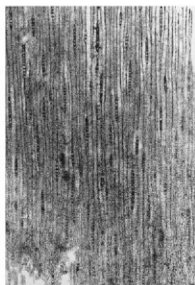
第55図-4 スギ科スギ属スギ



木口×40

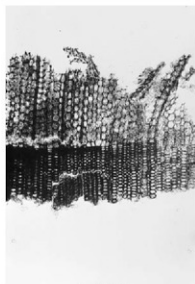


板目×100



木口×40

第55図-5 スギ科スギ属スギ

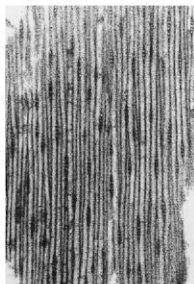


木口×40

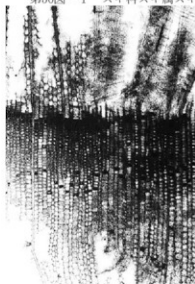
第56図-1 スギ科スギ属スギ



柾目×100

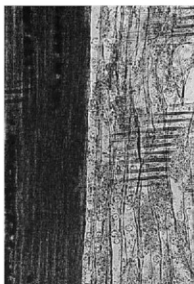


板目×40



木口×40

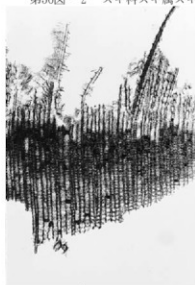
第56図-2 スギ科スギ属スギ



柾目×100



板目×40



木口×40

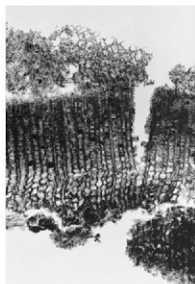
第56図-3 スギ科スギ属スギ



柾目×100

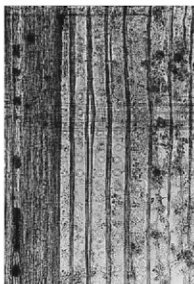


板目×40

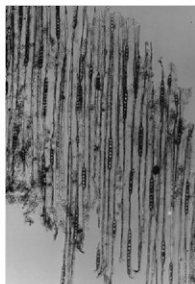


木口×40

第56図-4 ヒノキ科アスナロ属



年目×100



板目×40

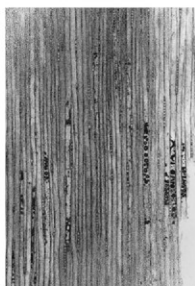


木口×40

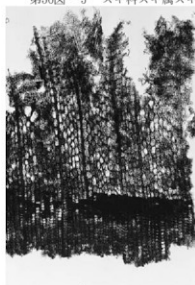
第56図-5 スギ科スギ属スギ



年目×100



板目×40

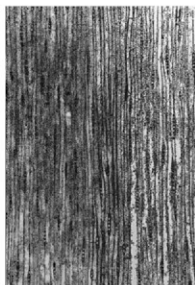


木口×40

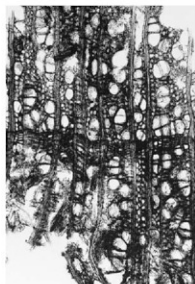
第56図-6 スギ科スギ属スギ



年目×100



板目×40



木口×40

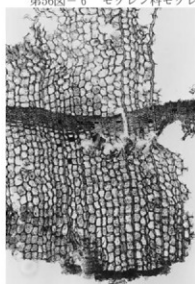
第56図-6 モクレン科モクレン属



柎目×40

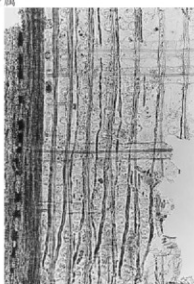


板目×40

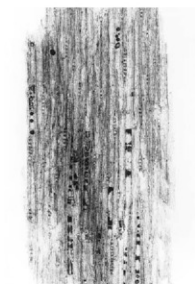


木口×40

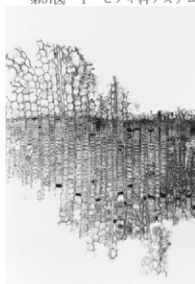
第57図-1 ヒノキ科アスナロ属



柎目×100

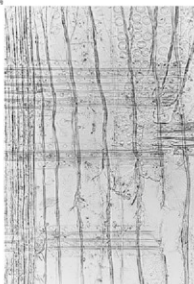


板目×40



木口×40

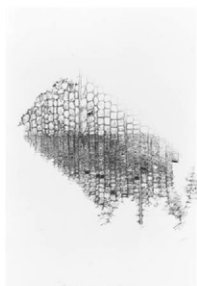
第57図-1 ヒノキ科アスナロ属



柎目×100

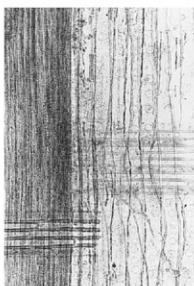


板目×40

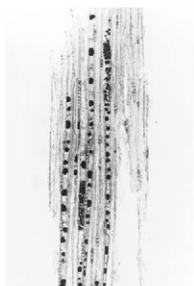


木口×40

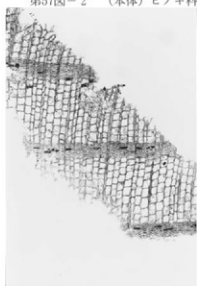
第57図-2 (本体) ヒノキ科アスナロ属



柁目×100



板目×40

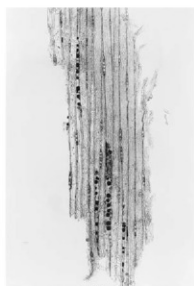


木口×40

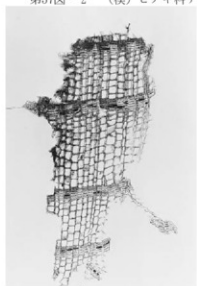
第57図-2 (柁) ヒノキ科アスナロ属



柁目×100



板目×40



木口×40

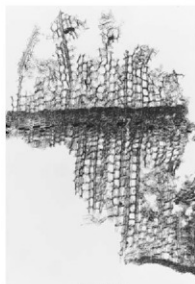
第57図-3 (本体) ヒノキ科アスナロ属



柁目×100



板目×40



木口×40

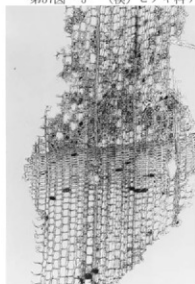
第57図-3 (横) ヒノキ科アスナロ属



柁目×100

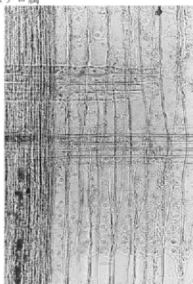


板目×40



木口×40

第58図-1 ヒノキ科アスナロ属



柁目×100

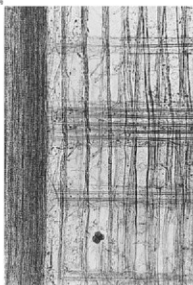


板目×40



木口×40

第59図-1 スキ科スキ属スギ



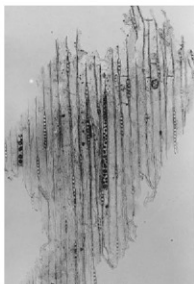
柁目×100



板目×40

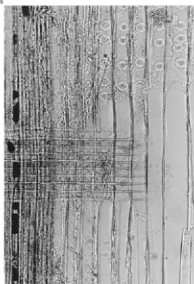


柎目×100

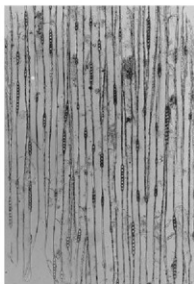


板目×40

第59図-2 ヒノキ科アスナロ属



柎目×100

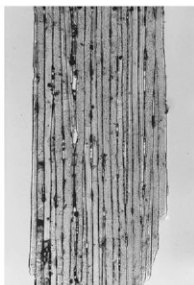


板目×40

第59図-3 スギ科スギ属スギ



柎目×100



板目×40

第59図-4 ヒノキ科アスナロ属

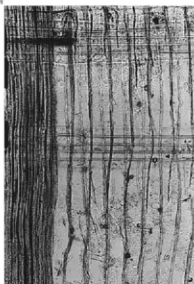


柱目×100

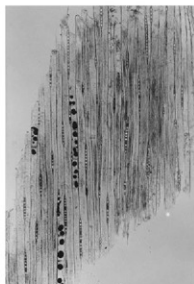


板目×40

第59図-6 ヒノキ科アスナロ属

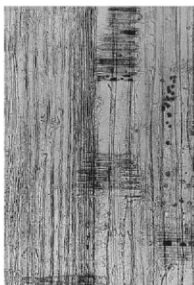


柱目×100

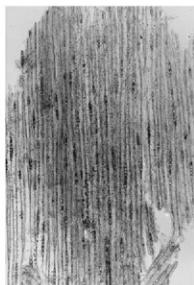


板目×40

第59図-7 スギ科スギ属スギ

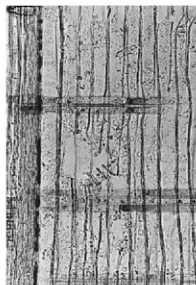


柱目×100

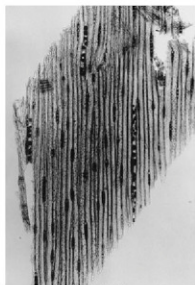


板目×40

第59図-8 ヒノキ科アスナロ属

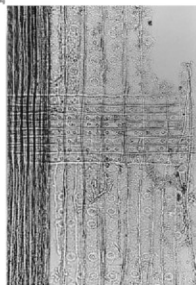


柱目×100



板目×40

第59図-9 ヒノキ科アスナロ属



柱目×100



板目×40

第60図-10 スギ科スギ属スギ

芋種坂Ⅲ遺跡

(6UTZⅢ)

第1章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

芋種坂Ⅲ遺跡は、本荘平野の北東部、本荘福山地区に位置する。調査区は、北側から西側にかけて水田が広がる丘陵北西側の先端で、標高10～15mの傾斜地である。平成15年に実施した発掘調査により、古代の製鉄生産遺跡であることが判明した。

第2節 調査の方法

1 調査区の設定

調査の方法は、グリッドを打設せず、日本海沿岸東北自動車道建設工事のセンター杭STA. NO. 318+40 (X = -65586.45567, Y = -64295.39733) と STA. NO. 318+60 (X = -65567.64394, Y = -64288.60666) の2点を基準として、平板実測により遺跡の位置・標高を計測した。

2 発掘方法及び記録作成

調査は確認調査に基づき、表土除去は重機・人力によって行い、計画路線の基準杭STA. NO. 318+40、STA. NO. 318+60を基準として、遺跡の標高、遺構範囲を確認し、層位毎に遺構の確認、遺物の取り上げを行った。検出した遺構は、略記号及び番号を付し、図面と写真により記録した。図面に用いた縮尺は1/20とした。遺物は、遺構名、それ以外は表採とし、出土年月日・層位を記入して取り上げた。写真の撮影は、35mm判モノクロ・リバーサルを合わせて使用した。

第3節 調査の経過

芋種坂Ⅲ遺跡の発掘調査は平成15年4月15日から18日の期間に行った。発掘調査の経過は、以下の通りである。

- 4月15日 基準杭を設定して、重機・人力による表土除去を行う。
- 4月16日 基本土層を記録し、遺構調査を行う。
- 4月17日 フイゴ座跡 (SK05) を検出した。
- 4月18日 フイゴ座跡 (SK05) ・掘立柱建物跡 (SB02) の精査を終了した。遺跡全景の写真を撮影し、発掘調査の全日程を終了した。

第4節 整理作業の方法

遺構は、現場で作成した平面図・断面図を点検・修正し、第2原図を作成し、これをトレースした。遺物は、調査終了後に秋田県埋蔵文化財センター中央調査課において洗浄し、後に注記した。報告書掲載遺物を選択し、図化を行った。実測図は、残存状況を理解できるような作図を心がけた。遺物分類・選択の際、穴澤義功氏の指導・助言を受けて進めた。報告書の作成に当たっては、遺構・遺物の時代や出土状況を明確にする構成に努めた。以上の経過を経て、原稿作成、編集作業を行った。

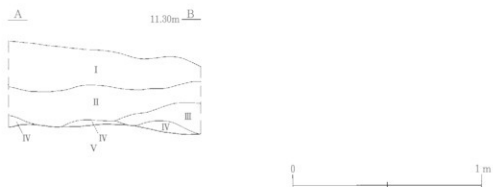


第1図 遺跡位置図

第2章 調査の記録

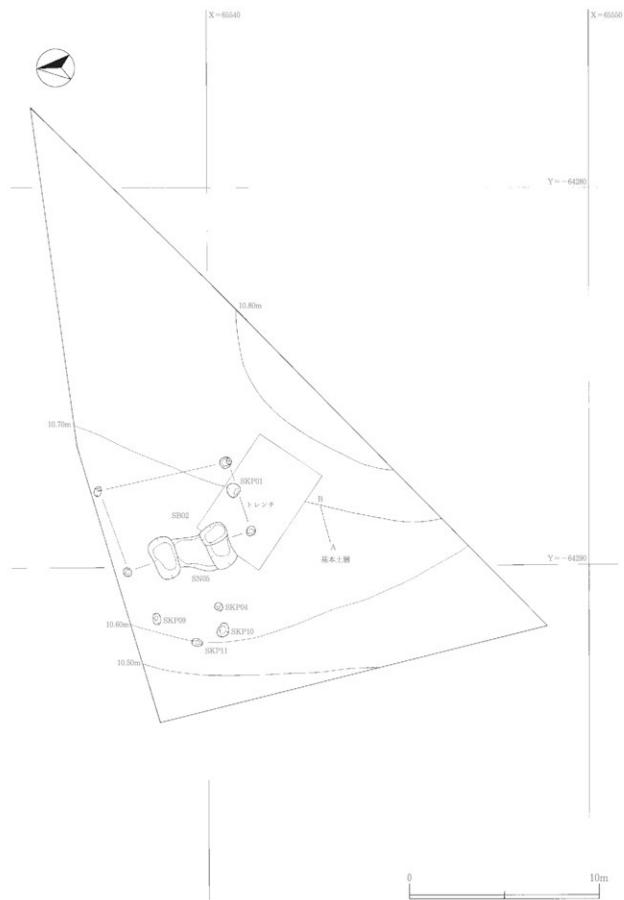
第1節 基本層序

遺跡の基本土層は、調査区中央やや南側の区域に東西のラインを任意にとり、以下の通り観察された。



- 第I層 暗褐色土 (10YR3/4)
調査区全体を覆う現地表土。厚層は8～10cm。
- 第II層 暗褐色土 (10YR3/3)
厚層は8～21cm。1～5cmの礫を含む。畑として使用されていたため、第I層の攪乱の可能性がある。
- 第III層 暗褐色土 (10YR3/3)
厚層は0～16cm。第II層に比べやや暗い色を呈す。流れ込みと思われる縄文土器を確認。古代に比定。
- 第IV層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
厚層は0～6cm。漸移層。
- 第V層 黄褐色土 (10YR5/6)
地山層。

第2図 基本土層図



第3図 グリッド配置及び遺構配置図

第2節 検出遺構

検出した遺構は、ファイゴ座1基、掘立柱建物跡1棟、柱穴様ビット5基で、確認面はSKP01のみV層で、あとはすべてIV層である。これらの遺構は古代に属する。

(1) ファイゴ座

SN05 (第4図、図版2)

調査区の北西部に位置し、IV層中に黒褐色で焼土・炭化物を含む楕円形を南北に有し、それを暗褐色でつないだ不定形プランを確認した。長軸(南東-北西)2.06m×短軸(南西-北東)0.71mで、確認面からの深さは遺構中央部で3~9cm、南北の土坑上の掘り込みで9~20cmである。ただし攪乱の影響もあり最深部の正確な数値は不明である。埋土は9層に分かれ、1層は暗褐色土である。2層は炭層であり、褐色土が含まれる。3層は黒色土で炭化物が含まれる。4層は黒色土で地山粒を若干含む。5層は褐色土で炭化物・地山粒を若干含む。6層は黒褐色土で焼土をわずかに含む。7層は明赤褐色土の焼土層である。8層は炭層である。9層は明赤褐色の焼土層で地山粒を若干含む。床面は被熱の跡がなく、炭窯の可能性は低い。南北の土坑状の掘り込みは、支柱があったと考えられ、中央の長方形プランから踏ファイゴではないかと推測される。床面に沿って堆積している炭層はファイゴ座の構築材が炭化したものと思われる。遺物は鉄滓等が出土した。

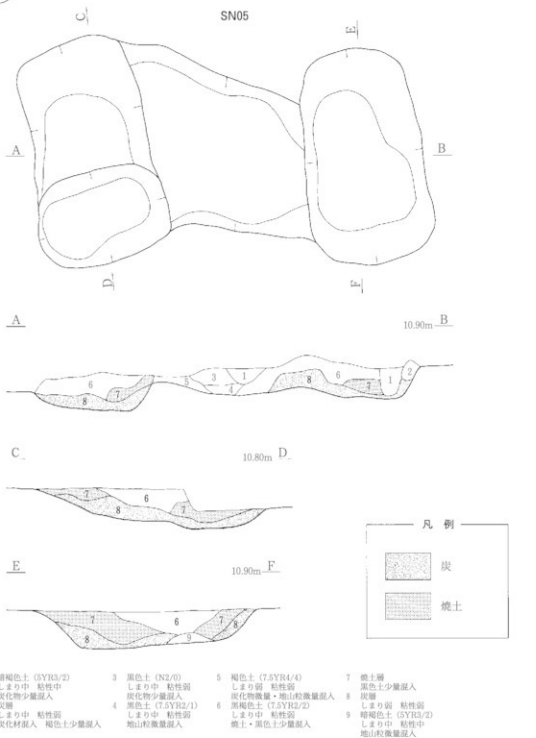
(2) 掘立柱建物跡

SB02 (第5図)

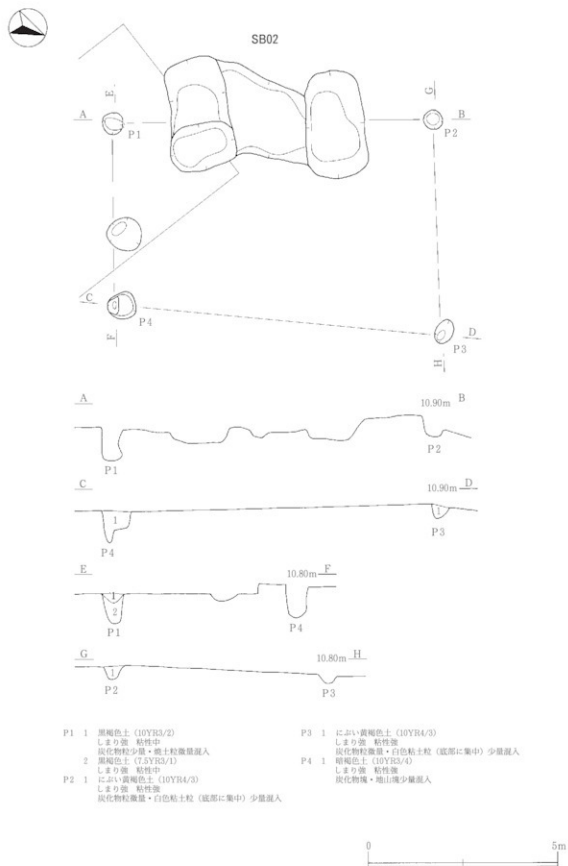
調査区北西部に位置し、IV層精査中に黒褐色のP1~4のプランがSN05の東半分を囲むように検出した。遺構の規模は、桁行(南-北)が東側0で3.48m、西側で3.39m、梁間(東-西)が北側で2.30m、南側で1.92mで、桁行1間×梁行1間の規模である。埋土はP1・4は暗褐色土・黒褐色土といったⅢ層にあたる覆土に、炭化物・焼土・地山ブロックが混入しており、特に炭化物の混入が顕著である。P2・3はにぶい黄褐色土であり、覆土中に少量の炭化物を含み、底面に沿って白色粘土ブロックの混入が認められる。遺物はP1に炉壁、流動滓、炉内滓、再結合滓、埴塙が、P2では炉内滓、羽口片がそれぞれ数点出土した。SN05(ファイゴ座)の東半分を覆っているが、西半分を覆うためには本遺構に対応する柱穴様ビットがあるはずであるが、削平や根の攪乱により検出されなかった。もし確認できれば桁行1間×梁行2間の建物になる。SN05の上屋施設と考えられる。

第1表 SB02柱穴様ビット一覧表

	長軸×短軸(cm)	平面形	深さ(cm)	出土遺物
P1	22×22	円形	31	炉壁、流動滓、炉内滓、再結合滓
P2	21×20	円形	10	羽口、炉内滓、埴塙
P3	27×18	楕円形	14	
P4	31×29	略円形	29	



第4図 SN05 (フィゴ座跡)



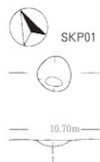
第5図 SB02 (掘立柱建物跡)

(3) 柱穴様ビット (第6図)

S B02に属する4基を除き、5基の柱穴様ビットを検出した。SKP01はS N05の南側に位置し、新旧は不明だがS B02と切り合い関係にある。他の4基はすべてS N05の西側に位置している。これらの覆土はⅢ層に由来するため、時期はS B02やS N05と同時代のものと考えられる。

第2表 柱穴様ビット一覧表

	長軸×短軸(cm)	平面形	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SKP01	37×35	略円形	7	10.514	
SKP04	23×19	楕円形	23	10.455	炉壁・炉内滓・流動滓
SKP09	30×20	楕円形	12	10.518	
SKP10	34×30	不整楕円形	16	10.477	羽口・流動滓
SKP11	26×20	楕円形	30	10.348	炉壁



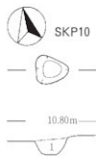
1 暗褐色土 (10YR5/4)
しまり強 粘性強
炭化物粒・地山小塊少量混入



1 暗褐色土 (10YR5/4)
しまり強 粘性強
炭化物粒・焼土粒、地山小塊 (底部集中) 少量混入



1 暗褐色土 (10YR5/3)
しまり強 粘性強
炭化物・焼土粒微量混入



1 暗褐色土 (10YR5/4)
しまり中 粘性強
炭化物・焼土粒微量混入



1 黒褐色土 (10YR2/3)
しまり強 粘性強
炭化物・焼土粒微量、地山粒少量混入



第6図 柱穴様ビット

第3節 出土遺物

製鉄関連遺物（第7～21図）

磁着度は、方眼台紙に6mmを1単位とする同心円を10本以上描き、標準磁石（フェライト磁石）を糸につり下げて、広い側面側を台紙の中心に合わせる。遺物を手に持ち外側のランクから順次接近させて、磁石が急激に動き始める瞬間の数字を記録したものである。メタル度は、埋蔵文化財用特殊金属探知機MR-50B（基準値設定者穴澤義功）を用いた。金属の残留度の高い方から「特L（☆）」・「L（●）」・「M（◎）」・「H（○）」、鉄を含むが既に酸化したものについては「錆化（△）」と表示した。第7～16図の「→」は羽口では送風向、流動滓では流動方向を示している。

第3表 出土遺物一覧表

(単位: g)

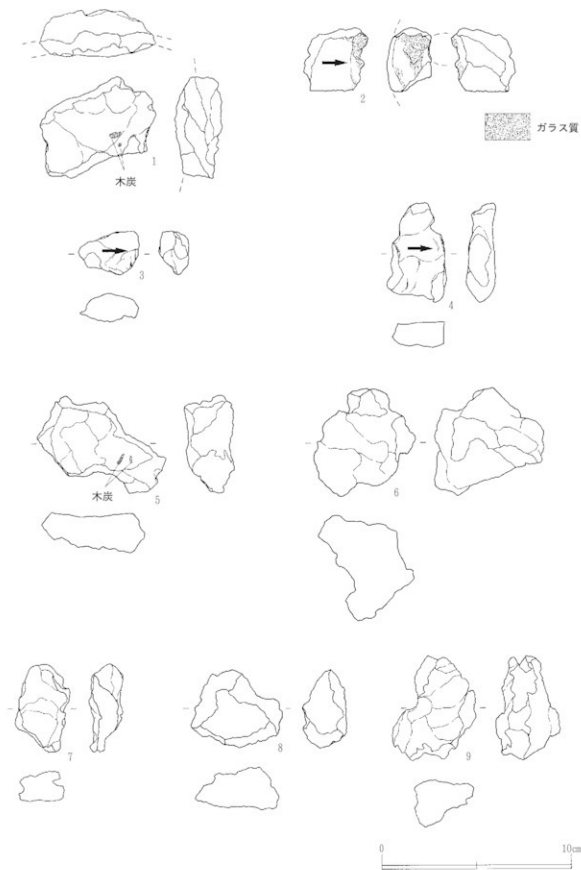
	SN05		SB02 P1		SB02 P2		SKP04		SKP10		SKP11		表採		小計	
	磁載遺物	未磁載遺物	磁載遺物	未磁載遺物	磁載遺物	未磁載遺物	磁載遺物	未磁載遺物	磁載遺物	未磁載遺物	磁載遺物	未磁載遺物	磁載遺物	未磁載遺物		
炉壁	28.2	12		5		5		5	32.2	23			5	496.9	251	863.3
羽口	21.8	15			126.8									179.3	131	473.9
流動滓 (単位流動滓含む)	48.5	175	39.4	52		13		10		38	33.4	50	321.8	2778	3559.1	
炉内滓	185.5	124	103.6		236.8	70		59	51.1	10			1544	2178	4562	
流出清滓											75.3				75.3	
流出孔滓													305.6		305.6	
再結合滓			46.9												46.9	
炉底塊	217.7												2141.6		2359.3	
鉄塊系遺物	30.5														30.5	
増場					31.6										31.6	
砥石													539		539	
不明												45			45	
小計	532.2	326	189.9	57	395.2	88		74	83.3	71	108.7	100	5528.2	5338	12891.5	

第4表 鉄関連遺物観察表

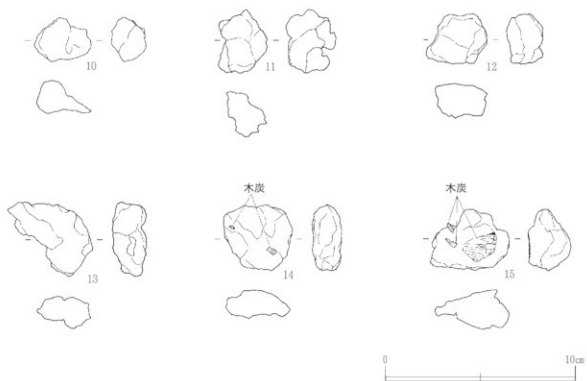
構成番号	遺物名	出土位置	長×幅×厚(mm)	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
1	炉壁	SN05	54×61×26	28.2	2	なし	製錬炉
2	羽口	SN05	34×34×24	21.8	3	なし	
3	流動滓	SN05	23×32×16	14.1	2	なし	
4	流動滓	SN05	53×32×16	34.4	2	なし	
5	炉底塊	SN05	52×68×27	91.4	7	錆化(△)	含鉄
6	炉底塊	SN05	57×53×58	126.3	8	錆化(△)	含鉄
7	炉内滓	SN05	47×29×18	14.7	2	なし	
8	炉内滓	SN05	42×49×24	42.4	2	なし	
9	炉内滓	SN05	55×44×34	49.8	2	なし	
10	炉内滓	SN05	23×30×18	12.9	5	錆化(△)	含鉄
11	炉内滓	SN05	34×26×27	14.3	5	錆化(△)	含鉄
12	炉内滓	SN05	27×33×19	14.2	4	錆化(△)	含鉄
13	炉内滓	SN05	39×45×18	17.3	3	錆化(△)	含鉄
14	炉内滓	SN05	35×37×16	19.9	5	錆化(△)	含鉄
15	鉄塊系遺物	SN05	33×42×23	30.5	7	L(●)	含鉄
16	流動滓	SB02 P1	40×43×18	39.4	2	なし	
17	炉内滓	SB02 P1	50×38×51	87.5	6	なし	
18	炉内滓	SB02 P1	35×23×23	16.1	5	錆化(△)	含鉄
19	再結合滓	SB02 P1	30×28×28	18.9	3	なし	
20	再結合滓	SB02 P1	39×36×38	28	4	錆化(△)	含鉄
21	羽口	SB02 P2	76×91×47	126.8	2	なし	
22	炉内滓	SB02 P2	25×31×24	20.3	1	なし	炉床土付き
23	炉内滓	SB02 P2	46×59×34	81.7	2	なし	
24	炉内滓	SB02 P2	67×65×34	133	3	なし	
25	炉内滓	SB02 P2	16×16×10	1.8	5	錆化(△)	含鉄

宇種坂Ⅲ遺跡

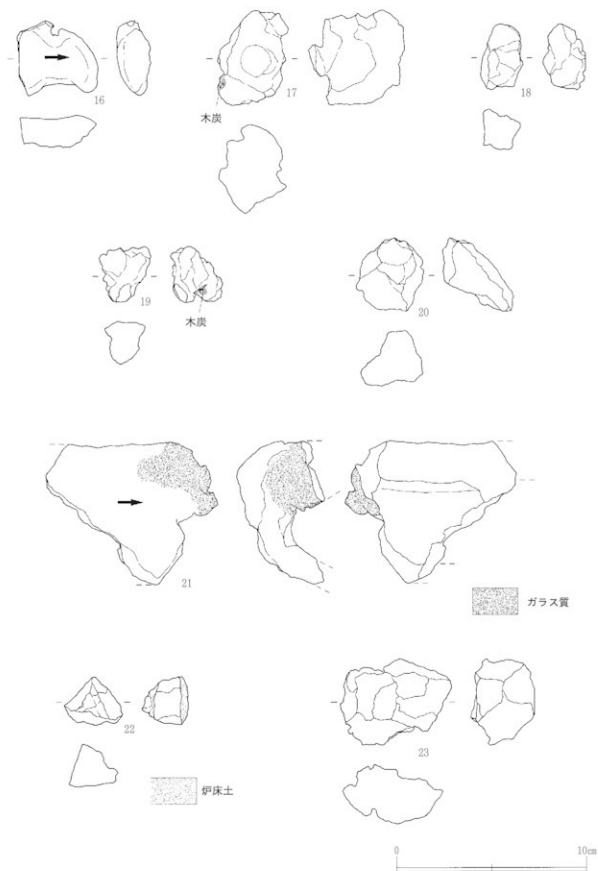
構成番号	遺物名	出土位置	長×幅×厚(mm)	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
26	埴壇	SB02 P2	52×49×23	31.6	1	なし	片口付き(青銅含む)
27	炉内滓	SKP10	44×48×21	51.1	2	なし	
28	炉壁	SKP11	40×46×31	32.2	2	なし	製錬炉
29	流出溝滓	SKP11	58×33×41	75.3	2	なし	
30	流動滓	SKP11	42×38×29	33.4	2	なし	
31	炉壁	遺構外	76×57×26	81.8	3	なし	製錬炉
32	炉壁	遺構外	63×68×29	57.2	2	なし	製錬炉
33	炉壁	遺構外	64×83×63	195.5	3	なし	製錬炉
34	炉壁	遺構外	96×99×53	162.4	2	なし	製錬炉(羽口痕付き)
35	羽口	遺構外	61×60×25	57	2	なし	
36	羽口	遺構外	31×72×52	70.5	2	なし	
37	羽口	遺構外	45×62×30	51.8	1	なし	
38	単位流動滓	遺構外	17×38×11	6.4	1	なし	
39	単位流動滓	遺構外	16×33×11	9	1	なし	
40	単位流動滓	遺構外	19×28×13	4.2	1	なし	工具付着滓
41	流出孔滓	遺構外	32×27×17	7.9	1	なし	
42	流出孔滓	遺構外	29×33×17	12.1	2	なし	
43	流出孔滓	遺構外	46×33×28	32.9	2	なし	
44	流出孔滓	遺構外	31×37×29	39.4	2	なし	
45	流出孔滓	遺構外	47×66×39	71	2	なし	
46	流出孔滓	遺構外	53×70×53	142.3	2	なし	
47	流動滓	遺構外	48×22×30	28.5	1	なし	
48	流動滓	遺構外	22×43×20	26	2	なし	
49	流動滓	遺構外	39×51×13	36.5	2	なし	
50	流動滓	遺構外	31×49×14	35.5	2	なし	
51	流動滓	遺構外	84×62×42	141.1	2	なし	
52	流動滓	遺構外	37×37×33	34.6	2	なし	
53	炉内滓	遺構外	42×24×24	25	3	なし	
54	炉内滓	遺構外	31×32×25	27.8	4	なし	
55	炉内滓	遺構外	42×49×24	41.2	5	なし	
56	炉内滓	遺構外	45×30×28	37.8	7	なし	
57	炉内滓	遺構外	40×47×30	30.6	5	なし	
58	炉内滓	遺構外	68×40×34	51.3	4	なし	
59	炉内滓	遺構外	43×25×28	46.3	2	なし	
60	炉内滓	遺構外	44×37×21	47.7	4	なし	
61	炉内滓	遺構外	48×25×35	54.9	2	なし	
62	炉内滓	遺構外	46×41×39	71.9	2	なし	
63	炉内滓	遺構外	65×59×27	116.7	3	なし	
64	炉内滓	遺構外	70×67×40	138.6	2	なし	
65	炉内滓	遺構外	71×48×58	186.2	2	なし	
66	炉内滓	遺構外	38×24×25	17.6	8	錆化(△)	含鉄
67	炉内滓	遺構外	27×35×21	14.7	7	錆化(△)	含鉄
68	炉内滓	遺構外	33×41×28	21.4	7	錆化(△)	含鉄
69	炉内滓	遺構外	36×45×28	29.8	4	錆化(△)	含鉄
70	炉内滓	遺構外	33×39×23	25.8	7	錆化(△)	含鉄
71	炉内滓	遺構外	30×37×24	37.5	5	錆化(△)	含鉄
72	炉内滓	遺構外	36×48×28	40.8	6	錆化(△)	含鉄
73	炉内滓	遺構外	58×44×42	109.4	5	錆化(△)	含鉄
74	炉内滓	遺構外	55×48×34	112.9	8	錆化(△)	含鉄
75	炉内滓	遺構外	27×21×18	13.5	5	H(0)	含鉄
76	炉内滓	遺構外	45×27×31	37.4	7	H(0)	含鉄
77	炉内滓	遺構外	43×64×33	89.5	8	H(0)	含鉄
78	炉内滓	遺構外	47×51×29	60.5	7	L(●)	含鉄
79	炉内滓	遺構外	56×39×24	57.2	7	特L(☆)	含鉄
80	炉底塊	遺構外	64×56×43	161.1	4	なし	
81	炉底塊	遺構外	65×78×40	188.4	6	なし	
82	炉底塊	遺構外	85×106×53	298	3	なし	
83	炉底塊	遺構外	120×110×56	488	3	なし	
84	炉底塊	遺構外	99×125×59	529	3	なし	
85	炉底塊	遺構外	61×55×46	189.5	5	錆化(△)	含鉄
86	炉底塊	遺構外	62×68×43	196.6	6	L(●)	含鉄
87	炉底塊	遺構外	80×48×21	91	8	特L(☆)	含鉄
88	砥石	遺構外	122×68×82	539	4	なし	



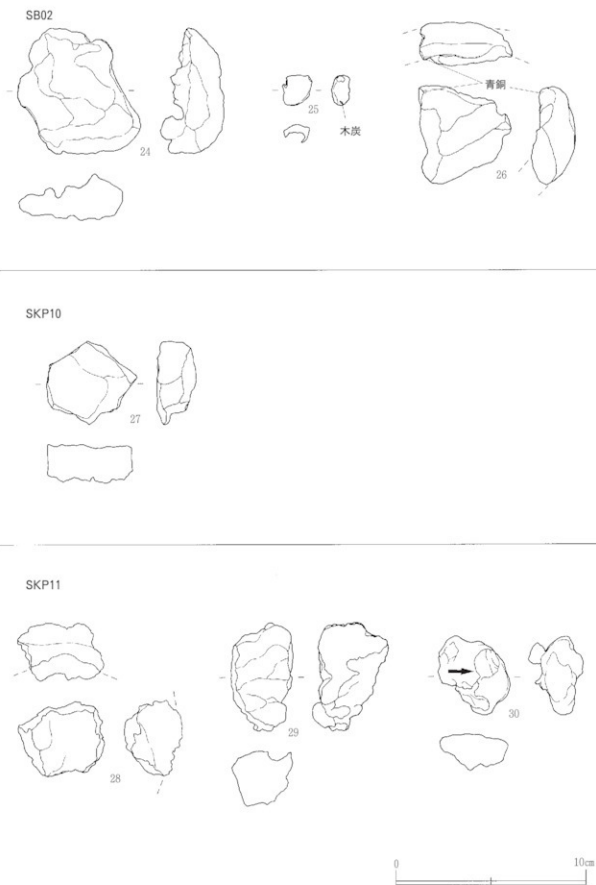
第10図 鉄関連遺物実測図(1) SN05 (フィゴ座)



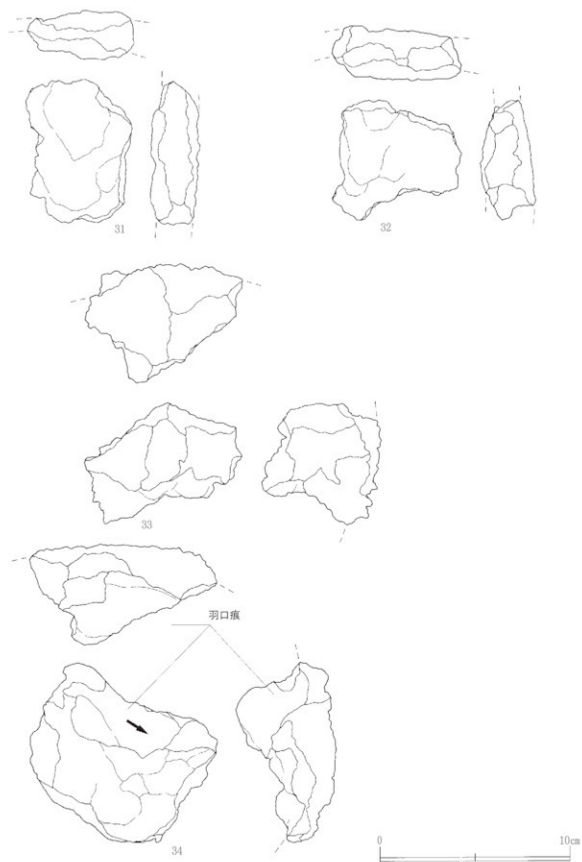
第11図 鉄関連遺物実測図(2) SN05(ファイゴ座)



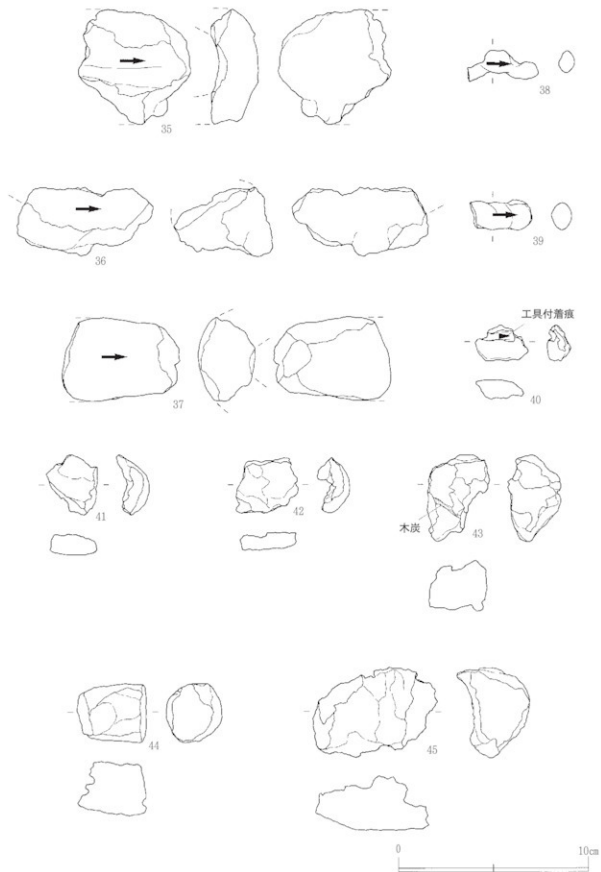
第12図 鉄関連遺物実測図(3) SB02



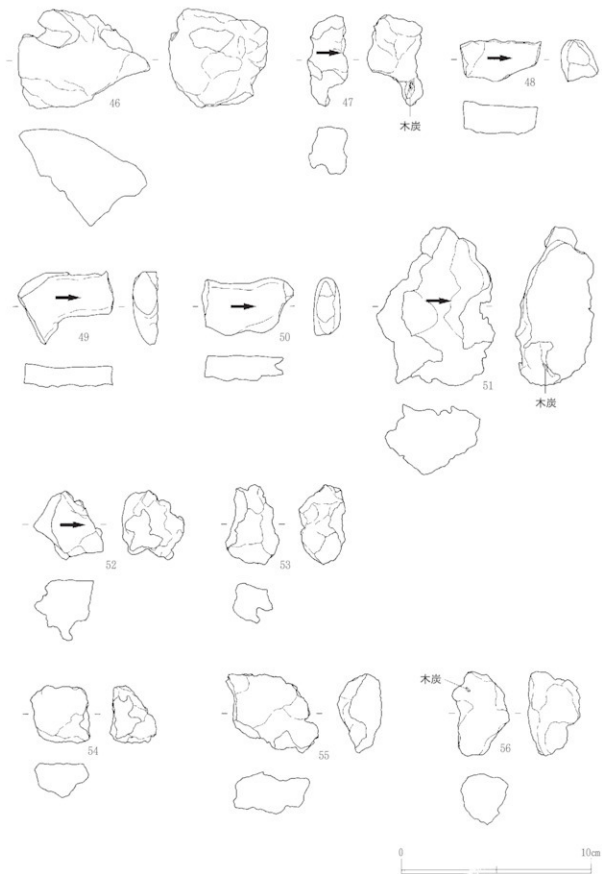
第13図 鉄関連遺物実測図(4) SB02・SKP10・SKP11



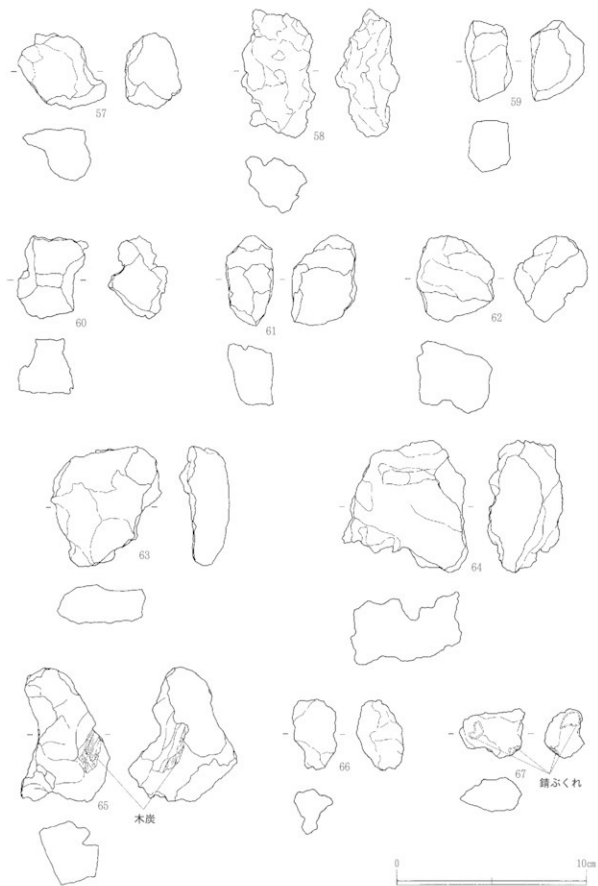
第14図 鉄関連遺物実測図(5) 遺構外



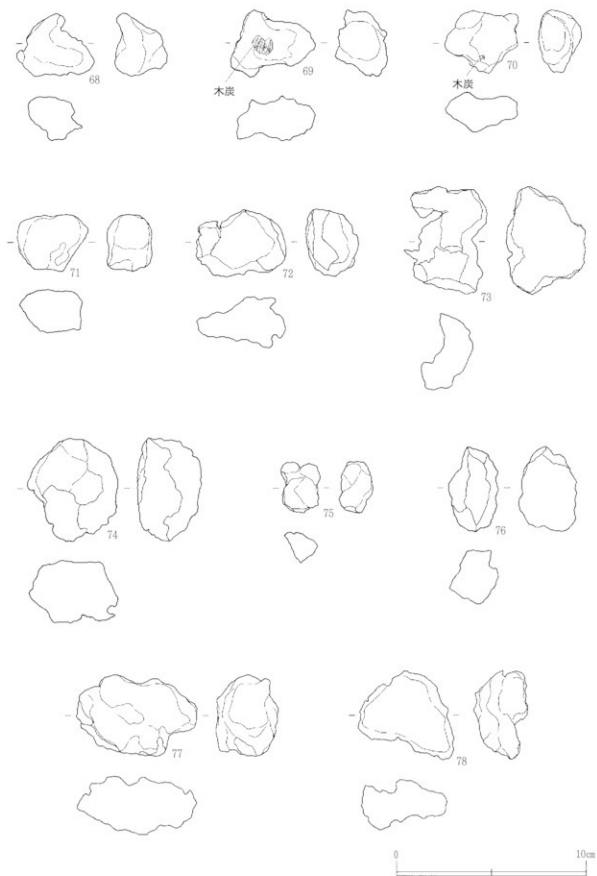
第15図 鉄関連遺物実測図(6) 遺構外



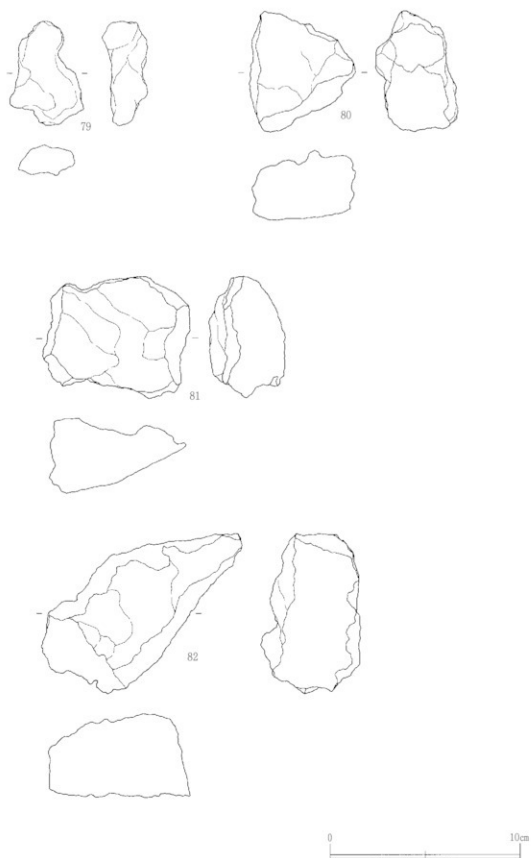
第16図 鉄関連遺物実測図(7) 遺構外



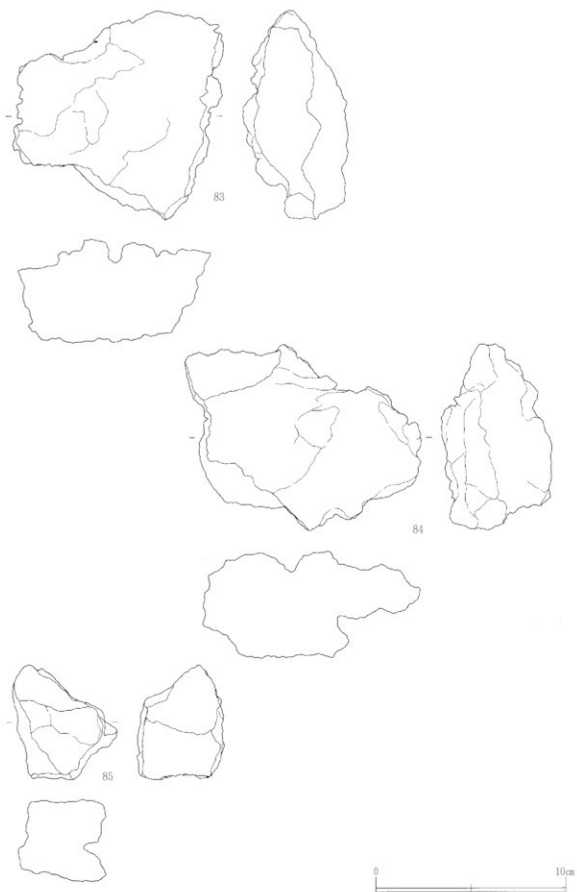
第17図 鉄関連遺物実測図(8) 遺構外



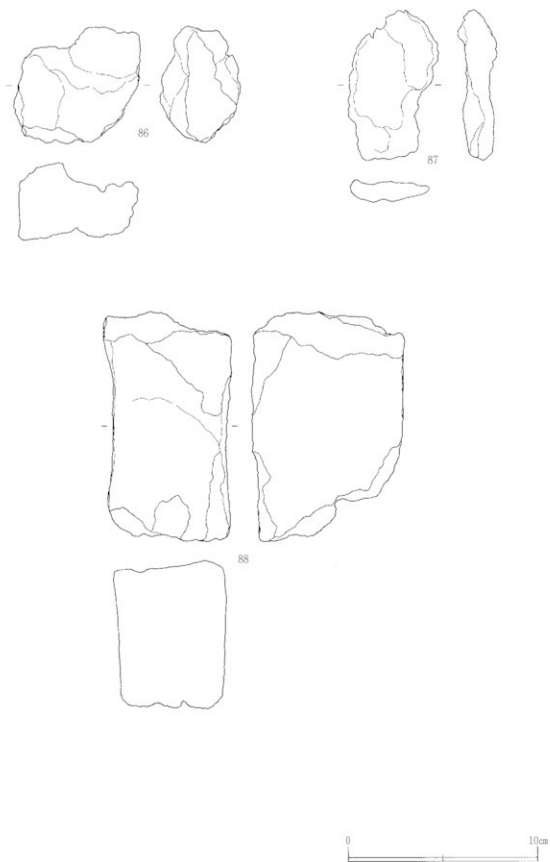
第18図 鉄関連遺物実測図(9) 遺構外



第19図 鉄関連遺物実測図(10) 遺構外



第20図 鉄関連遺物実測図(11) 遺構外



第21図 鉄関連遺物実測図(12) 遺構外

第3章 まとめ

今回の調査では、フイゴ座1基、遺構は掘立柱建物跡1棟、柱穴様ビット5基を検出した。これららは遺物出土状況・埋土の特徴から古代に帰属するものと考えられる。遺物は、鉄滓・炉壁・羽口等が出土した。

遺構は、SKP01はV層で、他は全てIV層で確認された。第II層は耕作等による攪乱の影響から遺構の検出は困難であった。これらの遺構や穴澤義巧氏の指導の下、遺物を整理した結果、ここに製錬炉があったことが考えられる。しかし製錬炉跡をはじめとした他の付属施設跡や工人の生活跡は検出されなかった。調査区南東側は、緩やかに斜面が上るため、地形の面からもここに炭窯があったと推測する。遺構外出土遺物は、調査区の西側で斜面が下る場所に集中しているため、ここが捨て場か、流れ込みによるものか考える。製錬炉は耕作により削られたものと思われるため、正確にはわからない。SB02はSN05の上屋施設と考えられるが、北半分が検出されなかったため検討を要する。

芋種坂Ⅲ遺跡の周辺には、古代の住居跡があった上谷地遺跡や水田跡である横山遺跡、平安時代の土器や中世の鍛冶遺構が見つかった大坪遺跡、北東北では希な中世の梵鐘鑄造遺構があった堤沢山遺跡、また遺跡南西約7.5kmには大規模な古代製鉄遺跡である湯水沢遺跡が存在する。これらの遺跡から生産された鉄製品は子吉川の水運を利用し、日本海に達し、そこからまた各地に運搬されていたと考えられる。芋種坂Ⅲ遺跡はこれら製鉄関連遺跡の一つであり、古代から中世にかけての由利本荘地域における生産や流通を解き明かすための資料となる。今後は周辺遺跡の調査結果と併せて考察していく必要がある。



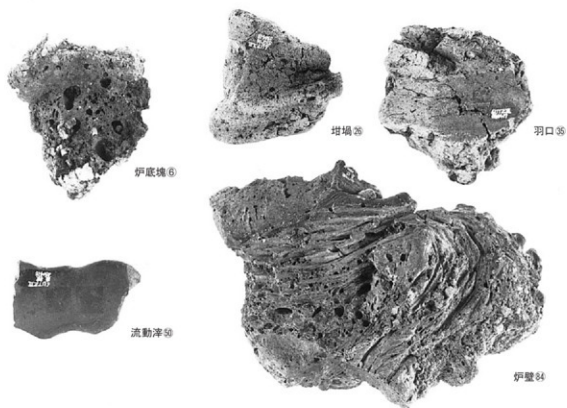
遺跡遠景(西→東)



遺跡近景(北東→南西)



SN05 (フイゴ座) 断面 (東→西)



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひのぐちいせき・うたねざかさんいせき							
書名	樋ノ口遺跡・字種坂Ⅲ遺跡							
副書名	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	XXV							
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第424集							
編著者名	加藤 竜、山村 剛							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター							
所在地	〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地 電話 (0187) 69-3331							
発行年月日	西暦2007年8月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° / ' / "	東 経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひのぐちいせき 樋ノ口遺跡	あきたけん 秋田県 しほのほんじょうし 由利本荘市 ふくやま 福山 あぶらひのぐち 字樋ノ口 ほか 36外	05205		39°	140°	20030701	7,800㎡	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財事前調査
				24'	05'	~1128	4,950㎡	
				05"	01"	20040730 ~1028 20050509 ~0729	3,110㎡	
うたねざかさんいせき 字種坂Ⅲ遺跡	あきたけん 秋田県 しほのほんじょうし 由利本荘市 ふくやま 福山 あぶらうたねざかほか 字字種坂外	05205		39°	140°	20030415 ~0418	60㎡	同上
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
樋ノ口遺跡	製鉄	縄文時代	陥し穴	2	縄文土器			
		平安時代	堅穴住居跡 掘立柱建物跡 鍛冶炉 焼土遺構 炭窯跡 溝跡 土塁 土坑 捨て場 柱穴様ビット	1 3 5 21 10 66 1 32 2 1007	土師器 須恵器 灰軸陶器 砥石 鉄製品 鉄滓 羽口壁 木製 品			
字種坂Ⅲ遺跡	製鉄	平安時代	フイゴ座跡 掘立柱建物跡 柱穴様ビット	1 1 9	鉄滓 羽口壁 炉			

秋田県文化財調査報告書第424集

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡

－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書XXV－

印刷・発行 平成19年 8 月
編 集 秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20番地
電話 (0187) 69-3331 FAX (0187) 69-3330
発 行 秋田県教育委員会
〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号
電話 (018) 860-5193
印 刷 株式会社三戸印刷所

R100
RESEARCH CENTER

秋田県文化財調査報告書第424集

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡

—日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXXV—

2007・8

秋田県教育委員会

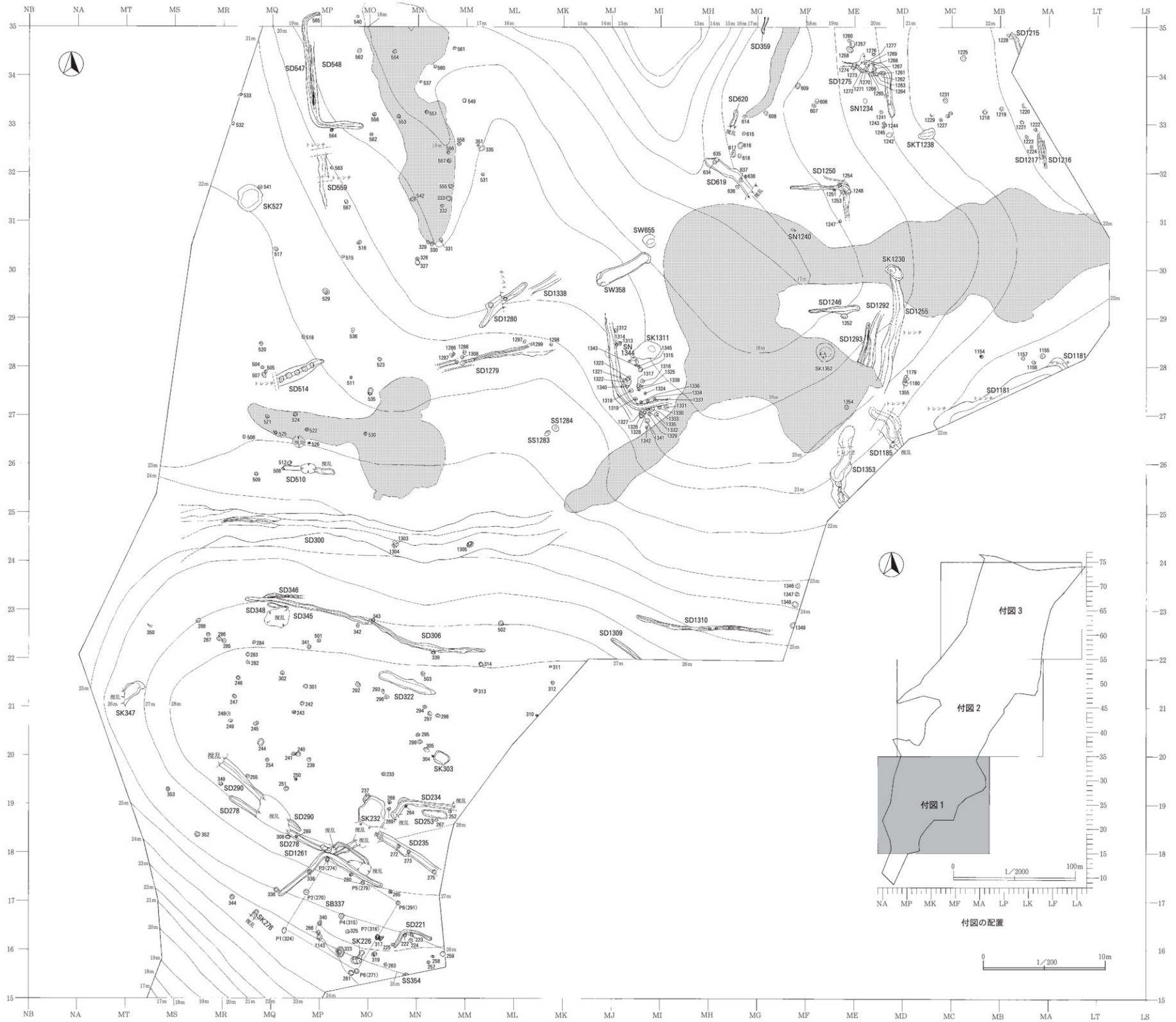
秋田県文化財調査報告書第424集

樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡

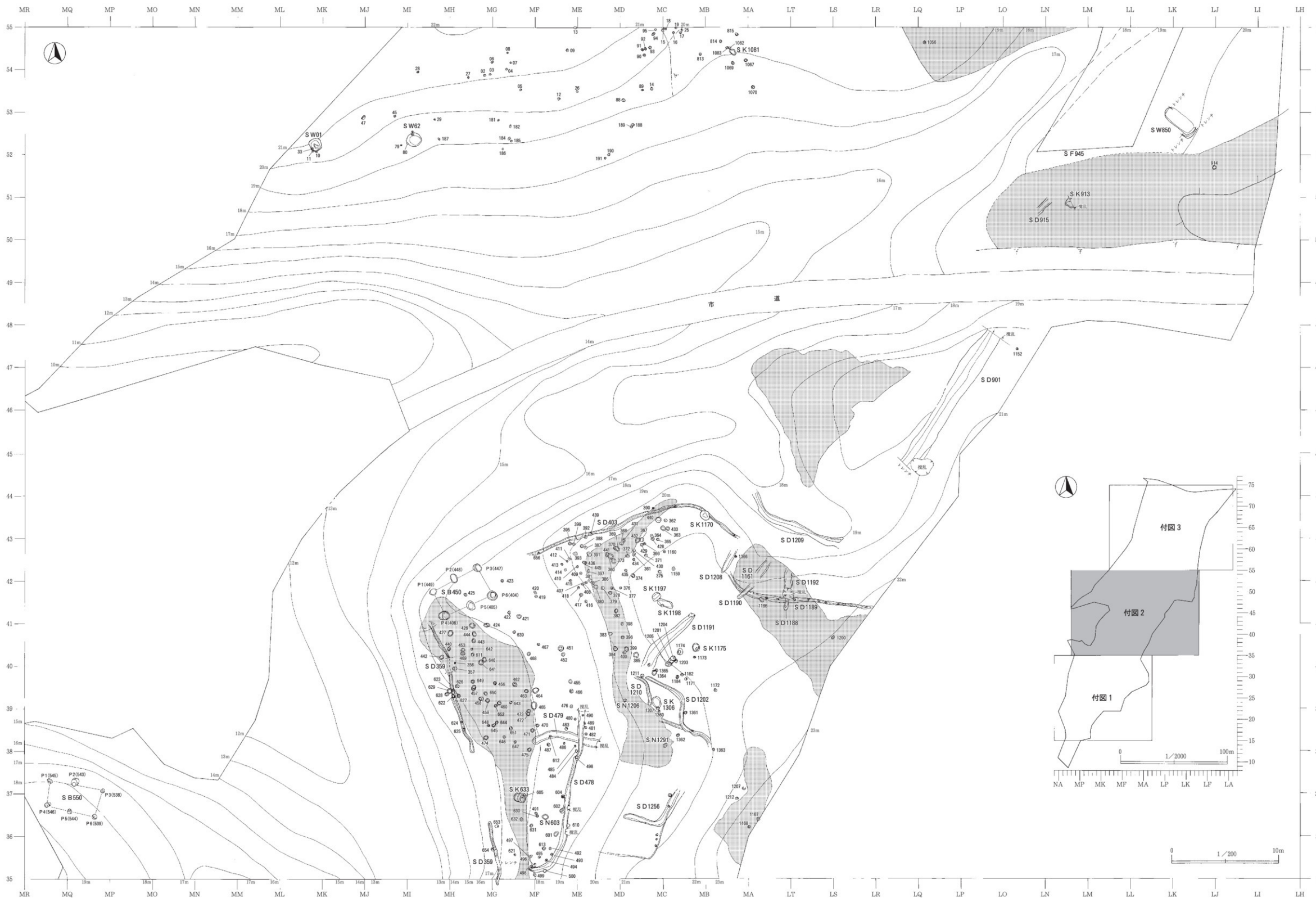
2007・8

秋田県教育委員会

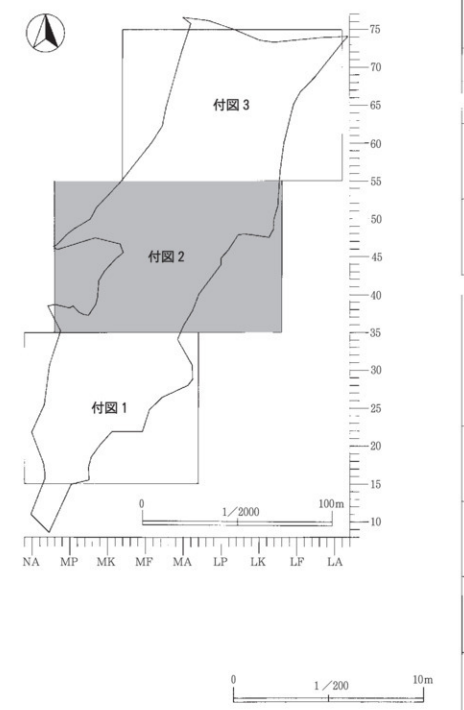


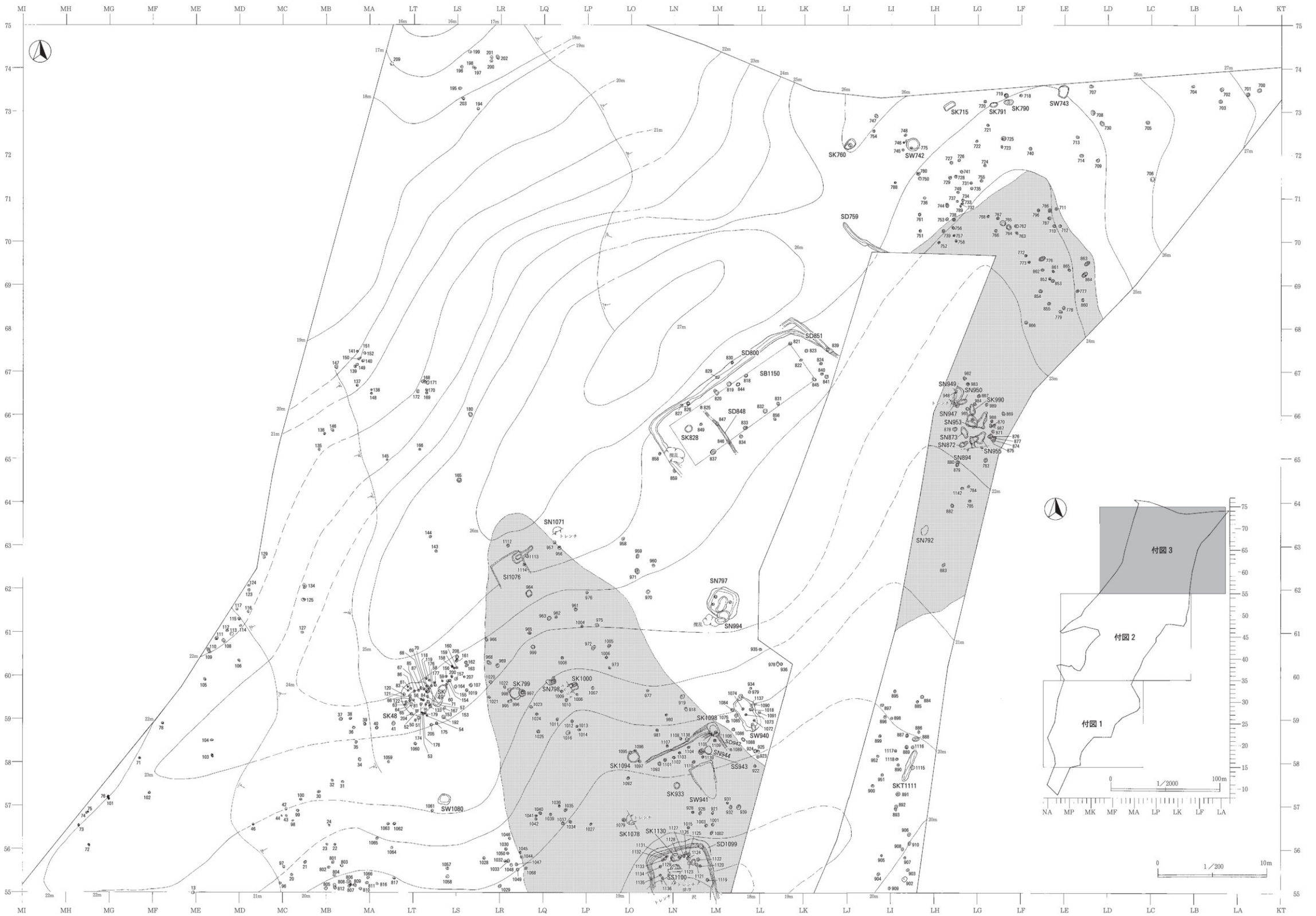


付図1 遺構配置図(1)

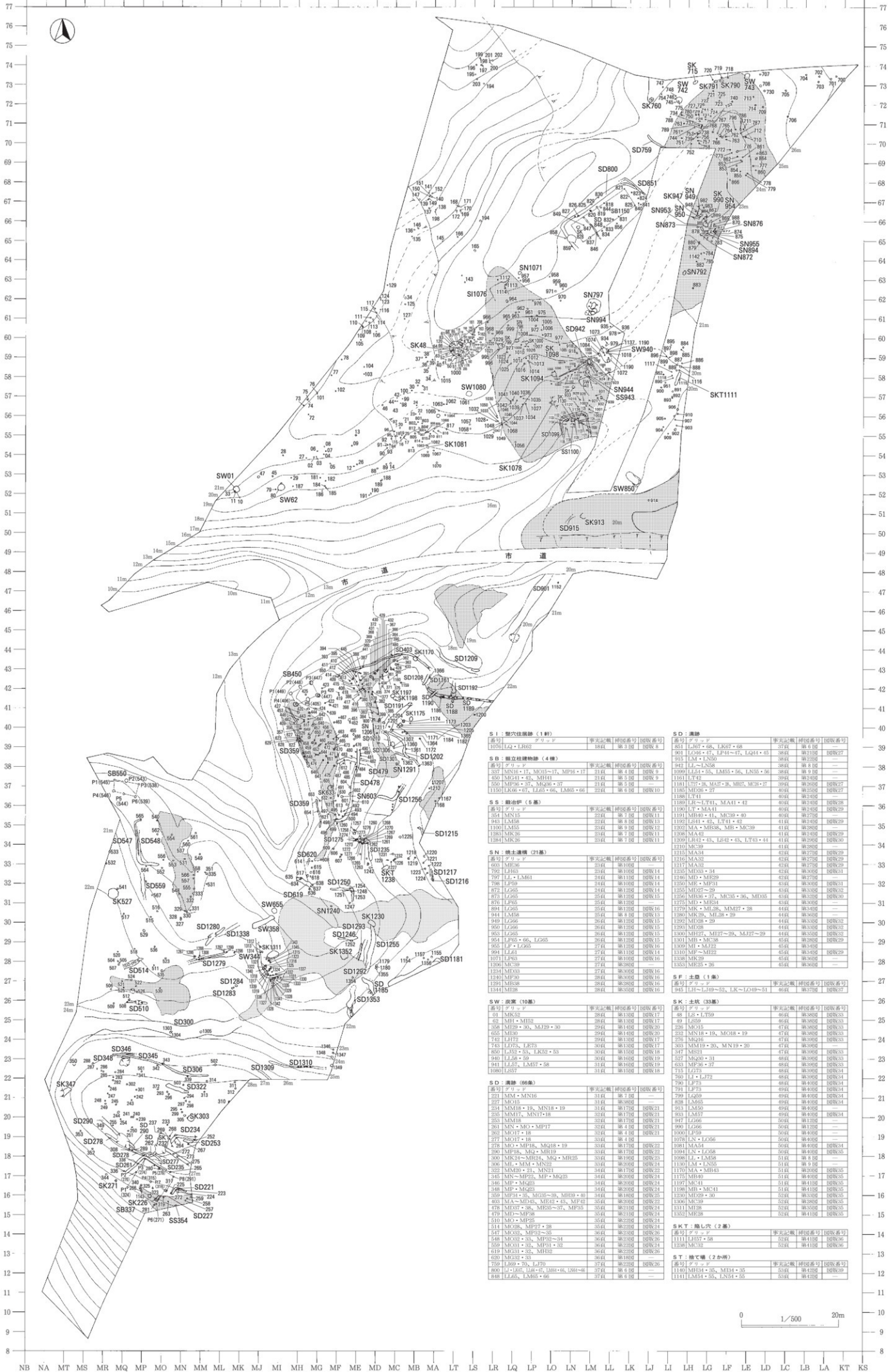


付図2 遺構配置図(2)



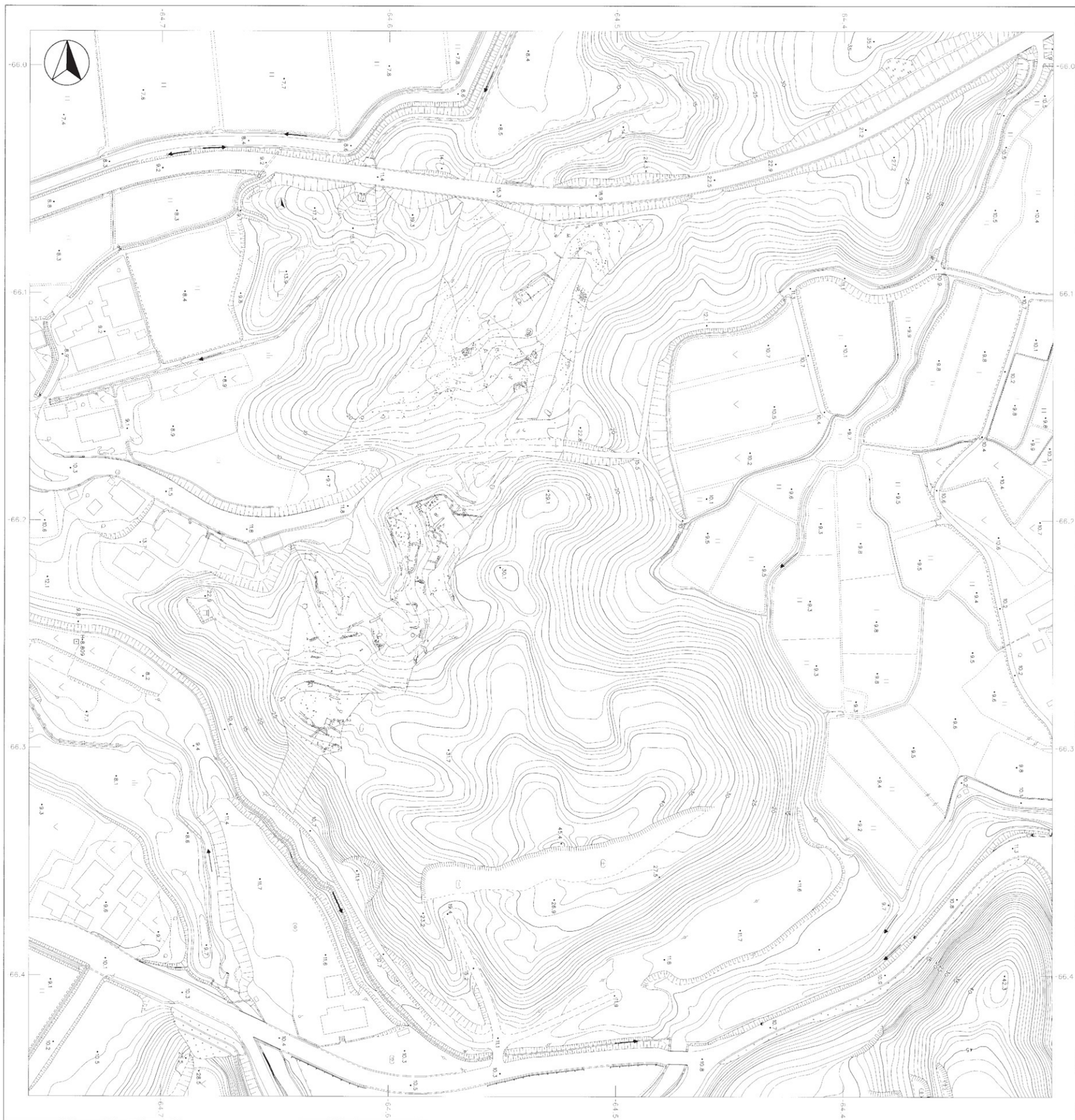


付図3 遺構配置図(3)

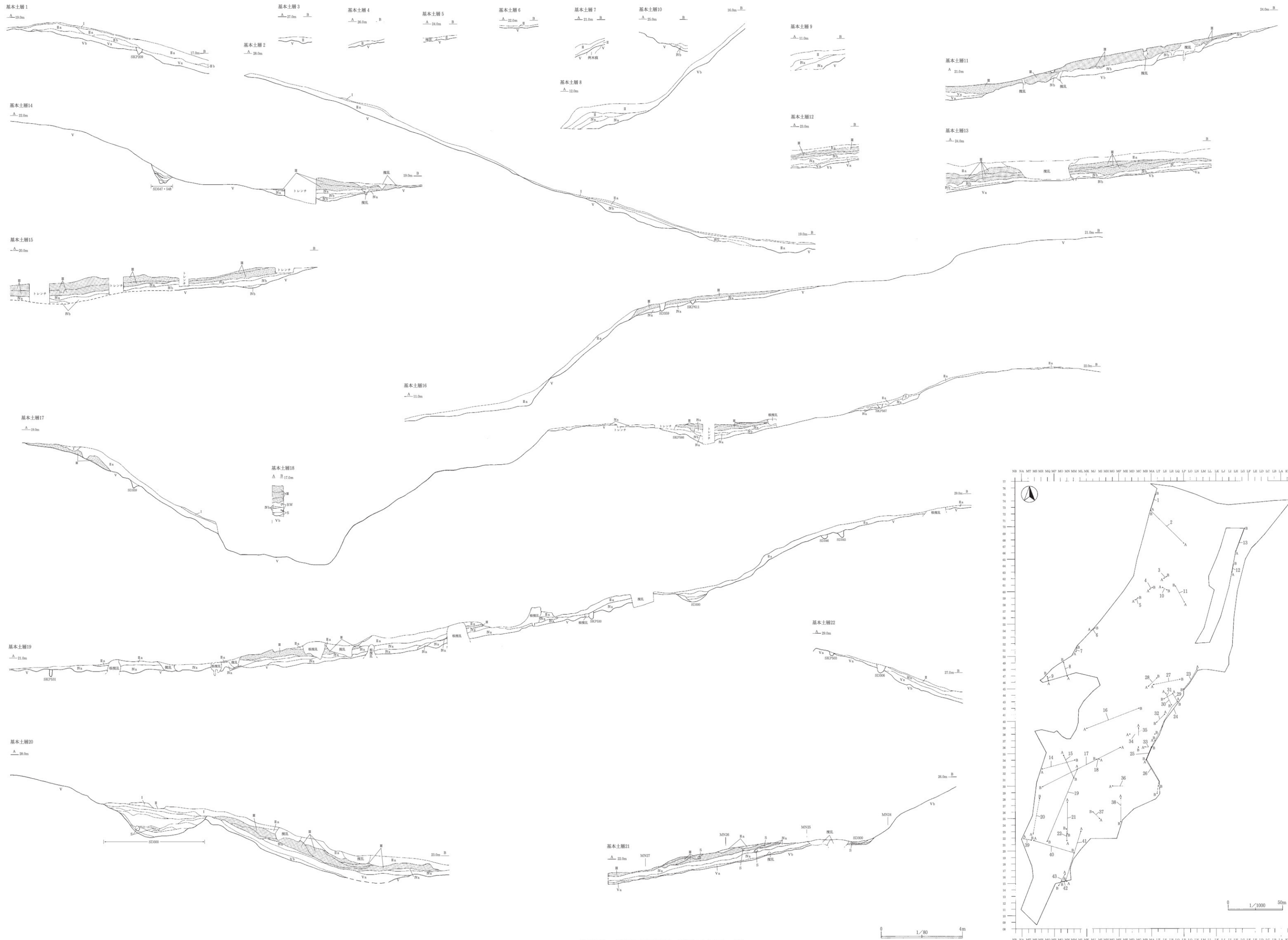


番号	構造名称	面積	埋蔵品	調査年度	調査者
S1: 竪穴住居跡 (1軒)					
1075	LQ・LMS2	3.0	土器	第3期	国史院
S2: 竪穴住居跡 (4棟)					
337	MM18・IT, MN18・IT, MP18・IT	31.0	土器	第4期	国史院
454	MM15	21.0	土器	第5期	国史院
550	MP18・ST, MG18・ST	31.0	土器	第5期	国史院
1150	LK6・OT, LK6・66, LK65・66	32.0	土器	第6期	国史院
S3: 竪穴住居跡 (5基)					
1189	LR-LT11, MA11・42	41.0	土器	第3期	国史院
1190	LT・MA11	41.0	土器	第3期	国史院
1191	MM18・41, MC19・40	41.0	土器	第3期	国史院
1192	LH1・41, LT11・41	41.0	土器	第3期	国史院
1200	MA・MS18, MP・MC19	41.0	土器	第3期	国史院
1208	MA42	41.0	土器	第3期	国史院
1209	LR・45, LS42・45, LT11・44	41.0	土器	第3期	国史院
1210	MC19	41.0	土器	第3期	国史院
1211	MA31	41.0	土器	第3期	国史院
1212	MA32	41.0	土器	第3期	国史院
1217	MA32	41.0	土器	第3期	国史院
1220	MC19	41.0	土器	第3期	国史院
1221	MA32	41.0	土器	第3期	国史院
1222	MA32	41.0	土器	第3期	国史院
792	LH6	24.0	土器	第10期	国史院
797	LQ・LMS1	24.0	土器	第10期	国史院
798	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
801	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
873	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
874	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
875	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
876	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
877	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
878	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
879	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
880	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
881	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
882	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
883	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
884	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
885	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
886	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
887	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
888	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
889	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
890	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
891	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
892	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
893	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
894	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
895	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
896	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
897	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
898	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
899	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
900	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
901	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
902	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
903	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
904	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
905	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
906	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
907	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
908	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
909	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
910	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
911	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
912	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
913	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
914	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
915	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
916	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
917	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
918	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
919	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
920	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
921	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
922	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
923	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
924	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
925	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
926	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
927	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
928	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
929	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
930	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
931	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
932	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
933	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
934	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
935	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
936	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
937	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
938	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
939	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
940	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
941	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
942	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
943	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
944	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
945	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
946	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
947	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
948	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
949	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
950	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
951	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
952	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
953	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
954	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
955	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
956	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
957	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
958	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
959	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
960	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
961	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
962	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
963	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
964	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
965	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
966	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
967	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
968	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
969	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
970	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
971	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
972	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
973	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
974	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
975	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
976	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
977	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
978	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
979	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
980	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
981	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
982	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
983	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
984	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
985	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
986	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
987	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
988	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
989	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
990	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
991	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
992	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
993	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
994	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
995	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
996	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
997	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
998	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
999	LP19	24.0	土器	第10期	国史院
1000	LP19	24.0	土器	第10期	国史院

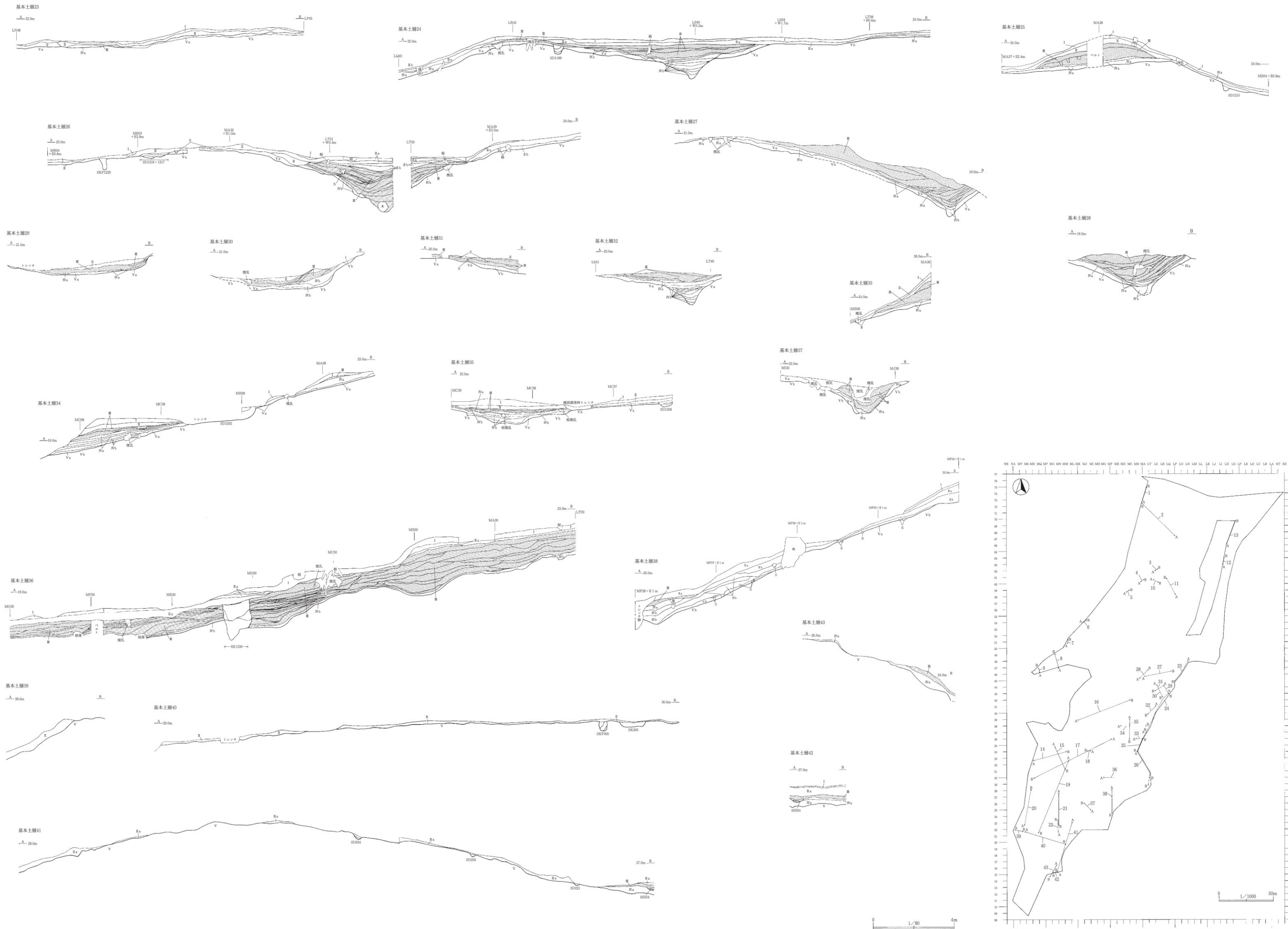
付図4 遺構配置図 (調査区全体)



付図5 調査区周辺の地形



付図6 基本土層図(1) 基本土層 1～22



付図7 基本土層図(2) 基本土層23~43